

信用スヘカラサル證言ヲ採用シ請求人ノ提出シタル書證ニハ何等ノ說明ヲ與ヘサルハ探證法上公平ヲ失シタルモノト云フモ證據ノ採否ハ一ニ審判官ノ自由裁斷ニ因リ其採否ヲ決定スルモノナルヲ以テ前審決ニ於テ信憑力アルモノト認メタル證人ノ證言ヲ採用シ且請求人ノ提出シタル書證ニ對シ何等ノ說明ヲ與ヘサルモ公平ヲ失シタルモノト云フヘカラス請求人ノ提出シタル乙各號證中乙第三號證ハ審判番號第一四二一號ノ審決書ニシテ該審決ニ於テハ當該請求人ヨリ提出セル證據充分ナラサルモノト認ムルモノヲ以テ特許第六一三六號カ新規ナリト斷スヘキニアラス其他ノ各號證ハ何レモ本件特許第六一三六號カ新規ノ發明ナリトノ事實ヲ證明スルニ足ラス而シテ本件特許カ有效ナルヤ否ヤヲ案スルニ證人杉山良俊及匂坂義郎ノ證言ニ依リ本件特許ト同一方法カ本件特許出願前公然知ラレ又ハ公然用キラレタルモノト認メ得ヘキヲ以テ本件特許第六一三六號ハ特許法第四條第一號ニ該當シ同法第一條ニ違反スルヲ以テ同法第四十九條ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘキモノトス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年三月一日於特許局

審判長 特許局技師工學博士男爵 斯波忠三郎
 特許局技師 增島文次郎
 特許局事務官 村上隆吉

第二百二十九號

東京市牛込區中町二十六番地
 東京市京橋區加賀町十八番地特許辦理士

請求人 堤 正義
 右代理人 矢部 廉

右第四九五九〇號特許願拒網再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 原査定ヲ破毀シ更ニ審査ニ付ス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ願書番號第四九五九〇號復働唧筒特許願ニ對スル明治四十四年六月十日付拒絶査定ハ不當ナリト審決相成度其理由ハ審査官ハ本願ノ唧筒ハ其働作ノ原理ニ於テハ「ベルクマン」氏補充「ハートマン」及「ノーク」氏合著「デーブンペン」書中第四十七圖ニ示スモノト同一ニシテ單ニ設計ノ變更ニ過キヌ又本願唧筒ニ於テ唧子ノ下降ニ際シ其ノ上部ニ空氣及水ヲ進入セシムル考案ハ「エドワード」式唧筒ニ於テ已ニ公知ニ屬スルコトニシテ何レモ新規ノ發明トシテ成立セスト云フト雖モ本願ノ唧筒ニ於テハ前記「デーブンペン」書中第四十七圖ノ如キ唧子ノ兩側ニ各二箇ノ吸入瓣及吐出瓣ヲ有スルモノニ比シ唧筒ノ働作ニ於テ最モ不利益ナル餘隙ヲ小ニシ得ル利益アルノミナラス其働作ニ於テモ第四七圖ニ示ス如キ普通ノ復働唧筒ト大ニ異ルモノアリ即チ唧子ノ上下動ニ對スル平均抵抗壓力ハ普通ノ復働唧筒ニ於ケルヨリモ小ニシテ本願唧筒ノ唧子ノ下降ニ際シ其上部ニ空氣及水ノ進入スル情況ハ「エドワード」式ニ類似スト雖モ該式唧筒ハ單純ナル單働ニシテ唧子ノ下面ハ冷氣器ト直通ナルヲ以テ唧子ノ下降ニ際シ底部ニ集滯セル水ニ衝擊ヲ與ヘ唧筒内ニ逆流セシムルノ外唧子ノ下面ハ排氣ニ對シ直接ニ有效ナル働作ヲ爲サ、ルニ比シ本願ニ於テハ底部ニ吐出瓣ヲ有スルヲ以テ唧子ノ上昇ノ行程ニ於ケルカ如ク排氣ノ働作ヲ爲スヲ以テ「エドワード」式ト異リ又唧子ノ兩側ニ二箇ツ、ノ吸入及吐出瓣ヲ有スル復働唧筒ノ働作トモ異ルコトハ示壓線圖ニヨリ明ナルヲ以テ新ナル發明ヲ構成スト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決相成度其理由ハ本願排氣唧筒ハ「ハートマン」及「ノーク」氏合著第四十七圖型式ノモノニ多少ノ變更ヲ加フルニアリ容易ニ案出シ得ヘキノミナラス本願排

氣唧筒ニ於テハ吸入口ヲ唧筒胴ノ中程ニ設ケタルノ故ヲ以テ唧子ノ運動カ行程ノ中央ニ達シ吸入瓣ヲ開クニ至ル迄ハ唧子ノ一方ニハ水及空氣等ノ重荷ヲ有シナカラ他側ハ永ク高度ノ氣薄ヲ繼續スルヲ以テ唧子ノ運動ニハ多大ノ力ヲ要シ其働作甚タ不經濟ト云フヘシ而シテ之ヲ致テスルノ理由ハ「エドワード」式唧筒ト同一ノ働作ヲ爲サンカ爲メニシテ已ニ其主要部ニ於テ一致ス依テ之ヲ新規ナル發明ト認ムルヲ得ス從テ特許法第一條ニ該當セスト査定シタルハ不當ニアラスト云フニ在リ

審決ノ理由 抗告審判請求人ノ出願ニ係ル願書第四九五九〇號復働排氣唧筒ハ其頂部ト底部ニ吐出瓣ヲ備ヘ行程ノ中途ニ冷氣器ヨリ唧筒内部ニノミ開ク吸入瓣ヲ有スル構造ノモノニシテ唧子ノ下降スルニ際シテ唧子カ吸入瓣ノ吐入口ヲ通過スルマテハ唧子ノ上面ニ高度ノ氣薄ヲ生スルヲ以テ唧子ハ其位置ヲ過キテ下降スレハ冷氣器ノ氣壓ト唧筒内ノ氣薄トノ差ニヨリ筒内唧子ノ上部ニ空氣及水ノ進入ヲ噴起シテ唧子ノ上昇ノトキニ排出スヘキモノヲ已ニ筒内ニ充滿セシメ而シテ唧子ノ下面ハ其力上昇セシ間ニ前記ト同様ノ働ニヨリ冷氣器ヨリ吸入瓣ヲ通過シテ唧筒内ニ排出シタル空氣ト水トヲ底部ノ吐出瓣ヨリ逃出セシムルノ考案ニ成リ全ク復働ノ働作ヲ爲スモノナリ而シテ之ヲ「ハートマン」及「ノーク」氏合著「デー、ブンペン」書中ノ第四十七圖ニ示スカ如キ唧子ハ其兩側ニ吸入瓣及吐出瓣ノ二組ツ、ヲ有スル普通ノ復働唧筒ト對照スルニ本願唧筒ニ於テ唧子ノ兩側ト共通ナル一箇ノ吸入瓣ヲ以テシテ容易ニ復働的作用ヲ爲シ得ル所以ハ唧子ノ行程中ニ於ケル筒内壓力變化ノ相違ニアリトス而シテ其相違タルヤ唧子ノ上下動ニ於テ吸入口ヲ通過スル迄ニ吐出瓣ト唧子ノ表面トノ間ニ高度ノ氣薄ヲ生スルニ歸スルモノニシテ此ノ氣薄ヲ生スルカ爲メニ冷氣器内ヨリ筒内唧子ノ上下ニ空氣及水ノ進入ヲ容易ナラシメ以テ有效ニ復働的動作ヲ爲シ得ルモノナリ而シテ唧筒内ニ於ケル壓力變化ノ前述ノ如クナルハ實物ヨリ得タル示壓線圖ニヨリテ明ナリトス又之ヲ「エドワード」式ノモノト比較スルニ唧子ノ下降ニ

際シテ抵抗壓力ノ大ナルハ明ナリト雖モ同時ニ空氣及水ヲ底部ノ吐出瓣ヨリ排出シツ、アルカ故ニ有效ナル抵抗ニ對シテ行動スルヲ以テ抵抗カ大ナリト云フノ故ヲ以テ一概ニ不經濟ナリト稱スルヲ得ス之ヲ要スルニ本願唧筒ハ普通ノ復働唧筒ト「エドワード」式唧筒トノ働作ヲ相結合シテ成レル考案ニ基キ特殊ノ效果ヲ奏スルモノト認メ得ヘキナリ故ニ之ヲ單ニ普通ノ復働唧筒ノ設計ノ變更ニ過キスト認ムルハ至當ニ非ス從テ審査官カ特許法第一條ニ該當セストシテ拒絕査定ヲ爲シタルハ不當ナリ仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年三月九日於特許局

審判長 特許局技師工學博士男爵 斯波忠三郎
特許局技師 增島文次郎
特許局事務官 村上隆吉

第七十二號

東京市本郷區根津清水町七番地 請求人 田中富次郎
東京市京橋區木挽町十丁目八番地特許代理人 右代理人 乙部俊次
新潟縣南蒲原郡今町字今町新田三百四十七番戶 被請求人 佐藤惣吉
東京市京橋區采女町二十七番地特許代理人 右代理人 木戸傳
東京市京橋區采女町二十七番地特許代理人 右代理人 市川寛

右當事者間ノ第五〇四七號改訂特許權利確認審判請求事件ニ付明治四十三年十月二十九日當局ニ於テ爲

シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 原審決ヲ破毀ス抗告審判被請求人カ實施スル方法ハ第五〇四七號改訂特許水糞製造法ノ權利範圍ニ屬ス

審判及抗告審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ審判番號第一九五一號ノ審決ハ之ヲ取消シ被抗告人ノ請求相立タス審判及抗告審判費用ハ被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ本件特許ハ物品ノ發明ニアラスシテ方法ノ發明ナリ而シテ又模型ハ一箇ノ物品タルコト爭フヘカラスル事實ナリ然ラハ本件特許ニ於テ模型タル物品ヲ方法ノ發明ト共ニ混同的ニ發明ノ要部トシテ明細書ニ記載シタルハ之レ全ク錯誤ニ基因シタルモノニシテ適法ノモノニアラサレハ請求範圍中ニ記載シアリタレハトテ直ニ之ヲ以テ發明構成ノ要素トナスハ至當ニアラス換言スレハ模型ハ一箇ノ物品ニシテ本件發明ヲ構成スル工程ト見做スハ至當ニアラス模型ヲ除外シタルモノヲ以テ發明ヲ構成シタルモノト見做スルヲ至當トス要スルニ本件特許ハ接續部ナキ水糞ヲ人工的ニ製作スルヲ目的トシテ間隔塗料ヲ塗被シタル或物體ニ日本紙原料タル纖維ト蒟蒻粉ト水トノ混合泥狀液ヲ塗被シ乾燥セシメタル後「アルカリ」液ニテ煮沸シ以テ之ヲ收斂セシメテ袋狀ノ耐水膜トナス所ノ方法ナリ而シテ被抗告人ノ作製スル水糞ノ製造法カ此ノ點ニ於テ均等ナルニ於テハ本件特許ノ權利ニ屬スルモノト信ス云々ト云フニ在リ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タス抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ請求人ノ主張ハ本件特許ハ方法ノ發明ナリ而シテ模型ハ一ノ物品ナレハ之ヲ方法タル發明ノ要部中ニ混同シタル解釋ハ至當ナラスト云フニ歸スルカ如シト雖請求人ノ此論法ヲ以テ推サンカ當ニ模型ノミナラス糊モ物品ナリ日本紙原料モ蒟蒻粉モ水モ皆物品ニアラサルモノナキヲ以テ此等ノ物品ヲ發明要部中ニ混同スヘカラストセハ請求人ハ結局何ヲ以テ水糞製造法ノ要點ヲ構成セントスル積リナルヤ殆ント解スルコト能ハス模型ハ物品ナリ故ニ方法ノ發明要部ト見做スヘカラストノ主張ハ決シテ取ルニ足ラス本件特許ノ權利範圍ハ特許請求範圍ノ記述ニ徴シ明細書所記ノ第一工程ト第二工程トヲ結合シタルモノニ存スヘク從テ第一工程ヲ缺如セル抗告被請求人ノ方法ニ對シテハ撞着關係ヲ生セストノ原審決ハ失當ニアラスト云フニ在リ

審決ノ理由 請求人所有ノ特許第五〇四七號改訂特許水糞製造法ハ布片若クハ紙ヲ以テ自ら得ントスル形狀ノ袋糞ヲ製シ其内ニ鋸屑若クハ之レニ類スルモノヲ充塞シ其口ヲ緊縛シ而シテ其表面ニ日本紙原料ト蒟蒻粉ト水トヲ混和シタル合成泥液ヲ塗被シ之ヲ石灰ト明礬トヲ溶解シタル液汁ニテ煮沸シ乾燥セシメテ模型トナシ其模型ニ糊ヲ塗被シ更ニ其上ニ日本紙原料ト蒟蒻粉ト水トヲ混和シタル合成泥液ヲ適度ノ厚サヲ有スル迄塗被シ模型ト共ニ石灰ト明礬トヲ溶解シタル液中ニ投入シテ煮沸シ乾燥セシメテ模型ノ縛ヲ解キ内部ノ充塞物ヲ除キ模型ト水糞トヲ剝離シテ成ル方法ナルコトハ其特許請求範圍ニ依リ明ナリ而シテ被請求人カ實施スル水糞製造法ハ德利形土製模型ノ表面ニ直接蒟蒻粉及日本紙原料ノ泥狀混液ヲ所要ノ厚サニ塗布シ乾燥其上ニ「トコロ」ト「アルカリ」溶液トノ混合ヨリ成ル間隔塗料ヲ塗抹シ順次乾燥スル毎ニ前記兩資料ヲ反覆塗着シテ之ヲ「アルカリ」性液中ニ煮沸シ最後ニ模型ヲ破壊シテ一枚ツツ剝離スル方法ナルコトハ其中立ニヨリ明ナリ此ノ二者ヲ對比スル模型ノ面ニ同一塗料ヲ塗布シ乾燥セシメタル後間隔塗料ヲ施シ再ヒ前記ノ同一塗料ヲ塗布シ最後ニ均等藥液中ニ煮沸スル工程ハ共ニ同一ナリト云ハサルヘカラス而シテ模型ハ其製作ヲ異ニスルモ是單ニ同一目的ヲ達スル設計上ノ相違ニ過キササルモノト認メ得ヘキヲ以テ二者其方法ヲ異ニスルモノト云フヘカラス故ニ被請求人カ實施スル方法ハ本件第五〇四七號改訂特許水糞製造法ノ權利範圍ニ屬スルモノトス從テ被請求人カ

其範圍ニ屬セストノ請求ハ相立タサルモノトス仍テ主文ノ如ク審決ス
明治四十四年三月九日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 阪田 貞一
特許局事務官 織田 了
特許局技師 増島 文次郎

第二十二號

オーストラリア、コンモンウェルス、グイクトリア州
セントギルダ、パークリー、ストリート八十五番

請求人

ベレグリン、エリオッ

東京市麴町區八重洲町二丁目一番地特許辨理士

右代理人

ウオルター、オーガス
タス、デ、ハピラント

右第三八九七九號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 願書番號第三八九七九號金屬腐蝕防護法特許願ニ對スル明治四十二年七月十三日附拒絕査定ヲ破
毀シ更ニ之ヲ審査ニ附ス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ願書番號第三八九七九號金屬腐蝕防護法特許願ニ對シ明治四十二年七月十三日附ヲ以テ特許局審査官カ爲シタル拒絕再査定ハ不當ナリトノ審決ヲ求ム其理由ハ本件特許願ニ於ケル方法ニ在リテハ其使用スル補助電源ハ防護スヘキ各金屬間ノ電位ノ差ニ基因スヘキ電壓ヨリ僅カニ高キ電壓ノモノヲ使用スルモノニシテ拒絕査定ノ理由ニ援證セル西曆千九百三年英國特許第三三八八號ノ如キ高キモノヲ使用スルニアラス又審査官ハ本願ノ方法ヲ尾軸ニ應用スレハ船尾

管ノ腐蝕ノ度ヲ一層劇甚ナラシムト稱スレトモ電流ノ殆ント全部ハ水ヲ通シテ尾軸ニ來ル是レ尾軸ハ後方ニ於テ補助電源ノ陰極ニ接スレハナリ而シテ船尾管ハ水ヲ挾ミテ補助電源積極補助板ト相對スルモ他方ニ陰極ト接續セル尾軸アルカ故ニ電流ノ漏洩シ來ル患ナシ從テ前記英國特許ノ出願前公知ニ屬スル理由ヲ以テ本件特許願ヲ拒絕セルハ不當ナリ云々ト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決ヲ求ム其理由ハ拒絕査定ノ理由中ニ引證セル英國特許ニ於テモ防護サルヘキ船體ノ外板ヲ電源ノ陰極ニ連結シ鐵板若ハ他ノ電導體ヲ陽極ニ連結シ電流ハ陽極ヨリ陰極ニ流レテ陰極面ノ腐蝕ヲ防護スルモノニシテ本願ノ方法ト同一ナリ且本願ノ方法ヲ尾軸ニ應用セル場合ニ於テハ船尾管ノ腐蝕ノ度ヲ一層劇甚ナラシムルモノト認ム其理由ハ電源ヨリ發スル電流ノ一部ハ補助金屬板タル陽極ヨリ船尾管ニ流レ次ニ船尾管ト尾軸トノ間隙ヲ通シテ尾軸ニ流電スルニ依リ船尾管ハ尾軸ニ對シ陽極トナリ其結果船尾管ノ腐蝕ヲ増大セシム故ニ本願ハ何等新規ノ發明ヲ構成セス請求人ハ船尾管ハ水ヲ挾ミテ補助電源積極補助板ト相對スル他方ニ陰極ト接續セル尾軸アルカ故ニ電流ノ漏洩スル患ナシト云フト雖一部ノ電流ハ船尾管ヲ傳ハリ尾軸ニ流レテ電路ヲ爲スハ原理上當然ナリ若シ電路ヲ爲サ、ル如ク船尾管ノ絶緣完全ナリトセハ始ヨリ船尾管ト尾軸トノ間ニ電路ヲ起サ、ルヲ以テニ金屬間ニ電位ノ差ヲ生スルナク從テ尾軸ノ腐蝕ヲ起サス之カ防護法ヲ應用スル必

要ヲ生セス云々ト云フニ在リ
審決ノ理由 本件特許願ニ對スル拒絕再査定ノ理由中ニ引證セル西曆千九百三年英國特許第三三八八號ハ本件特許願ノ方法ニ於ケル如ク異種ノ金屬ノ海中ニ浸漬セラレタルモノニ對シ其金屬間ノ電位ノ差ニ基因スル電壓ヨリ高キ起電力ヲ有スル補助電源ニ依リ異種金屬ノ電氣的ニ相對スルモノヲ變シテ平行ノ狀態トシ以テ其異種金屬間ニ於ケル電流ヨリ生スル腐蝕ヲ防護スルモノニアラスシテ全ク發明

ノ原理ト目的ヲ異ニスルモノナリ故ニ前記英國特許カ本件特許出願前帝國内ニ於テ公然知ラレタルノ故ヲ以テ本件特許願ノ發明ヲ新規ナラストナセル拒絕再査定ハ其當ヲ得タルモノニアラス又本願方法ヲ尾軸ニ應用セル場合ニ於テハ電流ノ一部ハ補助金屬板タル陽極ヨリ船尾管ニ流レ次ニ船尾管ト尾軸トノ間隙ヲ通シテ尾軸ニ流電スルニ依リ船尾管ハ尾軸ニ對シ陽極トナリ船尾管ノ腐蝕ヲ増大ストナス
 審査官ノ主張ハ不當ナリ何トナレハ尾軸ト船尾管トハ相接觸シ且陰極ニ接スルカ故ニ尾軸ト船尾管ノ間ニ電位ノ差ヲ生スルコトナケレハナリ故ニ此點ヨリ觀察シテ本件特許願ヲ拒絕スヘキモノトナセル
 審査官ノ主張ハ亦當ヲ得タルモノニアラス依テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年三月二十四日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 五十嵐 秀助
 特許局技師 湯淺 藤市郎
 特許局事務官 村上 隆吉

第五百五十六號

神戶市東川崎町一丁目鐵道院官舎第十一號ノ九 請 求 人 小 森 清 次
 右第五一一六二號特許願拒絕再査定不服抗告審判事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス
 申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ明治四十三年八月十三日付願書番號第五一一六二號才度器特許願拒絕再査定ハ不當ナリト審決相成度其理由ハ本願才度器ニ於テ立積ヲ計算スルニ使用スル曲線ハ

正方形ノ一底角ヲ固定シ等一ノ面積ヲ保テツ、引延シ對角ノ移動ニヨリ生スル角頂ノ軌跡ヲ求メ其曲線ヲ應用シテ立體ノ一側ノ面積ヲ度ルコトヲ考案シ該曲線ニ加フルニ水平ニ畫ケル直線ヲ加ヘ立體ノ積ヲ度ルニ便ニシタルハ對數ノ性質ヨリ推考シテ成レルモノニシテ審査官カ爲シタル雙曲線又ハ計算器ニ依リ容易ニ推考シ得ヘントノ査定ハ眞價アル査定ニアラス加之本器ハ其積ヲ目盛シタルニヨリ何等ノ煩勞ヲ要セスシテ立積ヲ知ルノ便利アルカ故ニ發明ヲ構造スト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決相成度其ノ理由ハ本願ノ如ク任意ノ相乘數ヲ知り得ヘク爲シタル計算器ハ已ニ普通ニ知ラル、所ナリ本願ハ右考案ヲ物指ニ適用シタリト雖モ單ニ縮尺ヲ實尺ニ變更シ以テ度器ト爲シタルニ過キス從テ本願ハ特許法第一條ニ該當セスト云フニ在リ

審決ノ理由 抗告審判請求人ノ出願ニ係ル願書第五一一六二號才度器ハ紙又ハ板ノ表面ニ數位ヲ附セル數多ノ雙曲線ヲ畫キ立積ヲ度ルヘキ立體ノ一側面ノ方形又ハ長方形ノ一邊ヲ該曲線ノ標座ノ基點ヨリ其橫法軸線ニ沿テ置キ他ノ一邊ノ頂點即チ角隅ノ點カ數多ノ雙曲線中ノ一ト交ル時ニ其曲線ノ示ス數ヲ以テ該側面ノ面積ヲ知り其數ニ立體ノ高ヲ乘スレハ立積ヲ得ルカ故ニ更ニ上記ノ雙曲線ヲ利用シ面積ト高サトノ相乘數ヲ求ムル爲メ前記ノ面積ヲ見出スト同様ナル方法ニ據ル考案ニ成ルモノニシテ之カ爲メニ雙曲線ト同數位ノ水平線ヲ畫ケルモノナリ然ルニ相乘數ヲ求ムル爲メニ雙曲線ヲ適用スルコトハ元來同曲線ノ性質トシテ其線中ノ何レノ點ニ於テモ其縱法ト橫法トノ相乘ノ一定ナルカ故ニ普通ニ行ハル、方法ニシテ本願ニ於テハ該曲線ヲ三角板上ニ羅列シ之ニ數位ヲ附シタルニ過キス又線圖上ニ水平線ヲ畫キ雙曲線圖ノ縱法ヲ求ムルノ便ニ供シタリト雖モ何等新規ノ考案ト認ムルヲ得ス而シテ請求人ノ解説ヲ與フル曲線ノ畫法ノ如キハ普通ノ方法ニシテ是亦新規ノ發明ニアラス從テ審査官カ特許法第一條ニ該當セストシテ拒絕シタルハ不當ニアラス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年三月二十四日於特許局

審判長

特許局技師工學博士男爵 斯波忠三郎
特許局事務官 織田了
特許局事務官 村上隆吉

四十四

第一百五十七號

神戸市東川崎町一丁目鐵道院官舎第十一號ノ九

請求人 小森清次

右第五一〇五號特許願拒絶再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ明治四十三年八月十三日付願書番號第五一〇五號面度量器特許願拒絶再査定ハ不當ナリト審決相成度其理由ハ本願面度量器ニ於テ面積ヲ計算スルニ使用スル曲線ハ正方形ノ一底角ヲ固定シ等一面積ヲ保テツ、引延シ對角ノ移動ニヨリ生スル角項ノ軌跡ヲ求メ其曲線ヲ應用シタルモノニシテ此考案ハ對數ノ性質ヲ擴張シテ成レルモノニシテ審査官カ爲シタル双曲線又ハ計算器ニ依リ容易ニ推考シ得ヘシト査定ハ眞價アル査定ニアラス加之本器ニハ面積ヲ目盛シタルニヨリ煩勞ヲ要セスシテ面積ヲ知り得ルカ故ニ發明ヲ構成スト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決相成度其理由ハ本願ノ如ク任意乘數ヲ知り得ヘク爲シタル計算器ハ已ニ公知ニ屬シ本願ハ此考案ヲ物指ニ適用シタリト雖モ計算器ニ於ケル縮尺ヲ實尺ニ變更シ以テ度器ト爲シタルニ止リ何人モ容易ニ推考シ得ヘキモノタルニ過キササルヲ以テ新規ノ發明ニア

ラス從テ本願ハ特許法第一條ニ該當セスト云フニ在リ

審決ノ理由 抗告審判請求人ノ出願ニ係ル願書第五一〇五號面度量器ハ紙又ハ板ノ表面ニ數位ヲ附セル數多ノ双曲線ヲ畫キ面積ヲ計ルヘキ方形又ハ長方形ノ一邊ヲ該曲線ノ座標ノ基點ヨリ其ノ橫法軸線ニ沿フテ置キ他ノ一邊ノ頂點即チ角隅ノ點カ數多ノ双曲線中ノ一ト交ル時ニ其曲線ノ示ス數ヲ以テ其方形又ハ長方形ノ面積ヲ知ルノ考案ニナルモノナリ然ルニ双曲線ノ性質トシテ其線中ノ何處ノ點ニ於テモ其ノ橫法ト縱法トノ相乘ノ一定ナルコトハ數學ヲ解スル者ノ普ク知ル所ニシテ本願ニ於テハ前記ノ双曲線ヲ三角形ノ板上ニ羅列シ其レニ數位ヲ付シタルニ過キスシテ又請求人ノ解説ヲ與フル曲線ノ畫法ノ如キハ是亦普通ニシテ何等新規ナル發明ト稱スヘキ點アルヲ認メス從テ審査官カ特許法第一條ニ該當セストシテ拒絶シタルハ不當ニアラス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年三月二十四日於特許局

審判長

特許局技師工學博士男爵 斯波忠三郎
特許局事務官 織田了
特許局事務官 村上隆吉

第一百六十六號

英吉利國倫敦イ、シー、クキーン、ヴィクトリア街九十七番

請求人

ジニームス、スコット、
ターナー

英吉利國倫敦イ、シー、クキーン、ヴィクトリア街九十七番

請求人

アーサー、ウエレスリ
、マキスウエル

四十五

東京市麹町區八重洲町一丁目一番地特許辨理士

右代理人

ウオルター、オーガス
タス、デ、ハピランド

右第四九五九四號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ願書番號第四九五九四號竹皮ヨリ「バルブ」製造法特許願ニ對
スル明治四十三年九月三十日付再審査拒絕査定ハ不服ニ付審判ノ上不當ナリト審決相成度其理由ハ本
方法ハ海水又ハ適當ナル鹽ノ溶液ノ酸素ヲ含有スルモノニ硫酸又ハ他ノ酸ヲ添加シ之ニ竹類「バルブ」
ヲ浸シ洗滌シ弱キ「アルカリ」溶液ニ浸シテ處理スルモノニシテ電解液トシテ鹹水ヲ用ユル以上鹽素ノ
遊離セサル理由ナシ又鹽素ヲ鹹水及鹽化物ニ吸收セシムルト云フモ鹽化「ナトリウム」等ハ酸素ト化合
スルモノ之ヲ吸收溶解スルコトハ絶テナシ依テ普通ノ漂白法ニテ公知ニ屬ストノ理由ニヨリ再拒絕セラ
レタリト雖モ其鹽素ヲ遊離セサルコトハ明細書及不服理由補充書ニ詳記セル如ク酸素ヲ含有スル鹽化
物溶液中ニ酸ヲ加フレハ酸素ヲ有スル鹽素ノ酸ヲ生シ纖維ト接シテ發生機酸素ヲ生シ漂白スルモノニ
シテ鹽素ヲ遊離セサルコトハ確定ノ事實ナリ是レ從來ノ漂白法ニ未タ知ラレサル所ニシテ本發明ノ主
要點ノ一ナリ然ルニ前記査定ニ於テハ此事實ヲ認メヌ又其以外ノ處理ハ凡テ公知ナリトシ拒絕セルハ
頗ル不當ナリト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決相成度其理由ハ請求人ハ本願方法ニテハ鹽素ヲ發生セ
スト主張スルモ鹹水又ハ其他ノ鹽化物ニ電流ヲ通スレハ次亞鹽素酸曹達ヲ生シ之ヲ含有スル液ニ硫酸
又ハ其他ノ酸ヲ加フレハ鹽素ヲ生スルコト明ニシテ漂白作用ハ實ニ茲ニ發生シタル鹽素カ植物纖維ニ
働クニ由ルナリ即チ本願方法ハ在來ノ漂白方法ト毫モ異ナル所ナシ要スルニ本願ニハ新規ナル發明ノ
點アリト認ムル能ハサルニヨリ特許スヘカラスト査定シタルハ不當ニアラスト云フニ在リ

審決ノ理由 本件特許願第四九五九四號ハ主トシテ鹹水又ハ鹽化物ノ溶液ニ電流ヲ通シテ次亞鹽素ヲ加ヘ
タル後竹類「バルブ」ヲ浸シ漂白スル方法ニ係リ請求人ハ前上操作中電流ヲ流通セシムルニ當リ鹽素ヲ
發生セシテ酸素ヲ發生スト主張スルモ審査官カ答辯セル如ク此際先ツ鹽素ヲ遊離シ然ル後次亞鹽素
酸鹽類ヲ生スルモノト認ムルヲ至當トス而シテ之ニ酸類ヲ加フレハ其量及稀釋度ニヨリ又ハ注意ノ如
何ニヨリテハ鹽素又ハ次亞鹽素酸ヲ生シ之ニ植物纖維ヲ接スレハ鹽素ノ作用ニヨリ又ハ次亞鹽素酸ノ
分解ニヨリ酸素ヲ遊離シ之ヲ漂白スルモノナリ斯クノ如ク漂白作用ハ主トシテ酸素ノ働キニヨルヤ明
ナレトモ右事實及方法ハ已ニ公知公用ニ屬シ新規ノ發明ナリト認ムルヲ得テ從テ審査官カ本件特許願
ニ對シ特許法第一條ニ該當セサルモノトシ特許ヲ與フヘカラスト査定シタルハ不當ニアラスト仍テ主文
ノ如ク審決ス

明治四十四年三月二十四日於特許局

審判長

特許局技師藥學博士

池口慶三

特許局事務官

織田了

特許局事務官

村上隆吉

第百六十七號

英吉利國倫敦ダブリュー、シー、ハイホルボーン二百五十九番

請求人

オーガスタス、ロー
ゼンベルヒ

東京市麹町區八重洲町一丁目一番地特許辦理士

右代理人

オオルター、オーガス
タス、デ、ハピラント

右第四九九六九號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ願書番號第四九九六九號特許願ニ對スル明治四十三年十月十日付拒絕再査定ハ不當ナリト審決相成度其理由ハ本願ニ使用スル粉末資料ハ本願出願前既ニ英國化學工業會雜誌ニ記載セラレ其資料ヲ構成スヘキ主要ノ成分ハ勿論濕氣ノ吸收ヲ防クヘキ滑石又ハ白堊ノ使用ヨリ陽電性金屬ノ酸化其他過早化學作用ナカラシムル保護方法ニ至ル迄記述セラレタルハ當業者ハ之ニ依リ實用ニ供スルヲ得ヘシトノ理由ニ依リ再拒絕セラレタリト雖モ本發明ハ明細書ニ記載スル如ク數頁ノ記事ニ由リ始メテ説明シ得ヘキモノニシテ前記雜誌記載ノ如キ僅少ノ抄略記事ヨリ推考シ得ルモノニ非ス假リニ頭腦明晰達識ノ士アリテ潛心之ヲ推考シ得ラルトスルモ毫モ本願ノ關スル所ニ非ラスシテ是非非常ニ特殊ノ例ニシテ特許法ニ所謂推考シ得ルト稱スルモノハ常識ニ依ルコト明白ナリ然ルニ初審査定及再査定ニ於テハ此ノ如キ特殊ノ場合ヲ假想シテ之ヲ拒絕セシハ本願人ノ不當トスル所ナリト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ本件請求人申立相立タスト審決相成度其理由ハ再拒絕査定書ニ述ヘシ如ク化學工業雜誌ノ記事ハ精確巧妙ナレハ頭腦明晰達識ノ人ヲ待タストモ當業者ニシテ相當ノ素養アルモノハ之ニ由テ容易ニ實用ニ供セラレヘキ方法ヲ案出完成シ得ヘキカ故ニ此見地ヨリ本願ヲ特許法第四條第二號ニ該當スルモノトシテ拒絕セシハ毫モ不當ニアラスト云フニ在リ

審決ノ理由 本件特許願第四九九六九號金屬表面ニ金屬附着法ハ元素又ハ化合物狀態ヲ爲シ附着セララル

ヘキ金屬ニ「バラフィン」若クハ他ノ無力性物質ニシテ被覆セル亞鉛又ハ「マグネシウム」ノ如キ陽電性金屬及濕氣ニ逢フテ電解物ヲ生スヘキ物質トヲ混合シ更ニ之ニ陽電性金屬ノ酸化其他過早化學的分解ヲ防ク目的ヲ以テ滑石ヲ加ヘテ成ル粉末混合物ヲ以テ金屬表面ヲ磨擦シ該表面ニ金屬ヲ附着セシムル方法ニ係リ請求人ハ本願出願前已ニ英國化學工業會雜誌ニ掲載セラレタル記事ハ本願發明ノ要旨ニシテ以テ其全部ヲ推知スルハ殆ント不可能ノ如ク主張スルト雖トモ明細書ハ主トシテ本願發明ノ理論ヲ説明シ且該雜誌記事ニ就キ案スルニ右ハ本願發明ノ性質目的及實施方法ニ關スル要點ヲ記載シタルモノニシテ常識アル專門業者ハ容易ニ其全部ヲ推究シ施行シ得ヘキ所ノモノナリ要スルニ本願發明ハ特許法第四條第二號ノ規定ニ該當スルモノニシテ審査官カ之ニ對シ特許ヲ與フヘカラサルモノナリト査定シタルハ不當ニアラス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年三月二十四日於特許局

審判長

特許局技師藥學博士

池口慶三

特許局事務官

織田了

特許局事務官

村上隆吉

第六百六十三號

島根縣飯石郡掛合村二千二百十七番地

請求人

石原虎三郎

右第五二一三八號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ明治四十三年九月十四日付願書番號第五二一三八號安全養蠶器特許願拒絶再査定ハ不當ナリト審決相成度其理由ハ審査官ハ本願ノ如キ方法ハ孵卵育雛ニ關シ從來已ニ行ハレタル所ニシテ本願ハ單ニ之ヲ養蠶ニ應用シタルニ止リ容易ニ推考シ得ヘキコトナリト云フト雖モ如斯審查ハ本願ノ要旨事實ニ對シ主觀的審査ヲ爲サスシテ單ニ溫度濕度及換氣ニ關スル皮想ノ見ニシテ鷄雛モ蠶兒モ等シク卵生ナルカ故ニ其ノ生育ノ生理同一ナルヘシトノ誤解ニ外ナラス元來鳥類ハ溫血動物ニシテ蠶ハ冷血動物ナルカ故ニ其ノ發育ノ原理ニ於テ大ニ異ルモノアリ而シテ其ノ特有ノ原理ニ基キ考案セル養蠶器ハ即チ本願安全養蠶器ニシテ此器ニ於テハ蠶ノ發育ニ對シ溫濕空氣ヲ常ニ適度ニ與ヘ得ルヲ以テ外氣ノ障害ヲ避ケ安全ニ蠶ヲ上簇セシメ得ルノ利益アルヲ以テ新ナル發明ヲ構成スト云フニアリテ右ニ關シ請求人ノ所謂「生物、生理歸一ノ原理確認ノ證明」ト稱スル長文ノ論說ヲ添付セリ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決相成度其ノ理由ハ請求人ノ主張スル事理ノ發明ナルモノハ決シテ工業的發明ニアラス又彼ノ所謂事實ノ發明ハ之ヲ明細書ニ於ケル特許請求ノ範圍ニ就テ見ルモ養蠶器ヲ設備スルノ方法ニシテ即チ一種ノ裝置ニ外ナラス而シテ之ト均等ナルモノ已ニ帝國內ニ於テ公知ニ屬スルコトハ拒絶査定書ニ示ス如クナルカ故ニ本願ハ到底特許法第一條ニ該當スヘキモノニ非ラスト云フニアリ

審決ノ理由 抗告審判請求人ノ出願ニ係ル願書第五二一三八號安全養蠶器ハ障子襖ノ類ヲ以テ圍メル蠶室內ニ暖室裝置ヲ設ケ周圍ノ壁ニ通氣口ヲ備ヘ蠶卵ノ孵化及蠶兒ノ發育ニ應シ其區劃セル室内ノ溫度濕度及空氣流通ノ度ヲ外氣ノ寒溫乾濕ノ如何ニ拘ハラヌ適宜ニ調整シ其ノ調整ノ程度ハ蠶ノ發育ノ生理ヲ鑑ミ自由ニ爲シ得ル構造トシ以テ蠶ヲシテ完全ナル成育ヲ遂ケシムルノ考案ニ成ルモノナリ然ル

ニ從來養蠶業ニ於テ蠶室ヲ温メ或ハ外氣ノ特ニ乾燥セル場合ニハ人工的ニ濕氣ヲ與フル等ノ考案ノ已ニ公知ナルコトハ請求人モ已ニ之ヲ認ムル所ニシテ蠶室容積ノ大小及外氣ト區劃ヲ爲ス仕組ニ巧拙ノ差ハアリト雖モ蠶室内ノ溫度及通氣ノ度ヲ人工的ニ調整スルノ考案ハ決シテ新規ニアラス又外氣ト區劃シテ其室内ノ溫濕等ノ度ヲ調整スルノ考案ハ鷄卵孵化器ノ考案ト何等異ナル所ナシ而シテ請求人ノ稱道スル「一切生物生理歸一ノ原理」ノ說ヲシテ假リニ眞理トスルモ之ニ依リ考案セル裝置カ已ニ公知ナル以上ハ之ヲ以テ新規ノ發明ト認ムル能ハス要スルニ請求人ノ申立ハ蠶ノ發育ニ對シテハ其生理ヲ鑑ミ適度ノ溫濕ヲ與ヘ及通氣ヲ適度ニスレハ大ニ效果アルモノナリトノ事實ニ自己所信ノ說ヲ陳述シテ説明シタルニ過キスト認ムルヲ至當ナリトス而シテ其事實ニ基キテ成ル裝置ハ已ニ公知ナルヲ以テ審査官カ本件特許願ニ對シ特許法第一條ニ該當セストシテ拒絶シタルハ不當ニアラス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年四月六日於特許局

審判長 特許局技師工學博士男爵 斯波 忠 三 郎
 特許局 事務官 織 田 了
 特許局 技師 增 島 文 次 郎

第 百 四 號

東京市芝區西久保櫻川町十一番地
 東京市京橋區丸屋町四番地特許辨理士

請 求 人 吉 田 德 一 郎
 右 代 理 人 內 藤 庄 吉

東京市芝區南佐久間町一丁目一番地特許辦理士	右代理人	黒須龍太郎
東京市赤坂區溜池町五番地特許辦理士	右代理人	西村 二 滿
東京市麴町區平河町四丁目十五番地特許辦理士	右代理人	宮城 興三郎
東京市日本橋區小傳馬町三丁目五番地特許辦理士	右代理人	加藤 悌次
東京市麴町區有樂町一丁目一番地	被請求人	合資會社高田商會
	右代表者	高田 慎藏
東京市京橋區館屋町十番地特許辦理士	右代理人	内村 達次郎
東京市京橋區三十三間堀三丁目三番地特許辦理士	右代理人	芹澤 孝太郎
東京市京橋區宗十郎町一番地特許辦理士	右代理人	岸 清一
東京市芝區金杉新濱町一番地	被請求人	株式會社芝浦製作所
	右代表者	太田 黒重五郎
東京市京橋區館屋町十番地特許辦理士	右代理人	内村 達次郎
東京市京橋區三十三間堀三丁目三番地特許辦理士	右代理人	芹澤 孝太郎
東京市麴町區有樂町三丁目三番地	被請求人參加人	東京電燈株式會社
	右代表者	佐竹 作太郎
東京市京橋區西紺屋町三番地特許辦理士	右代理人	岡崎 正也
東京市京橋區西紺屋町三番地特許辦理士	右代理人	菊池 儉輔

東京市京橋區館屋町十番地特許辦理士	右代理人	内村 達次郎
東京市京橋區三十三間堀三丁目三番地特許辦理士	右代理人	芹澤 孝太郎
横濱市常盤町一丁目九番地	被請求人參加人	横濱電燈株式會社
	右代表者	木村 利右衛門

右當事者間ノ第二四八〇號特許無効審判請求事件ニ付明治四十三年五月十一日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス
 申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ取消シ更ニ被抗告人ノ申立相立タス審判費用ハ原審及抗告審共被抗告人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ第一特許條例ニ依リ特許ヲ受ケタル本件碍子ノ有效無効ハ特許條例ノ規定ニヨリテ之ヲ決定スヘキモノニシテ現行特許法ノ規定ニ依リ決定スヘキモノニアラス然ルニ本件ニ關スル原審決理由ヲ見ルニ『現行特許法ノ主旨ハ舊法ニ依リテ特許ヲ與ヘラレタルモノモ尙現行法ニ依リテ論スヘキニアリテ特許法附則第九十九條ハ其主旨ヲ現ハスニ足ルモノナリ』ト説明シ本件ニ付現行特許法ノ規定ヲ適用セラレタルハ不當ナリ何トナレハ現行特許法第九十九條ハ舊法ニ依リテ特許ノ效力ヲ保有セシムル爲メ設ケラレタル法條ニシテ其法意ハ舊法ニ依リ適法ニ取得シタル特許ハ現行法ノ規定ニ適合セサル事アルモ尙且之ヲ現行法ニヨル特許ト同一ノ效力ヲ有

セシムルトノ經過の規定ニ外ナラサレハナリ蓋舊特許法及舊特許條例等何モ同一趣旨ノ經過の規定ヲ存シタルト且一般法律上ノ原則ヨリ之ヲ考フルモ原審決ハ全然同條ノ法意ヲ誤解シタルモノナルカ故ニ法律上到底容認スヘカラサル違法ノ審決ナリ第二假リニ現行特許法ニ依リ論スヘキモノナリトスルモ(一)甲第三號證碍子ト本件特許ノ碍子トハ其目的構造及用途ヲ異ニセリ(二)本件特許碍子ノ目的ハ碍子ノ毀損シタル際廉價ニシテ且容易完全ニ之ヲ取換ヘ得ヘカラシムルニ在リ之ニ反シテ甲第三號證碍子ノ目的ハ電車線ヲ挾持スヘキ金具(即下方ノ部分)ト此金具自身ヲ緊張用鐵線ニ接続スル爲メ媒介金具(即上方ノ部分)トヲ非電氣的ニ堅牢ニ接続セシムルニ在リ而シテ上下金具共螺旋接続トナシタルハ構造上ヨリ來レル自然ノ結果ニシテ此ノ如ク構造セサルトキハ此種碍子ノ構造ニ非常ノ困難ヲ感スヘク否之ヲ製造スルコト能ハスト稱スルモ過言ニアラス決シテ練造絶緣物ノ破損若クハ掃除ヲ最初ヨリノ目的トシテ案出シタルモノニアラサルコト明白ナリ(三)本件特許碍子ノ構造カ甲第三號證以下ノ碍子ト大差アル點ハ後者ニ於テハ二箇ノ雌螺旋管ヲ上下ヨリ適當ノ距離ヲ距レテ對置シ而シテ後外部ヨリ練造絶緣物ヲ以テ包圍壓搾シテ成ルモノナリ之ニ反シテ本件特許碍子ハ既ニ形成サレタル碍子用陶器ノ内部ニ螺旋管ヲ挿入シ其空間ヲ「セメント」ヲ以テ填充シタルモノニシテ製造手段ニ於テモ難易同日ノ論ニアラス(四)用途ニ於テモ大差アリト云フハ物品ハ總ヘテ其名稱ニ於テモ自カラ區別アルカ如ク本件ニ在リテモ亦然リ普通ニ碍子ト云ヘハ本件特許碍子ノ種類ヲ稱シ腕木ニ裝附シテ碍子頭部ノ有溝部ニ於テ電線ヲ堅牢ニ支持スルモノナリ同シク碍子ハ碍子ナリト雖用途ヲ異ニスルニ從ヒ特種ノ名稱ヲ付スルカ又碍子ナル名詞ノ上ニ形容詞ヲ冠ス假ヘハ「茶臺碍子」「ノブ」碍子ノ如シ第三號證以下ノ碍子モ此ノ例ニ洩レスシテ「イヤボデー」又ハ「スバンワイヤ、クランブ」ト記載シアルカ如ク電車線ヲ挾持スル絶緣物或ハ電車線用碍子ナリ此ノ如ク本件特許碍子ト甲第三號證以下ノモノトハ電線ヲ支持シ絶

緣スル用途ニ於テ差異アリ用途同一ナレハ兩者ヲ交換シテ使用シ得ラルヘキニアラスヤ發明ハ用途ノ差異ニ依リテ生スヘキモノタルハ辯スルヲ要セス又被請求人ハ本件特許碍子ハ雌螺旋雄螺旋ノ機構ヲ應用シタルカ故ニ甲第三號證以下ノモノト同一若クハ容易ニ應用シ得ヘキ考案ナリト云フニ在ルカ如是甚タ不當ニシテ螺旋ノ作用ノ如キハ甲第三號證以下ヲ俟ツテ始メテ知ルヘキモノニアラス從來已ニ世間ニ汎ク應用セラレタルモノニシテ現ニ本件特許明細書ニモ其一例トシテ玻璃製螺旋作用ノ應用アル碍子ヲ例示シ而カモ尙其ノ發明タルヲ失ハサリシ點ハ實ニ其目的ヲ異ニシ構造ヲ新規ニシ用途ニ於テモ一新機軸ヲ開キタルカ爲メナリ又乙第四號證ノ如キハ大體ニ於テ本件特許碍子ト同一構造ヲ有スルモノナルカ甲第三號證以下ヲ記載シタル出版物ノ本國ニ於テ後ニ特許ヲ受ケ居ルニアラスヤ要スルニ甲第三號證以下ハ本件特許以前ニ公知ニ屬シタリトスルモ本件碍子ノ發明タルノ價值ニ對シテ何等ノ影響ヲ及ボササルモノト認メ得ヘシ而シテ本件特許ハ毀損シタル際廉價ニシテ且容易安全ニ取換ヘ得ヘカラシムル目的ニ於テ在來ノ此種ノ碍子ニ用ヒタル陶器ニ金屬製ノ雌螺旋ヲ結合セシメタルモノニシテ其發明ノ新規ハ實ニ雌螺旋ヲ特殊ノ目的ニ應用シタルト明細書及圖面ニ示セル(カ)クテ相俟ツテ作用スヘキ全部ノ組合セナルト及之ニ特殊ノ效果ヲ生セシメタルトニ存スルコトヲ認メサルヲ得ス(二)甲第三號證ハ特許出願前單ニ帝國大學圖書館ニ貯藏セラレタルノミニシテ特許法ニ所謂帝國内ニ頒布セラレタルモノト云フコトヲ得ス蓋頒布トハ單ニ帝國内ノ或ル一部ニ受入セラレタリト云フ單純ノ事實ニアラスシテ廣ク帝國ノ多衆ニ公然分布セラレタル事態ヲ指稱ス從テ帝國大學圖書館ニ收藏セラレタリトテ帝國内ニ頒布セラレタルモノト云フヘカラス又今回更ニ被抗告人カ提出シタル甲第八號證ハ特許局圖書館收藏ノ文書ニシテ而モ本件碍子特許出願當時ハ右圖書館ハ未タ公開セラレサリシ時代ナルカ故ニ假リニ甲第八號證記載ノ碍子カ本件碍子ト同一ナリトスルモ本件特許ノ效力ニ何等ノ影響ナ

キヤ勿論ナリ抗告人ハ反テ甲第八號證ヲ引用シテ本件特許ノ公知ニ屬セザリシコトヲ立證セントスルモノナリ甲第三號及四號證ハ一八九二年四月二十七日ノ發行ニ係ル即甲第四號證ハ明カニ甲第八號證ノ特許セラル、以前公知ニ屬シタルハ其時日ヨリシテ明白ナリ甲第二號證及第三號證ノ如キモ書籍トシテ出版セラル、以前實地ニ應用セラレタルヘク即甲第八號證以前存在シタルモノト認メ得ヘク果シテ然ラハ甲第八號證カ甲第二號證乃至第四號證ノ公知セラレタルニモ係ラス尙特許セラレタルハ米國特許局ニ於テモ同一物ト認メザリシ證據ト認ムルヲ至當トス從テ甲第八號證ノ發明後本邦特許局カ本件特許ニ對シ登錄セラレタルハ適法ナリ又甲第八號證ト本件特許トヲ對比スルニ次ノ點ニ於テ相異セリ(一)甲第八號證ハ其目的トスル所ハ有效ニシテ且使用シ易キ碍子ヲ得ントスルニ在リ本件碍子ノ如ク碍子ノ毀損シタル際廉價ニシテ且容易完全ニ之ヲ取換ヘ得ヘカラシムルヲ目的トスルモノニアラス故ニ發明ノ目的ニ於テ相違ス(二)甲第八號證ノ碍子中「ソケット」用金屬筒狀ハ或ハ本件碍子中ノ金屬管ニ恰當スル如クナレトモ甲第八號證ノ明細書ニヨレハ該金屬筒狀ハ「セメント」ヲ毀損セサルノ爲メト筒狀ヲ使用セサルトキハ「ソケット」ノ螺旋型ニテ成形シ「セメント」カ凝固セサル以前ニ型ヲ拔取ラサルヘカラサル不便ヲ除去セントスルニ外ナラス從テ本件碍子ニ於ケル管ヲ設ケタルトハ其趣旨大ニ異ナルモノトス(三)甲第八號證ノ請求範圍ニハ毫モ毀損ノ際取換フルコトヲ主眼トナシタル點ヲ發見セテ從テ本件碍子トハ其請求範圍ヲ異ニス云々ト云ヒ乙號證ヲ提出セリ

抗告審判被請求人及參加人答辯ノ要領ハ本件抗告ハ之ヲ棄却ス抗告審判費用ハ抗告人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ第一抗告人ハ原審決カ現行特許法第九十九條及同第四條第二號ヲ適用シタルヲ不當トシ論難スルト雖尙現行法第九十九條ノ法意ハ原審決說示ノ如ク特許條例其他舊法ニ依リ許與セラレタル特許ト雖尙現行法ニヨリ特許セラレタルモノト同視シ其規定ニ依リ之ヲ論スルノ義ナルコト法文

上疑ヲ容ルルノ地ナシ蓋舊法ハ其ノ規定粗略ニシテ往々解釋區々ニ出ツルヲ以テ現行法ハ是等ノ疑點ヲ明解セルモノニシテ其ノ規定ノ精神殊ニ特許ノ要件ニ關シテハ特許條例以來常ニ一貫シテ毫モ更革スル所ナシ是現行法カ特ニ第九十九條ヲ設ケテ以テ解釋上矛盾ヲ來スヲ防遏セル所以ナリ殊ニ現行法第四條ハ特許條例第二條及明治三十二年公布ノ特許法第二條ノ規定ニ關スル解釋上ノ疑點ヲ一掃センカ爲メ設ケラレタルモノニシテ舊法ニ於ケル特許ノ要件トシテ解釋既ニ一定シタル所ノモノヲ明文ヲ以テ指示セルニ過キス故ニ抗告人カ現行法ノ規定ヲ云爲シテ原審決ニ對シ不當ナリト云フハ謬見ナリトス第二抗告人ハ假ニ現行特許法ニ依リ論スヘキモノナリトスルモ(一)本件特許碍子ト甲第三號證碍子トハ其目的構造及用途ニ於テ大差アリトシテ論スルモ(二)本來螺旋仕掛ナルモノハ其應用ノ場所ノ如何ヲ問ハス皆容易完全ニ取換ヘ得ル效果ヲ舉クルヲ目的トスルモノニシテ之ヲ本件碍子ニ應用シテ初メテ奏效スルモノニアラス故ニ甲第二號證乃至第四號證ナルモノカ抗告人ノ云フカ如ク假リニ練造絶縁物ノ破損若クハ掃除ヲ最初ヨリ目的トシテ案出シタルモノニアラストスルモ其此如キ效果ヲモ併セテ奏スルコトハ何人モ否ム能ハサルヘシ假ニ百歩ヲ讓リテ抗告人ノ云フカ如ク彼ト是トハ目的ニ於テ多少ノ差異アリトスルモ本件特許ノ請求區域カ雌螺旋管ヲ碍子ニ應用セル點ニアリテ而テ其應用カ等シク他ノ碍子ニ實施セラレシコトノ公知ナル以上ハ其效果ニ於テ多少ノ差異アレハトテ特許セラルヘキ性質ノモノニアラサルコトハ特許法理上明ナリ(三)抗告人カ本件特許碍子ト甲第二號乃至四號證トハ構造上大差アリト云フモ之レニ圖面ニミ拘泥シ特許請求範圍竝ニ明細書ノ説明ヲ無視シタル謬見ニシテ敢テ辯駁ニ値セス若シ本件特許碍子ト同一形ノモノヲ練造絶縁物ニテ製造シタルモノアリトスルトキハ抗告人ハ材料ニ差異アリ螺旋管ノ緊着法ニ差異アリトシテ黙々ニ附スヘキヤ被抗告人ヲ以テ之ヲ見レハ疑ニ被抗告人等カ製造若クハ販賣セル全ク別形狀ノ特別高壓碍子ニ向テ權利侵害ヲ

云爲シ來リタル勇氣アル抗告人トシテハ決シテ否ラサルヲ斷言セサルヲ以テ得ス(六)抗告人ハ本件特許
 碍子ト甲第二號證以下ノ碍子トハ其用途ニ於テ大差アリト云フモ其電氣ヲ絶縁スル途ニ使用スル點ニ
 於テハ何等異ルコトナシ假リニ抗告人ノ如ク其形狀ノ同一ナラサルカ故ニ兩者相異レリト主張センカ
 本件特許碍子ト抗告人カ權利侵害トシテ警告シ來レル甲第六號證ノ特別高壓碍子トモ亦全ク用途ヲ異
 ニセルモノナリト論斷セサルヲ得ス結局抗告人ノ主張ハ前後矛盾スルモノト云ハサルヘカラス且既知
 ノ構造裝置ヲ他ニ應用シテ從來知ラレタル效果以外ニ何等特殊ノ效果ヲ奏セサルトキハ之レ所謂特許
 法理上ノ緩用ニシテ新規ト云フヘカラス又抗告人ハ本件特許ト同一ノ碍子カ本件特許ヨリ後十有餘年
 ニシテ始メテ米國ニ於テ特許セラレタリト云フモ抗告人カ本件特許ト同一ナリトスル乙第四號證米國
 特許ハ其發明トシテ特許ヲ與ヘラレタル區域中單ニ本件碍子ト同シク雌螺旋管ヲ碍子ノ内部ニ緊着セ
 ル點ノミニ就テ特許與セラレタル項アリヤ且米國特許局ノ査定トヲ必スシモ誤謬ナキコトヲ望ムヘカラ
 サル以上ハ其特許セラレタル事實ハ本件特許ノ效力ニ何等ノ重キヲ加ヘサルナク(三)元來本件特許ハ雌
 螺旋管ヲ碍子ノ内部ニ緊着セル點ニアリ而シテ其碍子ノ形狀及材料ノ種類竝ニ雌螺旋管緊着ノ方法等
 ニ就テハ何等發明トスル點ナク從テ之等ニ付キ何等ノ制限ヲ設ケ居ラサルコトハ其明細書ノ全文ニ依
 リ瞭然タリ果シテ然ラハ本件特許ノ有效無効ハ斯ル裝置即チ雌螺旋管ヲ碍子ノ内部ニ裝置シタル碍子
 ハ本件特許出願前帝國内ニ存在セシヤ若クハ帝國内ニ頒布サレタル刊行物ニ記載サレアリシヤ或ハ同
 刊行物記載ノモノヨリ容易ニ應用シ得ヘキモノナリシヤ等ニ依リテ決セラルヘキモノト云ハサルヘカ
 ラス而シテ斯ル裝置ヲ有セル碍子カ既ニ明治二十五年即チ本件特許出願前帝國内ニ頒布セラレタル刊
 行物ノ記載ヨリ容易ニ應用シ得ヘキ狀態ニアリシモノナルコトハ原審ニ於テ詳述スル所ナリ然ルニ抗
 告人ハ甲第三號證ノ書籍カ帝國大學圖書館ニ收藏セラレタル一事ハ未タ以テ帝國内ニ頒布セラレタル

事實ヲ證スルニ足ラス頒布トハ廣ク帝國内ノ多衆ニ公然分布セラル、事實ナリト云フモ多クノ人カ購
 讀シ又ハ閱覽スルノ便ヲ有シタル事態ヲ目シテ之ヲ頒布ト云フニアラストスレハ何ヲ以テカ能ク頒布
 ノ事實ヲ立證シ得ヘキカ又抗告人カ甲第八號證ニ對スル主張ノ第一點ハ被抗告人カ甲第八號證ヲ提出
 シタル主旨ヲ誤解セル結果ニ外ナラス蓋シ被抗告人ハ甲第八號證ノ特許カ乙第四號證ノ特許以前米國
 ニ存在シ而シテ其明細書及圖面ニ依レハ碍子ノ内部ニ雌螺旋ヲ嵌入スルコトハ乙第四號證ノ特許以前
 既ニ米國ニ於テ知ラレタル事實ヲ發見シタルニ依リ乙第四號證ノ特許ノ要部ハ碍子ノ内部ニ雌螺旋ヲ
 嵌入シタル點ニ關係セサルコトヲ一層明確ニ立證スル爲メ甲第八號證ヲ提出シタルモノナリ甲第八號
 證ニ對スル抗告人主張ノ第二點ニ關シテハ更ニ之ヲ辯スレハ現ニ甲第八號證ノ米國特許ハ碍子ノ内部
 ニ雌螺旋ヲ設クルコトヲ要點ト爲シタルモノニ非サルハ抗告人ノ提出セル該明細書譯文ニ依ルモ明確
 ニ了知シ得ラル、所ニシテ碍子ニ於ケル雌螺旋ノ裝置ハ甲第八號證特許ノ當時既ニ發明ノ要部トナル
 ヘキモノニアラサリシヤ明カナリ況ンヤ其後ノ特許ニ係ル乙第四號證ノ發明ニ於テヤ甲第八號證ニ
 對スル抗告人主張ノ第三點ニ關シテハ從來屢々説明シタル所ニ屬ス蓋シ本件ニ於テ碍子ノ内部ニ雌螺
 旋ヲ嵌入スルコトカ公知ナル以上ハ假令其目的ニ於テ異ナルコトアリトスルモ其同一ノ裝置ニ對シテ
 特許ヲ與フヘカラサルコトハ特許法上一點ノ疑ヲ容ルヘカラス况ンヤ本件碍子ノ特長ナリト稱スル其
 取換ヲ容易完全ナラシムル一事ハ螺旋ノ性質上當然ノコトニシテ從來最モ普通ニ知ラレ且各種ノ機械
 裝置ニ應用セラレタル所ナルニ於テヤト云フニ在リテ新ニ甲第八號證ヲ提出セリ

審決ノ理由

請求人ハ特許條例ニ依リ受ケタル本件特許ノ有效無効ハ特許條例ノ規定ニ依リ決定スヘキ
 モノニシテ現行特許法ニ依リ決定スヘキモノニアラスト云フト雖トモ法ヲ案スルニ現行特許法第九
 十九條ニ依レハ從前ノ規定ニ依ル特許ハ本法ニ依リ受ケタルモノト看做スト規定シアリテ其法意ハ特

許條例其他舊法ニ依リテ登録セラレタル特許ト雖モ尙ホ現行特許法ニ依リテ特許セラレタルモノト同
 視シ新法ノ規定ニヨリテ之ヲ論スルノ義ニシテ單ニ舊法ニ依ル特許ノ效力ノミヲ保有セシムル爲メノ
 經過規定ニテラス既往ニ遡テ之ヲ論スヘキモノナルコト現行特許法第百條等ノ例外規定ノ趣旨ニ徴シ
 テモ法意ノアル處ヲ明ニ推知シ得ヘシ故ニ本件特許ハ舊特許條例ニヨリテ特許セラレタルモノナリト
 雖モ尙ホ現行特許法ノ規定ニ照ラシテ之レカ有效無効ヲ審判スヘキモノナルコト論ヲ俟タサル所ナリ
 トス又請求人ハ假リニ現行特許法ニ依リ本件特許ノ有效無効ヲ論スヘキモノナリトスルモ(一)甲第三
 號證碍子ト本件特許ノ碍子トハ其目的及構造ヲ異ニシ其用途ニ大差アリト云フモ本件特許ハ毀損シタ
 ル際廉價ニシテ且容易完全ニ取換ヘ得ル目的ニ於テ螺旋桿ノ上部ニ螺合シ得ル様内側ニ螺旋ヲ刻ミタ
 ル管ヲ内部ニ具フル穴ニ緊着シテ成ル碍子ナルコトハ其特許請求範圍ニ依リ明ナリ而シテ被請求人カ
 提出シタル甲第三號證ノ碍子ハ其内部ニ適當ノ距離ヲ隔テ上下ヨリ二箇ノ螺旋管ヲ對置シ之ニ金屬線
 ヲ螺合スルモノニシテ電線ヲ吊下スルニ使用セラル故ニ之ヲ對比スルニ必要ニ應シテ碍子ト螺旋桿ト
 離脱スルノ目的ヲ達スル爲メ螺旋管内ニ螺旋桿ヲ螺合スル構造ハ共ニ同一ナリ其差點ヲ擧クレハ僅カ
 ニ碍子ノ形狀螺旋管ノ數又本件特許ノ碍子ニ於テハ其表面ニ電線ヲ結着スルモ甲第三號證ノ碍子ニ於
 テハ其内部ノ螺旋管ニ之ヲ螺合シ又本件特許ノ碍子ハ腕木ニ取付クルモ甲第三號證ノ碍子ニ金屬線
 ニ螺合スル等ニアルモ此等ノ差點ハ本件特許ノ要部ヲ構成スルモノニアラサルヲ以テ本件特許ノ有效
 無効ヲ決スルニ何等ノ影響ヲ及ホスモノニアラス要スルニ本件特許ハ甲第三號證ニ記載サレタル碍子
 ノ螺旋構成ヲ本件特許ノ碍子ニ轉用シタルモノト認メ得ヘク而モ此ノ轉用ハ螺旋ノ構造ニ於ケル當然
 ノ效果以外何等新規ノ效果ヲ奏セサルモノナリ(二)請求人ハ該甲第三號證ハ本件特許出願前帝國大學
 圖書館ニ貯藏セラレタルモノニシテ特許法ニ所謂帝國内ニ頒布セラレタルモノト云フヘカラスト云フ

モ該證ハ「ヘリング」著「レセント、プロダレス、イン、エレクトリック、レールウエイス」ニシテ明治二十六
 年六月二十日帝國大學圖書館ニ藏入セラレタルモノナルコトハ其證印ニ依リテ之ヲ認メ得ヘキヲ以テ本
 件特許出願前帝國内ニ頒布セラレタル刊行物ナリ云ハサルヘカラス況ンヤ同圖書館ノ圖書ハ同大學ニ
 關係ノ職員及學生ハ自由ニ之ヲ閱覽スルコトヲ得ルヲ以テ其記事ハ帝國内ニ公然知ラレタル状態ニア
 ルモノト云フヲ得ヘキニ於テヤ又被請求人ノ提出ノ甲第八號證記載ノ陶器製碍子ハ送電線用ニシテ
 其内部ニ接合劑ヲ以テ螺旋管ヲ緊着シタルモノニシテ本件特許ノ碍子ト其構造考案ヲ同フスルモノト
 認メサルヘカラス而シテ前記甲第八號證ハ一八九二年三月二十一日出願ニ係ル第四七六八一三號米國
 特許ニシテ該明細書ハ明治二十七年三月三十一日當局ニ頒布ヲ受ケタルモノニシテ當局員ハ勿論局員
 ノ照會ニ依リ何人ニモ之カ閱覽ヲ許セシモノナレハ秘密ノ藏書ト云フヘカラス左レハ本件特許ハ其特
 許出願前容易ニ應用スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ帝國内ニ頒布セラレ甲第三號證及甲第八號證タル刊
 行物ニ記載セラレ、ヲ以テ本件特許ハ特許法第九十九條及同法第四條第二號ニ該當シ同法第一條ニ違
 反シ同法第四十九條ニ依リ無効トナスヘキモノナリ此主旨旨ニ出タル原審決ハ相當ニシテ請求人ノ主張
 ハ一モ其理由ナシ其他當事者間互ニ相爭フ所アルモ本件審決ニ必要ナキヲ以テ之ヲ說明セス仍テ主文
 ノ如ク審決ス

明治四十四年四月七日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 五十嵐 秀 助
 特許局事務官 織 田 了
 特許局技師 增 島 文 次 郎

第八十一號

東京市神田區鍛冶町十一番地 請求人 高松長一郎
東京市淺草區西島越町 請求人 深川勝太郎

右第五四三四〇號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審判スルコト左ノ如シ
主文 抗告審判請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ明治四十三年十二月十二日特許願第五四三四〇號ニ對シ審査官ノ爲シタル拒絕査定ハ不當ナリトノ審決ヲ求ム其理由ハ審査官ノ云フカ如ク本願ノ方法ハ容易ニ遂行シ得ヘキ方法トセハ何カ故ニ今日斯ル製品ノ坊間ニ現レサルヤ營業者モ布帛等ヲ用キテ其強韌性ヲ強大ナラシムル事ニ着眼セルモノナキニアラサルヘシ然レドモ其方法ノ困難ナルヲ以テ僅ニ「セルロイド」ヲ溶解セシメ之ヲ布帛ニ塗抹シ殆ント「セルロイド」ノ本性ヲ没却セルモノヲ製シテ満足セリ故ニ審査官ノ云フ如ク容易ニ遂行シ得ヘキニアラス又審査官ハ本願方法ハ特殊ノ新效果ナシト云フモ坊間ニ斯ル品質ノ「セルロイド」ヲ見ス僅ニカ前記ノ塗布セル者アルノミ此ノ塗布「セルロイド」ハ層厚クシテ不體裁ナリ又使用中漸次所々剝脫ス從テ其應用範圍極メテ狭ク之レ其品質ノ粗惡ナルニ依ル然ルニ本願方法ノ製品ハ一見「セルロイド」アリヤ否ヤサヘ識別シ得サル迄ニ「セルロイド」ハ薄ク精巧ヲ極メ且使用中剝脫スル患ナク尙布帛ノ模様等ヲ透視シ得ルナリ從テ應用スヘキ範圍モ廣シ云々ト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タストノ審決ヲ求ム其理由ハ本願ノ發明スル所ニ二枚ノ「セルロイド」間ニ各種ノ模様色彩ヲ有スル織布ヲ挾ミ「ロール」間又ハ壓機ニヨリ加熱膠着セシメタル布入「セルロイド」ニアリ然ルニ斯クノ如ク織布ノ兩面ニ「セルロイド」接着劑ヲ以テ「セルロイド」ノ薄層ヲ着シ適宜壓迫シテ密着セシメタル布入「セルロイド」ハ本願出願前帝國内ニ於テ「カフス」「カラ」等ニ於テ既ニ見聞スル所ナリ又「カラ」「カフス」等ニ適用シタル本願ノ如キ布入「セルロイド」ハ本願出願前帝國特許局圖書館ニ於テ公衆ノ閱覽ニ供セラレタル一八九二號英國特許第一六七四七號明細書等ノ記事ニヨリ明知スルコトヲ得又二物ヲ密着スルニ其間ニ加熱ニヨリ液分發散シ冷却シテ乾固スヘキ護謨酒精液ノ如キ接着劑ヲ附入シ加熱加壓スルコトモ營業者ノ熟知スル所ナリ要スルニ本件特許願ハ既知ノ事項ヨリ特考ヲ費サスシテ容易ニナシ得ヘク何等特殊ノ新效果ヲ奏セス云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 本件第五四三四〇號特許願各種ノ模様色彩ヲ附シタル「セルロイド」ハ「セルロイド」ノ全面ニ粘着性物質ヲ塗布シ其間ニ各種ノ模様色彩ヲ有スル織物ヲ挾ミテ重テ熱セラレタル轉子又ハ壓機ニテ密着セシメテ成ル「セルロイド」ナルコトハ其請求範圍ニ依リ明ナリ而シテ審査官援用ノ一八九二年英國特許第一六七四七號明細書ニ依レハ二枚ノ「セルロイド」間ニ織物ヲ挾ミ合セ之ヲ密着セシメ以テ「カラ」「カフス」等ヲ製造スルコトハ公然用キラル、所ナリト記載セリ故ニ本件特許願ニ於テ各種ノ模様色彩アル織物ヲ二枚ノ「セルロイド」間ニ挾ミ重テ成ル「セルロイド」ハ前記英國特許ノ記事ニ依リ營業者ノ容易ニ應用シ得ルモノト認ムルヲ以テ新規ノ發明ヲ構成セス從テ本件特許願ハ特許法第四條第二號ニ該當シ同法第一條ニ違反スルヲ以テ之ニ對シ審査官カ拒絕査定ヲナシタルハ不當ニアラス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年四月二十七日於特許局

審判長 特許局技師藥學博士 池口慶三
特許局事務官 織田了

第一百十一號

愛知縣碧海郡矢作町大字西牧内十七番戸
 東京市日本橋區堀船町三丁目十一番地特許辦理士
 愛知縣碧海郡矢作町大字東本郷十九番戸
 愛知縣碧海郡矢作町大字宮永二十三番戸
 愛知縣碧海郡矢作町大字東本郷字西屋敷三十五番地
 愛知縣碧海郡矢作町大字池端二十二番戸
 東京市京橋區箱屋町十番地特許辦理士

請求人 生駒 象吉
 右代理人 三上 七十郎
 被請求人 淺井 七郎左衛門
 被請求人 都築 庄九郎
 被請求人 稻垣 文吉
 從參加人 平岩 金右衛門
 從參加人 内村 達次郎

右當事者間ノ第一三三〇三號特許無效審判請求事件ニ付明治四十二年四月二十五日當局ニ於テ爲シタル
 審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 原審決ヲ破毀ス抗告審判被請求人申立相立タス

審判費用及抗告審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ取消シ更ニ抗告審判被請求人ノ申立相立タス審判及

抗告審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ原審決ハ證人脇田常三郎及藤井

増五郎ノ證言ヲ唯一ノ證據トシテ本件特許ノ出願前公知公用ニ屬セルコトヲ認定シタリト雖右證人等

ノ證言ハ曖昧虛偽ニシテ信據スヘキモノニアラス此證言ニ基ク原審決ハ不當ナリ其他本件特許ノ出

願前公知公用ニ屬スル事實ヲ認ムヘキ有力ナル證據ナキカ故ニ本件特許ハ無効トスヘキ理由ナシ云々ト云フニ在リテ原審ニ於ケル一切ノ書類及證據ヲ引用シ更ニ新乙第三號乃至第十七號證ヲ提出セ

リ
 抗告審判被請求人申立ノ要領ハ本件抗告審判請求人ノ申立ハ之ヲ棄却ス抗告審判費用ハ抗告審判請求
 人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ證人脇田常三郎及藤井増五郎ハ其訊問調書ニ依レハ發音ノ相違
 ヨリシテ申立タル人名中一部相違ノ點アリシト雖右證人等ハ其地方ニ於テ地位名望アルモノナレハ其
 證言ハ十分信ヲ措クニ足リ本件特許ト同様ナル器械カ出願前公知公用ニ屬セル事實及發明者ノ人名等
 モ兩者一致シ虛欺ノ申立ト見ルヘカラス故ニ原審決ハ不當ニアラス其他被請求人カ提出セル各號證據
 ニ依リテモ本件特許ノ出願前公知公用ニ屬セル事實ヲ立證スヘシト云フニ在リテ原審ニ於ケル一切ノ
 書類及證據ヲ援用シ更ニ新甲第二號證ノ一乃至十及新甲第三號證ノ一乃至四ヲ提出シ證人訊問ノ申請
 ヲ爲セリ

審決ノ理由 本件特許第一三三〇三號物品括束器ノ構造ハ上端ニ滑車ヲ有スル受柱ト上端ニ凸子ヲ有ス
 ル受柱ト軸上ニ紐受及鋸齒輪ヲ有スル輪軸ト鉤狀ノ齒止ト鉤子ヲ有スル括紐トノ組合ヨリ成ルモノニ
 シテ明治四十年十月二十二日出願同年十一月二十八日特許ヲ受ケタルモノナリ而シテ其特許出願以前
 上端ニ凸子ヲ有スル受柱ト軸上ニ紐受及鋸齒輪ヲ有スル輪軸ト鉤狀ノ齒止ト鉤子ヲ有スル括紐トノ組
 合ヲ有スル物品括束器カ帝國内ニ於テ公然用ヒラレタルノ事實ハ當事者双方ニ於テ爭ナキ所ニシテ之
 ヲ認ムルニ難カラスト雖本件特許ノ構造ト同一ナル構造ノ物品括束器カ前記特許出願以前帝國内ニ於
 テ公然用ヒラレ又ハ公然知ラレタルノ事實甲各號證及證人ノ證言ニ據ルモ十分ニ之ヲ認ムルニ足ラス
 故ニ本件特許ハ之ヲ無効トスヘキモノニアラスシテ原審決ハ不當ナリトス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年五月三日於特許局

六十六

審判長 特許局技師 湯淺藤市郎
特許局事務官 織田了
特許局技師 増島文次郎

第二百二十六號

東京市淺草區老松町九番地	請求人	藤村清太郎
東京市京橋區加賀町十三番地特許辨理士	右代理人	牧野充安
東京市日本橋區堀江町四丁目一番地	被請求人	松本長兵衛
東京市京橋區霞町八番地	被請求人	平林友七
東京市神田區美土代町一丁目一番地	被請求人	中川國五郎
東京市京橋區木挽町十丁目八番地特許辨理士	右代理人	乙部俊次

右當事者間ノ第四六八五號特許權利確認審判請求事件ニ付明治四十三年六月二十日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 原審決ヲ破毀ス抗告審判被請求人ノ製造販賣スル板付草履ハ特許第四六八五號ノ權利範圍ニ屬セ

ス
審判費用及抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス
申立ノ要領 抗告審判被請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀シ抗告審判被請求人カ製造販賣スル板付草履

ハ特許第四六八五號ノ權利範圍ニ屬ストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ請求人所有ノ特許第四六八五號ノ權利範圍ハ其特許明細書ニ於テ請求範圍トシテ「數箇ノ齒ヲ交互適當ノ間隔ヲ存セシメテ數條ノ籐ニ定着シテ成ル履物臺」ト記載シタルニ依リ洵ニ明ナリ而シテ被請求人ノ製造販賣スルモノハ前記ノ構造ヨリ成ルモノナルカ故ニ後者ハ前者ノ特許範圍ニ屬スルコト當然ナリ原審決ノ理由ニ於テ漫然「麻紐ヲ齒ノ裏面ノ凹溝ニ緊嵌スルコト」ヲ以テ本件特許ノ發明ノ要部ト認メ被請求人ノ製造販賣スルモノハ此要部ヲ缺如スルモノト論下シタルハ妄ノ甚シキモノナリ又前審甲第一號證ハ略圖ニシテ構造ヲ知ルニ足ラサルニ拘ハラズ原審決ハ甲第一號證ニ就キ爲サレタルモノニシテ其何ノ謂ナルヲ解スル能ハス云々ト云フニ在リ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ抗告審判請求人ノ申立相立タス抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ請求人ハ特許第四六八五號ノ權利ヲ曲解シ「數箇ノ齒ヲ交互適當ノ間隔ヲ存セシメ數條ノ籐ニ定着シテ成ル履物臺」ナル構造ヲ抽出シテ其權利ナル如ク主張スレトモ單ニ此構造ノミヲ以テ該特許ノ權利ト稱スルヲ得ス故ニ原審決亦不當ニアラス又甲第一號證ハ被請求人カ製造販賣スル實物ヲ模寫シタル側面圖ニシテ之ニ對シ請求人ノ解シ難シト主張スルハ當ヲ得ス云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 本件係争ノ特許第四六八五號ヲ按スルニ其權利ハ特許請求範圍トシテ明記セル構造全部ノ組合ニ在リ而シテ特ニ其一部分ノ構造ヲ抽出シテ之ニ權利ノ存スト認ムヘキ理由ナシ乙第二號證ニ據ルモ何等右ノ如キ一部分ノ構造ニ權利ノ存スト見ルヘキ理由アルヲ認ムル能ハス即チ被請求人ノ製造販賣スル板付草履ハ本件特許ノ構造中「軟キちやんヲ吸收セシメタル麻紐ヲ裏面ニ設ケタル凹溝ニ緊嵌シテ成ル齒」ノ構造ヲ缺如スルモノナルコト乙第三號證ニ依リ明ニシテ本件特許ノ權利範圍ニ屬ス

六十七

ヘキニアラス又甲第一號證ハ其構造ノ如何及果シテ被請求人カ製造販賣スル物品ノ證據ト見ルヲ得ル
ヤ否ヤヲ知ルニ足ラス故ニ原審ニ於テ單ニ甲第一號證ニ就キテ審決ヲ下シタルハ其當ヲ得タルモノニ
アラス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年五月三日於特許局

審判長 特許局技師 湯淺藤市郎
特許局技師 増島文次郎
特許局事務官 村上隆吉

第二百二十七號

東京市淺草區老松町九番地 請求人 藤村清太郎
東京市京橋區加賀町十三番地特許辨理士 右代理人 牧野充安
東京市神田區美土代町一丁目一番地 被請求人 中川國五郎
東京市京橋區木挽町十丁目八番地特許辨理士 右代理人 乙部俊次

右當事者間ノ第四六八五號特許權利確認審判請求事件ニ付明治四十三年六月二十日當局ニ於テ爲シタル
審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀シ抗告審判被請求人カ製造販賣スル數箇ノ齒ヲ

互ニ適當ノ間隙ヲ存セシメ數條ノ籐ヲ以テ連結セル履物ノ構造ハ特許第四六八五號ノ權利範圍ニ屬ス
トノ審決ヲ求ム其理由ハ請求人所有ノ特許第四六八五號ノ請求範圍中後段ニ於テ『數條ノ齒ヲ交互ニ
適當ノ間隙ヲ存セシメテ數條ノ籐ニ定着シテ成ル履物臺』ト掲ケアルニ依リ該構造ヨリ成ル被請求人
ノ製造販賣スル物品ハ右特許ノ權利範圍ニ屬スルコト明白ナリ然ルニ原審決ニ於テ被請求人ノ製造販
賣スル物品ハ前記特許請求範圍ノ前段ニ記載セル『麻紐ヲ裏面ノ凹溝ニ緊嵌スル構造』ヲ缺如セルカ
故ニ該特許ノ權利範圍ニ屬セストナセルハ不當ナリ前記第二段ノ構造カ特許ノ要部ニ非サルコトハ甲
第二號證ニ據リ明ナリ云々ト云フニ在リ

抗告被請求人答辯ノ要領ハ請求人ノ申立相立タス抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其
理由ハ請求人ハ特許第四六八五號ヲ曲解シ『數箇ノ齒ヲ交互適當ノ間隙ヲ存セシメ數條ノ籐ニ定着シ
テ成ル履物臺』ナル構造ノミヲ抽出シテ其權利ナリト主張スレトモ之レ其前段タル『軟キちやんヲ吸
收セシメタル、麻紐ヲ裏面ノ凹溝ニ緊嵌シテ成ル數箇ノ齒』ノ構造ヲ忘却シタルモノト云フヘク本件
特許ノ權利ハ請求範圍ヲ記載セル全部ノ構造ニ存シ其一部ニ存セス故ニ被請求人ノ製造販賣スル物品
カ本件特許ノ範圍ニ撞着セスト爲セル原審決ハ不當ニアラス云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 本件特許第四六八五號ノ權利範圍ハ其請求範圍トシテ記載セル構造全部ノ組合ニ在ルコト
ハ其明細書ニ徴シテ明白ナリ故ニ本件被請求人ノ製造販賣スル如ク『ちやんヲ吸收セシメタル麻紐ヲ
裏面ノ凹溝ニ緊嵌シテ成ル齒』ノ構造ヲ缺如スルモノハ本件特許ノ權利ニ屬スルモノニアラス甲第二
號證ハ唯特許請求範圍ニ記載セル構造ノ一部カ新規ノ發明ヲ構成セスシテ分割ヲ許可スヘキモノニア
ラサルヲ論シタルニ止マリ以テ本件特許ノ權利カ一部分ノ構造ニ存スト認ムヘキ理由トナラス故ニ原
審決ハ不當ニアラス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年五月三日於特許局

審判長 特許局技師 湯淺藤市郎
特許局技師 増島文次郎
特許局事務官 村上隆吉

第六百六十四號

大阪市西區松島町二丁目百六十四番屋敷	請 求 人	紀 野 吉 三 郎
大阪市東區博愛町四丁目十八番地特許辦理士	右 代 理 人	丸 山 庸 二
大阪市東區道修町五丁目七十七番地特許辦理士	右 代 理 人	内 藤 正 知
大阪市西區西九條下ノ町百五番地	被 請 求 人	石 井 長 次 郎
大阪市東區備後町二丁目三十六番地特許辦理士	右 代 理 人	堤 他 彦
大阪市東區備後町二丁目三十六番地特許辦理士	右 代 理 人	鎌 田 正 治

右當事者間ノ第六四一八號特許無效審判請求事件ニ付明治四十二年十月十一日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 原審決ヲ破毀ス抗告審判被請求人申立相立タス

審判及抗告審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ハ不服ニ付特許第六四一八號破砕機ハ無効トナスヘキモノニアラス審判及抗告審判費用ハ被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ請求人ノ最初抗告第

一號證ノ機械ヲ使用シ之ニ改良ヲ加ヘ明治二十九年九月比ヨリ同三十五年未迄抗告第二號證ヲ使用シ最後ニ本件特許第六四一八號破砕機ヲ使用シテ今日ニ至レリ而シテ前審ノ證人タル伴八郎中井彌之助ノ目撃セシト云フハ多少其構造ニ於テ同一ナル點ノ存スル上記抗告第一及第二號證ノ破砕機ニシテ全ク本件特許品ナリト誤認セルモノナリト推知ス又被請求人ハ明治三十九年末ニ於テ本件特許ト全然其構造均等ナル破砕機ニ對シ實用新案登錄願第七五二一號ノ出願ヲナシ同四十年二月十八日拒絕セラレタルコトハ抗告第三號證ノ如シ是レ本件特許カ其特許出願前公知公用ナラサリシ反證ナリ云々ト云ヒ證人訊問ノ申請ヲナシ抗告各號證ヲ提出セリ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タス抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ證人伴八郎及中井彌之助ノ證言ハ正實ニシテ一モ疑ヲ存セス然ルニ伴八郎ノ目撃セシ機械ハ本件特許品ニアラスト云フハ甚輕忽ナリ又請求人ハ被請求人カ本件特許機械ト同一ナル機械ヲ實用新案ノ登錄ヲ出願シタル點ニ就テ論スル處アルモ已ニ原審ノ際此ノ點ニ對シ辯駁ヲナシタルヲ以テ更ニ論スルノ必要ナシ云々ト云ヒ證人訊問ノ申請ヲナセリ

審決ノ理由 本件特許ハ破砕スヘキモノ、大サニヨリテ要スル働量ニ應シテ重錘ノ衝程ヲ時々任意ニ變更スル目的ニ於テ重錘面ニ穿テタル縱溝ニ沿フテ上下スル防止栓ノ構造ヲ具備スル破砕機ナリ然ルニ被請求人ハ斯ル構造ノ破砕機ハ本件特許出願前公知公用ニ屬セルコトハ證人伴八郎井上平太郎及中井彌之助ノ證言ニ依リ明ナリト云フモ前記證人ノ言ハ發明ノ要部ニ對シ明瞭ナラサルノミナラス各一致セサル點アリテ信憑スルニ足ラサルヲ以テ其主張ハ不當ナリ而シテ本件特許ノ構造ヲ有スル破砕機ハ其特許出願前公知公知ラレ又ハ公然用キラレタル事實ハ信用スルニ足ルヘキ紀野喜一郎、木山繁之助ノ證言ニ徴シテ之ヲ認ムルコト能ハス從テ原審決ハ不當ニシテ本件特許ハ無効トナスヘキモノニアラス

仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年五月三日於特許局

審判長 特許局技師 湯淺藤市郎
 特許局事務官 織田了
 特許局技師 増島文次郎

第一百十九號

廣島縣深安郡春日村大字吉田八十五番屋敷 請求人 北村吉五郎
 大阪市東區淡路町一丁目二十四番地特許辦理士 右代理人 佐々木高吉
 廣島縣廣島郡新市町三十一番地 被請求人 高田嘉助
 大阪市東區橫堀二丁目七十一番屋敷特許辦理士 右代理人 江田邦太

右當事者間ノ第二七五四號特許權利確認審判請求事件ニ付明治四十三年五月十九日當局ニ於テ爲シタル
 審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス
 抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀シ特許第一五一五三號北村式二重底製鹽釜ハ特
 許第二七五四號製鹽釜ノ特許範圍ニ屬セス審判費用並ニ抗告審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トス
 トノ審決ヲ求ム其理由ハ特許第一七五四號製鹽釜ハ其明細書中ニ『底ノ外面ニ無數ノ凸凹ヲ設ケタル

ヲ以テ底部ハ厚キ箇所ト薄キ箇所トヲ參差交錯シ之ヲ窠ニ据エ付ケ熱ムルノ際薄キ箇所ハ熱ヲ受クル
 コト厚キ箇所ニ比シテ激烈ナルニ依リ釜中ノ鹽液ハ平等ニ沸騰スルヲ得ヘシ』ト明記シアリテ其底ノ
 外面ノ凸凹ナルモノハ釜底ノ厚薄ヲ參差交錯シテ構造スルニ在ルコト明ナリ故ニ其權利範圍ハ他ノ考
 案ニ基キテ製鹽釜ヲ構成スルニ方リテ觸火面ニ凸起ヲ生シ之カ爲メニ形成セラレタル釜底外面ノ隆陷
 ニマテ及フモノニアラサルヤ當然ナリ然ルニ特許第一五一五三號改訂北村式製鹽釜ハ其明細書ニ説明
 セル如ク全ク特許第二七五四號製鹽釜ト其基ク所ノ考案ヲ異ニシ脚及筭柱ハ釜底ヲ釜底ニ重ヌル必要
 上設ケタルモノニシテ釜底ニ厚キ箇所ヲ作ルカ爲メニアラス鐵版ノ縱條モ亦熱ノ滑走ヲ阻止スル爲メ
 ニ設ケタルモノニシテ釜底ニ厚キ箇所ヲ作ルカ爲メニアラス故ニ特許第一五一五三號改訂ハ特許第二
 七五四號ノ特許範圍ニ屬スルモノニアラス又特許第一五一五三號改訂製鹽釜ノ實際ノ效果ト著シキモ
 ノニシテ特許第二七五四號製鹽釜ノ其レトハ異ナレリ之レ其兩者ノ發明全ク異ナレル所以ナリ且食鹽
 釜ニ於テ内面ヲ平滑ニシ外面ヲ凹凸アラシメテ築造スルハ凡ソ二百年前ヨリ本邦ニ於テ行ハレタル所
 ニシテ甲第一號證ノ如キ之ナリ此點ヨリ云フトキハ特許第二七五四號ハ新規ノ發明ヲ構成セス而カモ
 今日マテ其無効審判ヲ請求スルモノナキハ該特許ノ如キ鐵製釜ニ在リテハ全ク使用ニ堪ヘス被請求人
 モ全ク之ヲ實施セサルニ歸因スルモノニシテ特許第一五一五三號改訂トハ效果ニ霄壤ノ差アルヲ證ス
 ルニ足ル若又特許第二七五四號ハ鐵製ニシテ而カモ一體ニ造リタルニ依リ隨所ニ移動シ得ヘク且永久
 使用ニ堪ユル等特殊ノ效果ヲ有スルニ依リ新規ノ發明ナルコト審判番號第二〇四四號ノ無効審判事件
 ニ於テ判示セラレタル如シトセハ第一五一五三號特許北村式製鹽釜ハ一體ニ作ルモノニアラスシテ其
 特許範圍ニ屬スヘキモノニアラスシテ原審決ハ不當ナリ云々ト云フニ在リテ甲第一號證ヲ提出シ證人
 ノ訊問ヲ申請シ且審判番號第二〇四四號、第二七五四號特許無効審判事件ニ於テ請求人ヨリ提出セル

一切ノ書類證據及審決書ヲ援用シテ其主張ヲ立證セリ
 抗告審判被請求人申立ノ要領ハ抗告審判請求人ノ申立相立タス抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔
 トストノ審決ヲ求ム其理由ハ請求人ハ被請求人ノ特許釜ニ於ケル凸凹狀ノ隆陷ハ釜底ニ厚薄ヲ作ル爲
 メニシテ請求人ノ特許釜ニ於ケル凸凹狀ノ隆陷ハ觸火面ヲ隆起セシメ火ノ滑走ヲ防ク爲メナレハ目的
 考案ヲ異ニシ互ニ抵觸スルコトナシト主張スレトモ其ハ發明其者ノ差異ニアラスシテ發明者ノ意志又
 ハ希望ノ相違ニ過キス既ニ構造效果等總テ均等タル以上ハ發明ハ互ニ抵觸スルヲ免レス又請求人ハ觸
 火面ヲ凸起セシムル爲メニ二重底ト爲シタル點ニ於テ差異アリト主張スルモ其ハ第二七五四號特許ノ
 要點ニ關係ナキ一部分ヲ殊更ニ掲ケタルニ過キス若シ此部分ヲ以テ第一一五三號特許發明ノ要部ナ
 リト假定スルモ二重底ヲ構成スル爲メニ底ノ内面平滑ニシテ外面ニ凸凹ヲ有スル構造ト爲シタル製鹽
 釜ハ第二七五四號特許ノ請求範圍ニ記載セル『底ノ内面ヲ平滑ニシ外面ニハ無數ノ凸凹ヲ設ケタル製
 鹽釜』ト全ク一致スルモノナレハ之ヲ利用シタルモノト云ハサルヘカラス况ンヤ同一凸凹ニシテ一方
 ハ厚薄ヲ爲スノミニシテ他方ハ滑走ヲ爲スノミナル謂ハレナキニ於テオヤ又古來使用サレタル製鹽釜
 ハ寧ロ爐ノ一部ト稱スル方適當ニシテ築造サレタル場所以外ニ運搬スルコト能ハス使用期間モ極メテ
 短少ナリ故ニ甲第一號證ノ如キハ請求人ノ主張ノ如シトスルモ被請求人ノ特許釜ト比較シテ釜ト爐ト
 ノ差異アリ構造效果目的等全然異ナルノミナラス其從來有ルヤ否ヤハ本件審判ニ何等ノ干係ナシ云々
 ト云フニ在リ

審決ノ理由 本件係争ノ特許第二七五四號製鹽釜ノ權利トスル所ハ其特許請求範圍ニ記載セル如クニシ
 テ釜ヲ平等ニ熱シテ鹽液ノ沸騰ヲ普カラシムルト同時ニ釜ヲシテ永キ使用ニ耐ヘシムル目的ニ於テ底
 ノ内面ヲ平滑トシ底ノ外面ニハ無數ノ凸凹ヲ設ケタル構造ニ在リ然ルニ特許第一一五三號改訂北村

式二重底製鹽釜ニ於テ用ユル所ノ脚及縱條ハ相共ニ釜底外面ニ凸凹狀ノ隆陷ヲ作成スルモノニシテ釜
 底内面ハ平滑ナリ而シテ其效果ハ釜底ヲ熱スルヲ平等ニシ同時ニ釜底ノ耐久ヲ來タスヘキモノナルカ
 故ニ後者ハ前者ノ權利範圍ニ屬スルモノト認ムルヲ正當トス從テ原審決ハ不當ニアラス抗告請求人ハ
 特許第二七五四號ニ於テ釜底ノ厚薄ヨリ受熱ヲ平等ニシテ特許第一一五三號改訂ハ火ノ滑走ヲ防クヨ
 リ受熱ヲ平等ニスルモノニシテ兩者發明ヲ異ニスル如ク主張スルモ前者ノ受熱ヲ平等ニスルモ等シク
 火焰ノ滑走ヲ防クニ基クモノニシテ明細書ニ記スル如ク厚薄ノ結果ヨリ來ルヘキニアラス故ニ其發明
 ヲ異ナレリトナス請求人ノ主張ハ當ヲ得ス又特許第一一五三號改訂ニ於ケル凸凹ハ底版ノ取付ケノ
 結果生シタルモノニ過キストスルモ之カ爲メニ前記權利範圍内ニ屬スルヲ妨クヘキ理由ナシ其他當事
 者互ニ論辯スル所アルモ本件審決ニ關係ナキヲ以テ説明ヲ略ス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年五月十六日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 阪田 貞一

特許局技師 湯淺 藤市郎

特許局事務官 村上 隆吉

第四百四十九號

東京府豊多摩郡澁谷町中澁谷八百九十一番地

請求人 河合 林三郎

右第四五〇五號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ明治四十三年八月十日付願書番號四五〇五號河合式硝子伸シ窯特許願拒絶再査定ハ不服ニ付審判ノ上特許スヘシトノ審決ヲ求ム其理由ハ本願硝子伸シ窯ニ於テハ煉瓦製ノ一ノ灼熱室ヲ設ケ其ノ内ニ於テ硝子引キ伸シノ用ニ供スル轉子及壓展盤ヲ熱シ其ノ内部ニハ注水ノ裝置アリテ室内ノ温度ノ過大ナルコトアリト雖モ轉子及盤ノ温度ハ一定ノ限度ヲ超過スルコトナク從テ熔解硝子カ其等ノ表面ニ貼着スルノ患ナク又引キ伸シタル硝子ヲ冷却スルニ齒車仕掛ケニヨリ灼熱室内ニ送入シ漸次ニ冷却ヲ爲スヲ以テ硝子ハ破損スル等ノ患ナシ之ヲ要スルニ轉子及盤ヲ鑄鐵ニテ製シ其内部ニ注水ヲ爲スコトハ實地上必要ニシテ之ヲ考案シタルハ新規ノ發明ナリト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決相成度其理由ハ本願硝子引伸シ裝置ハ本願出願前公刊ニ係ル英國特許第一七一六二號板硝子製造機ト均等ニシテ壓展面ニ硝子ノ附着スルヲ防ク爲メ其ノ内部ニ注水ヲ行フコトハ必スシモ之ヲ要セス假リニ之ヲ要スルトスルモ其ノ方法タル已ニ公知公用ノ手段ニシテ毫モ新規ノ發明ト稱スルヲ得ヌ又硝子ヲ冷却スルニ當リ煉瓦ノ室内ニ移送シ室ト共ニ漸次ニ冷却スル方法ノ如キモ極メテ普通ニシテ何等新規ノ點アルヲ認メヌ從テ特許法第一條ニ該當セスト云フニ在リ

審決ノ理由 抗告審判請求人ノ出願ニ係ル願書第四五五〇五號特許願河井式硝子伸シ窯ハ鑄解セル硝子ヲ壓展スルノ用ニ供スル鑄鐵製ニシテ其表面ニ籠狀ノ縱筋アル轉子ト其轉子ノ廻轉運動ヲ齒車裝置ニヨリ傳ヘ以テ移動スル所ノ壓展盤トアリテ其盤ハ伸展サレタル板硝子ヲ載セツ、煉瓦製ノ灼熱室内ニ搬入サレ室内ニ於テ室ノ冷却ト共ニ漸次ニ冷却サル、仕組ニシテ加フルニ壓展盤及ヒ轉子ノ表面カ過熱サレテ鑄解硝子ノ附着スルヲ防ク爲メ其内部ニ注水ヲ行ヒ温度ヲ過分ニ高ク昇セシメサルノ考案ニ

成ルモノナリ然ルニ板硝子ニ縱筋アルモノヲ製スル爲メ本願ノ如ク鑄鐵製ノ轉子ノ面ニ籠狀ノ筋アルモノヲ以テ壓展シ壓展盤ヲ移動セシメテ硝子ヲ運搬スル裝置ハ英國特許第一七一六二號板硝子製造機ト均等ニシテ唯該特許ニハ直ニ其裝置ヲ搬入スヘキ煉瓦造ノ室ノ記載ナシト雖モ壓展シタル硝子板ヲ漸次ニ冷却スヘキ爲メニ外氣ノ影響ナキ室ニ於テス可キハ出願前公知ノ方法ニシテ決シテ之ヲ以テ新規ノ發明ト稱スルヲ得ヌ又注水ヲ行ヒ以テ過熱ヲ防ク方法ハ普通一般ニ行ハル、環水冷却法ヨリ容易ニ推知シ得ル事ニシテ又此冷却ノ方法ハ硝子製造ノ場合ニ必シモ緊要ト認ムル能ハス故ニ本願ノ裝置ハ英國特許第一七一六二號ニ比シ新ニ有益ナル效果アルモノト認ムルコト能ハス從テ審査官カ特許法第一條ニ該當セストシテ拒絶シタルハ不當ニアラス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年五月十六日於特許局

審判長 特許局技師工學博士男爵 斯波忠三郎
 特許局事務官 織田了
 特許局技師 増島文次郎

第百八十號

英領加奈多コロンビヤウサクトリア

請求人

バルフォアス、ハベ
テンツ、リミテッド

右代表者

アルバート、エフ、グ
リフサス

東京市麹町區八重洲町一丁目一番地特許辨理士

右代理人

ウォルター、オーガス、
タス、デ、ハピランド

右第五二六一〇號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ明治四十三年十一月二十七日付願書番號第五二六一〇號軌條止釘特許願拒絕再査定ハ不服ニ付審判ノ上特許ヲ與フ可シト審決相成度其理由ハ審査官ハ本願軌條止釘ハ西曆一千八百九十七年英國特許第一八七四號ヨリ容易ニ應用シ得ラルヘキモノニシテ新規ノ發明ニアラスト云フト雖モ本願軌條止釘ハ一度使用スレハ緩ムコトナク且打込及拔出ヲ容易ナラシムル爲メ釘身ノ兩脚ニハ傾斜セル打込ミ面ヲ付ケ又ハ角度ヲ有セル段ヲ兩脚ノ内側ニ付クルヲ以テ此釘ヲ木材ニ打込ムトキハ兩脚ハ稍開離シテ木材ヲ挾ミ而シテ又段ヲ有スルモノニアリテハ其レニヨリテ以テ材木ニ密着ス加之前記ノ段ヲ付ケタルモノニアリテハ兩脚ノ尖端ニ近キ所ニ切缺ヲ設ケ其レニヨリテ釘ヲ打込ムニ當リ尖端ヲ先ツ以テ屈曲シ兩脚ノ木身ニ進入スルニ從ヒ相離隔セシムルヲ助成スルモノニシテ斯ノ如キ特殊ノ效果アルニ拘ラス單ニ前記英國特許ヨリ直ニ應用シ得ヘキモノニシテ特許法第一條ニ該當セスト査定シタルハ不當ナリト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決相成度其理由ハ本願ノ如ク釘身ノ一端ニ釘頭ヲ作り他端即チ脚部ヲ分テ二本トナシ其脚部ノ内側ニ傾斜面ヲ有セシメ外側ニ切缺ヲ設ケタル考案ハ英國特許第一八七四號ト均等ニシテ又脚ノ内側ニ段ヲ付クル考案モ普通行ハル、釘身ニ段ヲ付テ拔出ヲ防ク考案ヨリ容易ニ推知シ得ルヲ以テ本願ハ特許法第一條ニ該當セスト云フニ在リ

審決ノ理由 抗告審判請求人ノ出願ニ係ル願書第五二六一〇號軌條止釘特許願ハ軌條止釘ノ釘身ヲ分テ

二本ノ脚ヲ作り脚ノ内側ハ尖端ニ向ヒテ傾斜シ尖端ハ又外側ニ向ヒ或ル角度ヲ爲セルモノナリ又ハ脚ノ内側ニ二ツ以上ノ異レル傾斜面ヲ作成シ其ノ面ノ接キ目ニ角肩狀ノ凸出ヲ有セシメ尖端ニ近キ兩脚ノ外側ニハ切缺ヲ作レルモノニシテ此釘ヲ枕木中ニ打込ムトキハ前記ノ兩脚ノ内側ノ傾斜ノ爲メニ兩脚ハ互ニ相開離シテ木身ニ進入シ角肩狀ノ凸出アルモノハ其レカ爲メニ容易ニ拔出スルコトナク又外側ノ切缺ハ脚部ノ相開離スル様ニ木身ニ進入スルコトヲ助成スルノ考案ニ成ルモノナリ然ルニ釘身ヲ兩脚ニ分チ之ヲ木材ニ打込ムニ當リ其兩脚ヲ離開セシメ容易ク緩ミヲ生スルヲ防クノ考案ハ本願出願前即明治三十二年三月帝國内ニ頒布セラレタル英國特許第一八七四號明細書記事(一八九七年)ト全ク均等ニシテ兩脚ノ内側ニ角肩ヲ付シ木材ヨリ容易ク抜ケサル様ニ爲シタル考案ノ如キハ普通ニ使用スル釘身ニ凹凸ノ段ヲ作レルモノヨリ容易ニ推知シ得ヘキ事ナリ又兩脚ノ外側尖端ニ近キ所ニ切缺ヲ設ケタル爲メ兩脚ノ離開スルヲ助成スルニ特殊ノ效果アリト認ムル能ハス故ニ審査官カ本願ハ特許法第一條ニ該當セスト査定シタルハ不當ニアラス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年五月十六日於特許局

審判長

特許局技師工學博士男爵

斯波忠三郎

特許局事務官

織田了

特許局技師

増島文次郎

第百八十六號

東京市本郷區森川町一番地

請求人

田中力太郎

右第五四六五〇號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 抗告審判請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ明治四十三年十二月二十二日付願書番號第五四六五〇號田中式萬歲備錠特許願拒絕再査定ハ不服ニ付審判ノ上特許スヘシト審決相成度其理由ハ審査官ハ本願ヲ以テ英國特許第一四五八七號(西曆一千九百三年)ト均等ニシテ已ニ公知ニ屬スルヲ以テ特許法第一條ニ該當セスト云フト雖モ備錠ノ如キハ構造ノ簡單ナルモノニシテ其上ニ改良加工ノ餘地ナキカ如ク思考サル、モノヲ尙一層簡單ニ又堅固ニ作成シタルハ新規ノ發明ナリト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決相成度其理由ハ本願ハ一九〇三年英國特許第一四五八七號備錠ト要部ノ構成ハ全然均等ナルヲ以テ特許法第四條第一號ニ該當シ特許ヲ與フヘキモノニアラスト云フニアリ

審決ノ理由 抗告審判請求人ノ出願ニ係ル願書第五四六五〇號田中式萬歲備錠特許願ハ普通ノ備錠大ノ板金ニ長方形ノ大小二孔ヲ穿テ其兩孔間ニ殘レル部分ヲ折曲シテ「」狀トナシ下方ノ大ナル孔ノ下端ニアル横線ニ革帶ノ一端ヲ縫ヒ付ケ而シテ上方ノ横ニ細長キ孔ヨリ革帶ノ他端ヲ通過セシメテ之ヲ折リ曲ケ革帶ヲシテ滑リ戻ラサラシメ以テ之ヲ止ムル考案ニ成ルモノナリ或ハ二箇ノ孔アル板金ヲ重合關着シ目狀ノ三箇ノ孔アル長方形ノ金具ヲ製作シ前記同様ノ方法ニヨリ革帶ヲ止ムルノ考案ニ成ルモノナリ然ルニ革帶ヲ止ムルニ普通ノ備錠ノ如ク革帶ニ孔ヲ穿テ針棒ヲ通シテ爲ス代リニ備錠ノ金具ト革帶トノ間ノ磨擦ニヨリ適宜ノ長サニ止ムルノ考案ハ本願出願前即チ明治四十年四月帝國内ニ頒布セラレタル一九〇三年英國特許第一四五八七號明細書ニ容易ニ應用スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ掲載セラレ該特許ノ備錠ヲ本願ト比較スルトキハ横線ノ形狀ニ於テ僅カノ差異アルノミニシテ全ク均等ト認ム

ルヲ至當トス從テ審査官カ本願ニ對シ特許法第四條第二號ニ依リ特許ヲ與フヘカラスト査定シタルハ不當ニアラス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年五月十六日於特許局

審判長 特許局技師工學博士男爵 斯波忠三郎
特許局事務官 織田了
特許局技師 増島文次郎

第三百三十一號

廣島縣蘆品郡新市町三十一番屋敷	請求人	高田嘉助
大阪市東區横堀二丁目七十一番屋敷特許辨理士	右代理人	江田邦太
香川縣綾歌郡阪出町三百九十四番地	被請求人	竹内惣八
香川縣綾歌郡阪出町三千六百四十四番地	被請求人	中山伊八
香川縣綾歌郡阪出町二百三十番戶	被請求人	前田長五郎
香川縣綾歌郡阪出町千二百五十六番地	被請求人	須崎安吉
香川縣綾歌郡阪出町二百六十四番戶	被請求人	津島宗吉
香川縣綾歌郡阪出町八十八番戶	被請求人	濱田六藏
香川縣綾歌郡宇多津町四百二十九番戶	被請求人	古川卯市
	被請求人	角谷淺次郎

香川縣綾歌郡宇多津町四百九十二番戸	被請求人	阿野 磯治
香川縣綾歌郡宇多津町二百九十番戸	被請求人	原 仙吉
香川縣綾歌郡宇多津町二百八十一番戸	被請求人	津谷 丈市
東京市京橋區彌左衛門町十五番地特許辨理士	右代理人	平岡 萬次郎
東京市京橋區采女町二十一番地特許辨理士	右代理人	石原 卯八
東京市京橋區采女町二十一番地特許辨理士	右代理人	飯田 治彦

右當事者間ノ第九〇二八號特許權利確認審判請求事件ニ付明治四十三年六月二十日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス
 申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀シ抗告審判被請求人ノ申立相立タス審判費用及抗告審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ原審決ハ單ニ構造上ノ差異ノ點ヲ比較セルニ止マリ特許第九〇二八號ガ發明ヲ構成セル要素ヲ閉却セルモノニシテ不當ナリ鑄込土ヲ格子形ト共ニ鑄造ノ際附着スルコトハ特許第六四〇八號ニ於テ保護セラル、發明ニシテ特許第九〇二八號發明ノ要旨ハ其以外ニ存ス即チ土ヲ附着スルコトノ厚薄ニヨリテ熱力ノ均一調和ヲ計ルノ點ニ在ルヤ論ヲ俟タス被請求人カ使用セル底裏面ニ格子形ヲ隆起セシメ中央ニ厚ク周圍ニ薄ク土ヲ附シタル製鹽釜ハ特許第九〇二八號ノ前記發明ノ要旨トスル所ト構造效果全ク一致セルモノナレハ其特許範圍ニ屬スルコト明ナリ假リニ原審ニ於ケル如ク材料及附着ノ場合ヲ異ニセルヲ以テ被請求人使用ノ釜ハ構成上別異ナリトスルモ本件特許發明ノ精神ヲ利用スルコトナクシテ構成シ得ヘキニアラス從テ本件

特許ニ觸ル、ヲ免レスト云フニ在リ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ抗告審判請求人申立相立タス抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ原審決ハ兩者ノ構造カ根本ニ於テ差異アル旨ヲ判示セルモノニシテ決シテ審判請求ノ要旨ヲ閉却セルモノニアラス蓋シテ特許第九〇二八號製鹽釜ハ釜鑄造ノ際自然的ニ附着スル鑄込土ヲ釜底ノ中央ニ於テ厚ク周圍ニ於テ薄ク存セシメテ成ル製鹽釜ニ付特許ヲ得タルモノニシテ釜底外面ヲ厚薄ニ被覆スル土ハ必ス鑄込土ニ限ルモノナルニ依リ被請求人ノ使用スル製鹽釜ノ如ク釜鑄造後釜裏ニ十字形ノ釘ヲ植付ケ之ニ鑄込土ト全然別種ノ土即チ白砂含有ノ粘土、木灰、食鹽、苦汁、糞寸砂ノ混合物ヲ水ニテ適度ニ練合シタルモノヲ塗着シテ成ル釜ハ其範圍ニ屬セルコト明ナリ且火力ノ及不及ニ應シ釜底裏ニ附着スル土ヲ厚薄ナラシムル如キハ普通ノ考案ニシテ決シテ獨立發明ヲ構成スルモノニアラス特許第九〇二八號ハ右ノ考案ヲ特許第六四〇八號ニ應用結合シタルカ爲メ始メテ發明ト認メラレタルナリ云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 本件係争ノ特許第九〇二八號製鹽釜ノ特許範圍トスル所ハ特許第六四〇八號型土鑄込方ヲ施セル製鹽釜ニ於テ中央ヲ厚ク凸起セシメ周圍ヲ薄ク被覆セシメタル製鹽釜ニ在テ存スルノミナラス特許第六四〇八號型土鑄込方ヲ施サ、ル釜ニ及ハサルハ其明細書ニ於テ特許第六四〇八號ノ利用ナル旨ヲ記載シ釜底ノ外面ニ鑄込土ヲナシタル凸凹ノ形狀ニ從ヒ中央ヘ土ヲ格子形ト共ニ厚ク附着云々ノ事實ヲ記載シ其特許請求範圍ニ於テ釜底外面ノ鑄込土云々ト記載シ而カモ明細書全部ヲ通シテ毫モ鑄込土ヲ用ヒサル釜ニ付テ記載スル所ナキニ徴スルモ明ナリ然ルニ被請求人ノ使用セル本件係争ノ製鹽釜ハ鑄込土ヲ使用セサル製鹽釜ニ於テ釜底裏面ノ中央部ニ十字形ノ鐵ヲ取付ケ格子形ヲ隆起セシメ該部ニ土ヲ附着シ周圍ハ薄ク作り且土ヲ附着セサルモノナルカ故ニ特許第九〇二八號ノ範圍ニ屬スルモ

ノニアラス故ニ原審決ニ説明セル所亦不當ニアラス仍テ主文ノ如ク審決ス
明治四十四年五月二十二日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 阪田 貞一
特許局技師 湯淺 藤市郎
特許局事務官 村上 隆吉

第一百六十號

兵庫縣出石郡神美村字倉見八番地

京都市上京區高辻倉二條上ル天守町十五番戶特許辦理士

請求人 石田 岩藏
右代理人 淺村 三郎

右第五〇五二一號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 原査定ヲ破毀ス第五〇五二一號特許願眞綿製造法ハ特許スヘキモノトス

申立ノ要領 請求人申立ノ要領ハ特許願第五〇五二一號眞綿製造法ニ對スル再審査拒絕査定ハ不當ニ付

特許ヲ與フヘキモノナリトノ審決ヲ求ム其理由ハ在來製絲法ニ於テハ繭ヲ熱湯中ニ入レ煮沸シ其膠質ヲ溶解シ纖維ノ解舒スルヲ俟テ繰絲スルコトハ普通ニ知ラル、所ニシテ熱湯中ヨリ直チニ繰絲シ若クハ引上ケ冷却後繰絲スルコトアリ然ルニ何レモ製絲法トシテ纖維ヲ分別スルニ外ナラス本件眞綿製造法ハ例令ヒ膠質ヲ溶解スルモ繰絲即チ分別スルト異ナリ一度冷却シタルトキハ之ヲ引伸スコト普通ノモノヨリ稍容易ナルモ眞綿トシテ各纖維ノ密接度完全ナラス故ニ使用上ハ勿論廣キ眞綿ヲ製造スルコト至難ナリ從テ其製絲ニ於ケルト主趣ヲ異ニシ且手段ヲ異ニセルコト明瞭ナリ故ニ在來廣キ眞綿ヲ製

スルコトハ斯業者ノ至難トスル所ナリ然ルニ本願ハ熱湯中ニ於テ纖維ヲ解舒セシメツ、器具ヲ以テ漸次ニ引伸ハシタルモノニシテ纖維ノ切斷ナカラシムルト一旦引伸シタル眞綿ハ其熱湯中ニ存在スル膠質ヲ含ミタルマ、稍元ノ如ク各纖維ノ密接度ヲ全カラシメ使用後吐出又ハ切斷ノ患ナカラシメ又如何ナル形狀及面積ノ眞綿ヲモ容易ニ製造シ得ラル、ヲ以テ新規ノ發明ナルコト言フ俟タヌ又在來ノ眞綿ハ單ニ引伸ハシタル小幅ノ眞綿若クハ袋綿ノ外ハ曾テ行ハレタルコトナク本件ノ如ク面積擴大ノ眞綿ノ製造又ハ販賣セラレタルコト毫モナシ云々ト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タストノ審決ヲ求ム其理由ハ繭ヲ熱湯中ニ入レ煮沸シ其膠質ヲ溶解シ其纖維ノ解舒スルヲ俟ツテ繰絲セシ直ニ之ヲ適當ノ器具ニテ挾ミ任意ノ形狀ニ引伸スコトハ本願出願前斯業ニ從事スルモノ、常ニ見聞スル所ナリ請求人ハ本願眞綿ハ其熱湯中膠質ヲ含マシメタルマ、元ノ如ク各纖維ノ密接度ヲ全カラシメタルモノナリト云フモ普通法ニ於テモ膠質ヲ溶解シ任意ノ形狀ニ引伸ハスカ故ニ各纖維ノ密接度完キノミナラス毫モ纖維ノ切斷スルコトナシ要スルニ本願ハ既知ノ事實ヨリ普通ノ考案ヲ以テ易々爲シ得ヘク而モ之カ爲メ何等特殊ノ效果ヲ生スルコトナシ云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 本件特許願第五〇五二一號眞綿製造法ハ煮沸セル繭ヲ適宜少シク引伸ハシタルモノ數枚ヲ重テ合セ之ヲ攝氏五十度以上ノ湯中ニ於テ適宜ノ夾具ニ依リ漸次ニ任意形狀ノ擴大ナル眞綿ニ引伸ハシタル眞綿製造法ナルコトハ其請求範圍ニ依リ明ナリ然ルニ審査官ハ繭ヲ熱湯中ニ煮沸シ其纖維ノ解舒スルヲ俟ツテ之ヲ適宜ノ器具ニテ挾ミ任意ノ形狀ニ引伸ハスコトハ本願出願前公然用キラル、所ナリト云フモ斯ル方法カ眞綿製造上本件出願前公然用キラル、ト云フ事實ハ之ヲ認ムルコト能ハス而シテ本件特許願ノ方法ニ依レハ熱湯中ニテ操業スルヲ以テ纖維ヲ切斷スルコトナク任意擴大ナル面積ノ

眞綿ヲ製造シ得ルノ效果ヲ奏ス斯ル效果ハ普通ノ方法ニ依リ之ヲ生スルコト能ハサルモノト云フヘク要スルニ本件特許願ノ發明ハ新規ニシテ特許法第一條ニ該當スヘキモノト認ムルヲ以テ之ニ對シ審査官カ拒絕査定ヲナシタルハ不當ナリ仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年五月二十三日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 大竹 多氣
特許局事務官 織田 了
特許局技師 増島 文次郎

第百八十七號

新潟縣中頸城郡下黒川村大字上直海四十九番戸

請求人 酒井 健次郎

右第五三五〇三號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ明治四十三年十二月二十六日付願書番號第五三五〇三號摺摺器特許願拒絕再査定ハ不服ニ付審判ノ上特許ヲ與フヘシト審決相成度其理由ハ審査官ハ本願ノ如ク「ロール」ト摺板ト相俟テ作用スヘク爲シ且其摺板ヲ螺旋ニ依リテ動シ「ロール」トノ間隙ヲ調節シ得ル摺摺曰ハ本願出願前已ニ公知ニ屬シ特許法第一條ニ該當セスト云フト雖モ或ル一部ノ公知ニ屬スルモノニ他品ヲ合シ相俟テ妙技ヲ演スルモノナキニアラス本願摺摺曰「ロール」ハ公知ニ屬スト雖モ榎木製ノ摺板ト相接シテ發起スルノ妙技ニ至ツテハ之ヲ輕視スヘキモノニアラス又本願ノ螺旋裝置摺板ノ

普通ニシテ又簡單ナル所以ハ製作費ヲ低廉ナラシムルニアリテ一般ノ貧弱ナル農民ヲシテ使用シ得ルノ便ニ供シタルナリ而シテ從來一般ニ特許ヲ得タルモノ、中ニモ公知ノモノニ一少部ノ改善ヲ加ヘテ成立シタルモノアルハ信シテ疑ハサル所ニシテ本願ノ如キモ已ニ公知ノモノニ他品ヲ加ヘ未發ノ妙技ヲ發起シ加之簡單輕易ナル所ハ新規ノ發明ニシテ特許ヲ與フヘシト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決相成度其理由ハ本願ノ如ク「ロール」ト摺板ト相俟テ作用スヘクナシタル摺摺曰ハ本願出願前已ニ特許第一二七九號ニ於テ見ル所ナルヲ以テ特許法第一條ニ該當セスト云フニ在リ

審決ノ理由 抗告審判請求人ノ出願ニ係ル願書第五三五〇三號特許願ハ人力ニテ齒車裝置ニヨリ廻轉シ得ル鋼製ノ「ロール」ト其面ニ相應スル摺面ヲ有スル榎木製ノ摺板トノ間隙ニ上部ノ漏斗ヨリ墜下スル糢ヲ注入シ「ロール」ノ廻轉ニヨリ摺板トノ間ニ於テ糢ヲ摺擦シテ糢皮ヲ摩シ去リ而シテ「ロール」ト摺板トノ間隙ヲ摺板ニ裝置セル螺旋ニヨリテ調節シ得ル考案ニ成ルモノナリ然ルニ此考案ハ特許第一二七九號ト全ク均等ニシテ請求人ハ鋼製ノ「ロール」ト榎木ノ摺板ヲ使用セルニヨリ特殊ノ效果ヲ生スルカ如クニ主張スルモ糢ヲ摺擦スルニ足ル堅硬ナル材料ヲ用ユレハ可ナルヲ以テ榎ヲ使用スルモ適宜材料ノ撰擇ニ止マリ何等新規ノ效果ヲ奏スルモノト認ムルコト能ハス而シテ螺旋ヲ以テ間隙ヲ調節スルノ考案ノ如キハ極メテ普通ニシテ新規ノ考案ニアラス故ニ本件特許第五三五〇三號ハ其特許出願前容易ニ應用スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ帝國内ニ頒布セラレタル前記行刊物ニ記載セラル、ヲ以テ特許法第四條第二號ニ該當シ同法第一條ニ該當セス從テ審査官カ本件ニ對シ拒絕査定ヲナシタルハ不當ニアラス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年五月三十一日於特許局

審判長 特許局技師工學博士男爵 斯波忠三郎
特許局事務官 織田了
特許局技師 增島文次郎

第二百三號

新潟縣中頸城郡柿崎村大字上下濱第六番戸

請求人 佐藤 與作

右第五六一三五號特許願拒絶再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ明治四十四年二月二十一日付願書番號第五六一三五號船進器

特許願拒絶再査定ハ不服ニ付審判ノ上特許スヘシトシテ審決ヲ求ム其理由ハ本願ノ主眼トスル所ハ齒輪

嚙合ヲ以テ船ヲ進退シ又此車輪ヲ以テ船ノ方向ヲ廻轉セシメモ齒輪ヲ用キスシテ克ク風力ニ耐ヘ進

度ノ速カナルコト及經費ノ低廉ナルコト等ハ從來船楫ヲ用キテ進退操舵スル船ノ比ニアラス然ルニ之

ヲ毫モ新規ナル發明ニアラストシテ拒絶再査定ヲ爲シタルハ不當ナリト云フニ在リ

審判官答辯ノ要領ハ本件特許明細書ニ記載シタル構造ハ踏車ト齒輪聯動裝置ト外車輪(水掻車)ヲ有ス

ル裝置及操舵裝置等ニシテ其等ノ各部分ハ從來普通ニ行ハレタルモノト均等ナルヲ以テ新規ノ考案

ト認ムルヲ得ス而シテ此等新規ナラサル部分ヲ結合スルモ何等特殊ノ效果ヲ奏セス單ニ普通ノモノ

ヲ湊合シタルニ過キササルヲ以テ特許法第一條ニ該當セストシテ拒絶シタルハ不當ニアラスト云フニ在

リ

審決ノ理由

抗告審判請求人ノ出願ニ係ル願書第五六一三五號特許願船進器ハ船内ニ橫架セル一ノ廻轉

軸ヲ該軸ニ輻射狀ニ固定セル踏ミ板ニ人夫ノ踏ム力ヲ與ヘテ廻轉セシメ其運動ヲ該軸ニ固着セル齒車

ニヨリテ船ノ兩側ニ裝置セル水掻車ノ軸ニ固定シアル齒車ニ傳ヘ以テ水掻車ヲ動シ船ヲ前進セシムル

ノ考案及ヒ操舵ノ方法トシテ舵ヨリ取レル繩ヲ一ノ直立セル軸身ニ卷キ付ケ該軸ヲ把手ニヨリ廻轉シ

テ舵ヲ左右ニ動シ以テ船ヲ操縦スルノ考案トヨリ成ルモノナリ然ルニ船ヲ進行セシムルノ手段トシテ

水掻車ヲ用キ一ノ軸ヨリ動力ヲ他ノ軸ニ傳アルニ齒車裝置ニ依リ及ヒ軸ヲ廻轉スルカ爲メニ輻射狀ニ

固着セル踏ミ板ヲ交々踏ミ下シテ廻轉動ヲ爲サシムルカ如キハ極メテ普通ニ行ハル、所ナリ而シテ此

等ノ普通ノ裝置ヲ綜合シテ成レル本願船進器ハ其綜合ニヨリ何等特殊ノ效果ヲ奏スルモノト認ムルコ

ト能ハサルノミナラス齒車裝置等ヲ使用スルト水掻車ヲ直接人力ニテ運轉スルモノヲ比スレハ其中間

ノ裝置ノ爲メニ動力ニ幾分ノ損失アルハ免レサル所ナリ故ニ本願ハ新規ノ考案ト云フヘカラス從テ何

等發明ヲ構成セサルモノト認ムルヲ以テ特許法第一條ニ該當セス之ニ對シ審判官カ特許ヲ與フヘカラ

スト査定シタルハ不當ニアラス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年五月三十一日於特許局

審判長 特許局技師工學博士男爵 斯波忠三郎
特許局技師 增島文次郎
特許局事務官 田中鐵二郎

第二百五號

英國エセックス郡ハックハースト、ヒル、シルバード、
レサーチ、ラゴレトリース

請求人

オスワルド、シルバ
ード

東京市麴町區八重洲町一丁目一番地特許辦理士

右代理人

ウォルター、オーガス
タス、デ、ハピランド

右第五二一三四號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ本件特許願第五二一三四號革ノ仕上法ニ對スル明治四十四年
二月十四日附拒絕再査定ハ不當ナリトノ審決ヲ求ム其理由ハ本願ノ革ノ仕上ケ法ト一九〇三年英國特
許第七四九二號ノ方法トハ全然其要點ヲ異ニスルモノトス先ツ第一ニ本願ノ方法ニ於テハ護謨液ヲ飽
和スルニ先チ革ノ内ニ存在セル脂肪ヲ完全ニ除去スルヲ必要トス脂肪カ革ヨリ完全ニ抽出セラル、ニ
アラサレハ護謨ヲ革ニ飽和セシムルコト不可能ナルト共ニ又護謨ト脂肪トカ革内ニ存在スルトキハ革
ハ到底腐敗セサルコト不可能ナリ前記英國特許ノ方法ヲ實驗シタルニ脂肪ノ全部ヲ除去スルコト不可
能ナルコトヲ發見セリ本願ノ方法ニ於テハ革ヨリ脂肪ヲ完全ニ除去センカ爲メニ新ラシキ脂肪溶解劑ヲ
シテ絶間ナク流通セシメ以テ護謨ヲシテ該處理後革ノ全厚ニ浸入スルコトヲ得セシム而シテ英國特許
ノ方法ニ於テハ脂肪溶解劑ノ代謝ニ關シテ何等云フ處ナキカ故ニ脂肪ヲ完全ニ除去スル困難ヲ實現セサ
ルモノト云フヘシ又兩方法ヲ對比スルニ英國特許ノ方法ニ於テハ護謨ハ革ノ表面ニ止マリ本願ノ方法
ニテハ革ノ厚サノ中央點ト雖脂肪含有量ハ殆ント表面ニ於ケルモノト同様ナルコトヲ發見セリ加之脂
肪カニ於テハ尙殘留シ他ノ一ニ於テハ全部除去セラル、カ爲メ一ハ腐敗シ易ク他ハ腐敗セスシテ著

シク使用期限ヲ延長ス又本願ノ方法ニ從テ製出セラレタル革ハ靴又ハ調革等トシテ各種ノ目的ニ使用
セラレ完全ナル成效ヲ以テ市場ニ認識セラレタル者ナリ要スルニ本願ノ新規ナル點ハ滲通ニ依テ脂肪
ヲ完全ニ除去スルコト脂肪除去後脂肪溶解劑ヲ蒸發セシムルコトナリ之ニ護謨溶液ヲ浸入セシムルコト
ナリ若シ脂肪除去後溶解劑ヲ蒸發セシムルトキハ凝縮ヲ惹起シテ水分ヲ吸收セシム之革ニ最有害ナルモ
ノナリ云々ト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タストノ審決ヲ求ム其理由ハ請求人ハ一九〇三年英國特許第七四
九二號ノ方法ハ本願ノ如ク脂肪分ノ除去完カラス從テ護謨ノ滲透不充分ナルカ如ク云フモ前記英國特
許ニ於テハ普通脂肪等ノ溶解劑トシテ知ラレタル「ナフサ」「ベンゼン」等ニテ革ヲ處理スルカ故ニ完全
ニ其脂肪分等ハ抽出除去セラレ十分ニ護謨ヲ滲透飽和セシムルコト當然ナリ又該特許ニ於テハ餘分ノ
處理液ヲ除去スル爲メ單ニ之ヲ滴下若クハ蒸發スルニ過キサルカ故ニ請求人カ云フカ如キ結果ヲ生セ
ス要スルニ本願ハ同一目的ニ對スル前記既知ノ方法ト殆ント同一ニシテ發明トスルノ價值ヲ有セサル
ヲ以テ拒絕査定ヲナシタルハ不當ニアラスト云フニ在リ

審決ノ理由 本件特許願第五二一三四號革ノ仕上ケ法ハ「ナフサ」若クハ二硫化炭素等ノ如キ溶解劑ニテ革
ヲ處理シ其含有スル脂肪質油質蠟質等ヲ抽出シテ完全ニ之ヲ除去シ次ニ「ナフサ」或ハ他ノ液ヲ溶解劑ト
セル護謨溶液ニテ處理シ以テ革ニ護謨ヲ浸透セシムル方法ナリ而シテ審査官援用ノ一九〇三年英國特
許第七四九二號ハ其明細書ニ依レハ革ヲ「ベンジン」「ベンゾル」「ナフサ」及「ケロシン」ノ混合液中ニ浸
シ次ニ之ヲ取り出シ革面ニ附着セル餘分ノ液ヲ去リタル後護謨液中ニ浸シテ護謨ヲ革ニ浸透セシムル
方法ナリ故ニ此ノ二者ヲ對比スルニ革ヲ最初溶解劑中ニ浸シ脂肪質等可溶性物質ヲ去リ護謨ノ浸透ヲ促
進スル豫備工程ヲ施シ次ニ之ニ護謨液ヲ吸收セシムルコトハ共ニ同一考案ニ基クモノナリト云ハサル

ヘカラス然ルニ請求人ハ本件特許願ト前記英國特許トハ革カ護謄ヲ吸收スル量ニ於テ差アリト主張スルモ吸收量ノ多少ハ單ニ程度ノ相違ニ過キスシテ而モ斯ル結果ハ前記英國特許ノ方法ニ依リ當業者ノ容易ニ推考シ得ヘキモノト認ムルニ足ルヲ以テ此ノ差アルカ爲メ本件特許願ヲ別個ノ方法ナリト云フコトヲ得ス要スルニ本件特許願ハ其特許出願前即明治三十九年五月十七日帝國内ニ頒布セラレタル九〇三年英國特許第七四九二號明細書ニ容易ニ應用スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ記載セラル、ヲ以テ特許法第四條第二號ニ該當シ新規ノ發明ヲ構成セサルモノトス之ニ對シテ審査官カ拒絕査定ヲナシタルハ不當ニアラス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年六月一日於特許局

審判長 特許局技師藥學博士 田原良純
特許局技師 増島文次郎
特許局事務官 田中鐵二郎

第二百號

京都市下京區堀川通四條南入四條堀川町二十七番戶 請求人 林田雄良
船本縣天草郡本渡町千二百二十一番地 請求人 規矩長三

右第五四八六二號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 抗告審判請求人申立相立タス
申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ明治四十四年二月八日附拒絕再査定ハ不服ニ付特許スヘシト

ノ審決ヲ求ム其理由ハ審査官採用ノ特許第一六四四三號ノ請求範圍ハ本願ノ方法ヲモ含有スルカ如キ廣キモノニアラスト解釋セサルヲ得何ントナレハ硫化染料ニ水飴ト苛性曹達ト硫化曹達ヲ加ヘタル染料ニテ木綿ヲ煮沸スルコトハ特許第一六四四三號ノ出願前公知公用ナリ故ニ該特許ハ其明細書ニ記載スル如ク染浴ヲ沸騰セシテ攝氏三十五度内外ニ保チ四十時間許放置シテ染浴ヲ作ル點ニ於テ發明アリタルモノト信ス又改訂特許第一六四四三號ハ本願方法ト同様ニ硫化曹達ヲ使用セザレトモ改訂ナルモノハ原特許ノ精神ヲ變スルコト能ハサルモノナルカ故ニ是又染浴ノ溫度ハ攝氏三十五度内外トシ數十時間放置シテ染浴ヲ作ル點ニ於テ發明アリタルモノナリ然ルニ本願ハ硫化染料ヲ苛性曹達ト水飴ト共ニ煮沸シ直ニ染浴ヲ作り得ルカ故ニ特許第一六四四三號ノ如ク染浴ヲ作ルニ長時間ヲ要セスシテ多大ノ便益ヲ生スル一段進歩セル方法ナリ又改訂特許第一六四四三號ノ範圍カ溫度ノ如何ニ係ラサルモノトセハ其改訂ハ不都合ナルモノニシテ又本願ノ方法トモ均等トナル然ルニ其改訂ノ出願ハ本願完成ノ日附後ナルヲ以テ本願ト牴觸スルコトトナルヘシ要スルニ本願方法ハ染浴ヲ攝氏八十度以上トナスノ點ニ於テ新規ナリ云々ト云フニ在リ
審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タストノ審決ヲ求ム其理由ハ硫化染料ヲ苛性曹達水飴少量ノ硫化曹達及水ノ熱液ニテ溶解セシムルコトハ本願出願前特許第一六四四三號ニヨリ公知ニ屬ス而シテ硫化「アルカリ」ハ硫化染料ニ對シテ苛性曹達及水飴ト均等作用ヲナスコトハ之又世人ノ熟知スル所ナリ故ニ本願ニ於テ硫化「アルカリ」ヲ使用セサルコトハ既知ノ事項ヨリ當業者ノ容易ニ爲シ得ヘキ事ナリ又染液ヲ攝氏八十度以上ニ熱スルコトモ染色法ニ於テ普通公知ナルヲ以テ任意ノ考案タルニ過キス要スルニ本願ハ既知ノ事項ヨリ容易ニ遂行シ得ヘキヲ以テ發明ヲ構成セスト云フニ在リ
審決ノ理由 本件特許願第五四八六二號硫化染料染色法ハ硫化染料ヲ水飴又ハ葡萄糖及苛性曹達ト共ニ

熱湯中ニ煮沸シテ溶解シ攝氏八十度以上ノ染浴中ニ纖維類ノ製品ヲ操作シテ染色スル方法ナリ又特許第一六四四三號ノ發明ハ其改訂明細書ニ依レハ硫化染料ニ硫化「アルカリ」ヲ加ヘ又ハ加ヘスシテ之ニ苛性曹達又ハ炭酸「アルカリ」ト水飴又ハ葡萄糖トヲ加ヘテ染浴ヲ作ル方法ナリ此ノ二者ヲ對比スル硫化染料ヲ苛性曹達ト水飴又ハ葡萄糖トヲ加ヘテ染浴ヲ作ル考案ハ共ニ同一ナリ然ルニ請求人ハ本件特許願ニ於テハ染浴ヲ攝氏八十度以上トナス點ニ於テ新規ナリト主張スルモ温度ノ増加ハ化學變化ヲ助成スル作用ヲナスモノナルヲ以テ本件特許願ニ於テ高温度ヲ使用スルカ如キハ單ニ染浴ノ化學變化ヲ促進スルニ過キスシテ而モ斯ル手段ハ必要ニ應シ染色當業者ノ日常施行スル所ナリ又請求人ハ改訂特許第一六四四三號ノ範圍カ温度ノ如何ニ係ラサルモノトナサハ其改訂ハ不都合ナルモノナルノミナラス其改訂ノ出願ハ本件特許願發明ノ完成後ナルヲ以テ二者相抵觸スルモノナリト主張スルモ特許權改訂ノ許可ノ當否ハ本件審判ニ於テ之ヲ爭フコトヲ得ヘキモノニアラサルノミナラス改訂許可ノ有效ニ存在スル間ハ其特許權ハ特許法第四十二條第三項ニ徴シ改訂ノ前後ニ於テ範圍ヲ異ニスルコトナシト認メサルヘカラス而シテ前記特許第一六四四三號ハ明治四十二年三月五日ノ出願ニ係リ其發明完成ハ同四十一年二月十日ニシテ本件特許願ハ明治四十三年五月十一日ノ出願ニ係リ其發明完成ハ同四十一年八月一日ナリ故ニ本件特許願ハ出願ノ年月日ニ於テモ發明完成年月日ニ於テモ第一六四四三號發明ノ後ナルヲ以テ特許第一六四四三號ノ發明ト同一ナル本願發明ハ特許ヲ受クルコトヲ得サルモノナルコト特許法第九條ノ規定ニ依リ明ナリ從テ第一六四四三號特許權改訂ノ出願カ本件特許願發明ノ完成ノ後ナルト否トノ如キハ本件ニ何等ノ關係ヲ有スヘキモノニアラス故ニ之ニ對シ審査官カ拒絕査定ヲ爲シタルハ不當ニアラス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年六月八日於特許局

審判長 特許局技師藥學博士 田原良純
 特許局技師 增島文次郎
 特許局事務官 田中鐵二郎

第二百二號

京都市下京區大和大道通四條下ノ四丁目百十六番地 請求人 杉澤九一郎
 京都市下京區油小路通四條上ノ藤本町二十三番戶 請求人 永井新之助
 京都市下京區油小路六角下ノ六角油小路町三十番戶 請求人 村田源助
 京都市上京區高倉通二條上ノ天守十五番戶特許辨理士 右代理人 淺村三郎

右第五四三〇九號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原査定ヲ破毀ス特許願第五四三〇九號煮染糊特許願ハ登録スヘキモノトノ審決ヲ求ム其理由ハ本願發明ニ於テ特許法ノ保護ヲ受ケントスル處ハ明細書ニ記述シタルカ如シ而シテ從來公知ニ屬シタル糊ニ於テ糯米粉鹽水ヲ使用シ且蛋白質ヲ混用シタルコトアルハ請求人ノ熟知スル所ナリ然レトモ此ノ如キ公知ノ糊ニ在リテハ高度ノ煮染ニ堪ヘサルモノニシテ染色同業者間ニ於テ遺憾トセル所ナリ本願煮染糊ニ於テハ此等ノ缺點ヲ補ヒ十分ニ高度ノ煮染ニ堪ヘシムルハ勿論生地ヲ變セシメスシテ染液ノ浸潤スルコトナク模様ヲ鮮明ニ發揮セシメ且光澤ヲシテ一層顯然タシムルノ效果ヲ呈スルモノニシテ之レ特ニ結晶蛋白ヲ他ノ公知ノ資料ト共ニ混用シタルノ點ニ存ス

ルモノナリ而シテ結晶蛋白ハ從來公知ノ糊ニ於テハ未タ使用セラレサル處ニシテ全ク本願ニ於テ初メテ使用シタルモノナリ即本願ハ公知ノ資料ト未タ糊トシテ使用セラレサル結晶蛋白トヲ混用シ以テ新ナル效果ヲ奏スルモノニシテ既知ノ事項ヨリ容易ニ爲シ得ヘシト云フヘカラス云々ト云フニ在リテ甲第一號證ヲ提出セリ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タストノ審決ヲ求ム其理由ハ染色用糊ヲ製スルニ糯米粉鹽ヲ適宜混用スルコト又蛋白ヲ糯米粉等ノ糊料ニ混合シテ高度ノ煮染ニ堪ヘ能ク防染ノ效ヲ完フセシムルコトハ本願出前人ノ知ル所ナリ請求人ハ其使用セル結晶蛋白ニ付テ云々スルモ之レ普通公用スル蛋白ノ均等物ナルカ故ニ本願ニ於テ之ヲ混用スルコトハ當業者容易ノ考案タルニ過キスサレハ本願ハ既知ノ事實ヨリ發明思考ヲ費サスシテ易々爲シ得ヘク何等新規ノ特效ヲ奏セス之ニ對シテ拒絕査定ヲナシタルハ不當ニアラスト云フニ在リ

審決ノ理由 本件第五四三〇九號特許願煮染糊ハ糯米粉鹽及水ヲ混合攪拌シツ、充分煮熟シ冷マシタル後結晶蛋白ノ粉末ヲ加ヘテ製スルモノナルコトハ其明細書ニ依リ明ナリ而シテ請求人ハ本件特許願ニ於テ結晶蛋白ヲ使用スル點ヲ以テ新規ナリト主張スルモ請求人ノ謂ヘル結晶蛋白ハ其答申ニ依レハ血製蛋白又ハ卵白ニ外ナラス然ルニ此等資料カ普通ニ型糊ニ混用セラレテ其效果ヲ奏スルモノナルコトハ本件特許出願前公知ラレタル所ニシテ又請求人カ云フ所ニ依ルモ糯米粉ト鹽水ニ蛋白質ヲ混用シタル型糊ハ本件特許出願前公然知ラレタルモノナリ從テ本件特許願ニ於テ請求人ノ所謂結晶蛋白ヲ糯米粉及鹽トヲ水ニテ混合シテ使用スルカ如キハ其特許出願前公然知ラレタル型糊中ニ適宜資料ヲ取捨撰擇シタルニ過キサルモノト認ムルヲ以テ本件特許願ハ特許法第四條第一號ニ該當シ新規ノ發明ヲ構成セス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年六月十日於特許局

審判長 特許局技師藥學博士 田原良純
特許局技師 増島文次郎
特許局事務官 田中鐵二郎

第百八十八號

東京市日本橋區本町二丁目十五番地

請求人 石川合名會社

右代表者

龜澤半次郎

東京市京橋區木挽町二丁目十三番地特許辦理士

右代理人 羽田彦四郎

大阪市東區釣鐘町二丁目三十五番地

被請求人 岡本豐吉

大阪市東區淡路町一丁目二十四番地特許辦理士

右代理人 佐々木高吉

右當事者間ノ第九四四五號特許無效審判請求事件ニ付明治四十三年十二月二十六日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破棄シ第九四四五號「ラカチン」製造法ノ特許ハ無效トストノ審決ヲ求ム其理由ハ特許ナルモノハ特許法第一條ニ規定セル如ク新規ナル工業的發明ナラザ

ルヘカラス左スレハ名稱其モノカ特定セラルヘキモノニアラスシテ發明品其物カ必ラスヤ工業的新規
 ノモノタルヤ論ヲ俟タサル所ナリ例セハ「手桶」ノ如キハ公知公用ノ物品タリ然ルヲ今手桶製造方法ト
 シテ特許ヲ出願シタルモノアリトシ之ニ特許ヲ與ヘタリシトセンカ特許法ナルモノハ徒法タルニ過キ
 ス本件ニ於テ「ラカチン」トハ手桶ト云フト同シク一ノ名稱ニ過キス而シテ手桶カ水ヲ容ル、物體ナル
 カ如ク「ラカチン」ハ印刷用具タルノミ左スレハ手桶カ如何ナル方法ニ依リ如何ナル物ニ依リ作ラレタ
 ルカ又如何ナル效用ヲ爲スモノナルカハ手桶其物ニ依リ判明セラルルカ如ク「ラカチン」ナルモノカ如
 何ナル物體ノ配合ニ依リ作爲セラレ又如何ナル效用ヲナスモノナルカハ「ラカチン」其物ノ名稱ヲ明カ
 ニ表明スヘキモノタリ是レ我特許法ハ公知公用ノモノニ對シ特許ヲ與ヘサル規定アル所以ナリト信ス
 原審決ハ此ノ理由ヲ無視シタル失當アリ又抗告人カ主張スル「ラカチン」ハ米國ニ於テ特許セラル、所
 ノモノナリ左スレハ其製造方法カ同一ナルヤ否ヤハ之ヲ審究シテ特許スヘキヤ否ヤヲ定ムヘキナリ本
 特許ハ此ノ點ニ於テモ不法アルヲ免レス本件ノ如キ甲第六號ノ如ク外國ヨリ輸入シテ之ヲ販賣シツ、
 アルモノニ對シ被抗告人ハ特許侵害ナリトシテ告訴シ且損害要償ヲ爲ス等不法ノ要求ヲ敢テスルカ如
 キ結果ヲ生シ非常ノ弊害ヲ醸スニ至ルヘシ是レ全ク我特許法ノ規定ト締盟條約トヲ無視シタル結果ナ
 リトス云々ト云フニ在リ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タヌ審判及抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決
 ヲ求ム其理由ハ被請求人ノ有スル第九四四五號改訂特許「ラカチン」製造法ハ乾燥油ト脂油トノ合劑ニ
 苦土ト水トヲ練合シテ「ラカチン」ヲ製造スル方法ノ發明ニシテ「ラカンチン」ナル物品其モノ、發明ニ
 アラス故ニ「ラカチン」ナル物品カ其特許出願前公然用キラレ公然知ラレタリトモ其發明ナリトスル製
 造方法カ特許法第四條ニ該當セサルヲ以テ之レヲ新規ナル發明ナリトナスハ當然ニシテ原審決ハ至當

ノ審決ナリ請求人ハ發明ニ於ケル物品ト方法トノ別アルヲ辨セスシテ之ヲ混同シ縷述スル所アルモ採
 ルニ足ラス云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 本件特許第九四四五號「ラカチン」製造法ハ乾燥油ニ蠟ヲ融合シ之ニ炭酸麻痺涅失亞ト水ヲ
 加ヘ練合シテ得ル方法ナルコトハ其請求範圍ニ依リ明ナリ而シテ請求人カ販賣セル「ラカチン」カ本件
 特許ト同一方法ニ依リ製造セラレタルヤ否ヤ全然之ヲ知ルコト能ハス從テ其物品カ假リニ本件特許ノ
 方法ニ依リ製造シタルモノト同一效果ヲ奏スルモノトスルモ同一成分ヨリ成ル物品ナルヤ否ヤ之ヲ斷
 定スルコト能ハス故ニ請求人カ販賣セル物品カ假リニ本件特許出願前公然知ラレ公然用キラレタリト
 スルモ本件特許ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及ホスヘキモノニアラス從テ本件特許ハ無効トナスヘキモノニ
 アラス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年六月十三日於特許局

審判長 特許局技師藥學博士 池 口 慶 三
 特許局事務官 織 田 了
 特許局技師 增 島 文 次 郎

第九十九號

廣島縣廣品郡新市町三十番地
 大阪市東區橫堀二丁目七十一番屋敷特許辨理士

請 求 人 高 田 嘉 助
 右代理人 江 田 邦 太

右第五五二五三號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ特許願第五五二五三號製鹽釜塗々料ニ對スル明治四十四年二月二十七日附再査定拒絶査定ハ之ヲ破毀シ更ニ特許スヘシトノ審決ヲ求ム其理由ハ原査定ノ理由トスル所ハ「粘土ニ糞ヲ混シタル裏塗々料カ普通ニ知ラル、カ故ニ之ノ事實ニヨリ容易ニ推考シ得ヘシ」ト云フニアルモ本願發明ノ要旨ト拒絶ノ理由タル例證トハ其考案、目的資料及效果全然異ナルモノナリ糞ハ唯軟キ粘土ノ脱落ヲ防ク爲メノ連鎖タルニ過キス又粘土ヲ釜裏塗ニ使用シタル例證アリトスルモ粘土ト火山灰トハ性質上多大ノ差異アルモノナリ火山灰ハ粘土ニ比シテ輕ク且ツ自カラ凝固スル性ヲ有ス然レトモ其凝固スル迄ハ接着料ノ力ヲ供フルニアラサレハ釜ノ裏面ニ附着セス而モ其接着料タルヤ有機物ヨリナルヲ以テ火山灰カ凝固スル比ハ火勢ニヨリ炭化サレ多孔質トナル故ニ壁土ニ糞ヲ混用スル場合トハ目的效果ヲ異ニス云々ト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タストノ審決ヲ求ム其理由ハ本願ノ如ク凝固性アル硅酸質物等ノ混合物ニ火熱ニヨリ多孔質トナル有機物ヲ練合シタル塗料ヲ製鹽釜ニ塗布シ多孔質裏塗層ヲ生成セシムルコトハ特許第六三六六號明細書及從來使用サル、製鹽釜用塗料ニヨリ本願出願前新業ニ從事スルモノ、熟知スル所ナリ而シテ本願ハ前記既知ノ事項ヨリ容易ニ爲シ得ヘキモノトス然ルニ請求人ハ蒞弱等ノ接着料ニ付強辯スルモ斯ル有機物ハ火山灰等ノ凝固性ヲ減殺シ其效果ヲ微弱ナラシムル外特效ナシ云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 本件特許願第五五二五三號製鹽釜裏塗々料ハ其明細書ニ依レハ火山灰ニ「セメント」又ハ硬化ニ必要ナル資斜ヲ加ヘ蒞弱粉膠質蛋白質澱粉質等有機物ノ接着料ニ水ヲ混和シ練合シテ成ル製鹽釜裏塗々料ナリ又審査官採用ノ特許第六三六六號ハ白砂ヲ含ム粘土、食鹽、苦汁、木灰、葉寸沙若クハ

此等ノ類似物ヲ水ニテ練合シテ成ル塗料ヲ使用スルモノナリ故ニ此二種ノ塗料ハ各其成分ヲ異ニスルヲ以テ特許第六三六六號ハ本件特許願ノ發明ニ對シ何等ノ影響ヲ及ホスヘキモノニアラス然レトモ一九〇二年英國特許第四二九八號ハ其明細書ニ依レハ「セメント」ヲ有機物タル接着劑「コールター」若クハ其均等物ト練合シ之ヲ爐ノ塗料トシテ使用スルモノナリ故ニ本件特許願ニ於テ火山灰ニ「セメント」ヲ混合シ之ニ有機物ヲ加ヘテ釜ノ塗料ニ使用スルカ如キハ本件出願前容易ニ應用スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ帝國内ニ頒布セラレタル前記英國特許明細書ニ記載セラル、モノナリ從テ本件特許願ハ特許法第四條第二號ニ該當シ新規ノ發明ヲ構成セス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年六月二十六日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 高山 甚太郎
特許局 技師 增島 文次郎
特許局 事務官 田中 鐵二郎

第二百一十一號

神奈川県中郡大磯町大字大磯九百九十九番地
東京市京橋區南鍋町一丁目四番地特許辦理士

請求人 野田 六左衛門
右代理人 原 田 敬 吾

右第五〇三七〇號特許願拒絶再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 抗告審判請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ願書番號第五〇三七〇號溜醬油釀造法特許願ニ對スル明治四

十四年二月十八日附ノ拒絕再査定ハ不服ニ付特許スヘシトノ審決ヲ求ム其理由ハ本件特許願ノ發明ハ特許第一二六四五號ノ精神ヲ溜醬油醸造ニ應用シ大豆ノ代リニ豆餅ヲ用キテ溜醬油ヲ醸造スル者ナルカ故ニ此ノ場合ハ特許法第二條ニ所謂特許發明ノ擴張ナリトス蓋シ原特許發明ノ領域ハ醬油醸造ニ限リタルヲ擴張シテ醬油トハ多少原料ヲ異ニスル溜醬油ノ醸造ヲモ領域中ニ加ヘントスレハナリ審査官ノ査定カ果シテ正鵠ヲ得タリヤ否ヤニ付テハ二箇ノ問題ヲ解決セハ足ル第一大豆粕ヲ用キテ醬油ヲ醸造スルコトハ本願前極メテ普通ニ行ハル、ヤ否ヤ第二溜ト醬油ト類似物ナルコトカ追加特許ノ許否ニ何等ノ關係ヲ有スルヤ第一大豆粕ヲ用キテ醬油ヲ醸造スルコトハ特許第一二六四五號ニ依リ請求人ノ專權ニ屬ス請求人ハ年來之レヲ實施セリト雖會テ他人ニ分權ヲナシ若クハ其使用ヲ認容シタルコトナシ故ニ若シ他人ニ於テ之ヲ實行セリトセハ特許權ノ侵害ナリ故ニ大豆粕ヲ麩トナシ醬油ノ醸造ニ使用スルコトハ本出願以前極メテ普通ニ行ハル、トハ全然無根ナリ第二溜醬油ト類似物ナルコトハ請求人ニ於テモ之ヲ認ム然レトモ全然同一物ニアラス同一物ニアラサル以上ハ假令甚タ類似ナリト雖甲ノ特許權ヲ以テ乙ヲ保護スルニ足ラス是レ追加特許ノ必要ヲ生スルナリ又發明者カ其發明ノ範圍ヲ擴張スル場合ニ於テ其擴張カ新規ナル以上ハ追加特許ヲ與フヘキモノニシテ發明ノ價值ハ已ニ原特許ノ附與ニ由テ決セラレ唯範圍ノ擴張カ新規ナルヤ否ヤノ問題ヲ殘スニ過キス而シテ擴張カ新規ナルヤ否ヤハ第四條ノ明文ニ牴觸セリヤ否ヤヲ以テ決スヘキナリ而シテ特許第一二六四五號ノ醬油醸造法ヲ溜醬油醸造ニ應用スルコトハ本願以前帝國內ニ於テ公然知ラレ又ハ公然用キラレタルコトナク又容易ニ應用スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ帝國內ニ頒布セラレタル刊行物ニ記載セラレタルモノナシ云々ト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ溜醬油ノ原料ハ大豆ノミニ限レルニアラス醬油ノ原料ハ大豆ト小麥トニ限ラレタ

ルニアラス而シテ何レニテモ溜醬油ト醬油トハ類似物ナルノミナラス溜醬油カ其原料タル大豆ニ對スル關係ハ醬油カ原料タル大豆ニ對スル關係ト全ク相同シク此ノ點ハ兩者共通ナリ一ノ公知ノ事實ヲ同一ノ目的ニテ類似物ニ適用スルモ尙所謂類似ノ考案ニ止マリ更ニ新規ナル發明ヲ構成スルモノニアラス隨テ本件特許願ハ發明トシテ原特許ト同一ナルカ故ニ特許法第二條ニ該當セス故ニ追加特許ヲ與フヘカラサルモノトノ審決ヲ求ムト云フニ在リ

審決ノ理由

本件特許願第五〇三七〇號溜醬油醸造法ハ特許第一二六四五號ノ追加ニシテ其明細書ニ依レハ豆餅ヲ適當ニ碎キ浸水シタル後蒸シテ柔軟ナラシメ温處ニ置キテ適當ナル糝トナシ之ニ食鹽及清水ヲ加ヘ醸熟セシメテ溜醬油ヲ採取スル方法ナリ而シテ請求人ハ豆餅ヲ溜醬油ノ製造ニ使用スル點ヲ以テ特許第一二六四五號ノ新規ナル擴張ナリト主張スルモ新規ノ擴張ニ關シテハ新規ノ發明之ニ伴ハサルヘカラス然ルニ豆餅即大豆粕ハ醬油ノ醸造ニ於テ麩ノ原料トシテ使用セラル、コトハ特許第一二六四五號ニ記載セラル、所ナリ又醬油ト溜醬油トハ其原料ヲ異ニスルモ類似物タルコトハ請求人ノ認ムル所ナリ故ニ本件特許願ニ於テ大豆粕ヲ溜醬油ニ使用スルコトハ本件特許出願前容易ニ應用スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ帝國內ニ頒布セラレタル前記ノ特許明細書ニ記載セラル、ヲ以テ本件特許願ハ特許法第四條第二號ニ該當シ從テ特許第一二六四五號ノ擴張ニ係ル新規ノ發明ト認ムルコト能ハス之ニ對シテ審査官カ特許法第二條ニ該當セサルモノトナシテ拒絕査定ヲナシタルハ不當ニアラス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年六月二十六日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 高山甚太郎
 特許局技師 增島文次郎

百四
特許局事務官 田中鐵二郎

第九十三號

福岡縣築上郡八屋町大字八屋千二百二十二番地

請求人 釜井 義 臣

右第五三〇五七號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

申立ノ要領

抗告審判請求人申立ノ要領ハ明治四十四年一月十一日付願書番號第五三〇五七號通信日付即活字操出器特許願拒絕再査定ハ不服ニ付審判ノ上特許スヘシトノ審決ヲ求ム其理由ハ審査官ハ數箇ノ横棧ヲ設ケ各棧ノ間ニ日付ノ順ニ並列シタル活字ヲ操出スヘクナシタルハ從來已ニ公知ニ屬シ又棧ニ凸條ヲ設ケ且ツ器ノ兩側ニ線金製ノ活字支ヘテ附設シタル如キモ單ナル設計ニシテ新規ノ發明ニアラスト云フト雖モ之レ前者ト後者トヲ區別シテ審査シタルモノニシテ活字保護器ノ全體ヲ通シテノ審查ニアラス之ヲ全體ヨリ見ルトキハ活字ノ凹部分カ棧ノ凸部分ニ符合シテ其兩端ニ線金製ノ活字支ヲ備フルヲ以テ轉倒ノ場合等ニ於テ何レヨリモ活字ノ亂紛出失ヲ防キ活字ノ保護ヲ目的トスルカ故ニ新ナル發明ナリト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ本願ノ如ク適當ノ間隔ヲ存シテ數箇ノ横棧ヲ設ケ各棧ノ間ニ日付ノ順ニ並列シタル活字ヲ順次ニ操出スヘクナシタルモノハ本願出願前已ニ公知ニ屬シ唯本願ニ於テ從來ノモノト異ル處ハ横棧ニ凸條ヲ設ケ且ツ本器ノ兩端ニ線金製ノ活字支ヲ設ケタルニアリト雖モ斯ノ如キハ當業者カ必要ニ應シ容易ニ爲シ得ヘキ單ナル設計ニ過キス要スルニ本願ハ公知ノモノニ單簡ナル設計ヲ施シタルニ過キサルヲ以テ特許法第一條ニ該當セスト云フニ在リ

審決ノ理由 抗告審判請求人ノ出願ニ係ル願書第五三〇五七號通信日付即活字操出器ハ數箇ノ横棧ヲ活字判ノ入ルニ足ル丈ケノ間隔ヲ保テ配列シ其間隔即チ溝ニハ其側面ニ棧ニ沿フテ凸條ヲ設ケ活字判ノ凹形ニ符合スル如ク爲シ而シテ活字判ヲ其溝ニ一端ヨリ數ノ順序ニ從ヒ納メ置キ活字ヲ使用スルニ當リテハ一端ヨリ操出シ使用ノ後ニハ其ヲ最終ノ端ニ納ムルヲ以テ活字判ハ棧間ノ溝ニ沿フテ滑リ一端ヨリ順次ニ操出シ得ルノ考案ニ成ルモノナリ而シテ活字カ横棧ノ兩端ヨリ逸出スルヲ防ク爲メ其兩端ニ線金製ノ止メ金具ヲ備フルモノナリ然ルニ横棧ノ間ニ活字判ヲ並列シ置キ使用スルニ當リ之ヲ滑ラシテ一端ヨリ操出シ得ルノ考案ノ如キハ極メテ普通ニシテ「ゴム」製活字判納器等ニ於テ屢見ル所ナリ而シテ請求人ハ棧間ノ溝ニ設ケル凸條及兩端ノ線金製ノ支ヘ等ヲ附加セルヲ以テ新規ナル發明ナリト云フト雖モ斯ノ如キハ必要ニ應シ容易ニ案出シ得ヘキ附隨ノ設計ニ過キス從テ審査官カ特許法第一條ニ該當セストシテ拒絕シタルハ不當ニアラス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年七月七日於特許局

審判長 特許局技師工學博士男爵 斯波 忠 三 郎
特許局事務官 織 田 了
特許局技師 增 島 文 次 郎

第二百二十三號

東京市本郷區淺草町一番地

請求人 細野市太郎

右第五五六一九號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 抗告審判請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ明治四十四年四月十五日付願書番號第五五六一九號車輛特許願拒絕再査定ハ不服ニ付審判ノ上特許ヲ與フヘシトノ審決ヲ求ム其理由ハ審査官ハ彈機ノ上下動ヲ利用シテ車ヲ曳ク力ヲ輕減スルノ考案ハ特許第九三三六號人車補力機ニヨリ公知ニ屬スト云フト雖モ本願ニ於テハ彈機ノ上下動ヲ利用スルニ非ラスシテ荷車ニ積載セル荷物ノ重量ヲ以テ車輪ヲ運轉セントスルモノニシテ其方法トシテハ車轂ニ固着セル齒車ヲ車臺ニ取付ケアル齒車ニヨリ一方ニノミ荷物ノ重力ニヨリ廻轉セシメテ車ヲ進行セシムルモノニシテ曩ニ特許願ニ於テ車臺ノ間ニ彈機ヲ付ケタルハ貴重品積載ノ場合ニ振動等ニヨリ毀損スルノ憂アルカ故ニシテ車ヲ曳ク力ヲ輕減スルノ用トシテハ重力ニ依ルカ故ニ特許第九三三六號ト全然考案ヲ異ニスト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決相成度其理由ハ車上ノ重量ニヨリ彈機ノ上下動ヲ利用シテ曳力ヲ輕減スルノ考案ハ特許第九三三六號人車補力機ニ於テ已ニ公知ニ屬スル所ニシテ本願ハ同一ノ考案ニ基キ爲シタル單ナル設計ニ過キス且ツ本願ノ如キ構造ニテハ請求人カ豫期スル如キ目的ヲ達スル能ハサルモノト認ム要スルニ本願ハ特許法第一條ニ該當セス故ニ本願ヲ拒絕シタルハ至當ナリト云フニ在リ

審決ノ理由 抗告審判請求人ノ出願ニ係ル願書番號第五五六一九號車輛特許願ハ荷車ノ車輪ノ轂ニ固着セル齒車ヲ車臺ニ取付ケアル齒車ニ依リ荷車ヲ進行スルト同一ノ方向ニ廻シ以テ荷車ヲ曳ク力ヲ輕減セントスルノ考案ニシテ之ヲ爲スニハ車上ニ積載セル荷物ノ落下ニヨリ生スル動力ヲ利用スルニアリト云フモ斯ノ如キハ學理上到底實行シ得ヘキモノニアラサルコトハ明白ナルヲ以テ本願ハ發明ニアラ

ス從テ特許法第一條ニ該當セス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年七月二十六日於特許局

審判長 特許局技師工學博士男爵 斯波 忠三 郎
特 許 局 技 師 增 島 文 次 郎
特 許 局 事 務 官 田 中 鐵 二 郎

第二百十八號

秋田縣鹿角郡小坂村小坂嶺山新町三十番地

請 求 人 櫻 庭 綱 人

右第五五七八六號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 抗告審判請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ特許願第五五七八六號礦煙害除滅「ソーダ」法ニ對スル明治四十四年三月八日附拒絕再査定ハ不服ニ付特許スヘシト審決相成度其理由ハ願者ハ本願方法ニ部分的公知ニ屬スルモノアルヲ知レリ然レトモ本願ハ決シテ部分的ニ特許出願ヲナシタルニアラス全ク總合的一新法トシテ特許ヲ出願シタルモノナリ即チ願者ハ苛性曹達ノ代リニ石灰乳及ヒ炭酸「ソーダ」ヲ使用スルニ亞硫酸瓦斯及硫酸瓦斯ニ對シ稍脫酸ノ目的ヲ達シ得ヘク知レリ然レトモ其能率ニ於テ雲壤ノ差アルヘキナリ又亞硫酸曹達ヲ酸化シテ硫酸曹達ヲ製出シ得ヘキコトハ一部ノ化學者ニハ既知ナルヘキヲモ知レリ又之ヲ黑灰法或ハ電氣分解法ニ依リ苛性曹達ニ化生スルコトハ容易ニ爲シ得ヘキコトナルコトヲモ知レリ然レトモ礦煙害除滅ノ目的ヲ以テ苛性曹達ノ溶液ヲ使用シ明細書ニ記述スルカ如キ一

ノ完結セル組織アル方法ヲ公表シタルモノアルヲ聞カス故ニ本願ハ公知云々ナル一言ヲ以テ否定セラ
ルヘキモノニアラス云々ト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タストノ審決ヲ求ム其理由ハ礦石精煉所ヨリ發散スル礦煙ノ害毒
ヲ除去スルノ目的ニ於テ脱酸中和劑トシテ知ラレタル石灰乳苛性曹達炭酸曹達ヲ以テ適宜礦煙ヲ處理
スルコトハ本願出願前査定ノ例證及一九〇八年英國特許第二六六八四號等ヨリ公知ニ屬ス而シテ亞硫
酸曹達ヲ酸化シテ硫酸曹達ヲ製出シ又ハ之ヲ黑灰法或ハ電氣分解法ニヨリ苛性曹達ニ化生スルコトモ
請求人ノ自認スル如ク公知ニ屬ス要スルニ苛性曹達炭酸曹達ヲ以テ礦煙ヲ處理シ有害素因ヲ除滅スル
本願方法ハ同一目的ニ對シ前記既知ノ事實ヨリ易々爲シ得ヘク何等發明ヲ構成セサルコト明ナリ云々
ト云フニ在リ

審決ノ理由 本件第五七八六號特許願礦煙害除滅「ソーダ」法ハ礦煙ヲ無害ナラシムル目的ニ於テ苛性
曹達及炭酸曹達ノ水溶液ヲ用キテ礦煙ヲ處理シ其内ニ存スル亞硫酸瓦斯及礦塵ヲ洗淨除去スル方法ナ
ルコトハ其明細書ニ依リ明ナリ然ルニ亞硫酸瓦斯ヲ苛性曹達及炭酸曹達ノ溶液中ニ通シテ之ヲ亞硫酸
化合物トナスコトハ本件特許出願前公然知ラルル所ナリ而シテ本願ニ於テ礦煙ヲ無害ナラシムル爲メ
苛性曹達及炭酸曹達ノ水溶液ヲ使用シテ亞硫酸瓦斯ヲ除去スルコトハ前記ノ公然知ラレタル事實ニ基
キ當業者ノ容易ニ推考シ得ルモノニシテ之ヲ新規ノ方法ナリト云フヘカラス又礦塵ノ洗淨液ヨリ鐵ヲ
用キテ銅ヲ沈澱セシメ若クハ苛性曹達ヲ用キテ亞鉛ヲ沈澱セシムルカ如キハ何レモ普通ニ知ラレタル
方法ニシテ新規ト認ムヘキ點ナシ要スルニ本件特許願ハ公然知ラレタル事實ヲ綜合シタルニ過キスシ
テ發明ヲ構成セス從テ特許法第一條ニ該當セサルモノニシテ之ニ對シテ審査官カ拒絕査定ヲナシタル
ハ不當ニアラス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年八月十五日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 高山甚太郎
特許局技師 増島文次郎
特許局事務官 田中鐵二郎

第二百八號

東京市本郷區森川町三十五番地	請求人	鈴木定次郎
東京市京橋區木挽町四丁目九番地特許辨理士	右代理人	細川陽之介
東京市本所區永倉町一番地二號	被請求人	野口榮吉
東京市京橋區采女町二十一番地特許辨理士	右代理人	石原卯八
東京市京橋區采女町二十一番地特許辨理士	右代理人	飯田治彦

右當事者間ノ第九九八六號改訂特許權利確認審判請求事件ニ付明治四十四年四月八日當局ニ於テ爲シタ
ル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 原審決ヲ破毀ス抗告審判被請求人ノ申立相立タス

審判及抗告審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ハ之ヲ取消シ本件ハ之ヲ却下シ審判及抗告審判費用ハ

抗告審判被請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ被請求人カ請求人ノ製造販賣セル洋燈笠ナリト稱
シテ提出セル甲第一號證乃至甲第四號證ノ如キ物品ハ請求人ニ於テ未タ曾テ一品タリトモ製造販賣シ

タル事實斷シテ之レナシ從テ請求人ハ利害關係者ニアラサルカ故ニ本件審判ハ却下セラルヘキモノナ
リ又本件ハ明治四十年二月十五日審決セラレタル審判番號第一〇三九號ト同一事實ニシテ且ツ同一證
據方法ニヨリ同一審判ヲ請求セシモノナルヲ以テ特許法第八十七條ニヨリ却下セラルヘキモノナルコ
ト今更多言ヲ要セス故ニ申立ノ通り速ニ審決ヲ求ムト云フニ在リ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ抗告審判請求人ノ申立相立タス審判竝ニ抗告審判費用ハ抗告審判請求
人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ甲第一、四號證ノ洋燈笠ハ請求人ノ製造販賣ニ係ルモノナルコト
明白ナリ又審判番號第一〇三九號事件ニ於ケル甲第四號證ノ洋燈笠ニ付テハ今日ニ於テ其構造形狀及
外縁ノ圓形ヲ保持セシムル爲メニ附シタル金屬線ノ性質等ヲ具體的ニ立證シ難シト雖モ之ヲ自己ノ記
憶ニ徵スルニ該證ハ登錄實用新案第一四六八號圖面ニ示ス如ク笠ノ縁周ニ近ク特ニ彎曲セル部分ヲ設
ケタルモノニシテ本件甲第一號證ノ洋燈笠トハ全然相違セリ故ニ各其證據ヲ異ニシ自ラ事件ノ内容ヲ
異ニスルモノニシテ一事件ニ付再度ノ審判ヲ請求スルモノナリト云フヲ得ス之ヲ要スルニ本件ニ關シ
テハ請求人ニ於テ大ナル曲解アルモノニシテ請求人ノ主張ハ一モ理由ナキヲ以テ其主張ヲ排斥シ被請
求人主張ノ通り審決アリタシト云フニ在リ

審決ノ理由 本件改訂特許第九九八六號洋燈笠ハ蛇ノ目形ニ裁切シテ下面ニ光澤ヲ有スル白色塗料ヲ塗
付シタル笠地ノ外縁周ニ屈撓自在ナル輪線ヲ張着シ以テ其ノ全體ヲ波狀ニ連曲セシメタルコトハ其請
求範圍ニ依リ明ナリ而シテ甲第一、四號證ノ物品ハ紙製ノ洋燈笠ニシテ鐵葉片ヲ以テ山形狀ニ其内周
ヲ被覆シ之ニ笠持金具ヲ裝付シ外縁周ハ屈撓自在ナル輪線ヲ張着シタルモノナリ此ノ二者ヲ對比スル
ニ笠ノ内周ヲ被覆スル構造同シカラス又後者ハ外縁周ニ張着シタル輪線ノ屈撓ニ歸因スル波狀ヲ認メ
サルモ之ニ使用セル線ハ屈撓自在ナルモノニシテ斯ル輪線ノ使用ハ假ヒ洋燈笠製造ノ際笠地ヲ波狀ニ

連曲セサルモ隨時何人モ容易ニ之ヲ波狀ニ連曲シ本件特許ノ笠ト同一波狀ヲ形成スルコトヲ得ルモノ
ナルヲ以テ甲第一、四號證ノ物品ハ本件特許第九九八六號洋燈笠ノ權利範圍ニ屬スルモノトス然レト
モ被請求人カ其立證トシテ提出シタル甲第一號證(請求人カ製造販賣シタル洋燈笠ノ圖面及其實物)竝
ニ甲第三號證タル水谷銀次郎ノ證明書第四號證(被請求人カ水谷銀次郎ト交換シタル洋燈笠)ハ請求人
ニ於テ全然成立ヲ是認セサルノミナラス當審ニ於ケル證人水谷銀次郎ハ本件所爭ニ係ル洋燈笠ノ權利者
四十二年十一月頃横澤幸四郎ナル者ヨリ買入レタルモ其後被請求人カ證人方ニ來リ此洋燈笠ノ權利者
ハ請求人ナルヲ以テ同人ヨリ買入レタリトノ證明ヲ差入レ度將來ニ於テ迷惑ヲ掛ケストノ反證ヲ提
出スヘシト依頼アリシニ依リ其依頼ニ應シ甲第三、四號證ヲ交附シタルモ實際ハ横澤幸四郎ノ製造セ
シモノニシテ請求人カ製造販賣シタルモノニアラストノ旨趣ヲ證言セリ而シテ此證言ハ信用スルニ足
ルカ故ニ此證言ニ反スル甲第三、四號證ハ採用スルニ由ナキノミナラス被請求人カ右證人ト交換シ得
タル甲第一號證モ亦採用スルコト克ハサルヤ勿論ナリトス從テ原審決ハ不當ニシテ請求人ニ對シ爲シ
タル本件請求ハ根據ナキモノト判定セサルヲ得ス既ニ前段ノ如ク審決ヲ爲スニ足ル以上ハ爾餘ノ爭論
ニ對シテハ敢テ説明ノ要ナシ仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年八月十六日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 阪田 貞一
特許局事務官 織田 了
特許局技師 增島 文次郎

第二百二十九號

東京市本所區南二葉町六番地
東京市京橋區木挽町九丁目七番地特許辨理士

請求人 那須 鐵之助
右代理人 大野 成之

右第五七一八四號特許願拒絕再查定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 抗告審判請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ特許願第五七一八四號實用疊辨當ニ對スル再審査ノ查定ヲ破毀シ本願ハ特許スヘシトノ審決ヲ求ム其理由ハ本願ノ如ク凸子又ハ凹窪ヲ設ケテ各板ヲ嵌合スルトキハ一體ヲナシテ相離ル、コトナク組立ノ際ニハ側板ヲ起スノミニテ事足り折疊ノ際ニハ其嵌合ヲ解クノ要ナク而シテ必要ノ際ニハ分離セントセハ又其困難ナク單ナル凸子又ハ凹窪ノミヲ設ケテ此ノ作用ヲナサシメタルハ實ニ新規ノ發明トスル所ナリ左レハ凸子及凹窪ヲ設ケテ相嵌合セシムルハ新規ナル機構ニシテ設計ニアラス然ルニ單ナル設計ニ外ナラストシテ拒絕セラレタルハ其當ヲ得ス云々ト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タストノ審決ヲ求ム其理由ハ本願ノ如ク底板ノ周縁ニ凸窪ヲ設ケ側板ニ該凸窪ニ嵌合スヘキ凸子ヲ具ヘタル金屬製疊辨當箱ハ本出願前既ニ本邦特許第三八四八號ニ依リテ公知ニ屬スル所ニシテ新規ニアラス而シテ本願ノ如キモ同一考案ニ基キテ爲シタル單純ナル設計ニ止マリ其構成ニ於テ新規ナル發明ト認ムヘキ點ナシ故ニ特許法第一條ニ該當セスト云フニ在リ

審決ノ理由 本件特許願第五七一八四號實用辨當箱ハ底板各隅ノ左右ニ凹窪ヲ設ケ此ノ凹窪ニ左右兩端ヲ折曲シタル側板上ニ設ケタル凸子ヲ嵌合シテ成ル辨當箱ナルコトハ其ノ明細畫ニ依リ明ナリ然ルニ
斯ル構造ノ辨當箱ハ本件特許出願前帝國内ニ頒布セラレタル特許公報ニ掲記ノ特許第三八四八號ニ記載ノ辨當箱ト同一考案ヨリ成ルモノニシテ本件特許願ニ於テ凸子及凹窪ニ設ケタルカ如キハ單ニ設計ノ變更ニ過キササルモノト認メ得ヘキヲ以テ本件特許願ハ特許法第四條第二號ニ該當シ新規ノ發明ヲ構成セス從テ特許法第一條ニ該當セサルモノトス本件ニ對シテ審査官カ拒絕查定ヲナシタルハ不當ニアラス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年九月四日於特許局

審判長 特許局技師工學博士男爵 斯波 忠三郎
特許局技師 增島 文次郎
特許局事務官 田中 鐵二郎

第二百二十六號

東京市小石川區宮下町八番地
東京市京橋區南八丁堀二丁目二番地特許辨理士
東京市本所區永倉町一番地

請求人 宮澤 喜一
右代理人 中川 秀爾
被請求人 野口 榮吉

右當事者間ノ第九九八六號改訂特許權利確認審判請求事件ニ付明治四十四年四月六日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ
主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ廢棄ス第一八二九七號實用新案權ハ第九九八六號改訂特許權ノ範圍ニ撞着セス審判費用ハ全部抗告審判被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ本件特許ニ於ケルカ如ク洋燈笠ヲ波狀ニ連曲セシムルコトハ本件特許出願前公知ニ屬ス其ノ一例ハ一八八九年英國特許第八九二〇號「乙第二號證」ノ如キ是レナリ又笠地ニ波狀ヲ保タシムルニハ必ラスシモ輪線ヲ用キスシテ可ナルコト乙第四號證ノ如シ此ノ種ノ紙笠ニ於テハ地紙ニ膠及ヒ「ニス」ヲ塗附シ之ヲ壓迫スレハ種々ノ形ヲ呈シ後水ク其原形ヲ保タシメ得ルモノナリ之ニ依リテ見レハ地紙ヲ波狀ニ連曲セシムルコトハ獨リ本件特許ノ獨創ニアラス但輪線ナキトキハ勾配ノ度ヲ任意ニ調節シ得サルコト明ナリ又本件實用新案ニ於テハ偶然屈撓シ得ル「ブリキ」條線ヲ用キ笠ニ波狀ヲ形成セシメタルカ故恰モ本件特許ノ考案ヲ利用シタルカ如ク一見セザル、ト雖詳細ニ之ヲ檢スレハ其ノ然ラサルヲ發見スヘシ即チ本件實用新案ニ於テ當然成シ得ヘキ塗料ノ效果ヲ利用シテ波狀ヲ形成シ其ノ外縁ヲ堅牢ナラシムル爲メ「ブリキ」條線ヲ貼附シタルモノニシテ此ノ條線タルヤ方形ニシテ然カモ二重ニ之ヲ組合セタルモノナレハ本件特許ノ輪線ト同一ナラス從テ勾配ノ調節ヲナサントセハ紙ニ貼附セル骨、紙ヨリ離レテ其ノ形ハ變壞ス又笠地ノ周邊ニ屈撓自在ナル金屬線ヲ張り込ミタル考案ハ本件特許ノ獨創ニアラス從テ何人モ之ヲ使用シテ差支ナキモノナリ假リニ本件特許ノ出願日ハ之レト抵觸セル第六一八二號特許ノ出願日即チ明治三十五年七月二十七日ヲ援用シ得ルト見做スモ之ト同一若クハ類似ノ考案ハ其出願前容易ニ應用スルコトヲ得ル程度ニ於テ帝國内ニ頒布セラレタル刊行物即チ乙第五號證「一八九九年ヨリ一九〇〇年ニ至ル時期ニ於テ英國「ロンドン」市「フワルクステードルマン」有責任會社「洋燈及煖爐ノ型錄」ニ記載セラル、所ナリ其ノ第二四二頁乃至二四七頁ヲ見レハ笠地ヲ蛇ノ目形ニ截チ其ノ緣周ニ屈撓自在ナル輪線ヲ張着シ笠ニ波狀ヲ形成セシメ又ハ笠ニ於ケル勾配ノ度ヲ任意ニ調成シ

得ル構造數多記載セラレ其二三ヲ舉ケレハ「ハニホ等」ノ如シ同シク「ハニホ」ハ屈撓自在ナル輪線ヲ有スル笠框ヲ示シタルモノナリ然ルニ被請求人ハ乙第五號證ハ太キ丈夫ナル針金ヲ用材トシテ一定ノ框組ヲナスト云フモ該證ニハ特ニ太キ丈夫ナル針金ヲ材用トスルヤ否ヤ明記セス從テ此ノ點ハ被請求人ノ旨斷ニ過キス云々ト云ヒ乙第三號證乃至第七號證ヲ提出セリ

抗告審判被請求人答辯ノ要領ハ請求人申立相立タス審判並ニ抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ本件論争ノ要點ハ登錄第一八二九七號洋燈笠ニ於テ笠地ノ周圍全體ニ屈撓自在ナル細キ「ブリキ」條線ヲ貼リ込ミタル點ガ本件特許ノ權利ニ屬スルヤ否ヤニ在リ而シテ本件特許ノ發明ノ要點ハ笠地ノ周圍ニ屈撓自在ナル金屬線ヲ貼リ込ミ以テ笠地ヲ適宜ノ波狀ニ連曲シ得ヘクナシタル點ニ存シ登錄實用新案第一八二九七號ノモノモ亦周圍ニ貼リ込ミタル屈撓自在ナル「ブリキ」條線ノ特性ヲ利用シテ所要ノ波狀ニ連曲シ得ヘクシタルモノナルヲ以テ兩者ハ此ノ點ニ於テ相撞着スルモノナリ又請求人ガ提出シタル乙第三號證及四號證ハ本件ニ關シ何等ノ必要ヲ認メサルナリ本件特許ハ洋燈笠ヲ波狀ニ連曲シタル點ヲ要部トナズモノニアラズシテ屈撓自在ノ金屬線ヲ笠地ノ周圍ニ貼リ込ミタル點ヲ以テ發明ノ要部トナズモノナリ故ニ屈撓自在ノ輪線ヲ利用シテ波狀ニ連曲シタルモノニナラサル乙第三號證乃至四號證ハ本件特許ノ權利ノ消長ニ關係ナシ又本件實用新案ノ笠ノ如キ薄弱ナル紙質ノモノヲ單ニ塗料ノミニ依リ波狀ヲ形成セシムルコトハ不可能ニ屬ス全ク屈撓自在ナル「ブリキ」條線ニヨリ波狀ヲ形成セシメタルモノナルコトハ原審甲第一號證乃至六號證ニ依リ明ナリ又乙第五號證及審判番號第二二二九號第九九八六號改訂特許權無効事件ノ甲第三號證ハ太キ丈夫ナル針金ヲ用材トシテ一定形ノ框組トナシ之レニ「レース」又ハ絹地ヲ縫着シテ成ル洋燈笠ノ公知ヲ立證スルニ過キスシテ本件特許若クハ本件實用新案トハ全ク無關係ノモノナリ云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 本件第一八二九七號登録實用新案「ブリキ」骨洋燈笠ハ石油罐ノ蓋及底ヲ切斷シタル四角形ノ細キ「ブリキ」條線ヲ二箇互ヒ違ヒニ組合セテ星形トナシ之ニ地紙ヲ貼付シ中央ニ火屋押ノ爪ヲ定着シ周邊ヲ波狀ニ連曲シタル構造ナルコトハ其ノ圖面ノ説明ニ依リ明ナリ又改訂特許第九八六號ハ蛇ノ目形ニ截切シタル笠地ノ周邊ニ屈撓自在ナル輪線ヲ張着シ其ノ全體ヲ波狀ニ連曲セシメタル洋燈笠ナルコトハ其ノ請求範圍ニ依リ明ナリ此ノ二者ヲ對比スルニ笠ノ骨組ヲ異ニスルモ周邊ニ屈撓自在ノ金屬線ヲ使用シ之ヲ波狀ニ連曲セシメ笠ノ傾斜ヲ任意ニ調節スルコトヲ得ル構造ハ共ニ同一ナリト云ハサルヘカラス故ニ本件登録實用新案洋燈笠ノ構造ハ本件第九八六號改訂特許ト類似ノ考案ヨリ成ル設計ノ差ニ過キササルモノト認メ得ヘキナリ從テ本件登録實用新案ハ其出願前ノ出願ニ係ル特許權ノ制限ヲ受クヘキモノニシテ其ノ權利ハ第九八六號改訂特許洋燈笠ノ權利範圍ニ屬スルモノトス然ルニ請求人ハ乙第三號證及第四號證ヲ以テ本件特許ニ於ケルカ如ク洋燈笠ヲ波狀ニ連曲スルコトハ本件特許出願前公知ニ屬スト主張スルモ前記乙號證ニハ本件特許ノ要部タル屈撓自在ノ金屬線ヲ使用セサルヲ以テ其ノ存在ハ本件特許ニ何等ノ影響ヲ及ボスモノニアラス又請求人ハ本件特許ト同一若クハ類似ノ考案ハ其出願前帝國内ニ頒布セラレタル乙第五號ニ容易ニ應用スルコトヲ得ル程度ニ於テ記載セラレ、ナリト主張スルモ乙第五號證中請求人カ指摘セルハ二三其ノ他各點ヲ圖面及記事ニ依リ之ヲ檢スルニ笠地ノ骨組カ屈撓自在ナルモノナルヤ否ヤ其構造明瞭ナラサルヲ以テ請求人ノ主張ヲ立證スルニ足ラサルナリ仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年九月九日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 阪田 貞一
 特許局事務官 織田 了

特許局技師 増島 文次郎

第二百二十七號

東京府荏原郡蒲田村字御園十二番地 請求人 小柳津 勝五郎
 東京府荏原郡蒲田村字御園十二番地 請求人 小柳津 小補
 東京府荏原郡木挽町四丁目九番地特許辨理士 右代理人 細川 陽之介

右第五七五八三號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ特許願第五七五八三號小柳津式肥料ニ對スル拒絕査定ハ不服ニ付之ヲ破毀シ更ニ審査ニ附スヘシトノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ第一硫黃鐵粉及食鹽ヲ混和シタル肥料ハ未タ曾テ之レナキ所ニシテ請求人ニ於テ創メテ此三資料ヲ燻炭及人糞尿ニ混和シタルモノニシテ其ノ發明タルコト明確ナリ第二若シ本願ノ如キ肥料カ容易ニ考案セラル、モノトスレハ何故ニ今日迄當業者カ之ヲ製造使用セザリシカ是容易ノ考案ニアラサルコトヲ立證スルニ足ル第三假リニ本願ノ如キ肥料カ容易ニ考案セラル、モノトスルモ本願肥料カ從來各種ノ肥料ニ優レル顯著ナル新效果ヲ奏セシムル以上ハ之ヲ發明ニアラスト云フヘキ理由ナシト確信ス云々ト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領 抗告審判請求人申立相立タストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ本願ノ資料ハ普通肥料トシテ適宜混用セラル、コトハ本願出願前公知ニ屬ス故ニ本願ニ於テ此等資料ヲ混和スルハ單ナル綜合ニ止マリ何等特殊ノ新效果ヲ奏セザルコトハ各資料ノ性能ノ確證スル所ナリ故ニ本願ハ發明ヲ構成セス云々ト

云フニ在リ

審決ノ理由 本件第五七五八三號特許願小柳式肥料ハ煤炭人糞尿硫黃鐵粉及食鹽ノ各適量ヲ混合シテ成水肥料ナルコトハ其ノ明細書ニ依リ明ナリ而シテ請求人ハ硫黃鐵粉及食鹽ヲ混合シタル點ヲ以テ新規ノ發明ナリト主張スルモ此等ノ資料ヲ煤炭及人糞尿ニ混合スルモ單ニ資料ノ綜合ニ止マリ當然ノ作
用以外何等新規ノ效果ヲ奏スルモノト認ムヘカラス故ニ本件特許願ハ何等ノ發明ヲ構成セス從テ特許
法第一條ニ該當セサルモノトス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年十月四日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 高山甚太郎
特許局技師 増島文次郎
特許局事務官 田中鐵二郎

第二百二十一號

門司市庄司區丸山通千六百三十六番地
門司市橋町三丁目千五百五十一番地

請求人 吉本吉太郎
請求人 黒木寅次郎

東京市麻布區三軒家町三十三番地特許辨理士

右代理人 草場九十九

右第四六一五八號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 抗告審判請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ明治四十四年三月十三日付願書番號第四六一五八號屋根「ラ

ンブ」特許願拒絕再査定ハ不服ニ付審判ノ上特許ス可シトノ審決ヲ求ム其理由ハ審査官ハ本願ノ如キ構造ヲ有スル屋根「ランブ」ハ西曆千八百七十年英國特許第三三一八號ニ依リ「已ニ公知ニ屬シ又本願ノ如ク三角形ノ断面ヲ有スル通油管用ユル事モ特許第五七九六號ニ依リ」公知ニ屬スルヲ以テ新規ナル考案ニアラス又本願ニ於テ通油管ニ對スル火口ノ方向ヲ一定ナラシムル考案ノ如キモ單ナル設計ニ外ナラスシテ特許法第一條ニ該當セスト云フト雖モ本願發明ノ精神ハ主トシテ通油管ニ對スル燈火ノ方向ヲ一定ナラシムルノ點ニアリ他ノ諸點モ皆之ニ關聯シテ始メテ其效果ヲ奏スルモノナリ前記英國特許ニ比シ本願ニ於テ改善ヲ成セル點ハ火口ノ嵌込續手ニアリテ此續手ニヨルトキハ車輛ノ震動ニヨリ火口ヲ廻轉セシムルコトナク「ランブ」顛倒スル場合ニ於テモ直ニ外レテ自動的ニ消火シ得ルモノトス又單ニ三角形ノ断面ヲ有スル通油管ヲ備フルノミヲ以テ前記特許第五七九六號ト撞着スト斷定セラル、如キハ決シテ當ヲ得タルモノニアラスト信ス而シテ燈火ノ通油管ト爲ス角度ト相俟テ效果ヲ奏ス可キハ實驗上明ナル事實ナルニ拘ハラヌ之ヲ單ニ設計ニ過キスト査定シタルハ不當ナリト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決相成度其理由ハ本願ノ如キ構造ヲ有スル屋根「ランブ」ハ西曆一千八百七十年英國特許第三三一八號ニ依リ公知ニ屬ス又三角形ノ断面ヲ有スル通油管用ユルコトモ特許第五七九六號ニ依リ公知ニ屬スル所ニシテ新規ナル發明ニアラス而シテ本願ニ於テハ通油管ノ溫度ヲ一定ナラシメンカ爲メ火口ノ續手ニ嵌込ミ續手ヲ用テ燈火ト通油管ト或角度ヲ爲スニ便ナル構造ニナシタリト雖モ斯ノ如キハ極メテ普通ニシテ要スルニ本願ハ公知ノモノヲ綜合シ之ニ單ナル設計ヲ施シタルニ過キサルヲ以テ特許法第一條ニ該當セスト云フニ在リ

審決ノ理由 抗告審判請求人ノ出願ニ係ル願書番號第四六一五八號屋根「ランブ」特許願ハ「ランブ」火舎

ノ上方ニ設備セル環狀油溜ヲ三角形ノ断面ヲ有スル通油管ニヨリテ油壺ニ連結シ油壺ト火口トハ嵌込
ミ續手ニテ連結シ而シテ反射鏡ノ頂端ニ火舎ヲ圍繞セシメタル金屬製燈筒ヲ取り付ケ且ツ該燈筒ノ内
面ニ數箇ノ押片ヲ以テ火舎ヲ抑ヘルノ構造ニ成ルモノナリ然ルニ斯ノ如キ構造ヲ有スル屋根「ランプ」
ハ審査官援用ノ西曆一千八百七十年英國特許第三二一八號ニ依リ公知ニ屬ス唯本願ニ於テ該特許ト異
ル所ハ三角形ノ断面ヲ有スル通油管ニヨリテ漸次ニ油ヲ給スルニアリト雖モ此裝置タル特許第五七九
六號ノ主眼トスル所ナルヲ以テ新規ノ考案ニアラス而シテ請求人ハ又燈火ノ通油管ト爲ス角度及距離
ヲ一定ニ置クコトハ通油管ノ溫度ヲ一定ニ保ツ爲メニ必要ニシテ之ニ對シ特許ヲ請求シタルモノナリ
ト云フト雖モ通油管ノ溫度ハ熱源タル燈火ノ位置及其ノ距離ヲ一定スレハ通油管ノ溫度ヲ一定ニ保ツ
コトハ公知ノ事實ニ依リ何人モ容易ニ實行スルコトヲ得ルモノニシテ之ヲ新規ノ考案ト云フヘカラス
要スルニ本願ハ公知ノモノヲ綜合シテ之ニ單ナル設計ヲ施シタルニ過キスト認ムルヲ至當トス從テ審
査官カ本件特許願ヲ特許法第一條ニ該當セズト査定シタルハ不當ニアラス仍テ主文ノ如ク審決ス
明治四十四年十月十二日於特許局

審判長 特許局技師工學博士男爵 斯波 忠三郎
特許局技師 增島 文次郎
特許局事務官 田中 鐵二郎

第二百四十三號

三重縣度會郡中島村大字阿曾浦二十四番屋敷

請求人 大久保 志 禮

大阪市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士 右代理人 淺 村 三 郎
大阪市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士 右代理人 平 岩 義 一

右第五六一五四號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ特許願第五六一五四號眞珠素質被着法再審査拒絕査定ヲ破毀
シ更ニ審査ニ付スヘシトノ審決ヲ求メ其ノ理由ハ請求人ハ已ニ再審査請求書ニ於テ述フル如ク「介殼
ニ核ノ通スル大サノ穴ヲ穿テ之ヨリ金屬線ノ脚ヲ付スル核ヲ入レ介殼ニ穿テ透孔ヲ「セメント」ノ類
ニテ閉塞スルコト」ノ本願出願前農商務省報告書其ノ他ニ依リ公知セラル、コトハ之ヲ認メテ爭ハサ
ル所ナリ唯本願方法ノ特殊ナル「介殼ニ細線ノミ通過スヘキ微穴ヲ穿テ核ハ介殼ノ口ヨリ入ルヘクナ
シタル」點ノミニ對シ發明トシテ特許ヲ與ヘラル、ノ至當ナル理由ヲ述ントス初査定書ニ從來公知ノ
方法トシテ引例セラル、モノハ何レモ介殼ヲ穿テル孔ハ核ノ通過スル大サトナシ核ヲシテ該透孔ヨリ
介ノ外套膜間ニ挿入スヘクナシタルヲ以テ假令該透孔ヲ「セメント」ノ類ニテ填充スルモ透孔ノ大ニ過
クル爲メ永キ歲月間海水中ニ浸入セシメ置クトキハ自ラ剝脫セラル、部分ヲ生シ其ノ微孔ヨリ海水ノ
浸入スル爲メ外套膜ヨリ分泌スル眞珠質ハ海水ノ滲入ヲ防止セントシテ流眞珠(第一號證)トナリ完全
ナル突起形體ヲ呈セス然ルニ本願ノ方法ニ於テハ微細孔ヲ穿テ核ヲシテ少シク開キタル開口ヨリ介
殼ノ裏面ナル外套膜間へ挿入シテ細線ハ介殼ノ裏面ヨリ表面ニ出サシムルカ又ハ細線ノ類ヲ介殼ノ外
面ヨリ挿入シテ核ニ穿テル窩孔ニ至ラシムルカニ依リテ核ヲ鞏固ニ支持スヘクナシタルモノナルヲ以
テ介殼ニ穿テル孔ハ極メテ微細ニシテ之レニ細線ヲ通スルトキハ殆ント閉塞セラル、ニ至リ尙ホ之ヲ
「セメント」ノ類ニテ填充スルカ故ニ微孔ハ堅固ニ閉塞セラレ永年水中ニ浸入シ置クモ決シテ剝脫スル

コトナク介殻ト殆ント一體ノ如クナルモノナリ故ニ本願ノ方法ニ依レハ極メテ完全ニ核ニ眞珠素質ヲ被着スルモノナリ云々ト云フニ在リ
審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タストノ審決ヲ求メ其ノ理由ハ本願ハ再査拒絶査定書ニ於テ詳細シタルカ如ク公知ノ事實ヨリ特考ヲ要セス所望ニ應ニ易々爲シ得ヘク何等特殊ノ新效果ナク發明ト認ムル點ナシ云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 本件第五六一五四號特許願眞珠素質被着法ハ生介ノ殻ニ穿テル小孔ヲ通シテ線狀脚ヲ有スル核ノ脚部ノ殻ノ内面ヨリ外部ニ出スカ若クハ金屬竹木等ニテ製シタル栓様ノモノヲ前記殻ノ小穴ニ挿入シ其ノ尖端ヲ内面ニ突出セシメ之ヲ有孔核ノ孔窩ニ嵌入シ共ニ外部ヨリ「セメント」樹脂等ヲ塗抹シテ孔隙ヲ閉塞シ後介ヲ海水中ニ放養シテ眞珠素質ヲ核ニ附着セシムル方法ナルコトハ其ノ明細書ノ記載ニ依リ明ナリ然ルニ眞珠ノ介殻ニ穿テル小孔ヨリ金屬線ノ脚ヲ附シタル核ヲ挿入シ之ヲ殻ノ内面ニ固着セシメ「セメント」等ノ接着劑ヲ以テ穴ヲ密閉シ之ヲ海水中ニ放養シテ眞珠素質ヲ被着セシムル方法ハ審査官援用ノ明治二十六年農商務省農務局刊行ノ水産調査報告第一卷第六九頁乃至七十一頁ニ記載セラル、所ナリ故ニ本件特許願ハ容易ニ應用スルコトヲ得ル程度ニ於テ其特許出願前帝國内ニ頒布セラレタル前記ノ公刊物ニ記載セラル、ヲ以テ特許法第四條第二號ニ該當シ新規ノ發明ヲ構成セス從テ特許法第一條ニ該當セサルモノトス然ルニ請求人ハ本件特許願ハ介殻ニ細線ノミ通過スヘキ微孔ヲ穿テル核ハ介殻ノ口ヨリ入ルヘクナシタル點ニ對シ新規ノ發明ナリト主張スルモ殻ニ穿テル小孔ヨリ脚線ヲ附シタル核ヲ挿入スルモ又ハ核ヲ介殻ノ口ヨリ入レ脚線ノミヲ小孔ヲ通過セシムルモ共ニ接着劑ヲ外部ヨリ塗抹シ殻ニ穿テル孔ヲ密閉スルモノナルヲ以テ二者同一效果ヲ奏スル均等ノ手段ト認メ得ヘキモノニシテ請求人ノ主張ハ其當ヲ得ス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年十月十二日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 高山 甚太郎
特許局 技師 増島 文次郎
特許局 事務官 田中 鐵二郎

第二百十九號

大阪市北區與力町二丁目四百十二番地ノ一 請求人 德永 豊治郎
東京市京橋區山城町十四番地特許辦理士 右代理人 太田 資時
東京市麴町區有樂町一丁目四番地特許辦理士 右代理人 南部 皆治
大阪市東區淡路町一丁目二十四番地特許辦理士 右代理人 佐々木 高吉

右第五三六九三號特許願拒絶再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 請求人ノ申立相立タス

申立ノ要領 請求人ハ原査定ヲ破毀ス特許願第五三六九三號德永式硝子器製造押切機械ハ特許スヘキモノトストノ審決ヲ求ムト申立テ其理由トシテ請求人ハ明治四十二年以前ニ本願發明ヲ完成シ爾來發明品ノ實用ニ適スルヤ否ヤヲ試驗シ漸ク所期ノ目的ヲ達スルヲ得ルコトヲ確メ明治四十三年三月十三日特許ヲ出願シタリ然ル處試驗中獨逸國ニ於ケル同一發明ヲ記載シタル同國特許公報カ明治四十二年十月三日帝國内ニ頒布セラレ從テ請求人ノ發明ハ特許出願前特許法第四條ニ該當スルニ至レリ然レトモ請求人ノ發明カ特許法第四條ニ該當スルニ至リシハ前述ノ如ク試驗ノ爲ニシテ且前述獨逸國特許公

報カ帝國内ニ頒布セラレタル日ヨリ二年以内ニ特許ヲ出願シタルモノナルヲ以テ特許法第五條第一號ニ依リ新規ノ發明ト看做シ特許セラルヘキモノナリ試驗其モノカ原因ト爲リテ發明カ特許法第四條各號ノ一ニ該當スルニ至リタル場合ノミナラス試驗ヲ爲シ居ル間ニ他ノ原因ニ依リテ發明カ特許法第四條各號ノ一ニ該當スルニ至リシ場合モ亦同法第五條第一號ニ該當スルモノナリト主張セリ

審査官答辯ノ要領ハ特許法第五條第一號ハ試驗カ直接ノ原因ト爲リテ發明カ出願前ニ公ニ知ラレタル場合ヲ規定シタルモノニシテ試驗中他ノ原因ニ依リテ同一發明カ公ニ知ラル、ニ至リタル場合ヲ包含セス加之本願發明ノ完成カ同一發明ヲ記載シタル獨逸國特許公報ノ帝國ニ到達シタルヨリ以前ナリシコトヲ認ムヘキ證據ナシト云フニ在リ

審決ノ理由 發明ハ特許出願前ニ於テ之ヲ試驗スルノ必要アルコト尠カラス而シテ試驗ハ秘密ニ之ヲ行フコトノ困難ナル場合稀ナリトセス故ニ特許出願前ニ於ケル發明ノ試驗ハ適當ニ之ヲ保護シ發明者ヲシテ特許出願前安シテ公然試驗ヲ行フコトヲ得セシムルノ必要アリ是レ特許法第五條第一號ノ規定アル所以ナリ從テ該規定ハ試驗ノ爲メニ試驗者ノ發明カ公然知ラレ若クハ公然用キラル、ニ至リ又ハ容易ニ應用スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ之ヲ記載シタル刊行物カ頒布セラル、ニ至リタル場合ニ限リ其適用アルヘキモノニシテ試驗中ニ他人ノ同一發明カ公然知ラレ若クハ公然用キラル又ハ之ヲ記載シタル刊行物カ頒布セラル、ニ至リタル場合ニハ其適用アルヘキモノニアラス故ニ請求人ノ發明カ最先ノ發明ニシテ試驗ヲ行ヒツ、アル間ニ他人ノ同一發明ヲ記載シタル獨逸國特許公報カ帝國内ニ頒布セラレタルモノナルコト請求人ノ主張ノ如シト假定スルモ請求人ノ特許出願カ右獨逸國特許公報ノ帝國内ニ頒布セラレタル後ニ屬スル以上ハ之ニ對シテ特許法第五條第一號ヲ適用スルニ由ナク結局請求人ノ發明ハ特許法第四條第二號ニ該當シ新規ノ發明ニアラサルヲ以テ特許ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年十月十三日於特許局

審判長 特許局技師工學博士男爵 斯波 忠 三 郎
 特許局 事務官 村 上 隆 吉
 特許局 事務官 田 中 鐵 二 郎

第二百三十四號

請求人 堤 正 義
 代理人 矢 部 廉
 右代理人 富 山 糸 吉

東京市牛込區中町二十六番地
 東京市京橋區加賀町十八番地特許辦理士
 東京市四谷區坂町五十六番地特許辦理士

右第四九九〇號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
 主文 原査定ヲ破毀ス本件第四九九〇號複働排氣唧筒特許願ハ特許スヘキモノトス
 申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ明治四十四年四月二十八日付願書番號第四九九〇號複働排氣唧筒特許願拒絕再査定ハ不服ニ付審判ノ上特許スヘシトノ審決ヲ求ム其理由ハ審査官ハ本願複働排氣唧筒ハ「ローヂャース」氏著「ポンプス、エンド、ハイドロリックス」第二卷第三十七頁乃至第三十九頁ニ記載セル唧筒ト均等ナルヲ以テ已ニ公知ニ屬スト云フト雖モ該唧筒ト本願唧筒ト類似セル點ハ唯ニ唧筒ノ中部ニ吸入口ヲ設クノ一點ニ過キスシテ其行動及效率ノ點ニ於テ多大ノ相違アリ第一ニ同書ニ記載セル唧筒ノ吸入口ニハ不還瓣ノ設ケナキヲ以テ之ヲ複働トシテ動作ヲ爲サシメンニハ其唧子ノ深

チヲ唧筒ノ行程ト等シク作り置サレハ唧筒内ノ水及空氣ハ冷汽器内ニ逆流スルノ憂アリ第二ニ同書記載ノモノニ於テハ唧筒ノ深サヲ唧筒ノ有效行程ニ等シクスルノ必要アルヲ以テ唧筒ノ長サハ普通ノ單働唧筒ノ胴長ノ二倍トナルノ不便アリ第三ニ同書記載ノ唧筒ハ之ヲ複働トシ上下ノ行程ニ於テ等一量ノ排氣ヲ爲サシメシメハ吸入入口ヲ胴ノ中央部ニ設ケサルヘカラス然ルニ本願唧筒ニ於テハ以上列記セル不便ヲ吸入入口ニ設備セル吸入瓣ニ依リ容易ニ除去シ而カモ普通複働唧筒ニ比シ半數ノ吸入瓣ヲ以テシテ完全ニ複働ノ效果ヲ收メ得ヘキヲ以テ新規ナル發明ヲ構成スト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決相成度其理由ハ本願唧筒ノ大體ノ構造ハ「ローヂャー」著「ポンプ、エンド、ハイドロリックス」第二卷第三十七頁乃至三十九頁ニ記載セラレ本願出願前已ニ公知ニ屬シ唯異ナル處ハ吸入入口ニ不還瓣ヲ設クルニアリト雖モ唧筒トシテ常套普通ノ考案ヲ均シク唧筒タル公知ノモノニ適用シ其吸入入口ニ普通ノ瓣ヲ付設シタルハ單ナル設計ニ過キサルヲ以テ兩者ハ固ヨリ均等ナルヲ免レス又請求人ハ本願唧筒ニ於テハ唧筒ノ深サヲ減少スルヲ得及吸入入口ノ位置ヲ限定スルノ要ナキヲ以テ新規ナル考案ナリト云フト雖モ斯ノ如キハ設計ニ伴フ當然ノ結果ニシテ新規ナル發明ト認ムル能ハス故ニ本願ヲ以テ特許法第四條第二號ニ該當シ同法第一條ニ該當セスト査定シタルハ不當ニアラスト云フニ在リ

審決ノ理由 抗告審判請求人ノ出願ニ係ル願書第四九五九〇號複働排氣唧筒ハ其頂部ト底部ニ吐出瓣ヲ備ヘ行程ノ中途ニ冷氣器ヨリ唧筒内部ニノミ開ク吸入瓣ヲ有スル構造ノモノニシテ唧筒ノ下降スルニ際シテ唧筒カ吸入瓣ノ吐入口ヲ通過スルマテハ唧筒ノ上面ニ高度ノ氣薄ヲ生スルヲ以テ唧筒ハ其位置ヲ過キテ下降スレハ冷氣器内ノ氣壓ト唧筒内ノ氣薄トノ差ニヨリ胴ノ中途ニ設クル吸入瓣ヲ通過シテ筒内唧筒ノ上部ニ冷氣器内ヨリ空氣及水ノ進入ヲ喚起シテ唧筒ノ次ニ上昇ノトキニ排出ス可キモノヲ

筒内ニ充滿セシメ而シテ唧筒ノ下面ハ其カ上昇セシ間ニ前記ト同様ノ働ニヨリ冷氣器ヨリ吸入瓣ヲ通過シテ唧筒内ニ排出シタル空氣ト水トヲ底部ノ吐出瓣ヨリ排出セシメ此行動ヲ交々續行シテ冷氣器内ノ空氣及水ヲ排除スルノ考案ニ成ルモノナリ而シテ今之ヲ審査官ノ均等ナリト認ムル「ローヂャー」氏著「ポンプ、エンド、ハイドロリックス」書第二卷第三十七頁乃至三十九頁ニ記載セル複働唧筒ト對照スルトキハ唧筒ノ中途ニ吸入入口ヲ設ケタル點ハ相類似スト雖モ本願唧筒ニ於テハ該部ニ吸入用不還瓣ヲ備フルニヨリ第一行動上ノ效率第二唧筒ノ深サヲ其強サ又ハ汽密ノ許ス限リ減少シ得ルノ點ニ於テ大ニ異ナル所アルヲ認ムル即「ローヂャー」氏著書中記載ノ唧筒ニ於テハ最大ノ效率ヲ得ントスルニ其全行程ヲ唧筒ノ深サト吸入入口ノ幅(唧筒ノ行程ニ沿フテ測リタル)トノ和ニ等シクセサルヘカラス而シテ唧筒カ吸入入口ノ幅ヲ動ク間ハ唧筒内ニ冷氣器ヨリ一旦排出シタル空氣及水ハ吸入入口ニ不還瓣ノ設ケ無キヲ以テ冷氣器ニ逆流スルノ已ムヲ得サルヲ以テ其間ノ行程ハ徒勞的行動ナリ之ヲ減少セントスルニハ吸入入口ノ幅ヲ減スルニアレトモ或程度ヲ越ヘテ減スルトキハ筒内ニ空氣及水カ進入スルノ妨害トナルヘキヲ以テ該式唧筒ニ於テハ行程中幾分ノ徒勞的行動アルハ免レサルナリ而シテ全行程ハ唧筒ノ深サト吸入入口ノ幅トノ和ニ等シトスレハ唧筒ノ深サハ吸入入口ノ幅ヲ或程度以外任意ニ増スコト能ハサルヲ以テ普通ノ唧筒ニ於ケルカ如キ行程ノモノヲ得ントスルニハ唧筒ノ深サヲ甚大ノモノトセサルヘカラス從ツテ唧筒ノ胴長ヲ増サ、ルヘカラス然ルニ本願唧筒ノ如ク吸入入口ニ不還瓣ヲ設クルトキハ吸入入口ノ幅ノ大小ニ關セズ全行程中ニ於テ前記ノ如キ徒勞的行動ヲ絶無ニシ及唧筒ノ深サト行程ト相關聯セシムルノ要ナキヲ以テ唧筒ノ深サハ其強サ及汽密ノ許ス範圍ニ於テ薄ク作り得ルカ故ニ唧筒全體ノ大サハ前者ニ比シテ大ニ短縮シ得ルナリ又之ヲ普通複働式唧筒ト比較スルトキハ半數ノ吸入瓣ヲ以テシテ同等ノ働作ヲ爲シ得ヘシ之ヲ要スルニ本願唧筒ノ吸入入口ノ位地及ヒ不還瓣ヲ個々獨立ニ考

達等ノ一若クハ一以上ヲ任意ニ按排シタルモノ丁硝酸ヲ形糊ニ混シタルモノ此等甲乙丙丁ノ脱色劑カ其各場合ニ於テ發揮スル化學作用ヲ以テ脱色スルモノニシテ此ノ化學作用ハ幾多ノ特長ヲ有ス然ルニ原審ハ被請求人カ提出シタル織物ニ使用シタル脱色劑カ如何ナルモノナリシカヲ明ニセシテ之ヲ本件特許ノ方法ナリト斷定シタルハ發明成立ノ一部ヲ明了ニセサルノ不法アリ從テ其全部カ彼此同一ナリトスルノ理由トナスニ足ラス第四、本件特許ノ發明タルヤ布面ニ織模様ヲ現ハスノ目的ニ於テ織模様カ要求スル色彩ノ供給ヲ自由ニシ且色彩ノ變化ヲ廣汎ニスルカ爲メ染料ノ採擇範圍ヲ廣クシ又染料自身ヲシテ織模様面上ニ於テ色彩ノ變化ヲ多端ナラシムルノ性状ヲ帶ハシメ又此等染料ノ色彩ヲシテ意圖ノ如ク織模様面上ニ表出スル爲メ脱色劑ヲシテ幾多廣汎ナル性状ヲ帶有セシムルノ考案ヲ成シ彼我結合シ終始相俟テ始メテ能ク特殊ノ效果ヲ奏スル織模様ヲ得ル方法ヲ成立セシメタルモノナリ故ニ本件特許カ出願前公知ナルヲ主張セントスルモノハ必ラスヤ以上ノ如ク幾多ノ考案ノ結合ニ成リシ方法ノ行ハレタリシヲ舉證セサルヘカラス單ニ藍色ヲ殘存シタリト稱スル一事ノミヲ以テ無効ヲ主張スルハ不當ナリ第五、證人阿部新三郎、穴原幸之助、關田嘉七郎等ノ證言ハ毫モ信憑力ヲ有スルモノニアラス然ルニ原審カ之ヲ採用シタルハ不法ナリ第六、原審ハ鑑定人高松徳治郎ノ鑑定ニ對シ染料ニ關スル點ヲ信憑シ特許第二六八一號ノ方法ニ製造セラレタルヤ又明治三十年以前ニ製造セラレタルヤノ二點ニ就テハ不明ナルニ係ラス之ヲ明瞭ナル事實ト認定シタルハ一箇ノ鑑定ヲ或ハ信シ或ハ信セサルモノニシテ探證法上不法ナリ第七、鑑定人高松徳治郎ノ鑑定ニ依レハ供試品ノ經ノ細絲ハ木綿直接染料「ダイアミンゼット」少量ノ「ダイアミンバイオレット」ヲ以テ染色シタルモノト認ムトアリ然ルニ供試品提出人ハ其申出ニ經絲ノ藍鼠ハ「チカゴブルー」ニ「ダイアミンブラック」ノ少量ヲ加ヘタルモノニテ染メ云々ト云ヘリ即鑑定ト申立ト相違アリ故ニ鑑定ヲ眞ナリトセンカ該證據物ハ本件被請

求人カ明治三十年頃加工シタリト稱スル織物ニアラサルヲ認ムルヲ得ヘシ第八、原審ノ當事者阿久津末吉ハ代理人トシテ鶴岡一三ヲ撰定セリ然ルニ原審ハ此ノ事實ヲ無視シ審判調書及審決書ニ何等ノ記載ヲナサ、ルハ明ニ特許法施行細則第八十三條ノ規定ヲ無視シタルノ違法アリ云々ト云ヒ證據書類取寄セノ申請ヲナセリ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ本件抗告審判請求ハ之ヲ棄却ス抗告審判費用ハ抗告人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ原審ニ申立テタルト同一ナルヲ以テ抗告ハ不當ナリ以下抗告理由ヲ辯駁スヘシ抗告人主張ノ第一點ハ原審決カ公知公用ナリト爲シタル色彩ト本件特許ノ色彩トハ其範圍同一ニアラス然ルニ原審決カ之ヲ同一ナリト斷定シタルハ色彩ト織模様トノ間ニ於ケル因果ノ干繋ヲ無視シタル缺點アリト云フモ色彩同一ニアラサルカ爲メニ方法同一ニアラスト云フヲ得ス同一ノ方法ト雖色彩ノ異なるモノアルヘキハ方法ノ方面ヨリ觀察シテ毫モ支障アルナシ之レ方法ノ根本ヲ闕却シテ方法ノ一小部分ニ着眼シタルニ外ナラス第二點原審ハ唯藍色ヲ藍色トシテ殘存スル一事ヲ採テ之ヲ本件特許ノ方法ト同一ナリト斷定シタルハ發明構成ノ主因ヲ無視シタル違法アリト云フモ原審決ハ方法ト方法トノ比較上斷定ヲ與ヘタルモノナレハ方法ノ一部分タル藍色殘存ノ一事ヲ攻撃スル抗告ノ不服ハ不當ナリ第三點原審カ脱色劑カ如何ナルモノナリシカヲ明ニセシテ之ヲ本件特許ノ方法ナリト斷定シタルハ發明成立ノ一部ヲ明カニセサルノ不法アリト云フモ拔染法ニ於テ如何ナルモノカ脱色劑トシテ用ユヘキヤ否ヤノ如キハ普通ノ拔染方法中ニ包含セラレテ一々之ヲ指摘スルノ必要アルナシ第四點ハ脱色劑ノ不同論ナルモ方法ノ同一ナルニハ必ラスシモ脱色劑ノ一々同シキヲ要スルモノニアラス即原審決ニハ缺點アルヲ見ス第五點乃至第七點ハ何レモ原審カ採擇ノ自由ヲ有シ其自由ニ採擇シタル證據ニ付キ非難ヲ試ミントスルモノナレハ採用スヘキニアラス第八點ハ代理人タルコトノ記載ヲ缺クト云フニア

ルモ此ノ如キハ何時ニテモ補正シ得ヘキ些少ノ事項ニ屬シ審決ノ本論ニ干係少キヲ以テ深ク辯セヌ云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 請求人カ本件改訂特許第九〇五三號ニ對シ抗告審判請求ノ理由ハ一ニシテ足ラスト雖モ要スルニ一審判番號第一三三三號審決ノ理由書中經ニ木綿直接染料ヲ以テ染メタル綿絲ト正藍ニテ染メタル太キ絲トヲ用キ緯ニ白キ絹絲ト正藍ニテ染メタル太キ絲トヲ用キテ織リタル織物ヲ製織後拔染法ニ依リ木綿直接染料ヲ脱色セシメ藍色ヲ殘シテ形織兩模様ヲ現シタル方法ノ公知ナル事實ハ本件特許ノ全體ヲ無効トスルノ理由トスルニ足ルヤ否(二)高松德治郎ノ鑑定セル標本ニ就キ證人阿部新三郎外人ノ證言即チ此種ノ織物ハ明治三十年頃販賣シタル事實ハ認メ得ルヤ否ノ二點ニ歸着スルモノトス抑モ本件改訂特許第九〇五三號織物製造法ハ其請求範圍ニ依レハ直接染料ヲ以テ染メタル綿絲ト正藍又ハ直接染料以外ノ染料ヲ以テ染メタル綿絲トヲ經緯任意ニ交織シ若クハ苛性曹達ニ浸漬シタル藍染絲又ハ硝酸ニテ脱色シ得ヘキ染料ヲ以テ染メタル綿絲ト硝酸ニテ脱色シ得サル硫化色素直接染料又ハ鹽基性染料ヲ以テ染メタル綿絲トヲ經緯任意ニ交織シ織布ノ面ニ亞硫酸曹達、亞鉛末、第一鹽化錫、重クロム酸加里、羧酸、赤血鹽等ノ一種若クハ二種ニ酸類、グリッソン、アンモニア、石鹼、醋酸石灰、醋酸曹達、苛性曹達、炭酸曹達等ノ助劑若クハ硝酸ヲ形糊ニ混シ脱色法ヲ施シテ成ル製造ナリ而シテ請求人ハ本件特許ノ方法ハ直接染料ノ染絲ト正藍又ハ直接染料以外ノ染料ノ染絲若クハ苛性曹達ニ浸シタル藍染絲又ハ硝酸ニテ脱色シ得サル染料ノ染絲ヲ任意ニ交織シ染料ト脱色劑トノ結合ニ依リ任意ノ織模様ヲ表出スルモノナリト主張スルモ本件特許ノ目的タル形織模様ヲ現ハス爲メ直接染料ノ染絲ト正藍又ハ直接染料以外ノ染料ノ染絲トヲ用キルカ若クハ藍染絲又ハ硝酸ニテ脱色シ得ル染料ノ染絲ト硝酸ニテ脱色シ得サル染料トヲ用キルカ如キハ當業者カ普通ノ染料中ヨリ任意ノ撰擇ニ過キヌシテ斯ル撰擇ニ依

リ成ル染料ノ組合セハ各本件特許ノ要部ヲ構成スルモノニアラス又請求人ハ脱色劑トシテ種々ノ材料ヲ列記シテ任意ノ變化ヲ呈スルコトヲ主張スルモ要スルニ還原ト酸化ノ作用ヲ應用スルノ原理ニ基因シ然カモ此等材料ニ就テハ一ニ新規トスルニ足ルモノナク使用染料ノ性質如何ニ因リ適宜還原若クハ酸化ノ脱色劑ヲ應用スヘキハ當業者ノ任意ノ撰擇ニ過キサルナリ故ニ本件特許ノ方法ハ鑑定人高松德治郎ノ鑑定書ニ記載ノ方法ト同一ナルモノト之ヲ認メサルヲ得ヌ又請求人ハ證人ノ證言ノ無効ヲ主張スルモノ之ニ對シ適切ナル反證ヲ擧ケサル以上ハ之ヲ認ムルコトヲ得ヌ又請求人ハ鑑定人ノ鑑定ト供試品提出者ノ解説ト相違アリテ明治三十年頃製造シタル織物ニ非サルコトヲ主張スルモ鑑定人ノ鑑定ト供試品提出者ノ申立書ノ染料トハ各名稱ヲ異ニスルモ孰レモ同屬ノモノナルカ故ニ之ヲ以テ證人ノ證言ヲ否定スルノ理由トナスニ足ラス又被請求人ハ本件ニ付提出シタル證據方法ハ全部之ヲ拋棄シ且相手方ノ主張ハ之ヲ爭ハサル旨申立テ居ルモ元來特許法ニ據ル審判ハ單純ニ當事者ノ主張ノミニ拘束セラルヘキニアラサルコトハ特許處分カ一般世人ニ對スル排他的獨占權ヲ設定スルモノナルト特許法第六十九條ニ於テ特許局審査官ニ特許又ハ許可無効ノ審判請求ヲ認メタルト同法第八十七條ニ於テ特許ノ效力又ハ特許權ノ範圍ニ屬スル確定審決又ハ判決ノ登錄アリタルトキハ何人ト雖モ同一事實及證據ニ基キ同一審判ヲ請求スルコトヲ得サルコトヲ規定シタルトヨリ推理斷定シ得ヘシ從テ抗告審判被請求人ノ爲シタル本件ニ付提出シタル證據方法ハ全部之ヲ拋棄シ相手方ノ主張シタル事實ハ之ヲ爭ハストノ申立アルニモ拘ラス抗告審判被請求人ノ申立ニ依リ取調タル證據及審理上認メタル事實ニ依リ審決ヲ爲スニ妨ケナシ然リ而シテ本件特許ノ方法ハ其特許出願前公然知ラレ公然用キラレタル事實ハ鑑定人高松德治郎ノ鑑定及證人阿部新三郎、關山嘉七郎ノ證言ニヨリ之ヲ認メ得ヘキナリ從テ本件特許第九〇五三號織物製造法ハ特許法第四條第一號ニ該當シ同法第一條ニ違反シ同法第四十九條ニ依リ之

ヲ無効トスヘキモノトス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年十月二十一日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 高山 甚太郎
 特許局技師 増島 文次郎
 特許局事務官 村上 隆吉

第六十一號

北米合衆國オハヨー州フランクリンコラン

請求人

ウイレット、カッセー
ウエルス

北米合衆國オハヨー州フランクリンコラン

請求人

フランク、エルウー
ド、ウエルス

東京市麴町區八重洲町二丁目一番地特許辨理士

右代理人

ウォルター、オーガス
タス、デ、ハピランド

右第三九三八五號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 原査定ヲ破毀ス特許願第三九三八五號石油精製法ハ之ヲ特許スヘキモノトス

申立ノ要領 請求人申立ノ要領ハ特許願第三九三八五號石油精製法ニ對スル明治四十三年九月六日付拒

絶査定ハ不服ニ付不當ナリトノ審決ヲ求ム其理由ハ原査定ニ依レハ本願ノ如ク沸騰點以下ノ溫度ニ於

テ原油ヲ加熱シ吸收瓦斯トシテ空氣ヲ用キ順次ニ油中ヨリ其蒸發シ得ヘキ部分ヲ抽出スルコトハ一九

〇七年英國化學工業雜誌ニ記載セラレ又水素瓦斯ニテ原油ヲ處理スルコトモ公知ニ屬シ又吸收ノ空氣

ハ此ノ如キ低溫度ニ於テハ酸化作用ヲ石油ニ及ホスコトナシトノ理由ニ依リ拒絕セラレタルモ該査定
 ハ本願方法ノ優秀ナル諸點ヲ無視セリ抑本願方法ハ其特徵トスル所ハ原油成分ヲ分解スルコトナク
 シテ之ヲ抽出スルニアリ之カ爲メ其各精製油ハ普通ノ石油ノ如ク褐色ヲ有スルナシ是レ本願ノ方法ニ
 於テ加熱ヲ沸騰點以下ニ制限シ石油ニ化學變化ヲ及サ、ル不變瓦斯ヲ使用スルニ因ルナリ又審査官引
 證ノ一九〇七年英國化學雜誌ノ記事ハ明ニ一九〇六年十月十九日登錄佛國特許第三七〇六〇三號ニ基
 因スルカ如シ而シテ其特許明細書中ニ次ノ記事アリ油ハ蒸溜點以下ノ溫度ニ加熱セラレ揮發性多キ部
 分カ酸化セルトキ空氣ヲ此ノ油中ニ吹込トアリ今本發明ト此ノ特許トヲ比較スルニ第一本發明ハ空氣
 ヲ使用セス依テ本願ニ於テハ蒸溜罐其他之ニ關連スル容器中ノ空氣ハ中性瓦斯ニテ入代ユルコトヲ指
 定セリ第二前記佛國特許ニ於テハ普通ノ空氣ヲ使用シ且此空氣ハ其使用ニ依リ飽和狀態ニ至ル迄含炭
 シ外氣中ニ放出セラル之レ損失ナリトス然ルニ本發明ニ於テハ中性瓦斯ヲ循環的ニ使用スル故此患ナ
 シ第三加熱石油ヲ通シテ空氣ヲ使用スレハ酸化ニ依リ急激ニ石油ノ大部分ヲ「アスファルト」ニ變質シ
 其蒸溜生成物ヲ帶色セシム本願ニ於テハ空氣ニ代ユルニ中性瓦斯ヲ以テスルカ故ニ全然酸化ヲ避クル
 コトヲ得其結果ハ蒸溜生成物ヲシテ最良ノモノタラシム云々ト云フニ在リ
 審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タストノ審決ヲ求ム其理由ハ本願ニ酷似セル石油精製法ハ本願出
 願前公知ニ屬スルニヨリ本願ハ之ヨリ容易ニ爲シ得ヘク從テ何等ノ發明ヲ構成セス請求人ハ空氣ノ作
 用ニ付云々スルモ斯ノ如キ場合ニ於ケル低溫度ニテハ空氣ハ既知ノ方法ニ於ケルカ如ク吸收用氣體ト
 シテ働ク外毫モ油質ニ對シ何等ノ變化ヲ及ホサ、ルハ此等資料ノ性能ノ能ク證明スル所ナリ云々ト云
 フニ在リ

審決ノ理由 本件特許願第三九三八五號石油精製法ニ於テ其主眼トスル所ハ石油ヲ漸次ニ加熱シテ其温

度ヲ上昇シ同時ニ石油ト同温ナル吸收用瓦斯ヲ油中ニ送入シテ石油ノ沸騰點ヨリ低キ温度ニ於テ石油ヨリ蒸氣ヲ發出セシメテ之ヲ凝結シ吸收用瓦斯ハ再ヒ精製罐内ニ還送シ以テ純粹ニシテ何等ノ化學的精製法ヲ施スヲ要セサル石油ノ分階的精製法ナリ又審査官援用ノ一九〇七年英國化學工業雜誌第二五〇頁記載ノ方法ハ礦油ヲ其蒸餾點以下ノ温度ニ熱シ之ニ空氣ヲ吹込ミ以テ發生スル空氣混合ノ石油蒸氣ヲ分離器ニ移シテ其一部ヲ凝結シ尙殘存スル揮發部分ハ之ヲ冷縮器ニ導ク方法ナリ此ノ二者ヲ對比スルニ石油ヲ沸騰點以下ノ温度ニ熱シテ之ヲ蒸餾スルコトハ同一ナルモ前者ハ空氣ヲ使用セサルノミナラス蒸餾ノ始メニ於テ全然之ヲ容器内ヨリ排出シ之ニ代ルニ中性瓦斯ヲ以テシ又之ヲ循環的ニ送入使用スルノ差違アリ此差ハ二者別個ノ方法ト認メ得ヘキナリ審査官ハ水素瓦斯ヲ以テ石油ヲ處理スルコトハ公知ナリト云フモ本願ト同一目的ニ對シ石油ノ精製上水素瓦斯ヲ使用シタルモノアリト云フヘカラス要スルニ本件特許願ハ新規ノ發明ニシテ特許法第一條ニ依リ特許スヘキモノト認ム仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年十一月四日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 高山 甚太郎
 特許局事務官 織田 了
 特許局技師 増島 文次郎

第九十一號

東京市神田區仲猿樂町十七番地

請求人 鈴木 正太郎

東京市神田區裏神保町一番地

被請求人 龜井 忠一

東京市麹町區富土見町五丁目十七番地特許辦理士

右代理人 鈴木 重義

右當事者間ノ第一三九四〇號特許權利確認審判請求事件ニ付明治四十四年一月十七日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ハ不服ニ付キ之ヲ取消シ被請求人ノ製造販賣ニ係ル一ノ接極子ニ打鈴錘ト「コヒーラー」ヲ取付ケ一箇ノ電磁裝置ニ依リ鼓鈴竝ニ「コヒーラー」ニ刺撃ヲ與フ兩働作ヲナス無線電信機ハ第一三九四〇號特許ノ權利範圍ニ屬スルモノトノ審決ヲ求ム其理由ハ本件特許ノ發明タルヤ一接極子ニテ打鈴ト「コヒーラー」トニ刺撃ヲ與フル兩働作ヲナスヲ以テ主要部トナスハ明瞭ニシテ鈴ヲ打鈴錘ノ打撃界ヨリ出入セシムル裝置ハ鈴鳴ノ效果ヲ助クル爲メ設ケタル從タル一部分ニ過キスシテ此ノ鈴ヲ可動セシムル點ヲ結合セサルモ本件特許ノ目的ヲ達スルコトヲ得然ルニ此ノ一接極子ニテ打鈴ト「コヒーラー」トニ刺撃ヲ與フル裝置ヲ以テ本件特許權利ノ權利範圍外トナサハ本件特許ハ從タル一部分ノ爲メニ發明ノ精神ヲ沒却スル結果ヲ來ス特許權ハ此ノ如ク極端ナル狹義ノモノニアラスシテ明細書ニ記載サレタル發明ノ全部ニ對シテ與ヘラレタルモノナリ故ニ同一考案ノ發明カ其一部分ヲ使用スルトキハ該權利ニ撞着スルハ當然ナリ又特許第一三九四〇號電信機ト被請求人カ製造販賣セル裝置トヲ對比スルニ兩者共ニ同一考案ヨリ成ルコト明ナリ只前者ハ可動性ノ鈴ヲ有シ後者ノ鈴ハ固着シタル差アルモ本件特許發明ハ鈴ノ動性不動性如何ニ係ハラス其目的ヲ達スルモノナリ故ニ兩者ハ其ノ主要部分ニ於テ撞着スルモノナリ云々ト云ヒ抗告甲第一號證及第二號證ヲ提出

セリ
抗告審判請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タストノ審決ヲ求ム其理由ハ請求人提出ノ抗告第一號證
ハ被請求人カ明治四十二年六月十七日出願シタル實用新案登録願ニ對スル拒絶査定書ニシテ其ノ理由
ハ新規ノ考案ニアラスト云フモ本件特許ト同一又ハ均等ノモノニアラスシテ普通一般ノモノト解シ強
テ新案權ヲ得ルノ必要ヲ認メス之ヲ拋棄シタリ又原審決ニ依ルモ本件特許ハ全部ノ結果ニ依リ權利ヲ
得タルモノナルコト明ナリ況ンヤ請求人ハ曩ニ本件特許ノ分割ヲ出願シタルモ原審決ト殆ント同一ノ
理由ニテ拒絶査定ヲ受ケタルニ於テヲヤ又甲第二號證ハ別事件ノ審決書ニシテ本件トハ事實ヲ異ニセ
ルヲ以テ辯明ノ要ナシ云々ト云ヒ乙第一號證乃至第五號證ヲ提出セリ

審決ノ理由 請求人所有ノ本件第一三九四〇號鈴木式無線電信機ハ一箇ノ接極子ニテ打鈴ト「コヒーラ
ー」トニ刺撃ヲ與フル兩働作ヲナス裝置ト轉換機ノ可動接觸板ノ一部ニ鈴ヲ取付ケ可動接觸板ト共ニ
移動スル裝置トヨリ成ルコトハ其ノ請求範圍ニ依リ明ナリ而シテ請求人ハ一ノ接極子ニテ打鈴ト「コ
ヒーラー」トニ刺撃ヲ與フル裝置ハ本件特許ノ權利範圍内ナリト主張スルモ斯ル裝置ハ本件特許出願
前〔明治四十一年二月十七日〕輸入セラル帝國內ニ於テ公知ニ屬スルコトハ横濱稅關ノ證明書ニ依リ之
ヲ認メ得ヘキヲ以テ本件特許ノ要部ヲナスモノニアラス然ルニ被請求人ノ製造販賣スル無線電信機ハ
單ニ一箇ノ接極子ニテ打鈴ト「コヒーラー」トニ刺撃ヲ與フル兩働作ヲナス裝置ノミヲ備フルモノニシ
テ本件特許ニ於ケル可動接觸板ト共ニ移動スル鈴ノ裝置ヲ缺如スルヲ以テ本件特許第一三九四〇號ノ
權利範圍ニ屬セサルモノトス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年十一月六日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 五十嵐 秀 助

特許局事務官 織 田 了
特許局技師 增 島 文 次 郎

第二百四十號

奈良縣南葛城郡御所町大字御所百七十八番邸 請 求 人 奥 野 治 平
大阪市東區南本町二丁目百五十二番邸 請 求 人 山 田 政 治 郎
大阪市東區備後町二丁目三十六番地特許辦理士 右 代 理 人 堤 他 彦
大阪東區瓦町四丁目六十一番地 被 請 求 人 武 田 竹 三 郎
大阪市東區瓦町一丁目五番地特許辦理士 右 代 理 人 廣 井 代 藏

右當事者間ノ第一六四八七號特許權利確認審判請求事件ニ付明治四十四五月三十日當局ニ於テ爲シタル
審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ
主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス
申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀ス甲第一號證帶芯製造法ハ第一六四八七號特許
ノ權利範圍ニ屬セス審判費用ハ被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ甲第一號證帶芯ノ製造
法ハ普通ノ煮糊ト「ゼラチン」液トノ混合糊若クハ普通ノ煮糊ノミヲ滲着セシメタル綿絲ヲ經緯ニ用キ
テ組織シタル織物ノ兩面ヲ起毛シ後水分ヲ附與シ熱ヲ利用シテ乾燥セシムル方法ナリ之ヲ本件特許ノ
方法ニ比スルニ綿絲ニ糊ヲ滲着シ起毛後水分ヲ與ヘ熱ヲ用キテ乾燥スル點ニ於テハ兩者共ニ同一ナリ

ト雖本件特許ノ主眼トスル所ハ糊ノ原料ヲ用フルニアリテ其ノ結果ノ水分ヲ與ヘ次テ熱ヲ與フルコトニ依リ糊原料ハ煮糊ノ如ク變化シ其ノ冷却凝固ニ依リ地質ヲ堅韌ナラシメ併セテ起毛ノ根元ヲ強固ニナシテ脱毛ナカラシムルニ在リ請求人實施ノ方法ニ於テハ之ヲ使用スル煮糊ト「ゼラチン」トハ何レモ液體ナルカ故ニ起毛液ノ水分ト熱トヲ與フルモ起毛ニ依リ幾分喪失シタル堅韌ヲ復活スルノミニシテ起毛前ヨリ堅韌ノ度ヲ高ムルコトナシ之ニ反シテ特許ノ方法ハ起毛後ハ一層堅韌トナリ所期ノ目的ヲ遂行シ得ルモノナリ要スルニ本件特許ノ範圍ハ糊原料ヲ煮糊ト混スルト否トニ依リ決セラル、モノニシテ其原料ヲ混セサル請求人使用ノ方法ノ如キハ全然別個ノ方法ナリト信ス又被請求人ハ本訴ハ原審ト其ノ主張ノ趣旨ヲ異ニセルモノニシテ所謂訴ノ原因ヲ變更シタル不合法ノ訴訟ナリト論セルモ起毛後水蒸氣ヲ與ヘテ後乾燥スルト水分ヲ與ヘ後熱ヲ利用シテ乾燥スルトキ敢テ逕庭アルナシ二者互ニ方法ヲ異ニスト論争スヘキ程ノ價值ナキモノナレハ事實ニ差異アルモノト云フヘカラス云々ト云フニ在リ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ第一本件請求ハ不合法ナリ何トナレハ請求人ハ原審ニ於テハ起毛ノ工程ニ付キ「水蒸氣ヲ與ヘ以テ一旦起毛作用ニテ柔軟トナリタル纖維ヲシテ韌性ニ回復セシムル方法」ナリト主張シタルニモ拘ハラズ本審ニ於テハ「水分ヲ附與シ後熱ヲ利用シテ乾燥セシムル方法」ナリト云ヘリ約言スレハ前者ハ起毛布ニ水蒸氣ヲ與ヘテ韌性ニ回復セシムルノ方法ナリシニ後者ハ起毛布ニ水分ヲ與ヘ後熱ヲ利用シテ乾燥セシムルノ方法トナレリ故ニ兩者ノ對照上其ノ主張ノ趣旨ヲ異ニセルコト明白ニシテ所謂訴ノ原因ヲ變更シタルモノナリ從テ本件請求ハ不合法ニシテ却下相成ルヘキモノト信ス第二請求人主張ノ如ク糊ヲ施スノ手段ト水分ト熱トノ作用ニ依ル手段トヲ分割シテ本件特許ヲ觀察スヘキニアラス帶芯

ノ製造法トシテ包括的ニ之ヲ觀察シテ始メテ本件特許ノ權利範圍ヲ認識スルコトヲ得ヘキナリ經緯絲ニ糊ヲ滲着セシムルコトモ或ハ公知ノコトナラン或ハ織物ニ水氣ヲ與ヘ熱ノ作用ヲ利用スルコトモ公知ノコトナラン然レトモ此ノ兩者ヲ結合シテ特殊ノ帶芯製造法ナルモノハ未タ公知公用ノモノニアラサルナリ從テ其ノ各部分ヲ捉ヘテ一々之レヲ吟味シ論斷スルカ如キハ本件特許ニ當ラサルナリ要スルニ請求人實施ノ方法ハ其ノ目的及手段ニ於テ本件特許ノ方法ト毫モ逕庭アルナシ云々ト云ヒ乙第一號證ヲ提出セリ

審決ノ理由 被請求人ハ請求人カ原審ニ於テハ起毛布ニ水蒸氣ヲ與ヘテ韌性ニ回復セシムル方法ナリト云ヒ本審ニ於テハ起毛布ニ水分ヲ與ヘ後熱ヲ利用シテ乾燥セシムル方法ナリト云フハ訴ノ原因ヲ變更シタルモノナリト主張スルモ本件係争ノ方法ニ關シ之ヲ見ルニ二者均等ノ方法ト認メ得ヘキモノニシテ訴ノ原因ヲ變更シタルモノト云フヘカラス仍リテ案スルニ本件特許第一六四八七號ノ起毛織物製造法ハ水氣ト熱トニ依リ糊トナルヘキ糊原料ニ普通ノ糊ヲ加ヘタル混和資料ヲ綿絲ニ浸着セシメ之ヲ經緯絲トシ又ハ此ノ經緯絲中ニ他ノ普通ノ絲ヲ加ヘテ織布トナシ或ハ普通ノ絲ヲ製織シタル後其ノ織布ニ前記混和資料ヲ浸着セシメ後之ヲ起毛シ水氣ヲ與ヘ更ニ之レヲ蒸氣中ニ通シテ織布ヲ一帯ニ糊結シ起毛ノ根元ヲ右糊ニテ織布地ニ緊着セシムヘキモノナルコトハ其ノ請求範圍ニ依リ明ナリ又請求人カ使用スル甲第一號證帶芯ノ製造法ハ煮糊ト「ゼラチン」トノ混合糊若クハ普通ノ煮糊ノミヲ滲着セシメタル綿絲ヲ經緯ニ用キテ織リタル織物ノ兩面ヲ起毛シ後水分ヲ附與シ熱ヲ利用シテ乾燥セシムル方法ナルコトハ請求人ノ主張ニ依リ明ナリ此ノ二者ヲ對比スルニ本件特許ノ要部ハ糊原料ト糊トノ混和資料ヲ浸着シタルノ織布ニ水氣ヲ與ヘ後蒸氣中ニ通シテ糊原料ヲ糊化シ其ノ作用ニ依リ起毛ノ根元ヲ織布地ニ固ク緊着セシムルモノナリ然ルニ請求人カ使用スル方法ニ於テハ煮糊ト「ゼラチン」トヲ使用

スルモ斯ル資料ハ水氣ト熱トニ依リ軟化シテ糊ノ性狀ヲ現ハシ冷却スレハ凝固シ毛根ヲ布地ニ緊着スルモノニシテ其ノ作用本件特許ノ糊料ヲ使用スルト均等ノ效果ヲ奏スルモノト認メ得ヘク從テ請求人カ使用スル方法ハ本件特許ノ方法ト同一考案ヨリ成ルモノト云ハサルヘカラス故ニ請求人ノ使用スル甲第一號證帶芯ノ製造法ハ特許第一六四八七號起毛織物製造法ノ權利範圍ニ屬ス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年十一月七日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 大竹 多氣
特許局技師 増島 文次郎
特許局事務官 村上 隆吉

第七十三號

大阪市西區京町通五丁目四番地
大阪市北區木幡町五十九番地
東京府豊多摩郡澁谷町大字中澁谷四百二番地

請求人 川村 徳兵衛
右代理人 横見 琪二
被請求人 日高 榮三郎

右當事者間ノ第一三六四六號特許無效審判請求事件ニ付明治四十三年十月三十一日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

審判費用及抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀ス抗告審判被請求人ノ申立相立タス審判費用ハ總テ抗告審判被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由トスル所ハ第一「タンニン」質物ト銅鹽トヲ以テ漁網ト帆布トヲ處理シタリトセンニ「タンニン」銅カ纖維上ニ固着サルコトハ漁網ト帆布ト至ク同一ニシテ何等ノ差異ナカルヘク帆布ヲ海水中ニ浸セハ防介防腐ノ效果ヲ達スルコト漁網ト同一ナルヘク漁網ヲ空氣中ニ曝セハ防水防腐ノ效果帆布ト同一ナルヤ疑ナシ此ノ兩者ハ使用ノ場合ニ異ニスルノミニシテ其ノ結果ニ於テハ同一資料ニ依リ處理セラレタルモノナレハ效果上差異アルヘキ理由ナシ若シ原審決ノ理由ヲ擴張スルトキハ同一ノ方法モ意思ヲ異ニスレハ別個ノ方法ナリト云フ不合理ニ歸着スヘシ第二原審第二號證ニ於テ網染料トシテ「タンニン」質物ト「クロム」鹽類ヲ使用スルコトヲ記載セリ「クロム」ノ鹽類ヲ銅ノ鹽類ニ代フルカ如キハ資料撰擇上ノ差異ニ過キス第三假リニ銅鹽カ特ニ介藻類ノ附着有機物ノ害ヲ除去スル效果アリトスルモ斯クノ如キ效果ハ已ニ船底塗料ニ於テ普通ニ知ラルル所ニシテ博文館發行工業叢書「ペイント」製造及検査法百五十頁一五十七頁及特許一一三〇八號一一二九六號等ハ其ノ例證ナリ故ニ特許第一三六四六號ノ方法即チ「タンニン」質物ト銅鹽類ニ依リ漁網ヲ處理スル方法ハ其出願前ヨリ公知ニ屬シタル甲第二號證ノ記載ト帆布ノ處理法及船底塗料トノ三手段ヲ綜合シテ何人モ容易ニ遂行シ得ヘキ方法ニシテ何等發明ヲ構成セサルモノト信ス云々ト云ヒ抗甲第一號證乃至第五號證ヲ提出シ又證人訊問ノ申請ヲナセリ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タス審判費用ハ總テ抗告審判請求人ノ負擔トスト審決ヲ求メ其理由ハ請求人主張ノ第一第二ノ兩項ハ原審決ニ對スル不服抗議ニ屬シ被請求人ノ主張ト相關スル處甚薄ク敢テ答辯ノ要ナキニ似タルモ請求人カ(一)空氣中ニ於テ他ノ物質ノ受クル化學的作用ハ水中ニテ受クル場合ト同一ナリ(二)空氣中ニ於ケル微生物ノ種類及作用ハ水中ニ於ケル夫レト同一ナリト

認定シタルハ化學上並ニ微菌學上ノ知識ヲ缺キタル暴論ナリ又公知ノ例トシテ掲ケタル「ペイント」ハ塗料ナリ然ルニ被請求人ノ方法ハ甲乙異劑ヲ別個ニ使用シ纖維ノ實質内ニ於テ始メテ「タンニン」酸銅ノ沈澱ヲ生セシムル方法ニシテ前者ト後者トノ間ニ於ケル防腐效力並ニ腐敗ニ對スル抵抗能力ニ關シテハ多大ノ相違アリ又請求人ハ材料均シキトキハ之ヲ使用スル方法ハ如何ニ異ナルモ新規ノ發明ヲ構成スルモノニアラスト爲スニ似タリ其ノ謬見タルヤ素ヨリ論ナシ云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 請求人ハ「タンニン」銅ヲ沈澱セシメタル帆布ヲ海水中ニ浸スモ防介防腐ノ效果ヲ達スルコトハ漁網ト同一ナルヤ疑ナシト主張スルモ斯ル主張ハ「タンニン」銅ヲ沈澱セシメタル漁網カ海水ニ對シ防腐耐久ノ效果アルヲ見テ帆布ニモ同一藥品ヲ沈澱セシムレハ同一效果ヲ奏スルモノナルヘシトノ單ナル推定ニ過キスシテ果シテ同一效果アルヤ否ヤハ之ヲ斷定スルコト能ハス况ンヤ請求人カ主張スル甲第二號證記載ノ方法ハ「タンニン」銅ヲ帆布ニ沈澱セシムルノミナラス尙重「クロム」酸加里液ニテ處理スルモノニシテ本件特許ノ方法ト同一ナルモノニアラス故ニ此ノ點ニ關スル請求人ノ主張ハ不當ナリ又請求人ハ網染料トシテ「クロム」鹽ノ代リニ銅鹽ヲ使用スルコトハ資料撰擇上ノ差異ニ過キズト云フモ「クロム」鹽ト銅鹽トハ全然化學上ノ性質作用ヲ異ニシ從テ其效果同シカラサルヲ以テ之ヲ資料撰擇上差異ト認ムルコト能ハス又請求人ハ銅鹽ハ介藻ノ附着ヲ防止スル爲メ船底塗料ニ於テ普通ニ使用セラル、モノナリト主張スルモ本件特許ハ「タンニン」ト銅トヲ漁網ニ沈澱セシムル方法ニシテ船底塗料トハ其目的及效果ヲ異ニスルヲ以テ銅鹽ヲ含有スル船底塗料カ本件特許出願前ヨリ公知ニ屬スルモノトスルモ本件特許ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及スモノニアラス要スルニ本件特許ハ其明細書ニ記載スル目的ヲ達スル爲メ「タンニン」銅鹽トヲ以テ網及網絲上ニ「タンニン」銅ヲ化成セシムル方法ニシテ請求人モ原審ニ提出シタル甲第二號證記載ノ方法及船底塗料カ本件特許出願前公然知ラレタルモノナリ

トスルモ本件特許ヲ無効トナス理由トスルニ足ラス其ノ他ノ當事者間互ニ相爭フ所アルモ本件審決ニ關係ナキヲ以テ之ヲ説明セズ仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年十一月八日於特許局

審判長 特許局技師藥學博士 田原良純
特許局事務官 織田了
特許局技師 増島文次郎

第百九十號

請求人 川口治之丞
右代理人 太田資時
被請求人 乙部俊次
右代表者 合資會社粟辻商店
右代理人 粟辻彌吉
右代理人 木戸傳
右代理人 市川寛
東京市淺草區駒形町四十三番地
東京市京橋區山崎町十四番地特許辦理士
東京市京橋區木挽町十丁目八番地特許辦理士
京都市下京區河原町通三條南入二丁目山崎町二百五十一番地
東京市京橋區采女町二十七番地特許辦理士
東京市京橋區采女町二十七番地特許辦理士

右當事者間ノ第九二〇號特許無効審判請求事件ニ付明治四十四年一月二十七日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破棄シ第九一〇號精米機ノ特許ハ之ヲ無効トス審判及抗告審判ノ費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ第一抗告審判被請求人カ第一審ニ於テ本件特許發明ノ要旨トシテ主張スル所ハ其權利ヲ擴大セルモノニシテ全ク事實ニ沿ハサル誣妄ノモノナリ本件特許發明ニ於ケル廻旋羽ハ漸次頭部ニ向ヒ其經ヲ縮少シテ頂點ヲ尖ラシメタルモノニ限ルニアラス其頭部ノ徑ト脚部ノ徑トハ同一ナルモ妨ナシ又該廻旋羽ハ白ノ中心ニ於テ直立ニ具フルコトヲ要スルモ其誘導裝置ハ或ハ之ヲ頭部ニ附設シ或ハ之ヲ底部ニ附設スルモ其發明ノ精神ヲ變更スルモノニアラス然ルニ原審ニ於テ本件特許發明ノ要旨ヲ被請求人ノ主張ノ如ク認メタルハ誤判ノ甚シキモノナリ第二本件特許精米機ノ主眼ハ白ト廻旋羽ノ組合ニ在リ然レトモ内部ヲ滑澤ニシテ底部ヲ凸形ニシタル截頭卵圓形ノ白ハ公知ノ構造ニ屬スルコト甲號各證ノ立證スル所ナリ即チ甲第二號及甲第三號證ノ一、三、四ニヨリ本件特許出願以前既ニ公知ニ屬スル所ノモノナリ且其各證ニ記載スル所ノ效用モ本件特許明細書ニ記載スル所ト全然同一ニシテ殆ント區別ナシ又米臼ノ中心ニ螺錐狀ノ廻旋羽ヲ具フルコトモ亦甲號各證ニ於テ見ル所ナリ而シテ其效用本件特許ノ螺錐狀廻旋羽ト相違スル所ナシ故ニ是レ亦本件特許出願前公知ニ屬スルモノナルコト爭フヘカラス假リニ一步ヲ讓リ本件特許ノ螺錐狀ノ廻旋羽ハ其明細書ニ依ラスシテ被請求人主眼ノ如クナリトナスモ既ニ甲第二號證甲第三號證ノ三、四ニ於ケル螺錐等ノ構造ト效用トヲ知悉スル當業者ハ漸次頭部ニ向ヒ其ノ徑ヲ縮少シテ頂點ヲ尖ラシタル螺錐狀ノ廻旋羽ヲ推考スルコト最モ容易ナリ况ンヤ甲第五號證ノ一、二、三及甲第六號證等ニ於ケル螺錐狀廻旋機ノ既ニ公知ニ屬スルニ於テオヤ去レハ上記ノ如キ公知ニ屬スル白ト廻旋羽ヲ

組合ハスルモ何等新規ノ發明ヲナスモノニアラス唯甲第二號證及甲第三號證ノ三、四ニ對シ少シク設計上ノ形狀ヲ變化セシメタルニ止マレリ故ニ本件特許ハ特許法第四條第一號及第二號ニ該當シ同法第一條ニ依リ特許ヲ受クルヲ得サルモノニシテ其特許ハ無効トスヘキモノナリ云々ト云フニ在リ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ抗告審判請求人ノ申立相立タストノ審決ヲ求ム其理由ハ第一原審ニ於テ被請求人カ主張スル所ハ決シテ特許權利ヲ擴大シタルモノニアラス或ハ事實ヲ曲ケタルモノニモアラス本件特許明細書中何レノ部分ニ於テモ廻旋羽ノ記載ニ關シテハ常ニ螺錐狀ナル形容詞ヲ冠シ添附圖面ヲ參照スルトキハ廻旋羽ナルモノハ下部ヨリ漸次頭部ニ向ツテ其徑ヲ縮少シ頭部一點ニ尖レル螺錐狀ノ構造ヲ示スコト一點ノ疑ナシ故ニ本件特許發明ニ於ケル廻旋螺錐器ノ形狀構造ハ必ズ錐狀ニ限定スルコト一モ疑フヘキナシ錐狀ナル文字ハ當然先端ノ尖レルヲ意味シ圓錐形角錐形ニ於ケルト同一ナリ故ニ原審ニ於ケル被請求人ノ主張ハ毫モ發明ヲ擴大セス又事實ニ沿ハサル誣妄ニモアラス從テ之ヲ認メタル原審決ハ決シテ不當ニアラス第二、本件特許精米機ニ於ケル廻旋器ハ甲號各證ニ使用セラレタル首尾同大ナルモノ又ハ推進翼狀ノモノ等トハ全ク異ナルノミナラス該螺錐狀廻旋器ト明細書所記ノ白トノ結合ハ精米機トシテ特殊ノ效果ヲ奏スルコト明白ナルヲ以テ此結合的構造ヲ新規ト認メタル原審決ハ不當ノモノニアラスト信ス尙甲第五號證一、二、三及甲第六號證ノ螺錐器ハ何レモ煉瓦、瓦等ノ製造ニ供用セラル、土捏機若ハ其部分ニ過キスシテ玄米ノ精白ヲ主眼トスル本件特許精米機トハ何等ノ交渉ヲ有セスシテ探ルニ足ラス而シテ本件特許ノ精米機ハ單ニ廻旋機ノ作用ニ依リ穀粒ヲ臼内ニ循環セシムルコトノミヲ以テ新規トナセルニアラスシテ其循環ノ狀態ニ特殊ノ便益ヲ與ヘ以テ精白ノ效果ヲ促進スル如ク構造セルヲ要旨トナスモノナルカ故ニ甲號各證ヨリ容易ニ推考シ得ヘキモノニアラス云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 本件係争ノ特許第九一二〇號精米機ノ發明ノ要旨トスル所ハ明細書中特許請求範圍ニ記載セル所ニ他ナラス而シテ抗告審判請求人ト同被請求人トノ間ニ於テ其解釋ニツキ意見ヲ異ニスト雖該請求範圍中ニ記載セル廻旋羽ハ其形狀螺錐狀ナル特殊ノモノニシテ普通ノ螺錐狀ナラサルハ之ヲ本件特許出願ニ關スル書類ニ生スルモ又ハ錐狀ナル普通用語ノ意義ヨリスルモ之ヲ認ムルニ足レリ而テ本件特許發明ハ此ノ如キ特殊形狀ノ廻旋羽ト特定構造ノ曰ト相俟テ穀粒ノ精白ヲ良好ナラシムルモノナルカ故ニ本件特許出願前單ニ曰其物ノ構造ノ公知ニ屬スル事實アルモ或ハ精米機ト全然其性質ヲ異ニセル他機械ニ應用セラレタル螺錐狀ノ廻旋羽ノ公知ニ屬スル事實アルモ以テ本件特許發明ヲ新規ナラストナスニ足ラス而シテ甲號各證ハ一モ本件特許ニ於ケル螺錐狀ノ廻旋羽ト特定構造ノ曰トヲ組合セタルモノニアラス故ニ本件特許ヲ以テ其出願前公知ニ屬セリトナス證據十分ナラストス尙本件特許ニ於ケル穀粒ノ循環ハ特ニ螺錐狀廻旋羽アリテ能ク達シ得ヘキ狀態ニシテ普通ノ螺錐狀ヲ廻旋羽ニ有シ得ラレサル特殊ノモノナルヲ以テ甲號各證ノ精米機ヨリ本件特許發明ヲ推考シ得ヘシトナス請求人ノ主張ハ其當ヲ得ス故ニ原審決ハ正當ニシテ請求人ノ申立ハ其理由ナキモノト認ム仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年十二月二日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 阪田 貞一
 特許局技師 湯淺 藤市郎
 特許局事務官 村山 小次郎

第九十二號

東京市淺草區駒形町四十三番地 請求人 川口 治之丞
 東京市京橋區山城町十四番地特許辦理士 右代理人 太田 資時
 東京市京橋區木挽町十丁目八番地特許辦理士 右代理人 乙部 俊次
 京都市下京區河原町通三條南入二丁目山崎町二百五十一番地 被請求人 合資會社粟辻商店
 右代表者 粟辻 彌吉
 東京市京橋區采女町二十七番地特許辦理士 右代理人 木 戶 傳
 東京市京橋區采女町二十七番地特許辦理士 右代理人 市 川 寬

右當事者間ノ第九一二〇號特許權利確認審判請求事件ニ付明治四十四年一月二十七日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス
 抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀シ抗告審判被請求人ノ申立相立タス審判及抗告審判ノ費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ抗告審判請求人ハ登錄第九六六八號實用新案ノ精米機ノ製造販賣ヲナシ來リタルモノニシテ之ヲ甲第一號證ノ精米機ト比較スルニ單ニ傳動機構タル附隨ノ設計ニ於ケル變化アルニ過キス然ルニ今抗告審判被請求人ノ第九一二〇號特許精米機ヲ見レハ前記第九六六八號實用新案ノ精米機トハ全然其構造ヲ異ニスルコト明カナルニ依リ本件

特許權利ニ對シ毫末モ撞着ヲ來スヘキ理由ナシ然ルニ原審決ニ於テハ何等適法ナル理由ヲ說示セサルハ不當ナリ又假リニ甲第一號證ノ精密機ハ登錄第九六八號實用新案ノ精密機トハ其構造ヲ異ニスルモノトスルモ甲第一號證ノ精密機ハ本件特許ト撞着スルモノニアラス何トナレハ本件特許ニ於ケル廻旋羽ノ構造ハ單ニ螺錐狀タルコトヲ要スルニ止マリ原審決ニ云フ如ク漸次頭部ニ向ヒ其徑ヲ縮少シテ頂點ヲ尖ラシメタル構造ニ付テハ特許ノ保護ヲ請求シタル記事アルコトナシ又廻旋羽ノ裝置方法ハ白ノ中心ニ於テ直立ニ具フルコトヲ要スルニ止マリ毫モ廻旋羽ノ頂點ヲ上向ニシテ白底ニ裝置スルコトハ特許ノ保護ヲ要求スル所ニアラス請求範圍ニ記載ナキ機構ハ特許權利ノ撞着ト否トヲ審判スヘキ憑據トナルヘキモノニアラス原審決カ本件特許精密機ノ發明ノ要部ヲ誤解シ此見地ニ於テ請求人カ製造販賣スル精密機ヲ本件特許權利ノ範圍ニ屬スト審決セルハ根底ニ於テ錯誤アルモノニシテ不當ナリ云々ト云フニ在リ

原告審判被請求人申立ノ要領ハ被告審判請求人ノ申立相立タス被告審判費用ハ被告審判請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ第一本件審判ハ既ニ原審決理由ノ冒頭ニ說示セラレタル如ク被請求人ノ提出セル甲第一號證精密機ト特許第九一二〇號精密機トノ間ニ於ケル爭ナレハ前記兩者ノ異同ヲ辨セハ全ク事足ルヘク假令請求人ノ主張ノ如ク甲第一號證精密機カ登錄第九六八號實用新案ノ製品ナリトスルモ將タ然ラストスルモ本件審判中ニ該實用新案ヲ介入セシムヘキ性質ノモノニアラス故ニ原審決ハ其本案タル甲第一號證カ本件特許ノ權利範圍ニ屬スルヤ否ヤヲ甲第一號證自體ニ付キ闡明セル結果之ヲ本件特許ノ權利内ニ屬スルモノト審決セシモノニシテ極メテ適法ノモノナリ第二本件特許詳細書ノ何レノ部分ニ於テモ廻旋羽ノ構造ニ關シテハ常ニ螺錐狀ナル形容詞ヲ附シ殊ニ添附圖面ヲ援用シテ之ヲ明瞭ナラシメ又軸ハ白底ナル孔ヲ貫通シテ白下へ突出セシメタルコトヲ說明シ添附圖面ト相俟

テ當然原審決所記ノ構造ヲ本件特許發明ノ要部トナセルコト明ナリ而シテ請求人ノ製作販賣セル甲第一號證精密機ハ白ト螺錐狀廻旋羽ト該羽ヲ支持スル心軸トノ組合ニ關シ本件特許ト全然同一ノ構造ヲ具フルカ故ニ其權利範圍ニ屬スルコト極メテ明ナリ云々ト云フニ在リ

審決ノ理由

被告審判被請求人ノ提出ニ係ル甲第一號證精密機ハ被告審判請求人ニ於テ製造販賣スルモノタルコト爭ナキ所ナルヲ以テ其甲第一號證精密機ト特許第九一二〇號精密機トノ權利範圍ニ屬スルヤ否ヤヲ審按スルニ第九一二〇號精密機ノ特許請求範圍トスル「内部極メテ滑澤ニシテ底部ヲ凸形ニナシ全體ハ截頭卵圓形トナセル白ノ中心ニ螺錐狀ノ廻旋羽ヲ直立ニ具ヘ該廻旋羽ハ調節器ニ依リテ上下適度ニ定着スヘクシ適宜ノ原動裝置ニ依リ運轉スヘクセル構造」ト甲第一號證精密機ニ於ケル内部滑澤ニシテ底部ヲ凸形トナシ全體ハ截頭卵圓形トナセル白ノ中心ニ螺錐狀ノ廻旋羽ヲ直立ニ裝置シ適宜ノ原動裝置ニ依リ運轉スヘクナセル構造トハ全然相一致シ唯前者ニ在リテ廻旋羽ノ上下適度ノ所ニ定着スルヲ得ヘクナセルヲ異ナレリトナスト雖モ此ノ如キハ附隨ノ工程ニシテ權利ノ消長ヲナスモノニアラサルカ故ニ甲第一號證精密機ハ特許第九一二〇號ノ權利範圍ニ屬スヘキモノニシテ原審決ハ不當ニアラス請求人ハ螺錐狀ノ意義ニ付キテ論スル所アレトモ螺錐狀ニシテ且錐狀ナルヲ螺錐狀ト稱スヘキハ普通用語ノ解釋ニシテ單ニ螺錐狀ト稱スルモノト同一ナラサルハ當然ナルノミナラス特許第九一二〇號精密機ノ出願書類ニ徵スルモ明細書及圖面ニ徵スルモ疑ヲ容ルヘキニアラス又廻旋羽ノ裝置方法モ白底ヲ貫通シテ心軸ヲ直立ニ設クルノミナラス廻旋羽ノ頂點ヲ上向ニシテ白底ニ裝置セルコト明細書及圖面ニ明示セル所ニシテ本件特許ノ權利ハ此ノ如キ裝置ヲ除外スヘキ記事アルコトナシ又甲第一號證精密機ニ於テ前記構造ノ他ニ心軸ヲ上下スル構造ヲ具フレトモ之カ爲メニ前記構造カ本件特許ニ於ケル構造ト同一ナルヲ妨グルモノニアラス從テ心軸上下裝置ノ有無ハ本件權利範圍ノ確認ニ何等

ノ影響ナシ其他當事者双方ニ於テ論辯スル所アレトモ本件審決ニ必要ナキヲ以テ之ヲ略シ主文ノ如ク
審決ス

明治四十四年十二月二日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 阪田 貞一
特許局技師 湯淺 藤市郎
特許局事務官 村山 小次郎

第二百五十六號

北米合衆國ニユージュアシー州ニユージュアーク市

請求人

セ、インターナショナル、メ
タル、プロダクツ、コンパ
ニー

右代表者

アール、シー、ヒリ
フス

東京市麹町區八重洲町一丁目一番地特許辨理士

右代理人

ウォルター、オーガス
タス、デ、ハピラント

右第五〇五號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ第五〇五號特許願鐵製造法ニ對スル明治四十四年七月四
日附拒絕再査定ハ不當ナリトノ審決ヲ求ム其理由ハ本願ハ明細書ニ記載スル如ク一回ノ連續處理ニ依

リ純良ノ鐵ヲ製出スルニアリテ凡テ此等ノ方法ニ於テハ其加熱溫度原料等ノ外其處理ノ如何ニ依リテ
製出物ヲ異ニス本願ノ如ク殆ント純鐵ニ近キ製出物ヲ得ル方法ハ審査官引證ノ書籍ノ如キ零碎的ノ記
事ヨリ推知シ實施シ得ルモノニアラス云々ト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タストノ審決ヲ求メ其理由ハ本願ハ再査定書ヲ引例説明シタル如
ク既知ノ事項ヨリ特考ヲ要セスシテ當業者ノ易々爲シ得ヘク單ニ當然公知ノ作用ヲ示シタル外何等特
殊ノ新效果ヲ呈スルナク發明ヲ構成セス云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 本件第五〇五號特許願鐵製造法ハ其ノ明細書ニ依レハ強力鹽基性式開爐ニ銑鐵及鋼屑
ト石灰又ハ石灰石トヲ投入シ軟鋼製造ニ要スルヨリ永キ時間熱シ最後ニ其ノ溫度ヲ華氏二千八百五十
度ニ高メ之ニ還元劑ヲ加ヘテ脫酸シ型ニ注入スル方法ナリ然ルニ斯ル方法ハ本件特許出願前帝國内ニ
頒布セラレタル審査官援用ノ一九〇八年出版ノ米書「ブラッドレー、スタウトン」著鐵及鋼ノ冶金術ニ容
易ニ應用スルコトヲ得ル程度ニ記載セラル、ヲ以テ本件特許願ハ特許法第四條第二號ニ該當シ新規ノ
發明ヲ構成セス從テ特許法第一條ニ該當セサルモノトス請求人ハ炭素硫黃等ノ總計〇、一四「パーセン
ト」以下酸素〇、〇五「パーセント」及鐵九九、八〇「パーセント」ヨリ成ル鍛鐵ハ開爐ニテ製出スルコト
ハ豫期セラレスト主張スルモ是熱ノ當然ノ作用ニ基因スル結果ニ外ナラスシテ灼熱時間ノ長短ハ當業
者任意ノ操作ニシテ之カ爲メ新規ノ發明ヲ構成セス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年十二月四日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 高山 甚太郎
特許局技師 増島 文次郎
特許局事務官 田中 鐵二郎

瑞典國ストックホルム市タイムルマンズカタンニ番

請 求 人

バー、オロフ、ムデイ

東京市麴町區八重洲町一丁目一番地特許辦理士

右 代 理 人

ウオルター、オーガス
タス、デ、ハビラント

右第五六三八一號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主 文 抗告審判請求人ノ申立相立タス

申立ノ要領

抗告審判請求人申立ノ要領ハ明治四十四年七月十一日付願書番號第五六三八一號空氣等ノ

壓搾機特許願拒絕再査定ハ不服ニ付審判ノ上特許スヘシトノ審決ヲ求ム其理由ハ審査官ハ本願ノ如ク
壓搾機ノ氣嚢ノ側壁ニ瓦斯ノ吸込ミノ便ニ供セル孔ヲ有スル構造ノ壓搾機ハ一千八百九十年英國特許
第二八一號ニ依リ公知ニ屬シ又低壓氣嚢ト高壓氣嚢トノ間ニ溜氣室ヲ設クルコトモ公知ニ屬スルヲ
以テ新規ナル發明ニアラスト云フト雖モ本願ノ特許ヲ請求スル新規ナル點ハ瓦斯ノ吸入口ヲ有スル低
壓氣嚢ト高壓氣嚢ト溜氣室トノ組合ニシテ此等ノ組合セニヨリ高壓氣嚢ヨリ壓搾シテ送り出ス所ノ壓
搾空氣ノ分量ニ過不及ヲ起サ、ラシメ及ヒ高壓氣嚢ニ於テ過大ノ熱ヲ生スル憂ナカラシムル等ノ利益
アリ即チ之ヲ構成スル處ノ要素カ已ニ公知ナリト雖モ其組合セカ新規ナル效果ヲ來スヲ以テ之ヲ發明
ナリト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決相成度其理由ハ本願ノ如ク壓搾機ノ供給スル壓搾空氣
ノ量ヲ一定ナラシムル目的ヲ以テ壓搾機ノ氣嚢ノ側壁ニ吸入口ヲ有スル構造ノモノハ一千八百九十年
英國特許第二八一號ニ據リ已ニ公知ニ屬シ又高低兩壓搾機ノ間ニ一ノ溜氣室ヲ設ケ以テ壓力ノ急激

ナル變化ヲ調整セントノ考案ノ如キモ普通ニ行ハル、處ニシテ本願ニ於テハ此等二ツノ考案ヲ綜合シ
タルモノナレトモ斯ノ如キハ當業者ノ容易ニ案出シ得ヘキ事ナルヲ以テ之ヲ新規ノ發明ト認ムルヲ得
ス從テ特許法第一條ニ該當セスト云フニ在リ

審決ノ理由 抗告審判請求人ノ出願ニ係ル願書第五六三八一號空氣等ノ壓搾機ハ低壓及高壓氣嚢ヲ有ス
ル聯成壓搾機ニシテ其兩氣嚢ノ間ニ一ノ溜氣室ヲ有シ而シテ低壓氣嚢ニ於テ吸入瓣ノ在ル所ヨリ反對
ノ衝程ノ端ニ於テ嚢壁ニ吸入口ヲ有スル構造ノモノナリ此吸收口ノ設備ニ依リ低壓氣嚢ニ於テ「ピス
トン」カ吸入ノ衝程ヲ爲シ遂ケタル時吸入瓣ヨリ進入スル空氣ノ不足ヲ補ヒ以テ其嚢内ニ常ニ一定
量ノ空氣ヲ合蓄セシメテ之ヲ壓搾シ低壓嚢ヨリ高壓嚢ヘ常ニ一定量ノ空氣ヲ供給セントノ考案ニ成ル
モノナリ然ルニ嚢壁ニ吸入口ヲ設ケ其ヨリ進入スル空氣ニテ吸入瓣ヨリ進入スル空氣ノ分量ノ不足ヲ
補ヒ以テ壓搾空氣ノ量ヲ一定ナラシムルノ考案ハ審査官援用ノ一千八百九十年英國特許第二八一號
ト均等ニシテ本願ハ之ヲ在來已ニ公知ノ溜氣室ヲ有スル聯成壓搾機ノ低壓氣嚢ニ適用シタルニ過キス
而シテ其目的モ亦該英國特許ト同様ニシテ吸入口ヲ有スル壓搾機ヨリ空氣ノ供給量ヲ略一定ト
ナラシムルニ在リ故ニ本願ノ如キ組合セハ當業者ノ容易ニ成シ得ル設計ニシテ新規ナル效果ヲ奏ス
ルモノト認ムル能ハス從テ審査官カ本願ハ特許法第一條ニ該當セストシテ拒絕シタルハ不當ニアラス
仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年十二月七日於特許局

審判長 特許局技師工學博士男爵 斯波忠三郎
特許局技師 增島文次郎
特許局事務官 田中鐵二郎
百五十五

第二百六十二號

山形縣西田川郡鶴岡町寶町甲二十六番地

請求人 齋藤 外市

百五十六

右第五〇八六號特許願拒絕再查定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ明治四十四年八月八日付願書番號第五〇八六號潮流ノ急激敵艦ノ防禦ヲ避ケテ水雷ヲ操縦スル方法特許願拒絕再查定ハ不服ニ付審判ノ上特許ス可シトノ審決ヲ求ム其理由ハ審査官ハ本願ノ方法即チ水雷ノ進行スル行程ノ幾倍ニ相應スル電線ヲ水雷ヨリ吐出セシメテ其電線ヲ蜿蜒海底ニ沈下セシムルノ方法ハ基礎ノ考ニ過キスシテ工業的發明ニアラスト云フト雖モ本願ハ工業的發明中ノ方法ヲ主トスル發明ニ屬セルモノニシテ魚形水雷ト之ヲ搭載スル船艦トニ各適宜ノ電線ヲ設置シテ各電線吐出裝置ヲ備ヘ即チ其潛馳一海里ニ對シ數海里ノ電線ヲ吐出セシムルニ依リ其電線ハ海底ニ蜿蜒沈下スルカ爲メ敵艦隊カ如何ナル方法ヲ以テスルモ其行動ヲ妨クコト能ハス又電線ノ延長充分ナルニ因リ急激ナル潮流ノ爲メニ切斷サル、ノ虞ナク以テ勝算ニ支吾ナカラシムルハ本願請求ノ要旨ナリ而シテ之ヲ爲メニ要スル裝置ノ如キハ幾多ノ構造ニモ模倣シ得ヘキ性質ヲ有スルモノナレハ其從タルモノナリ然ルニ審査官ハ之ヲ實現スルノ裝置ニアラサルヲ以テ工業的範圍ニ屬セストシテ查定シタルハ不當ナリト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決相成度其理由ハ請求人ノ主張スル方法即チ急激ナル潮流ニ對シ又ハ敵ノ妨害ニ對シ電線ニ依リテ水雷ヲ操縦スル爲メニハ水雷進行ノ幾倍ノ速度ヲ以テ電線ヲ吐出セシメ電線ハ海底ニ蜿蜒スル如クセハ可ナラント云フコトハ一ノ考ニ過キスシテ之ヲ以テ水雷操縦ノ方法ト認ムルコト能ハス此考ヲ實現セル具體的方法若クハ構造裝置ノ成リテ始テ工業的發明ト謂フヘキモノニシテ本願ノ如キハ工業的發明ニアラスト云フニ在リ

審決ノ理由 抗告審判請求人ノ出願ニ係ル願書番號第五〇八六號特許願潮流ノ急激敵艦防禦ヲ避ケテ水雷ヲ操縦スル方法ハ水雷ヲ進行セシムル行程ノ幾倍ニ相當スル電線ヲ或方法ニ據リ吐出セシムルハ其電線ハ海底ノ凹凸ニ從ヒ蜿蜒布設サレ從テ水中ニ緊張スルコトナキヲ以テ急激ナル潮流ニヨリ切斷セラル、コトナク又ハ敵艦ヨリ之ヲ切ラル、等ノ憂ヲ防キ得可シトノ單ナル考案ニ止リ如何ニセハ之ヲ實現シ得ヘキヤ其具體的裝置若クハ方法ヲ示サス斯ル考案ハ當業者間ニ於ケル普通ノ考案ニシテ何等ノ發明ヲモ構成スルモノニアラス從テ本件特許願ニ對シテ審査官ノ爲シタル查定ハ至當ナリトス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年十二月十二日於特許局

審判長 特許局技師工學博士男爵 斯波 忠三郎
特許局 技師 増島 文次郎
特許局 事務官 田中 鐵二郎

第一百七十一號

東京市日本橋區本銀町四丁目十七番地

請求人 水野 龜松

東京市京橋區木挽町十丁目二番地特許辨理士

右代理人 兒玉 一英

東京市神田區表神保町一番地

被請求人 植木 雄飛

百五十七

右當事者間ノ第七三八七號ノ一特許無効審判請求事件ニ付明治四十三年十一月十一日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人ノ申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀シ抗告審判被請求人ノ申立相立タストノ審決ヲ求ム其理由ハ第一原審決ニ於テハ特許權ノ分割セラレタル部分カ特許出願ノ當時獨立シテ新規ノ發明ヲ爲サ、ルモノト斷定セラレタルモノナルコトハ其審決理由ノ末段ニ於テ特許法第四十九條第三號ニ依リ之ヲ無効トスヘキモノト説明セルニ徴シテ明ナリ然ルニ原審決ノ認定ヲ假ニ正鵠ヲ得タルモノナリトスルモ本件ノ如キ分割特許自體ハ同條第三號ニ依リテ直接無効ト爲スコトヲ得ヘキモノニアラス本件審判ハ其提起ノ當初請求人ニ於テ特許權分割許可無効ノ請求ヲ爲スヘキモノナルニ直接第七三八七號ノ一特許無効ノ請求ヲ爲シタルハ明ニ不適用ノ請求ニシテ當然却下セラルヘキモノナルニ拘ハラズ之ヲ認容シテ特許法第四十九條第三號ノ規定ヲ適用セルハ不法ナリ若シ之ヲ適法ノ審決ナリトセハ特許權分割許可無効ノ審判ヲ請求スヘキ場合ナカルヘシ第二玻璃器ノ耐火性タルコトハ本件特許發明ノ要部タリ然ルニ原審決ニ於テハ之ヲ要部ニアラスト認定セルハ甚タ不當ナリ若シ之ヲ正當トセハ本件特許發明ハ目的ヲ有セサル無意味ノモノタラサル可ラス且原審決ハ各部分ニ付キ公知公用ノ事實ヲ認定シタレトモ本件特許ハ耐火性ノ玻璃製燭燭ト護膜板ヲ嵌挿セル有孔ノ螺旋蓋トノ不可分的結合ヨリ成ル哺乳器ノ發明ニ付特許ヲ受ケタルモノナリ故ニ部分的ニ觀察セル原審決ハ不當ナリ云々ト云フニ在リ

抗告審判被請求人ノ申立ノ要領ハ抗告審判請求人ノ申立相立タストノ審決ヲ求ム其理由ハ原審ニ於テ

詳述セル所ノ如シ而シテ抗告審判請求人ハ特許法第四十九條第三號前段ハ特許權ノ分割許可ヲ無効トスヘキ場合ヲ規定シタルモノナリト主張スルモ右ハ特許權ノ分割シタル部分カ特許出願當時獨立シテ新規ノ發明ヲ爲サ、ルトキ其特許ヲ審判ニ依リ無効トシ又ハ分割ノ許可ヲ無効トスルノ規定ナルヘク之ヲ狹義ニ解スルモ分割セラレタル特許ノ一或ハ一以上ヲ各審判ニ依リ無効トスルノ意義ナレハ請求人ノ主張ハ不當ナリ又請求人ハ本件特許ハ耐火性玻璃製燭燭ト護膜板ヲ嵌挿セル有孔螺旋蓋トノ不可分的結合ヨリ成ル發明ナリト云フモ其兩部分ハ構造上何等相俟ツテ作用スルモノニアラス該特許發明カ最初ヨリ新規ニアラサルコトハ原審ノ證據ニ依リ明ナリ從テ原審決ハ不當ニアラス云々ト云フニ在リテ證人訊問ヲ申請セリ

審決ノ理由 特許權ノ分割シタル部分カ特許出願ノ當時獨立シテ新規ノ發明ヲ爲サ、ルトキハ特許法第四十九條第三號ニ依リ其分割許可ヲ無効トナスコトヲ得ルト同時ニ其分割サレテ成立セル特許權ハ特許法第一條ノ規定ニ違背スルノ故ヲ以テ同法第四十九條第一號ニ依リ其特許ヲ無効トナスコトヲ得ヘク本件審判請求ハ前記後段ノ請求ナルカ故ニ適法ニシテ却下スヘキモノニアラス依テ本案ニ入り審按スルニ本件係争ノ特許第七三八七號ノ一、燭燭哺乳器ト均等ノ構成ヲ有スル哺乳器ハ明治三十三年頃ヨリ販賣セラレ本件特許ノ原特許タル特許第七三七八號ノ出願以前既ニ公然知ラレ且公然用ヒラレタル事實ハ甲第一號證及證人森川惣助ノ證言ニ依リ之ヲ認知スルニ足レリ而シテ其燭燭ノ耐火性ナルト否トハ常ニ程度ノ問題ニシテ玻璃燭燭ノ良否及燭乳ニ使用スル火熱ノ強弱ニ從フモノニシテ一定ノ限界ヲ設クルヲ得ヘキモノニアラス從テ甲第一號證ノ燭燭カ如何ナル程度マテ耐火性ナルヤ否ヤノ事實ハ本件特許發明カ其出願前公知公用タリシ認定ヲ妨クルモノニアラス即チ本件特許ハ特許法第一條ノ規定ニ違反シ同法第四十九條第一號ニ依リ其特許カ無効トスヘキモノニシテ原審決ニ於テ其主文

ノ如ク審決シタルハ不當ニアラス仍テ主文ノ如ク審決ス
明治四十四年十二月十四日於特許局

審判長

特許局技師 湯淺藤市郎
特許局技師 増島文次郎
特許局事務官 村上隆吉

特許抗告審決錄 終

實用新案抗告審決錄

ノ如ク審決シタルハ不當ニアラス仍テ主文ノ如ク審決ス
明治四十四年十二月十四日於特許局

審判長

特許局技師	湯淺藤市郎
特許局技師	増島文次郎
特許局事務官	村上隆吉

特許抗告審決録 終

實用新案抗告審決録

實用新案抗告審決録目次

審決要旨	抗告審判番	件名	當事者	審決年月日	頁數
	第一〇一號	第一四七九六號 實用新案登録無効事件	(請) 浮田 磯五郎 (被) 三宅 外一名 右一名 外二名	明治四十四年五月八日 大審院	一六
	第一五五號	第九八一九號 實用新案登録無効事件 (明治四十四年五月八日大審院判決参照)	(請) 根津 捨藏 (被) 武田 竹三郎 外一名	明治四十四年五月八日 大審院	二七
	第一〇二號	第五九三〇號 實用新案登録無効事件 (明治四十四年五月三十一日大審院判決参照)	(請) 田積 辰治郎 (被) 野口 壯吉	明治四十四年五月三十一日 大審院	二三
	第一三〇號	第五八九四號 登録實用新案權利確認事件 (明治四十四年五月二十五日大審院判決参照)	(請) 吉田 春太郎 (被) 大島 兼吉 外五名	明治四十四年五月二十五日 大審院	二三
	第一四一號	第八二〇一號 實用新案登録無効事件	(請) 万代 卯之助 (被) 旭硝子株式會社	明治四十四年五月二十五日 大審院	三二
	第八九號	第一五二八號 登録實用新案權利確認事件	(請) 森脇 庄太郎 (被) 浪川 良三	明治四十四年五月二十五日 大審院	三九
	第一五九號	第四九一號 實用新案登録無効事件	(請) 田中金五郎 (被) 吉田 源助	明治四十四年五月二十五日 大審院	三九

第一五九號
商業會議所ノ證明ノ如キハ證據力アルモノト認ムヘカラス

審決要旨

抗告審判

番

名

當事者

年月日

頁數

第一五三號

一、單ニ公知ノ各部ヲ綜合
スルノ效果ヲ考テモ、何
モノハ之ヲ以テ新規ノ
工業的考察ニヨリ成ル
モノト云フヘカラス

第四四號

第一〇一〇九號
實用新案登録無効事件

(請) 松宮 岩吉
(被) 敷内 勇藏
外一名

明治三六年

三二

第一七五號

一、唯一回ト雖公然之ヲ取
扱ヒタル者アルトモ、
假令多數方之ヲ知ラザ
ルモ尙公然知ラレタル
モノト云フヘカラス

第一五三號

第四五九〇號
實用新案登録無効事件

(請) 益田 熊太郎
(被) 旭硝子株式會社
外二名

明治三七年

三三

第一六八號

一、先願ニ係ル實用新案登
録願力出願無効トナリ
タルトモ、其先願ノ事
實ハ後願ニ係ル實用新
案登録ノ效力ニ何等ノ
影響ヲ及ボスモノニア
ラス

第一二八號

第四四六八號
實用新案登録無効事件

(請) 藤井 吉之助
(被) 萩田 長吉
外二名

明治三三年

三六

第一一〇號

一、實用新案ノ登録ヲ無効
ナリト宣告シタルハ、其
力確定シタルトモ、
實用新案權ハ始ヨリ存
在セサルモノト看做ス
ヘキモノトス

第一七五號

第八七〇二號
實用新案登録無効事件

(請) 若野 惣兵衛
(被) 堤 安太郎
外二名

明治四四年

三二

第一〇三號

一、實用新案ノ登録ヲ無効
ナリト宣告シタルハ、其
力確定シタルトモ、
實用新案權ハ始ヨリ存
在セサルモノト看做ス
ヘキモノトス

第一一〇號

第一四九三五號
實用新案登録無効事件

(請) 藤代 宗吉
(被) 太田 徳松
外二名

明治四二年

三四

第一二四號

一、實用新案ノ登録ヲ無効
ナリト宣告シタルハ、其
力確定シタルトモ、
實用新案權ハ始ヨリ存
在セサルモノト看做ス
ヘキモノトス

第一二四號

第七八三九號
實用新案登録無効事件

(請) 松島 芳次郎
(被) 堤 悦英
外一名

明治四二年

三六

第一二〇七號

一、實用新案ノ登録ヲ無効
ナリト宣告シタルハ、其
力確定シタルトモ、
實用新案權ハ始ヨリ存
在セサルモノト看做ス
ヘキモノトス

第一二〇七號

第一八四八八號
實用新案登録無効事件

(請) 齋藤 龜太郎
(被) 鍵和田 國太郎
外二名

明治五〇年

四三

第一一八四號

一、實用新案ノ登録ヲ無効
ナリト宣告シタルハ、其
力確定シタルトモ、
實用新案權ハ始ヨリ存
在セサルモノト看做ス
ヘキモノトス

第一一八四號

第一七六三〇號
實用新案登録無効事件

(請) 岩崎 駒吉
(被) 安田 菊次郎
外二名

明治五三年

四六

第一二四號

一、實用新案ノ登録ヲ無効
ナリト宣告シタルハ、其
力確定シタルトモ、
實用新案權ハ始ヨリ存
在セサルモノト看做ス
ヘキモノトス

第一二四號

第六七九二號
實用新案登録無効事件

(請) 日本レザ一合資會
(被) 社 奧野 彌三郎
外一名

明治七二年

四九

第一二二八號

一、實用新案ノ登録ヲ無効
ナリト宣告シタルハ、其
力確定シタルトモ、
實用新案權ハ始ヨリ存
在セサルモノト看做ス
ヘキモノトス

第一二二八號

第七一九四號
實用新案登録無効事件

(請) 古山 平太郎
(被) 加藤 千之助
外一名

明治九一年

五二

第一二二二號

一、實用新案ノ登録ヲ無効
ナリト宣告シタルハ、其
力確定シタルトモ、
實用新案權ハ始ヨリ存
在セサルモノト看做ス
ヘキモノトス

第一二二二號

第一六五八六號
實用新案登録無効事件

(請) 宮田 邦
(被) 井上 爲三郎
外一名

明治九八年

五五

第一一七六號

一、實用新案ノ登録ヲ無効
ナリト宣告シタルハ、其
力確定シタルトモ、
實用新案權ハ始ヨリ存
在セサルモノト看做ス
ヘキモノトス

第一一七六號

第七七〇八號
實用新案登録無効事件

(請) 篠塚 守一
(被) 玉木 幸四郎
外三名

明治九九年

五八

第一一九八號

一、實用新案ノ登録ヲ無効
ナリト宣告シタルハ、其
力確定シタルトモ、
實用新案權ハ始ヨリ存
在セサルモノト看做ス
ヘキモノトス

第一一九八號

第四三九六號
實用新案登録無効事件

(請) 石田 英三郎
(被) 竹川 茂三郎
外一名

明治一〇九年

六一

第一二四六號

一、實用新案ノ登録ヲ無効
ナリト宣告シタルハ、其
力確定シタルトモ、
實用新案權ハ始ヨリ存
在セサルモノト看做ス
ヘキモノトス

第一二四六號

第一三一四八號
實用新案登録無効事件

(請) 奧野 治平
(被) 武田 竹三郎
外一名

明治二七年

六四

第一一九八號

一、實用新案ノ登録ヲ無効
ナリト宣告シタルハ、其
力確定シタルトモ、
實用新案權ハ始ヨリ存
在セサルモノト看做ス
ヘキモノトス

第一一九八號

第一六五六七號
實用新案登録無効事件

(請) 有田 市藏
(被) 豐島喜右衛門
外一名

明治二二年

六八

第一二三〇號

一、實用新案ノ登録ヲ無効
ナリト宣告シタルハ、其
力確定シタルトモ、
實用新案權ハ始ヨリ存
在セサルモノト看做ス
ヘキモノトス

第一二三〇號

第七七八七號
實用新案登録無効事件

(請) 柳瀨 貞次郎
(被) 黑澤 貞次郎
外一名

明治二二年

七〇

第一三三一號

一、實用新案ノ登録ヲ無効
ナリト宣告シタルハ、其
力確定シタルトモ、
實用新案權ハ始ヨリ存
在セサルモノト看做ス
ヘキモノトス

第一三三一號

第一一七二八號
實用新案登録無効事件

(請) 柳瀨 貞次郎
(被) 黑澤 貞次郎
外一名

明治二二年

七三

第一三三四號

一、實用新案ノ登録ヲ無効
ナリト宣告シタルハ、其
力確定シタルトモ、
實用新案權ハ始ヨリ存
在セサルモノト看做ス
ヘキモノトス

第一三三四號

第一〇五三八號
實用新案登録無効事件

(請) 根塚 金次郎
(被) 師田 金次郎
外一名

明治二五年

七七

主文 抗告訴求人申立相立タス

抗告訴費用ハ抗告訴求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告訴求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀シ抗告訴求人ノ申立相立タス審判費用ハ總テ抗告訴求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ抗告訴求人ハ明治四十二年三月獨逸國「ドレスデン」ナル取引先「ブウリック」會社ヨリ乙第一號證ノ如キ書狀ヲ受ケ歐洲ニ於テ綠ノ廣キ婦人用帽子流行シ幅廣キ眞田ヲ要スルコトヲ知り工夫ノ結果登錄實用新案第一四七九六號麥稈眞田ノ如キ構造ヲ案出シタルモノニシテ該新案ノ説明中ニ記載セル如ク從來廢物トシテ殆ト放棄セラレタル麥稈ノ下方ナル太キ短キ部分即チ三節以下ヲ利用シテ歐洲ノ流行ニ投センカ爲メニ創意シタルモノナレハ該構造ハ全ク新規ナルモノナリ而シテ其出願前已ニ公知ニ屬シタリトシテ提出セラレタル甲第二號證及甲第三號證ノ添附眞田ハ總テ麥稈ノ上部ニシテ從來普通ニ使用セラレタリシ部分即チ先端又ハ第二節ニシテ且幅廣キモノヲ得ルヲ目的トセス麥稈ト經木トノ二種ノ材料ニ依リ一種ノ趣味ヲ有セシムルコトヲ目的トシタルモノナレハ其目的ニ於テ考按ノ要素ニ於テ材料ニ於テ全然異ルモノナリ故ニ此兩者ヲ同一ノ構造ト認メタル原審決ハ不當ナリ且甲第二號證ハ明治四十三年一月ノ製作ニ係リ品評會ハ明治三十七年十月ニ開催セラレタルモノナレハ五ヶ年ノ後ニ於テ幾百トナキ數多ノ組方ヲ有シ年々其流行ヲ異ニセル麥稈眞田ノ構造ニ就キ技術者ナラサル縣知事ノ之ヲ記憶辨別スヘキ理由ナシ甲第三號證モ亦何年ヨリ何年マテ如何ナル構造如何ナル材料ノ麥稈眞田カ陳列セラレタルカ明ナラス技術者ナラサル縣知事ハ是等不明ノ點ヲ究ムルコトナク職務上單ニ形式的證明ヲ與ヘタルニ過キサルヘシ被告訴求人カ更ニ提出セル第一號證乃至第四號證ノ中第一號證添附ノ眞田ハ第二節以上ノ資料ヲ使用シタルモノナレハ本件登錄實用新案トハ要旨ニ於テ差異アリ且斯ル書面カ當事者間ニ往復アリタリトスルモ帝國內ニ於

テ其構造カ公知ニ屬シタルカ否ヤハ不明ナリ第二號證ハ日付ヲ有セス且署名ナク毫モ證據力ナシ第三號證ハ構造明ナラス且普通裏經木ト稱スルハ一節又ハ二節ノ麥稈ヲ用ヒ經木ハ麥稈ヨリ小シク廣クシ趣味ノ目的トスルモノナレハ本件登錄實用新案トハ自ラ別箇ノモノナリ第四號證ハ第二節以上ノ麥稈ヲ使用シタルモノナレハ本件ニ關係ナク且「カルローウイッ」商會ハ被告訴人等ト取引關係ヲ有シ又商業帳簿ハ私人ノ作製ニシテ添削變造シ得ヘク見本帳ノ如キハ容易ニ之ヲ取換ヘ得ヘキモノナレハ獨逸帝國領事代理カ檢閲シタル際記載サレタル事實ハ取ルニ足ラス云々ト云フニ在リテ乙第一號證乃至第五號證ヲ提出シ且人證ノ申立ヲナセリ

抗告訴求人答辯ノ要領ハ抗告訴求人申立相立タス抗告訴費用ハ抗告訴求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ請求人ハ明治四十二年三月獨逸國ノ取引先ヨリ幅廣眞田ノ注文ヲ受ケ本件登錄實用新案ヲ案出セリト稱スルモ幅廣眞田ノ注文カ外國ヨリ來リタルハ獨リ請求人ノ商店ノミニアラス神戸ニ於ケル麥稈眞田輸出ヲ取扱フ重ナル商店ニハ明治四十二年三月頃ハ何レモ外國ヨリ幅廣麥稈ヲ經木ノ表面ニ重テテ組ミタル見本ヲ添ヘタル注文書ヲ受ケタルモノニシテ該新案ハ決シテ請求人ノ案出シタルモノニアラス請求人ハ本件登錄實用新案ハ麥稈ノ莖ノ下方ナル太ク短キ部分即チ第三節以下ヲ利用シタル點ヲ新規トスルカ如ク主張スルモ前後矛盾ノ議論ナルコトハ原審判ニ於ケル甲第一號證ニ依リ明ナリ要スルニ麥稈莖先端ヲ經木ノ表面ニ重テテ組ミタル麥稈眞田ハ原審判ニ於ケル甲第二號證及第三號證ニ依リ明ナルノミナラス第三節以下ノ幅廣麥稈ヲ經木ノ表面ニ重テテ組ミタル眞田モ本件登錄出願前帝國內ニ於テ公知公用ニ屬セルコト疑ヲ容レス云々ト云フニ在リテ更ニ第一號證乃至第四號證ヲ提出セリ

審決ノ理由 本件係爭ノ登錄實用新案第一四七九六號麥稈眞田ノ權利トスル所ハ麥稈ノ莖ノ先端タルト

第二節以上タルト又ハ第三節以下タルトヲ問ハス經木ヲ心トシ表面ニ現ハル、部分ニ麥稈ヲ重テ組ミタル眞田ノ構造ニ在ルコトハ其登錄請求範圍ニ記載セル所ニ依リ明ナリ麥稈莖ノ第三節以下ノ資料ヲ用フルニ上記ノ構造ノ適當ナルコトハ之ヲ認ムルヲ得ヘシト雖モ之カ爲ニ前記構造ニ更ニ資料カ第三節以下タルヘキ制限ヲ付シタルモノノミヲ其權利ト認ムヘキ理由ナシ而シテ前記構造ノ麥稈眞田カ本件登錄實用新案出願以前帝國内ニ於テ公知ニ屬セル事實ハ甲第二號證同第三號證及抗告審判ニ於テ更ニ被請求人ニ依リ提出セラレタル第三號及第四號證ヲ綜合シテ之ヲ認ムルヲ得ルカ故ニ本件登錄實用新案ハ實用新案法第三條第一號ニ該當シ同法第一條ニ違反スルモノニシテ同法第十一條ニ依リ其登錄ヲ無効ト爲スヘキモノトス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年一月六日於特許局

審判長

特許局技師 湯淺藤市郎

特許局事務官 織田了

特許局事務官 村上隆吉

第一百五十五號

大阪市東區本町三丁目三番地

大阪市東區高麗橋二丁目百二十六番屋敷特許辨理士

大阪市東區瓦町四丁目六十一番地

大阪市東區瓦町一丁目五番地特許辨理士

請求人 根津拾藏

右代理人 岡田謙三郎

被請求人 武田竹三郎

右代理人 廣井代藏

愛知縣幡豆郡西尾町大字大給町六十九番地

被請求人 杉浦桂次郎

右當事者間ノ第九八一九號實用新案登錄無効審判請求事件ニ付明治四十三年八月十日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 原審決ヲ破毀ス登錄實用新案第九八一九號帶芯ハ之ヲ無効トス

審判及抗告審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀シ第九八一九號登錄實用新案帶芯ノ登錄ハ之ヲ無効トシ審判及抗告審判費用ハ被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ原審決ハ甲第一號甲第十四號甲第十五號證ヲ排斥セラレタリト雖是大ニ事實ヲ誤レルモノナリ本件登錄實用新案ハ其圖面ノ說明ニ依レハイハ帶ノ幅ニ相當スル木綿織地ニシテ兩面ヲ起毛シタルモノ(口口)ハ兩邊ノ耳云々トアリ故ニ本件帶芯ニ對スル新案ノ要點ハ其表面ニ起毛セル點ニアルコト明ナリ被請求人或ハ云ハシ本件ハ其他ノ要點ヲモ包含シ初メテ一ノ新案ヲ構成セルモノナリ即帶幅ニ相當シ兩耳ヲ具フルモノナリト然レドモ織物ノ幅ノ廣狹ノ如キ物體ノ大小ハ以テ新案ノ形狀又ハ構造ニ該當スルモノニアラス同一ニ起毛シタル帶芯カ其出願前公知公用ナリシ以上ハ之カ幅ヲ必要ニ應ジテ増減スルカ如キ決シテ新案タルノ要素ヲ構成セス甲第一號證甲第十四號證甲第十五號證ニ於テ木綿起毛帶芯ナルモノ、存在スルコト明ナル以上ハ之レト其考案ヲ同フシ又ハ之ニ類似セル本件實用新案ハ之ヲ無効トセサルヲ得ス又織物カ兩耳ヲ有スルハ當然ノ事ニシテ兩耳ナクンハ之ヲ織成スルコト能ハス故ニ本件實用新案ニ於テモ兩邊ニ耳ヲ有スル點ハ新案ノ價値ナキモノナリ又原審決カ甲第二號證乃至甲第十三號證ハ私人ノ作製ニ係ルモノニシテ信憑スルニ足ラス甲第十六號證ハ隨時作製シ得ヘク是又信スルニ足ラストシ又證人ノ陳述ヲ排斥セラレタルモ此等各證ニ因リ本件實用新案カ其出願前公知公用タリシコトヲ推知スルニ餘リ

アリ然ルニ之ヲ以テ信スルニ足ラスト排斥セルハ不當ノ審決ナリ云々ト云ヒ證人訊問及證據物件取寄ノ申請ヲナシ且新ニ甲第十九號證乃至甲第五十一號證ヲ提出セリ

抗告審判被請求人答辯ノ要領ハ請求人申立相立タヌ審判費用及抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ請求人ハ原審決ニ於テ甲第一號證甲第十四號證甲第十五號證ヲ排斥シタルヲ不當ナリト主張スルモ此等各證ニ依リ本件新案ノ帶芯ト同一若クハ類似ノ帶芯カ本件新案出願前公知タリシコトヲ立證スルニ不充分ナルヲ以テ其主張ハ不當ナリ又請求人ハ本件新案ヲ説明シテ其要點ハ「其表面ヲ起毛セル點」ニアリ云々ト云フモ本件新案ハ帶幅ニ相當シ兩耳ヲ有シ表裏ヲ起毛シタル帶芯ニシテ必ラス前記三條件ヲ具備セルモノナリト信ス本件新案カ兩耳ヲ有スルカ故ニ永久ニ使用スルモ其體裁ヲ損スルコトナク又帶ニ適合スル幅ヲ有スルヲ以テ裁除若クハ折込ミ等ノ手數ヲ要セス從テ芯綿等ヲ附加スルコトナク最輕便ナルヲ以テ世上ニ歡迎セラル、ナリ又請求人ハ帶幅ニ相當スル如キハ織物ノ幅ノ廣狹ニシテ物ノ大小ハ以テ新案ノ形狀又ハ構造ニ該當セス故ニ同一ニ起毛シタル帶芯カ其出願前公知公用ナリシ以上ハ幅ノ大小ハ以テ新案ノ要素ヲ構成セスト云フモ本件新案ノ帶幅ハ男子用二寸五分位ヨリ漸次ニ婦人用八寸乃至九寸ニ定限シタルモノニシテ帶幅ニ相當セサルモノハ廣狹何レモ本件新案ノ要素以外ノモノナリ又請求人ハ甲第六號證乃至甲第十三號證及證人等ノ言ニ就キ喋々スルト雖被請求人ハ之等ニ對シテハ前審ニ於テ既ニ答辯セルヲ以テ再ヒ之ヲ繰返ス必要ナシ要スルニ請求人カ本件實用新案ヲ無效タラシメント欲セハ之レト同一若クハ類似ノ帶芯カ本件新案出願前ニ於テ公知タリシコトヲ確證セサルヘカラス云々ト云ヒ乙第一號乃至第五號證ヲ提出セリ

審決ノ理由 被請求人ハ本件登錄實用新案第九八一九號帶芯ノ要點ハ帶幅ニ相當シ兩耳ヲ有シ表裏兩面ヲ起毛シタルモノニシテ必ラス前記三條件ヲ具備セルモノナリト云フモ表裏兩面ニ起毛シタル木綿若

クハ紋羽帶芯ハ本件實用新案登錄出願前即明治四十一年五月十日以前ニ於テ公然知ラレ公然用キラレタルコトハ請求人提出ノ甲第四十二號證ニ依リ之ヲ認ムルコトヲ得ヘシ而シテ帶幅ノ大小ノ如キハ必要ニ應シ容易ニ増減スルコトヲ得ルモノニシテ物品ノ形狀構造又ハ組合セニ係ラサルヲ以テ本件登錄實用新案ノ要點ト之ヲ認ムルコト能ハス又被請求人ハ本件ノ帶芯ハ兩耳ヲ有スル點ヲ以テ一ノ要點ナリト主張スルモ織物ハ其幅ノ廣狹ニ關セス必ラス兩耳ヲ有スルハ其織成上當然ノ結果ナリ故ニ本件帶芯カ兩耳ヲ有スルノ故ヲ以テ新規ノ點ト之ヲ認ムルコト能ハス要スルニ本件登錄實用新案第九八一九號ハ其登錄出願前公然知ラレ公然用キラレタルモノト認メ得ヘキヲ以テ實用新案法第三條第一號ニ該當シ同法第一條ニ違反スルヲ以テ同法第十一條ニ依リ其登錄ハ之ヲ無効トナスモノナリ其他當事者間互ニ相争フ所アルモ審決ニ關係ナキヲ以テ之ヲ説明セヌ仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年一月二十七日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 大竹多氣
 特許局事務官 織田了
 特許局技師 增島文次郎

第百二號

大阪市北區北野太融寺町六百七十八番地 請求人 田積辰治郎
 大阪市東區高麗橋三丁目二十八番地特許辨理士 右代理人 岡八
 大阪市北區本庄東橫現町千二百六十七番地 被請求人 野口壯吉

右當事者間ノ第五九三〇號特許登錄實用新案登錄無效審判請求事件ニ付明治四十三年三月三十一日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 原審決ヲ破毀ス第五九三〇號登錄實用新案輕便切炭ノ登錄ハ之ヲ無効トス
審判及抗告審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ取消シ實用新案第五九三〇號輕便切炭ノ登錄ハ之ヲ無効トシ審判抗告審判費用ハ被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ本件實用新案ノ内容ハ最モ火付ヨキ第一引火料ヲ上層トナシ第一引火料ノ火ヲ受ケテ切炭ニ移火スヘキ第二引火料ヲ中層トシテ下層ノ切炭トナシタル輕便切炭ニシテ被請求人ハ明治三十五年頃ヨリ本件實用新案ト全ク其内容ヲ同一トナセル輕便切炭ヲ專賣特許ナル表目ヲ付シ廣ク世ニ販賣シ其製造方法ノ如キモ全ク公知ナリ而シテ本件實用新案ノ登錄セラルルマテ即明治四十年七月三日マテ引續キ販賣シ其後ハ表目ヲ單ニ實用新案ト改メシニ過キス此ノ如クニシテ本件實用新案ハ新規ノ工業的考案ニアラスシテ登錄出願前同一物品カ帝國内ニ於テ公知公用トナリ居ルヲ以テ實用新案法第一條ニ違反シ同法第十一條ニ依リ無効タルヘキモノナリ然ルニ原審決ハ請求人ノ立證セントスルコトコロヲ全部排斥シ以テ此ノ點ニ關スル證據ヲ見ルニ足ラストシテ請求人ノ申立ヲ却下シタルハ不當ナリ云々ト云ヒ甲號各證ヲ提出シ證人ノ訊問及書類取寄ヲ申請セリ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ抗告審判請求人申立相立タス審判及抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ本件第五九三〇號登錄實用新案輕便切炭ハ抗告審判被請求人ノ創意

創造ニ係リ明治四十年三月三十一日以後即チ本件實用新案登錄出願後初メテ之ヲ發賣シタルモノニシテ其以前ヨリ此ノ種ノ物品カ公知公用セラレ若クハ被請求人ニ於テ發賣シタル事實アルコトナシ然ルニ請求人ハ被請求人ニ於テ本件實用新案ト其内容ヲ同一ニセル輕便切炭ニ專賣特許ナル表目ヲ付シ明治三十五年頃ヨリ世ニ販賣シ其製造方法ノ如キモ公知ナリト主張スルモ本件實用新案ハ其考案モ登錄出願當時成立シタルモノニシテ其登錄出願前タル明治三十五年頃ヨリ斯ル物品ヲ被請求人ニ於テ發賣スルコトヲ得ヘキ道理ナキノミナラス事實又決シテ然ラス請求人提出ノ甲第一號證一乃至七ハ檢事ノ聽取書ノ其記事ハ毫モ本件實用新案カ其出願前ヨリ公知公用ノ事實ヲ證スルニ足ラス甲第一號證ノ三乃至五ナル聽取書ノ谷澤久次郎上田多三郎及安枝勝太郎ハ何レモ請求人カ原審ニ於テ證人トシテ申請シタルニ際シ被請求人ハ右三名ハ民事訴訟法第九十七條第一項第三號ニ該當ストノ事由ニ依リ之カ忌避申請ヲ爲シタル者ナレハ其陳述ハ信ヲ置クニ足ラス要スルニ請求人ノ主張ハ首肯スルニ足ルモノナシ云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 本件第五九三〇號登錄實用新案輕便切炭ハ其登錄請求範圍ニ依レハ最モ火付ヨキ第一引火料ヲ上層トナシ第一引火料ノ火ヲ受ケテ切炭ニ移火スヘキ第二引火料ヲ中層トシ下層ヲ切炭トナシタル輕便切炭ナリ而シテ斯クノ如キ構造ノ切炭ハ本件實用新案登錄出願前即明治四十年三月三十一日前ヨリ帝國内ニ於テ公然知ラレ公知公用キラレタル事實ハ證人上田多三郎及安枝勝太郎ノ證言及明治四十二年六月十七日及十八日大阪區裁判所檢第二九五三號檢事ノ聽取書中井上伊之助及今西梅吉ノ陳述ニ依リ明ナリ故ニ本件第五九三〇號登錄實用新案輕便切炭ハ實用新案法第三條第一號ニ該當シ同法第一條ニ違反スルヲ以テ同法第十一條ニ依リ其登錄ハ之ヲ無効トスヘキモノトス其他當事者間互ニ相争フ所アルモ本審決ニ關係ナキヲ以テ之ヲ説明セス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年二月十三日於特許局

審判長

特許局事務官

織田

了

特許局技師

增島文次郎

特許局事務官

村上隆吉

*十

第三百三十號

名古屋市中區彌生町四丁目百五十七番戶	請求人	吉田春太郎
名古屋市中區南伊勢町二丁目十四番地特許辦理士	右代理人	宮村隆治
大阪市東區南久寶寺町一丁目十八番地	被請求人	大島兼吉
大阪市東區南久寶寺町四丁目九十番屋敷	被請求人	西岡貞次郎
大阪市東區南久寶寺町三丁目三番地	被請求人	萩原吉兵衛
大阪市南區南鍛冶屋町十八番地	被請求人	奧井萬藏
大阪市南區安堂寺橋通四丁目三十六番地	被請求人	名淵友太郎
東京市日本橋區伊勢町二十六番地特許辦理士	右五名代理人	岩崎勳
東京市日本橋區伊勢町二十六番地特許辦理士	右五名代理人	菊地馨司
大阪市東區平野町七丁目二百九十番地	被請求人	西山豐茂

右當事者間ノ第五八九四號登錄實用新案權利確認抗告審判請求事件ニ付明治四十三年六月十五日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト如ノ如シ

主文 原審決ヲ破毀ス本件請求ハ之ヲ却下ス

原審及抗告審判請求ニ關スル審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ明治四十三年六月十五日特許局ニ於テ爲シタル審決ノ全部ヲ破毀シ登錄實用新案第五八九四號齒刷ト被請求人カ提出シタル甲第三號齒刷子トハ相撞着ス審判ニ關スル費用ハ悉皆被請求人ノ負擔スヘシトノ審決ヲ求ム其理由ハ第一原審決ノ要旨ハ甲第三號證ノ齒刷子ハ本件登錄實用新案第五八九四號ノ權利範圍内ニ屬セサルモノトスト云フニ在レトモ苟モ登錄請求ノ範圍カ甲第三號證ノ齒刷子ト相撞着セサルニ於テハ大體ノ構造ニ屬スル彎曲ノ變形及同彎曲中ニ刷子ヲ屈閉セシムル點ニ於テ差異ヲ生シ登錄請求刷子ノ構造範圍ヲ脱セサルヘカラス加之甲第三號證ノ刷子ト第五八九四號登錄刷子トハ比較一見組織形様ノ相異ナルヲ識別スルコト洵ニ難カラス是レ畢竟被請求人カ登錄刷子ニ大體模造シ請求人ノ權利ヲ侵害セントスルモノナリ然ルニ原審決ニ於テハ相撞着セストノ審決ヲ與ヘラレタルハ服從シ難シ第二抗告審判被請求人萩原吉兵衛大島兼吉及西岡貞治郎ハ曩日抗告審判請求人外一名ニ係リ同一物品〔甲第三號證〕ニ付登錄實用新案第五八九四號ニ對シ權利確認ノ請求ヲ起シ撞着ノ審決確定セラレタルモノナリ然ルニ今同一人間〔タトヒ西山豐茂、奧井萬藏及名淵友太郎ノ三名新タニ加入シタルニセヨ〕ニ於テ同一物件ニ付今回撞着セサル旨ノ審決ヲ受ケ即チ一審級ニ於テ二様ノ異ナリタル審決ヲ見ルカ如キハ定ニ審決ノ威信ヲ失墜スル甚シキモノニシテ又訴訟法上ニ於ケル一事不再理ノ大原則ニ背反スルモノト信スト云ヒ新ニ乙第二號證ヲ提出セリ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ抗告審判請求人ノ申立相立タス抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ第一抗告審判請求人ノ主張ハ謬レリ何ントナレハ齒刷子ハ普通其形狀一定セルモノナルヲ以テ形狀ノ同一又ハ類似ナルコトハ當然ニシテ之ヲ以テ直ニ模造ナリト云フコトヲ得

サルハ勿論ナルト同時ニ原審決ニ説明スル如ク本件ノ目的タル登録實用新案第五八九四號ハ刷子ト柄手ト止金トノ組合ヨリ成ル構造ナルニ被告審判被請求人等カ製造販賣スル齒刷子ハ刷子ト柄手トノ組合ヨリ成ル構造ニシテ後者ハ考案ノ主要ナル止金ヲ缺如スルモノナレハ之ヲ目シテ構造同一ナリ權利侵害ナリト斷スコトヲ得サレハナリ若シ假リニ被告審判請求人ノ主張ノ如ク本件ニ於テ止金ヲ缺如スルモ構造相異ル點ナシト斷スルコトヲ得ルトセハ結局組合ノ如何ヲ問ハス單ニ組合スベキ一部タル刷子若クハ柄手ニシテ同一又ハ類似ナルニ於テハ總テ構造同一ナリト云フニ歸スヘク終ニハ普通存スル何等ノ組合ナキ齒刷子モ構造同一ナリト云フコトヲ得ルニ至リ一切ノ齒刷子ハ總テ構造同一又ハ類似ナリトシテ本件ノ目的タル登録實用新案第五八九四號ト撞着スル奇怪ナル結論ニ到達スヘシ天下豈斯ル謬論アラシヤ故ニ被告審判被請求人等ノ製造販賣スル齒刷子ヲ其權利範圍ニ屬スルモノナリト主張スルハ不當ナリ第二請求人ハ原審判請求ハ一事不再理ノ原則ニ反スト云フモ同一事實及同一證據ニ基キ同一ノ當事者間ニ同一審判ヲ請求シタルニアラサレハ此辯駁ハ失當ナリ要スルニ原審決ハ正當ニシテ被告ハ毫モ其理由ナシト云フニ在リ

審決ノ理由 本案ノ審理ヲ爲スニ先チ本件請求ノ當否(抗告理由ノ第二點)ニ付キ職權ヲ以テ之ヲ調査スルニ被告審判被請求人萩原吉兵衛外三名ハ曩キニ明治四十二年二月十八日請求人ニ對シ請求人ノ第五八九四號登録實用新案齒刷子ハ被請求人共ノ製造販賣セル齒刷子ト撞着セストノ權利確認審判ヲ請求シ其實事トシテ被請求人等ノ製造販賣セル甲第二號證ノ齒刷子ハ該實用新案ノ重要部タル止金ヲ有セサル普通公用品ナルヲ以テ撞着スベキ理由ナシト主張シ證據トシテ甲第一號證乃至甲第五號證ヲ提出シタルモ其結果同年六月二十一日被請求人等ノ申立相立タサル旨ノ審決ヲ受ケ同年八月二十五日確定シ其旨實用新案登録原簿ニ登録セラレタルモノナリ而シテ本件ハ被請求人萩原吉兵衛外五名ヨ

リ請求人ニ對シ請求人専用ノ第五八九四號登録實用新案齒刷子ハ被請求人等ノ製造販賣セル齒刷子ト撞着セストノ權利確認審判ヲ請求スルニ在リテ其請求ノ目的同一ナルノミナラス事實モ亦同一ナリトス又證據トシテ提出シタル甲第一號證乃至甲七號證中甲第一、二號證ハ前審判請求ノ甲第一號證ト甲第三號證ハ前審判請求ノ甲第二號證ト甲第六號證ハ前審判請求ノ甲第五號證ト全然同一ニシテ唯甲第四、五、七號證ト前審判請求ノ甲第三四號トハ同一ナラサルモ此等ハ參考的資料タルニ止マリ證據ノ性質ヲ具有セサルモノナルカ故ニ之ヲ以テ新證據ナリト認ムルヲ得ス左レハ前後同一證據及ヒ同一事實ニ基キテ同一ノ審判請求ヲ提起シタルモノト決論スルヲ至當ナリトス從テ本件ハ實用新案法第二十條及特許法第八十七條ニ依リ請求權ナキコト洵ニ明白ナリトス被請求人ハ同一事實及同一證據ニ基キ同一ノ當事者間ニ同一審判ヲ請求シタルニアラサレハ一事不再理ノ原則ニ反スルモノニアラスト論駁スレトモ該法條ハ同一ノ當事者タルコトヲ要セサルコトヲ特ニ規定シタルモノナレハ普通民事ノ一事不再理ノ法理ヲ援用シ來リテ同一當事者タルコトヲ要ストノ論旨ハ採ルニ足ラサルモノトス然ルニ原審決ハ斯ル先決問題ヲ看過シ輒リ本案ニ入りテ審決ヲ爲シタルハ不法ヲ免レサルモノナリ仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年二月十三日於特許局

審判長 特許局事務官 織田了
 特許局技師 增島文次郎
 特許局事務官 村上隆吉

第四百四十一號

* 十四

大阪市北區白屋町二十三番地ノ三

大阪市東區高橋橋二丁目百二十六番屋敷特許辨理士

大阪市東區伏見町二丁目三十三番邸特許辨理士

兵庫縣川邊郡尼崎町ノ内大洲村字新城屋敷角二百九十三番地

請 求 人 万代卯之助

右代理人 岡田謙三郎

右代理人 甘糟勇雄

被請求人 旭硝子株式會社

右代表者

岩崎俊彌

右代理人 伊藤秀雄

右代理人 淺村三郎

大阪市東區橫堀通二丁目二十八番地特許辨理士

大阪市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士

右當事者間ノ第八二〇一號實用新案登録無效審判請求事件ニ付明治四十三年七月七日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ廢棄シ被請求人ノ請求ヲ却下シ審判及抗告審判費用

ハ被請求人ノ負擔トスト審決ヲ求ム其理由ハ原審決ハ證據トシテ島田孫市ノ證言及檢證調書ヲ援用セ

ルモ請求人ハ之ニ對シテ悅服スルコト能ハス從テ原審決ニ服スルコト能ハス次ニ其不服理由ヲ述フヘ

シ第一本件實用新案ハ全體ノ構造ニ向ツテ與ヘラレタルモノナリト雖其要點ハ凹滑車ト凹狀軸受トニ

アリ特ニ其凹狀軸受ニ於テ新規ナル考案ヲ爲シタルモノナリ其軸受ハ凹狀ニシテ兩端ハ平坦部ニ垂直

ニ作造セラレタルモノナリ而シテ明治四十年六月以前ニ於テ公用セラレタリト稱スル凹狀軸受ハ其兩

端ハ圓弧狀ニ作成シテ平坦部ト垂直ヲナス本點ハ本件ノ重要ナル爭點ヲナスモノニシテ請求人カ原
審ニ於テ爭ハサリシハ島田孫市ノ證言及檢證調書記載ノ往復裝置ノ凹狀軸受カ本實用新案ト同一ナリ
ト思惟シタルハナリ次ニ其凹狀軸受ノ兩端ヲ平坦部ト垂直ニ爲スト圓弧ト爲スト其效果大ニ差異アル
モノナリ第二被請求人カ公用ニ屬セリト主張スル往復裝置ニ於テ果シテ滑車ト車軸ト固着セラレ
アルヤ否ヤニ付キ爭アリ被請求人ハ該往復裝置ハ滑車ト車軸ト双方ニ於テ楔溝ヲ穿テ之ニ楔ヲ挿入シ
テ一體ノ如ク相固着シタルモノナリト主張スルモ(一)原審書類及島田孫市ノ證言ニ於テモ毫モ其固着ノ
記載ヲ見ス故ニ其固着セラレタリトノ主張ヲ否認ス(二)該往復裝置ニ於テ固着セサルニ利アリ即該
裝置ハ行程不同ノ場合ニ用キルニ適スルモノナルヲ以テ其臺枠ヲ多ク運動セシムル際ニ弧狀凹狀軸受
ニ於テ軸ノ回轉スルト共ニ其滑車モ軸ヲ中心トシテ回轉スル必要存スレハナリ云々ト云フニ在リ
抗告審判被請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タス審判及抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決
ヲ求ム其理由ハ請求人ハ本件實用新案ト島田孫市ノ證言及檢證調書ニ記載ノ往復裝置トハ構造上差異
アリ從テ效果ヲ異ニスト主張スルモ本件實用新案ノ登録請求範圍及圖面ト圖面ノ說明トヲ見ルニ凹狀
軸受ノ兩端直角ノ點ニ就テハ何等ノ說明ナク從テ本件實用新案ハ特ニ此ノ點ヲ新規トシテ登録セラレ
タルモノニアラサルコト明カナリ左スレハ原審ニ於ケル往復裝置ノ凹狀軸受ト本件實用新案ノ凹狀軸
受トニ於テ其兩端カ一方ハ直角ニシテ他ハ隅角部分カ稍弧狀ヲナシアルモノ小差異ニ止マリ大體ニ於
テ双方殆ント同一構造タリ從テ之レヨリ生スル實際ノ效果ハ著シキ差異アル筈ナシト斷言ス又原審ニ
於ケル往復裝置ハ滑車ト車軸トハ双方ニ楔溝ヲ穿テ之レニ楔ヲ挿入シテ一體ノ如ク相固着シタルモノ
ニシテ證人島田孫市ノ證言及檢證調書ニ明記シアルカ如シ故ニ本件實用新案ト寸毫ノ差異ナシ云々ト
云フニ在リ

* 十五

審決ノ理由 請求人ハ第八二〇一號登録實用新案ト原審ニ於ケル島田孫市ノ證言及檢證調書ニ記載セル往復裝置トニ於テ前者ハ凹狀軸受ノ兩端ヲ直角トナシ又凹滑車ト車軸ト固着シアルモ後者ニ於テハ凹狀軸受ノ兩端ヲ圓弧狀トナシ又凹滑車ト車軸トハ固着セサルノ相違アリ從テ其構造同シカラスト主張スルモ證人島田孫市ノ證言ニ依レハ同人ノ工場ニ設置シタル往復裝置ハ本件實用新案ト同一ナリト云ヒ又檢證調書ノ圖面ニ依リ之ヲ見ルニ軸受ノ形狀ハ圓弧ニアラスシテ凹狀ヲナスモノト認メ得ヘキナリ若ン假リニ隅角部カ多少ノ弧狀ヲナシタリトスルモ本件實用新案ノ說明ニ於テハ凹狀軸受ノ兩端直角ノ點ニ就テハ何等記載ナキヲ以テ隅角部ニ於テ多少ノ相違アリトスルモ別個ノ構造ト云フヘカラス又凹滑車ト車軸ト固着スルヤ否ヤノ點ニ關シテ檢證調書ニ「橫軸ハニハ四箇ノ凹滑車」ヲ相隔離シテ固着セシム」云々ト明記アルヲ以テ本件實用新案ト同一ノ構造ナリ故ニ前記二點ニ關スル請求人ノ主張ハ不當ナリ要スルニ本件實用新案ハ其登録請求範圍ニ記載スル如ク圖面說明ノ全體ノ構造ニ對シテ其權利ヲ登録セラレタルモノニシテ之ヲ檢證調書ニ記載サレタル往復裝置ト對照スルニ二者大體ノ構造同一ナリト云ハサルヘカラス而シテ該往復裝置ハ本件實用新案登録出願前公然用キラレタルモノナルコトハ證人島田孫市ノ證言ニ依リ明ナリ故ニ本件登録實用新案第八二〇一號往復裝置ハ實用新案法第三條第一號ニ該當シ同法第一條ニ違反スルヲ以テ同法第十一條ニ依リ其登録ハ之ヲ無効トナスヘキモノナリ仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年三月二日於特許局

審判長 特許局技師工學博士男爵 斯波 忠三郎
 特許局事務官 織 田 了
 特許局技師 增 島 文次郎

第八十九號

大阪府南區北桃谷町五十三番地 請求人 森 脇 庄太郎
 大阪府東區瓦町一丁目五番地特許辦理士 右代理人 廣 井 代 藏
 大阪府東區南久寶寺町三丁目二十一番地 被請求人 浪 川 良三
 右親權者 浪 川 よ 絲
 大阪府東區高麗橋五丁目四十八番地特許辦理士 右代理人 與 戸 善之助

右當事者間ノ第一五二八號實用新案權利確認審判請求事件ニ付明治四十二年十二月二十二日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀シ更ニ抗告審判被請求人ノ申立相立タス審判費用ハ原審抗告審判被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ第一五二八號登録實用新案ノ權利ハ鏡面(1)腕杆(2)臺金(3)螺杆(4)彎曲杆(5)脚(6)ノ各部ヨリ成リ曲狀ノ臺金(3)ハ上面ニ圓環狀ヲ中真トナシ(7)字形ヲ左右ニセル脚(6)ヲ以テ彎曲杆(5)ノ下部ニ接着シ彎曲杆(5)ノ兩端ヲ腕杆(2)ニ關着シ鏡面ヲ俯仰自在ナラシメ又下方ノ臺ヲ十字狀ニ開カシメ据置ニ便ナラシメ之ヲ閉テテ藏收ニ便シタルモノナルコトハ實用新案公報ノ明示スル所ニシテ要處ノ那邊ニ在ルニ拘ラス權利ハ右各部ノ全般ニ涉ルヤ論ヲ俟タス從テ其全體ニ比較シテ圓環狀ヲ中真トシC字形ヲ左右ニナシタル脚又ハ彎形杆等ヲ備ヘサル甲第三號證ノ鏡金具ハ右登録實用新案ノ權利ト一致セサルヲ明ナリ被請求人ハ實用新案權ニ關スル撞

着ト否トニ二者ノ主眼ヲ同フスルヤ否ヤニ依リ決スヘキ問題ニシテ僅カニ重要ナラサル一局部ニ變更ヲ加フルモ以テ新案權ノ範圍外ナリト云フヘカラスト主張スレトモ主眼ト云ヒ重要ナル局部ト云フハ共ニ登録請求範圍ヲ無視セルモノニシテ探ルニ足ラス從テ原審決ハ不當ニシテ被請求人ノ申立モ亦不當ナリ云々ト云フニ在リ

原告審判被請求人申立ノ要領ハ原告審判請求人申立相立タストノ審決ヲ求ム其理由ハ本件事案ハ甚タ簡單ニシテ原審決ハ誠ニ適法ノ妥當ナルヲ認ムルニ足ルヘク被請求人ノ此以外更ニ一言ヲ加フル必要ナシ唯第一五二八號登録實用新案ノ登録請求範圍カ鏡面(腕杆)臺金(螺杆)彎曲杆(脚)ヨリ成ル鏡臺金具ノ構造ニ存シ開閉自在ナル臺金ノ要部ニ限定セザリシヲ以テ其權利ハ自ら登録請求範圍ノ各記載ニ依リ制限ヲ受ケ唯一點ニテモ之ト相違スルモノハ新案權利ノ範圍外ニ屬ストノ請求人ノ主張ノ妄ナルハ原審辯駁書中ニ詳説セル所ノ如シ殊ニ甲第三號證ノ如キハ權利ノ内容ト全然相一致スルモノニシテ唯C字形ノ脚ヲM字形ニ改メタルト意匠的變化アレトモ之ヲ以テ類似ニアラスト云フヲ得ス類似ハ即チ撞着ニシテ必シモ全然同一ナルヲ要セサルハ實用新案法第三條及第二十二條ノ規定ヲ玩味セハ自ラ明ナルヘシ云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 本件係爭ノ登録實用新案第一五二八號鏡臺金具ノ構造ト原告審判請求人ノ製造セル甲第三號證鏡臺金具トヲ比較スルニ前者ノ登録請求範圍トスル所ノ構造ハ後者ノ當該部分ノ構造ト全然同一ナリ而シテ前者ニ於テ圓環形ノ脚トC字形ノ脚トヲ使用シ後者ニ於テ圓環形ノ脚トM字形ノ脚トヲ使用セル相違ハ意匠的形狀ノ相違ニシテ實用新案法上所謂構造ノ相違ト認ムヘキモノニアラス故ニ甲第三號證ノ鏡臺金具ヲ以テ登録實用新案第一五二八號ノ權利範圍ニ屬ストナセル原審決ハ不當ニアラス仍テ主文ノ如ク審決ス其他當事者双方ニ於テ猶論辯スル所アルモ本件審決ニ必要ナキヲ以テ説明セ

ス

明治四十四年三月九日於特許局

審判長 特許局技師 湯淺藤市郎
特許局技師 増島文次郎
特許局事務官 村上隆吉

第五百五十九號

名古屋市東區榑木町三丁目十五番地

請求人 田中金五郎

大阪市南區安堂寺橋通三丁目七十二番地

被請求人 吉田源助

右當事者間ノ第四九一號實用新案登録無効審判請求事件ニ付明治四十三年八月九日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ原告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 原審決ヲ破毀ス

原告審判被請求人申立相立タス

審判及原告審判費用ハ原告審判被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 原告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ハ不服ニ付被原告人ノ申立相立タス審判費用ハ被原告人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ原審決ハ次ノ點ニ於テ不當ナリ一大阪商業會議所ハ私人ノ所持物品ニ付其所持ノ事實ヲ證明スルノ權限ヲ有セス且特種ノ事情アラサル限り同會議所カ斯ル事實ニ付證明ヲ爲シ得ヘキモノニアラス然ルニ原審カ之ヲ判斷ノ資料トセシハ不當ナリ二甲第四號證ノ「ガ

タローグ第七四八頁及第八五四頁所載ノ物品ハ登録實用新案第四九一號〔乙第二號證〕ト其形狀ヲ異ニスルノミナラス右第四九一號ハ其圖面ノ説明ニ於テ〔上略〕必要ナル螺旋釘〔ロ〕ノ頭部ヲ扁平トシ之ヲ帽子掛ノ座〔イ〕ノ裏面ニ鑄込ミタルモノナリ〔下略〕トアルモ甲第四號證ニハ何等其記載ナク其構造ハ全然之ヲ同一視スヘキモノニアラスト云フニ在リ

抗告審判被請求人答辯ノ要領ハ請求人申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ一請求人ハ商業會議所カ一私人ノ所持物ニ付事實ヲ證明スルノ權限ナシト云フモ事實ヲ證明スル行為ニ於テ個人ト法人ト何等ノ區別アリヤ商業會議所カ其知ル處ノ事實ヲ證明シタレハトテ之レニ對シ權限ヲ云々スルカ如キハ事理ヲ誤レルモノト云フヘシ二甲第四號ノ物品ト本件實用新案トハ其形狀ヲ異ニセリト云フモ本件係争ハ形狀ノ如何ニ付何等ノ關係ナキコトヲ知ラサルヘカラス又本件實用新案ハ螺旋釘ノ頭部ヲ扁平ニナシ之ヲ帽子掛ノ裏面ニ鑄込タルモノニシテ甲第四號證ノ物品ハ製造ノ方法記載ナキヲ以テ構造ハ同一視スヘカラスト云フモ從來普通ニ行ハレタル帽子掛ト螺旋トヲ綜合シテ一體トナシタル構造ニ於テ同一ナル以上ハ製作ノ順序方法ノ如キハ關係ナク此ノ場合ニ於テ本件帽子掛ト甲第四號證若クハ甲第五號證ノ如キ何レモ均等物タルニ於テ少シノ異議ヲ試ムヘキ餘地アラサルナリ云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 請求人所有ノ第四九一號登録實用新案輕便帽子掛ハ其圖面ノ説明ニ依レハ螺旋釘〔ロ〕ノ頭部ヲ扁平トナシ之ヲ帽子ノ座〔イ〕ノ裏ニ鑄込ミタルモノナリ而シテ被請求人ハ甲第四號證若クハ甲五號證記載ノ物品ハ何レモ本件帽子掛ト均等物ナリト主張スルモ甲第五號證ノ物品ハ全部鑄物ヨリ成リ本件帽子掛トハ其構造同シカラス又甲第四號證ノ物品ハ螺旋釘ノ頭部カ本件帽子掛ニ於ケルカ如ク扁平タルヤ否ヤ其構造明カナラサルノミナラス之ニ對スル大阪商業會議所ノ證明ノ如キハ證據力アルモノト認ムヘカラス要スルニ本件被請求人ノ請求ハ證據不充分ニシテ本件登録實用新案第四九一號ノ登録ヲ無効タラシムル原因トナスニ足ラス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年三月九日於特許局

審判長 特許局技師 湯淺藤市郎
特許局技師 増島文次郎
特許局事務官 村上隆吉

第四十四號

京都市下京區六波羅小島町	請求人	松宮岩吉
京都市下京區松原通幸竹町上ル二十九番地	請求人	上登能仁吉
京都市上京區富小路通二條下ル	右兩名代理人	佐久間七郎
大阪市西區立賣堀北通二丁目	被請求人	數内勇藏
大阪市北區樋ノ上町三十一番地特許辦理士	右代理人	高木藏吉
京都市下京區高辻通油小路東入ル永養本町	右代理人	高野金重
京都市下京區高辻通油小路東入ル永養本町	被請求人	松下七兵衛

右當事者間ノ第一〇一〇九號實用新案登録無効審判請求事件ニ付明治四十二年十月二十六日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀シ被請求人所有ノ登録實用新案第一〇一〇九號紙燃裝置ノ登録ハ之ヲ無効トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ原審決ニ於テ請求人ノ請求ヲ認容セラレカリシ理由ハ請求人ニ於テ既ニ公ニ使用スル紙燃器械ハ被請求人ノ登録實用新案紙燃裝置ト其構造ヲ異ニセリト認メタルニ依ルト雖其認定ハ不當ナル所以ハ原審判ニ於テ説明セル所ノ如ク且本件登録實用新案ト寸毫モ異ナラサル裝置ハ其登録出願前既ニ高城佐助ナル者特許願第四一三三號ニ於テ公知ノ理由ニ基キ登録拒絕ノ査定ヲ受ケ更ニ同人ヨリ實用新案ノ登録ヲ出願セル願書番號第二〇九一五號ニ於テ特許第一〇四五四號ト類似セリトノ理由ヲ以テ拒絕査定ヲ受ケタル事實アリ而シテ請求人等ノ使用セル器械ハ前記高城佐助カ特許及實用新案登録ヲ出願セル器械ト全然同一ニシテ本件實用新案登録品ト同一ナリ故ニ其登録實用新案ハ出願前公用ニ屬セルモノナリ云々ト云フニ在リテ原審判ニ於ケル甲第一號證乃至甲第十一號證ヲ援用シ更ニ甲第十二號證及第十三號證ヲ提出シ乙第三號證ヲ甲第十四號證トシテ援用シ猶人證ノ申立ヲナセリ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ請求人ノ申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ被請求人等カ登録ヲ受ケタル本件實用新案ノ紙燃裝置カ其登録出願前公然用ヒラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノニアラサルハ原審判ニ於テ詳説セル如クニシテ原審決カ其當ヲ得タルモノナルハ論ヲ待タス高城佐助カ特許及實用新案ノ登録ヲ出願シタル器械ト本件登録實用新案ノ紙燃裝置ト同一ナル等ノ事實ハ全然之ヲ否認ス且高城佐助カ實用新案登録ヲ出願セル器械カ特許第一〇四五四號ト類似ストノ理由ニ依リ拒絕査定ヲ與ヘラレタル事實ハ毫モ本件登録實用新案ノ無効ヲ主張スヘキ理由タルモノニアラス本件登録實用新案カ特許第一〇四五四號ト同一若ハ類似ノ物品ニアラサルハ兩者ノ登録請求範圍及構造ニ徴シテ明ナリ又請求人ノ公然使用セリト主張スル器械ハ高城佐助カ特許及實用新案ノ登録ヲ出願シタル器械ト全ク同一ナリト云フニ見ルモ該器械ハ被請求人ノ登録實用新案ノ登録ヲ無効トスヘキ原因ヲナスモノニアラサルヲ推知シ得ヘシ加之該器械ハ請求人カ秘密ニ使用セルコトアリト云フニ過キズ云々ト云フニ在リテ原審判ニ於ケル乙第一號證乃至第八號證ヲ援用セリ

審決ノ理由 本件係争ノ登録實用新案第一〇一〇九號紙燃裝置ノ構造ハ其登録請求範圍ニ記載セル如クシテ口徑ヲ稍狭メタル短圓筒狀紙燃容器及右口徑ヨリ稍大ナル直徑ノ圓形紙押版ヲ用フル特徴ヲ有スルモノナルコトハ其登録出願書、登録請求範圍及圖面ニ依リ明白ナリ而シテ請求人カ右登録出願前ヨリ帝國内ニ於テ公然使用セラレタリト主張スル器械ハ何レモ前記特徴ヲ缺如スルモノニ過キズト認メラル、カ故ニ是等ノ事實ヲ以テ本件登録實用新案ノ無効トスヘキ理由アリトナス能ハス從テ前審決ハ不當ニアラス仍テ主文ノ如ク決定ス猶其他双方ニ於テ論辯スル所アルモ本件審決ニ必要ナキヲ以テ説明セズ

明治四十四年二月二十四日於特許局

審判長 特許局技師 湯淺藤市郎
特許局技師 増島文次郎
特許局事務官 村上隆吉

第五百五十三號

大阪府東成郡江町大字今福百四十二番地

請求人 益田熊太郎

大阪市東區伏見町二丁目三十三番邸特許辦理士

大阪市東區淡路町一丁目二十四番地特許辦理士

兵庫縣川邊郡尼ヶ崎町ノ内大洲村字新城屋礎角二百九十三番地

右代理人 甘 糟 勇 雄
右代理人 佐々木 高 吉

被請求人 旭硝子株式會社

右代表者

岩 崎 俊 彌
伊 藤 秀 雄

大阪市東區橫堀二丁目二十八番地特許辦理士

右代理人 伊 藤 秀 雄

右當事者間ノ第四五九〇號實用新案登録無効審判請求事件ニ付明治四十三年八月九日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ハ不當ナルヲ以テ之ヲ破毀シ第四五九〇號登録實用新案ハ無効タルヘキモノニアラス審判及抗告審判費用ハ抗告被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由

ハ第一本件實用新案ニ於ケル原料投入室ハ熔解室ノ前ニ四周ヲ劃シタル特別ノ一室ヲ附設シタルモノナルニ甲第二號證「ゴッパ」氏硝子槽窯ノ原料投入口ハ其説明「而シテ其一方ニ於テハ或半圓形ノ工作部ヲ構成シ又爰ニ熔解硝子ヲ取出スニ供スル穴アリ又他ノ反對ノ側ニ於テハ原料投入口ヲ有ス」ト記載シアリ圖ヲ同附圖ヲ見ルニ其右方ニ半圓形ノ工作部アリ其壁ニ熔解硝子ヲ取出ス孔ヲ穿テ而シテ反對ノ側ニハ下端ニ「D」ナル符號ヲ附セル壁アリ其壁ニ孔ヲ穿テアリテ説明ト對照スルトキハ如何ニ之ヲ解釋スルモ此ノ壁ニ穿テル孔ヲ原料投入口ナリトナササルヘカラス故ニ此ノ投入口ハ本件實用新案ニ於ケル原料投入室ノ如キ特別ノ室ニアラサルコト明ナリ故ニ其構造力同一又ハ類似ナリト斷スルニ

ハ其所以ヲ説示セサレハ理由不備ナリ而シテ兩槽窯ニ於テハ基ク所ノ原理ハ同一ナリト雖本件實用新案ニ於テハ原料ハ常ニ絶ヘス投入室ニ投入スルヲ得彼「ゴッパ」氏槽窯ニ於ケルカ如ク原料カ熔解落下スルヲ待ツニアラサレハ原料ヲ投入シ得サルモノニアラス故ニ後者ニ於テハ原料投入ノ際粉未飛散ノ害及熱ノ損失ヲ來ス憂アルモ本件槽窯ニアリテハ原料カ未タ投入室ニ堆積シアル上ニ投入シ依リテ以テ絶對ニ熱ノ損失ヲ防ク效果アルモノナリ故ニ其改良セル設計ノ構造ハ新規ナル考案ニシテ實用新案法上ノ所謂類似ナリト云フヲ得第二號硝子熔解室ト溜室トヲ區別スル劃壁ニ中央ニ孔ヲ穿テタルト最下低位ニ穿テタル甲第四號證トニ於テ其孔ノ位置ニ相違アリ之カ爲メ槽窯ノ深サヲ異ニス槽窯ノ深サハ硝子ノ熔解ニ至大ノ關係ヲ有スルコトハ當業者ノ一般認知スル所ナリ然ルニ「シーメンズ」式ノ如ク下底部ニ通過孔ヲ設クルトキハ其槽ノ深サヲ増スコト能ハス之レ中央ニ通孔ヲ設ケタル劃壁カ近來米國ニ於テ其特效アルヲ認メラレタル所以ナリ故ニ中央ニ設ケタル孔ヲ單ニ不純物ヲ防ク劃壁ナリトナスハ不當ナリ第三本件實用新案ハ前記特種ノ構造ヲ具ヘタル槽窯ニシテ其各構造ハ新規ノ考案ニ成ルノミナラス假リニ各部ノ構造カ公知ナリトスルモ本案ト全ク同一ナル槽窯ハ之レナキハ明ナル事實ニシテ槽窯ノ新案トシテ見レハ新規ナル設計タルコト勿論ナリ從テ本件實用新案ハ實用新案法第三條第二號ニ該當スヘキモノトナスヘキニアラス云々ト云フニ在リ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ本抗告ヲ棄却シ抗告審判費用ハ抗告請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ第一請求人ハ本件實用新案ノ槽窯ニハ原料投入室ノ設ケアリテ硝子原料ハ絶ヘス之ヲ投入スルコトヲ得ルニ反シ「ゴッパ」氏槽窯ハ單ニ投入口ノ裝置アルノミニシテ原料カ熔解シテ落下スルヲ待ツニアラサレハ之ヲ投入シ得サル差異アリ然ルニ原審決カ彼此類似セリト云フハ理由不備ナリト云フモノ二者同一ノ目的ト構造ヲ以テ同一ノ效果ヲ生セシムルモノナルカ故ニ原審決カ類似ナリトセルコト

誠ニ明瞭ナリ故ニ理由ニ不備アルコトナシ又請求人モ自認セル如ク原料自身ニテ投入口ノ閉鎖ヲ爲シ熱ノ損失ヲ防ク構造カ同一原理ノ應用ニ罹リアル以上ハ原料堆積ノ多少ハ敢テ論スルノ要ナシ第二甲第一號ニ依レハ本件槽窯ノ通過孔(下)ハ熔解室(上)ノ熔解硝子ノ上層ニ浮遊スル滓ノ下層ヨリ熔解硝子ヲ搾リ出シテ溜室(口)ニ至ラシムル作用ヲナスヲ以テ良好ナル熔解硝子ノミヨリ溜室(口)ニ溜ムルコトヲ得ル旨ノ説明アリ即「シーメンズ」式下底部ニ通過孔ヲ設ケタルモ亦同シク熔解硝子中ノ不純物ヲ排除スルニアルヲ以テ同一ノ目的構造ニ依リテ同一ノ效果ヲ奏セシムルモノナレハ本件槽窯ノ割壁中ノ孔ハ甲第四號證「シーメンズ」式ノ孔ト相類似スルコト勿論ナリ第三「ゴッブ」氏ノ投入口「シーメンズ」式ノ通過孔ノ構造カ本件實用新案ノ登録出願前ニ帝國内ニ頒布セラレタル行刊物ニ記載アルコト甲第一、四號證ノ通りナルヲ以テ本件槽窯ノ考案ハ新規ト云フヲ得サルコトモ亦辯ヲ要セス云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 請求人ハ原審ニ於ケル甲第二號證「ゴッブ」式硝子槽窯ノ原料投入口ハ如何ニ解釋スルモ其第三圖ニ記載スル如ク「D」ナル符合ヲ附セル壁ニ穿テル孔ナラサルヘカラスト主張スルモ甲第二號證ノ記事ニ依リテ見ルニ「D」ナル符合竝ニ壁ニ穿テル孔ニ關シテ何等ノ説明ナク且圖面ニ依ルモ該孔カ原料投入口ナリト之ヲ推認スルコト能ハサルヲ以テ請求人ノ主張ハ根據ナキモノト云ハサルヘカラスト而シテ甲第二號證ノ記事ニ依レハ「ゴッブ」式槽窯ノ原料投入口ハ原料自身ニテ之ヲ閉鎖シ耐火性敷石形ニヨリ其開キヲ加減シ原料カ熔解落下スルヲ俟ツテ又原料ヲ投入ストアリ之ヲ本件實用新案ノ槽窯ニ比スルニ前者ハ戸ノ開キニ依リ原料ノ投入ヲ加減スルコトヲ得ルモ投入口ニ原料ヲ積ミ置キ硝子ノ熔解スルニ從ヒ自然ニ原料カ硝子熔解室ニ流入シ以テ原料粉ノ飛散ヲ防キ槽窯ノ冷却ヲ減スルハ共ニ同一ニシテ二者其目的ト效果ヲ同フシ其構造モ亦互ニ相類似スルモノト云ハサルヘカラスト又請求人ハ本

件實用新案ノ原審ノ甲第四號證トニ於テ割壁ニ穿テル孔ノ位置ニ相違アリ之カ爲メ硝子熔解ニ至大ノ關係アル槽窯ノ深サヲ異ニスト主張スルモ槽窯ノ深サニ關シテハ本件實用新案圖面ノ説明ニ何等ノ記載ナク從テ何等ノ制限ヲ附スルモノニアラサルヲ以テ本件槽窯ト甲第四號證ノ窯トニ於テ深淺ノ差アリトスルモ此ノ差アルカ故ニ二者其構造ヲ異ニスルモノト云フヘカラスト而シテ本件實用新案ニ於テ割壁ノ中央ニ穿テル孔ハ甲第四號證ニ於テ割壁ノ下底ニ設ケタル孔ト均シク熔解硝子ノ精製作用ヲナスニ外ナラス故ニ孔ノ位置ニ相違アリトスルモノ同一目的ニ對シ同一效果ヲ奏スルモノニシテ其構造ハ二者互ニ相類似スルモノト云ハサルヘカラスト請求人主張ノ第三點ハ假リニ各部ノ構造カ公知ナリトスルモ本案ト全ク同一ナル槽窯之レナキヲ以テ本件槽窯ハ新規ナル設計ナリト云フモ單ニ公知ノ各部ヲ綜合スルノミニ止マリ何等新規ノ效果ヲ奏セサルモノト認ムルヲ以テ之ヲ新規ノ工業的考案ニヨリ成ルモノト云フヘカラスト要スルニ本件登録實用新案第四五九〇號硝子熔解槽窯ハ其登録出願前容易ニ應用スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ帝國内頒布セラレタル甲第二號證及甲第四號證ニ記載セラルルヲ以テ實用新案法第三條第二號ニ該當シ同法第一條ニ違反シ同法第十一條ニ依リ其登録ハ無効トナスヘキモノニシテ原審決ハ不當ニアラス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年三月十七日於特許局

審判長 特許局技師法學博士男爵 斯波 忠三 郎
 特許局事務官 織 田 了
 特許局技師 增島文次郎

第二百二十八號

*二十八

神戸市三ノ宮町三丁目九十二番地屋敷	請 求 人	藤 井 吉 之 助
東京市京橋區采女町二十一番地特許辨理士	右 代 理 人	石 原 卯 八
東京市京橋區采女町二十一番地特許辨理士	右 代 理 人	飯 田 治 彦
靜岡縣駿東郡富岡村葛山三番地	被 請 求 人	荻 田 長 吉
東京市日本橋區伊勢町二十六番地特許辨理士	右 代 理 人	岩 崎 勳
東京市日本橋區伊勢町二十六番地特許辨理士	右 代 理 人	菊 池 馨 司

右當事者間ノ第四四六八號實用新案登録無効審判請求事件ニ付明治四十三年七月七日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主 文 原審決ヲ左ノ如ク變更ス

實用新案登録第四四六八號中握リ部分ノ空心中ニ竹木ヲ嵌入シテ屈曲セシメタル竹製洋杖ニ對シテハ無効トス

此他抗告審判請求人ノ申立相立タス

審判費用ハ原審及抗告審共各當事者ノ自辨トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ取消シ被請求人ノ申立相立タス審判費用ハ總テ被請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ原審ニ於テ證人山田市兵衛、新井洋太郎、伯部豐藏ノ證言ヲ全然採用セラレタルハ事實ノ真相ヲ誤リタルモノナリ山田市兵衛ハ洋傘商ニシテ洋傘柄ノ製造方法等製作工事ニ關シ何等ノ智識ヲ有スルモノニアラス又新井洋太郎ハ外國商館員ニシテ是又輸出商品ノ取扱ノ

ミニ從事シ其取扱ノ商品カ如何ニ作製セラレ如何ニ加工セラレ、ヤ等ノ技術上ノ智識ヲ有セス故ニ此兩人ノ證言ハ全然信ヲ措クニ足ラサルナリ伯部豐藏ハ曾テ烟管用ノ羅字竹ヲ製作セル經歷アルモノナルモ彎曲洋傘柄ノ製造ハ本件登録出願以前ニ於テ毫モ試ミタルコトナキモノナリ此等事實ノ真相ヲ闡明センカ爲メ原審ニ於テ請求人ハ證人訊問ヲ申請セルニ拘ハラズ單ニ一方ノ言ノミニ聽キテ審理セルハ頗ル公平ヲ失シタル審決ナリ又本件登録實用新案ハ握リ部分ノ空心中ニ細砂若クハ竹木ヲ嵌充シテ屈曲セシメタル竹製洋杖ノ構造ヲ新規ナリトスルモノナルヲ以テ假ニ竹木填充ノ事實カ洋傘柄ニ於テ公知ニ屬ストスルモ其事由ニ依リ直チニ細砂填充ノ事實ヲモ公知ナリト推斷シ本件登録實用新案ノ全部ヲ無効トスルハ適法ナリト云フヘカラス竹木填充ノ事實カ公知ナラハ本件登録實用新案ニ於ケル竹木填充ノ構造ノミヲ無効トスヘク從テ細砂填充ノ新規ナルコトニ於テ本件登録實用新案ハ尙ホ其權利ヲ存續スルヲ得ヘキナリ故ニ原審ニ於テ竹木填充ノ證據ノミヲ以テ直チニ本件登録實用新案ノ全部ヲ無効トセルハ不當ナリト云ヒ新ニ甲第一號乃至第四號證ヲ提出シ且ツ證人訊問ノ申請ヲ爲シタリ

抗告審判請求人申立ノ要領ハ抗告審判請求人ノ申立相立タス抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ請求人ハ原審ノ證人山田市兵衛、新井洋太郎ハ技術上ノ智識ヲ有セス從テ其證言ハ信ヲ措クニ足ラス伯部豐藏ハ本件審判事件ノ目的タル登録實用新案竹製洋杖ノ出願前彎曲洋傘柄ノ製作ニ從事シタルコトナシト云フモ證人ニ技術上ノ智識ナシトハ請求人ノ想像ニ基ク安斷ニシテ採ルニ足ラス假リニ然リトスルモ原審證人山田市兵衛、新井洋太郎ハ本件登録實用新案竹製洋杖ト同一ナル構造カ右登録出願前之レト類似物品タル洋傘柄ニ存在シタリヤ否ヤノ點ニ付證言スヘキ必要アリタルノミニシテ敢テ特別ナル技術上ノ智識ヲ要スル點ニ付鑑定スヘキ必要ナカリシモノナリ從テ技術上ノ智識ナキニ依リ其證言ハ信用スヘカラストノ主張ハ失當ナリ又伯部豐藏カ本件登録實用新案竹

*二十九

製洋杖ノ出願前彎曲洋傘柄ノ製造ニ從事シタルコトアルハ真正ノ事實ニシテ伯部豐藏自身カ原審ニ於テ確實ニ證言シタル點ヨリ見ルモ明瞭ナルヲ以テ辯駁ノ要ヲ認メス殊ニ審判官ニ於テ或ル證據ニ依リテ確實ナリトノ心證ヲ得ルニ於テハ當事者双方ノ申請セル證據調ヲ平等ニ爲スノ必要毫モ之レナシ而シテ證據調ハ之ヲ却下スルト否トハ審判官ノ職權ニ屬シ敢テ探證ノ上ニ於テ不公平ナリト云フヲ得ス從テ此點ニ關スル請求人ノ主張ハ窮餘ノ主張ニ外ナラサルモノトス又請求人ハ竹木填充ノ構造ハ公知ニ屬スルモ之ニ由リ細砂填充ノ構造ノ新規ナルヲ妨ケスト云フモ是レ實用新案法第三條ノ規定ヲ無視シタル失當ノ見解ナリ同條ニ依レハ新規ト稱スルニハ登錄出願前同一又ハ類似ノ物品ニ關シ帝國内ニ於テ公然知ラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノニアラサルコトヲ要ス故ニ細砂填充カ竹木填充ノ構造ト類似ニアラスト斷スルコトヲ得ルトセハ請求人ノ主張ハ正當ナルヘキモ如斯顯著ナル類似ノ構造ヲ有スルモノニ對シテハ如何ニ曲辯ヲ弄スル請求人ト雖モ類似ニアラスト斷スルノ勇氣ナカルヘシ從テ同法第三條ニ該當シ新規ト稱スルヲ得ス結局原審決ハ正當ニシテ請求人ノ主張ハ毫モ其理由ナシト云フニ在リテ新タニ乙第一號證ヲ提出シ且證人申請ヲ爲シ併セテ原審ノ證據ヲ援用スル旨申立タリ

審決ノ理由 本件係爭ノ實用新案登錄第四四六八號ヲ查閱スルニ其登錄請求範圍ニ依レハ握リ部分ノ空心中ニ細砂若クハ竹木ヲ嵌充シテ屈曲セシメタル竹製洋杖ノ構造ヲ以テ新規考案ノ要部ト爲スモノナリ然ルニ其考案中握リ部分ノ空心中ニ竹木ヲ嵌充シテ屈曲セシメタル洋傘柄カ右登錄出願前即チ明治三十九年十二月二十七日以前ヨリ疾クニ帝國内ニ於テ公然知ラレタル事實ハ信認スルニ足ルヘキ證人土屋喜八及ヒ原審證人山田市兵衛、新井洋太郎ノ證言ニ依リテ之ヲ認メ得ヘシ故ニ此ノ部分ニ對シテハ實用新案法第三條第一號ニ該當シ同法第一條ノ規定ニ反シ其登錄ハ同法第十一條ニ依リ無効タルヘキモノト

ス然リ而シテ他ノ一要部タル握リ部分ノ空心中ニ細砂ヲ嵌充シテ屈曲セシメタル點ハ竹木ヲ嵌充シタルモノト物質ニ於テ全然異ナリ細砂嵌充ハ竹木嵌充ト洋杖ノ構造ヲ異ニスルモノト認メ得ヘキカ故ニ之ヲ前示公知ノ事實ニ類似スルモノト云フヲ得ス且ツ此ノ要部カ出願前公知公用ニ屬シタル立證ハ毫モ之レナキヲ以テ新規考案トシテ其登錄ハ存續スヘキモノトス此他當事者間ニ於テ論爭スル處アルモ審決ニ必要ナキカ故ニ敢テ説明セス審判費用ニ付テハ明治四十二年十月敕令第三百一號第一條及民事訴訟法第七十三條ニ則リ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年三月三十一日於特許局

審判長 特許局事務官 織 田 了
 特許局技師 增 島 文 次 郎
 特許局事務官 村 上 隆 吉

第七十五號

大阪府西成郡勝間村五百五十二番屋敷 請 求 人 若 野 惣 兵 衛
 大阪市東區高麗橋三丁目二十八番地特許辦理士 右 代 理 人 岡 八
 高松市字天神前二百三十番戶 被 請 求 人 堤 安 太 郎
 香川縣香川郡栗林村字中村四十六番戶 被 請 求 人 吉 田 利 吉
 大阪市東區備後町二丁目三十六番地特許辦理士 右 代 理 人 堤 他 彦
 香川縣香川郡栗林村字中村百三十七番戶 被 請 求 人 日 下 仁 平 次

右當事者間ノ第八七〇ニ號實用新案登錄無效審判請求事件ニ付明治四十三年十一月四日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀シ被請求人等カ申立相立タス審判及抗告審判費用ハ被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ本件實用新案第八七〇ニ號紙製風ハ其登錄出願以前ニ於テ他人カ之ヲ製作セシ事實ナキハ請求人ノ斷言スル所ナリ本品ハ内地ニ於テ販賣セラルルニアラスシテ凡テ海外ニ輸出シ之ヲ取扱販賣スル商館ハ其數限アリ然ルニ本件登錄出願前ニ於テ本品ト同一品ヲ各外國商館ニ於テ取扱ヲナササリシ事ハ當業者ノ知悉セル所ニシテ此ノ點ニ付原審ニ於テ井村祐太郎、森崎鶴雄兩證人ノ申請ヲナシタルニ此ノ證據方法ヲ却下シ反對ニ甲第四號證甲第五號證ノ如キ證據ヲ採用セラレタル原審決ハ不當ナリ又假リニ甲第四號證及第五號證及證人長町久保等ノ證言ヲ信スヘントスルモ此レハ唯ダ輸出ヲ取扱ヒタルノミニシテ此ノ一回輸出ヲ取扱ヒタル事實ヲ以テ直ニ帝國内ニ於テ公然知ラレタリト云フヘカラス此ノ點ニ付テハ原審ハ何等ノ説明ヲ與ヘヌ又被請求人中堤安太郎、日下仁平太ハ曾テ本件無效審判ヲ請求シタルモノニシテ本件實用新案第八七〇ニ號登錄ノ無効ナラサルコトハ審判第一五二號ヲ以テ明治四十二年五月十九日審決セラレタル處ナリ然ルニ被請求人ハ右審判ト同一當事者ニシテ同一理由ニ基キ同一登錄實用新案ノ無効審判ヲ請求スルモノナルヲ以テ之レ明ニ不再理ノ原則ニ違反スルヲ免レサルモノトス云々ト云ヒ且證人訊問ノ申請ヲナセリ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由

由ハ請求人提出ノ請求理由ヲ見ルニ(一)出願前請求人自カラ製作販賣シタルコトナシト主張シ之ヲ確ムル爲メ證人ノ喚問ヲ申請シ(二)甲第四號證同五號證ヲ否認スルト共ニ其提出ノ時機ニツキ論難シ(三)一回外國ニ輸出シタルノミニテハ法ニ所謂公然知ラレ公然用キラレタルモノト云フヲ得ス(四)原審請求人堤安太郎、日下仁平太ニ對シテハ一事不再理ノ原則ニ違反スルヲ免レサルニ原審ハ其原則ニ當ララストセラレタルハ不當ナリト論スルモ原審當時請求人カ四十二年六月一日付ヲ以テ差出シタル再答辯記載ノ事項ト一モ變ルコトナク而シテ右理由ニ付テハ已ニ被請求人カ四十二年七月四日再答辯書ヲ提出シ辯駁ヲナシタルヲ以テ本審答辯書ニ換ヘントス尙一言セン請求人ハ本件物品ヲ登錄出願前販賣シタルコトナキヲ以テ他人ハ尙更製造販賣シタルコトナシト主張スルモ甲第六號證ノ一乃至四ニ照ラスモ請求人自カラ出願前販賣シタルコト明ナリ云々ト云ヒ甲第六號證ヲ提出セリ

審決ノ理由 請求人ハ本件登錄實用新案第八七〇ニ號紙製風ハ其登錄出願前他人カ之レヲ製作セシ事實

ナシト主張スルモ本件實用新案登錄出願前即明治四十年八月申長町久吉カ神戸市「イ、エツチ、タスカ」商會ヨリ本件實用新案ト同一ノ風ノ注文ヲ受ケ同年十二月一日之カ引渡ヲナシタルハ證人久保市五郎及長町久吉ノ證言ニ依リ明ナリ故ニ此ノ點ニ關スル請求人ノ主張ハ不當ナリ又請求人ハ假リニ甲第四號證同第五號證及證人長町久保等ノ證言ヲ信スヘキモノナリトスルモ此レハ唯タ一回外國ニ輸出ヲ取扱ヒタルノミニシテ此ノ事實ヲ以テ帝國内ニ公然知ラレタルモノト云フヲ得スト主張スルモ該品ノ輸出ニ關係シタル者ハ商品トシテ公然之ヲ取扱ヒ自由ニ其構造ヲ觀察スルコトヲ得ルヲ以テ假令帝國内ニ於テ多數カ之ヲ知ラサルモノトスルモ公然知ラレタルモノト云ハサルヘカラス故ニ此ノ點ニ關スル請求人ノ主張ハ不當ナリ又請求人ハ本件審判事件ハ明治四十二年五月十九日付審判番號第一五二號事件ト同一當事者ヲシテ同一理由ニ基キ同一登錄實用新案ノ無効審判ヲ請求スルモノナルヲ以テ一事

不再理ノ原則ニ違反スルモノナリト主張スルモ實用新案法ニ準用スル特許法ノ規定ニ依レハ何人ト雖
同一事實同一證據ニ基キ同一審判ヲ請求スルコトアリ然ルニ本件審判ハ第一五一二號審判事件トハ證
據ヲ異ニスルモノト認ムルヲ以テ一事再理ト云フヘカラス故ニ請求人ノ主張ハ不當ナリ要スルニ本件
登錄實用新案第八七〇二號紙製風ハ其登錄出願前公然知ラルルモノニシテ實用新案法第三條第一號ニ
該當シ同法第一條ニ違反スルヲ以テ同法第十一條ニ依リ其登錄ハ之ヲ無効トスヘキモノナリ仍テ主文
ノ如ク審決ス

明治四十四年四月四日於特許局

審判長 特許局長 中 松 盛 雄
特許局事務官 織 田 了
特許局技師 増 島 文 次 郎

第八十四號

大 阪 市 南 區 木 津 鷗 町 四 丁 目 五 百 八 十 六 番 地 請 求 人 藤 代 宗 吉
大 阪 市 東 區 伏 見 町 二 丁 目 三 十 三 番 邸 特 許 辦 理 士 右 代 理 人 竹 田 廣 助
大 阪 市 南 區 難 波 東 四 手 町 八 百 十 二 番 地 被 請 求 人 太 田 德 松
右當事者間ノ第一四九三五號實用新案登錄無効審判請求事件ニ付明治四十三年三月十五日當局ニ於テ爲
シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ
主文 原審決ヲ破毀ス抗告審判被請求人ノ申立相立タス

審判及抗告審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ審判番號第一八六二號ノ審決ハ不服ニ付之ヲ廢棄シ請求人
有ノ實用新案第一四九三五號ノ登錄ハ無効ノモノニアラス審判費用ハ被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ
求ム其理由ハ本件請求人所有ノ第一四九三五號實用新案(假リニ甲ト稱ス)ハ亞鉛板ヲ用ヒ本件被請求
人所有ノ第一三五四五號實用新案(假リニ乙ト稱ス)ハ「ボール」片ヲ用ヒアリ依テ一見相類似スルノ感
ヲ生シ易カラシムルモノナレトモコハ皮想ノ感ニシテ能ク其眞ヲ研メサルナリ何トナレハ「ボール」片
ノ如キ軟質ノモノヲ充填センカ鋸頭ヲ鋸打スルトキハ直ニ鋸頭面ニ凸凹狀ヲ呈シ且「ボール」片ノ軟質
ナルカ爲メ鋸脚ヲ十分ニ固定シ能ハス之ニ反シテ第一四九三五號實用新案(甲)ノ鋸ハ亞鉛板ノ硬質ノ
モノヲ充填シアルカ故鋸頭ヲ幾度鋸打スルモ凹凸ヲ來サス鋸頭ハ常ニ亞鉛板ト密接シテ鋸打ニ堪ヘ亞
鉛板ト鋸頭トニ些ノ間隙ヲ作ラヌ從テ鋸脚ノ動搖スルカ如キ憂ナシ故ニ再三使用ニ堪ユルカ故經濟ナ
リ斯クノ如ク效果ニ差異アルヲ以テ甲乙各別個ノ構造ナリ云々ト云フニ在リ
抗告審判被請求人答辨ノ要領ハ請求人ノ申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其
理由ハ請求人ハ甲乙兩號(被請求人所有第一三五四五號實用新案ヲ假リニ甲トシ請求人所有第一四九
三五號實用新案ヲ假リニ乙トス)ヲ對照シテ其構造異レリトシ且乙號ハ鋸打ヲ加ヘテ凹凸ノ狀ヲ見ス
ト云フモ前審判中此ノ點ニ於テハ充分互ニ論旨ヲ盡シタリ甲乙兩號ハ其構造ニ於テ寸毫ノ相違ナク僅
ニ鋸頭ノ内部ニ收藏シタル物質カ「ボール」紙ト亞鉛トノ相違アルニ過キス而カモ前審決ノ說示シタル
如ク此ノ場合ニ於テ均等物タルヲ免カレサルニ至ツテハ法理上類似タルコトハ論ヲ俟タス而シテ請求
人カ異ナリタル物質ノ變換ヨリ得タル效果ナリトシテ喋々スル所ハ鋸打ヲ加ヘテ凹凸ヲ生セスト云フ
ニアルモ前審ニ於テ被請求人カ提出シタル甲第五號證ニ據ルモ甲乙兩號共ニ鋸打ヲ加フレハ凹凸ヲ生

スル點ニ於テ何等ノ相違ナシ云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 請求人所有ノ登録實用新案第一四九三五號ハ圓形狀ニ製作シタル金屬鍍冠裏部ノ中眞ニ扁平頭ヲ有スル普通ノ釘ヲ直立セシメ之ヲ鍍脚トナシ釘ノ周圍ニ亞鉛片ヲ充填シ且亞鉛片ヲ覆蓋スル爲メ鐵板ヲ張被シテ成ル包鍍ノ構造ナルコトハ登録請求範圍圖面ノ說明ニ依リ明カナリ又被請求人所有ノ登録實用新案第一三五四五號ハ其請求範圍圖面ノ說明ニ依レハ中央ニ穿孔セル金屬裏片ニ釘頭アル釘脚ヲ貫通シ其上面ニ「ボール」片ヲ充テ更ニ上面ヨリ金屬表片ヲ置キ其周圍ヲ裏面ニ折曲ケテ成ル構造ナリ此ノ二者ヲ對比スルニ其外觀形狀ハ同一ナルモ前者ハ鍍頭ノ内部ニ亞鉛片ヲ藏收シ後者ハ「ボール」片ヲ填充シ從テ其效果同シカラサルモノト認ムルヲ以テ構造ヲ異ニスルモノト云ハサルヘカラス故ニ登録實用新案第一四九三五號ノ包鍍ハ登録實用新案第一三五四五號ノ三段包ノ鍍トハ其構造ヲ異ニスルヲ以テ其登録ハ無効トスヘキモノニアラス其他當事者間相爭フ所アルモ本件審決ニ關係ナキヲ以テ之ヲ説明セス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年四月二十八日於特許局

審判長 特許局技師 湯淺藤市郎
特許局技師 增島文次郎
特許局事務官 村上隆吉

第三百二十五號

東京市麻布區新網町一丁目五十七番地

請求人 松島芳次郎

東京市神田區裏神保町四番地特許辨理士

右代理人 宇田正穂

東京市神田區美土代町一丁目五番地

被請求人 堤悦英

東京市日本橋區北島町一丁目十四番地

被請求人 頓所乙吉

東京市神田區錦町一丁目一番地特許辨理士

右代理人 吉澤良平

右當事者間ノ第七八三九號登録實用新案權利確認審判請求事件ニ付明治四十三年七月二十一日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀シ登録實用新案第一五九一九號ハ登録實用新案第七八三九號ノ權利範圍ニ屬セス審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トスト審決ヲ求ム其理由ハ登録實用新案第一五九一九號角材面取鉋ノ登録範圍ハ壓迫金具ヲ鉋ト抱合シテ鉋臺ニ裝置シタル構造及中央部ニ螺旋ヲ刻セサル雄螺旋杆ヲ左右二箇ノ定規ノ兩端ニケ所ニ貫通シ以テ定規ヲ左右ニ相均シキ距離ニ於テ開クコトヲ得ヘク爲シタル構造ニ存スルモノニシテ登録實用新案第七八三九號堤式面取鉋ハ右壓迫金具ノ裝置ナキノミナラス脚臺間ノ間隔ヲ調節スヘキ螺旋杆ハ螺旋ヲ其一端ニノミ刻シタルヲ以テ脚臺ハ左右ニ相均シキ距離ニ於テ開クコト到底不可能ナリ即チ兩者ハ其構造ノ主要點ヲ異ニスルヲ以テ前者ハ後者ノ權利範圍ニ屬セスト認ムルヲ至當トス云々ト云フニ在リ

抗告被請求人申立ノ要領ハ請求人ノ申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ請求人カ登録實用新案第七八三九號ニ於テ缺如スル如ク主張セル壓迫金具ナルモノハ該實用新案ニ於ケル添板ニ該當シ又第一五九一九號登録實用新案ノ鉋臺及鉋

鉋ニ止杆ハ止釘ニ定規ハ脚臺ニ雄螺旋杆ハ螺旋ニ撮ミハ曲柄ニ一致スルモノニシテ二者全ク其構造ヲ同フセルモノナリ請求人ハ第七八三九號登錄實用新案ノ雄螺旋杆ハ其一端ニノミ螺旋ヲ刻ミタルモノナルヲ以テ脚臺ハ左右ニ均シキ距離ニ開カシムルコトヲ得ヘキモノニアラスト主張スルモ該螺旋杆ハ一端ニノミ螺旋ヲ刻ミタルモノニアラストシテ杆ノ全部ニ刻ミタルモノナリヨシ又請求人ノ主張ノ如ク杆ノ一端ニノミ刻シタルモノナリトスルモ第七八三九號登錄實用新案ノ構造ハ其圖面ノ説明ニ於テ廣ク兩脚間ノ間隔ヲ調節スヘキ螺旋トノミ説明シ其螺旋ヲ刻ムヘキ部分ヲ限定セサルヨリ見ルモ第一五九一九號登錄實用新案ハ第七八三九號登錄實用新案ノ權利範圍ニ屬スルモノナルコト原審決ニ示セル所ノ如シ云々ト云フニアリ

審決ノ理由 本件係争ノ第七八三九號登錄實用新案堤式面取鉋ノ構造ハ普通ノ如キ鉋臺ヲ二箇ノ脚臺ニ蟻溝ヲ以テ差込ミ脚臺間ノ間隔ヲ螺旋ヲ以テ調節スヘクシタルモノナリ然ルニ第一五九一九號登錄實用新案角材面取鉋ハ全ク前記構造ト同一ノ構造ヲ有スルモノナルカ故ニ後者ハ前者ノ權利範圍ニ屬スルモノトス前者ノ螺旋ト後者ノ雄螺旋杆トノ異同ニ付當事者ハ大ニ争フ所アリト雖後者ノ定規二箇中ノ一箇ハ鉋臺ニ定着シアルモノナルカ故ニ鉋臺ニ對シテ定規カ左右相均シキ距離ニ開クヘキ作用アルモノニアラスト要ハ唯前者ニ於ケル螺旋ト同シク脚臺間ノ間隔ヲ調節スルニ止マレリ若夫レ雄螺旋杆其物ニ對シテ定規カ左右均シク開クコトノ如キハ殆ント實用上無意義ノ事ニ屬シ且之カ爲メニ後者カ前者ノ權利範圍ニ屬スルヲ妨クルモノニアラスト仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年四月二十八日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 阪田 貞一
特許局技師 湯淺 藤市郎

特許局事務官 織田 了

第六十八號

東京市淺草區旅籠町二丁目二番地	請求人	金井 麻吉
東京市芝區櫻川町二番地特許理士	右代理人	近川 清澄
東京市芝區櫻川町二番地特許理士	右代理人	且 六郎治
東京市淺草區西島越町三番地	被請求人	深川 勝太郎
東京市京橋區采女町二十七番地特許理士	右代理人	木戸 傳寬
東京市京橋區采女町二十七番地特許理士	右代理人	市川 寬

右當事者間ノ第一五五〇號實用新案登錄無效審判請求事件ニ付明治四十三年十月八日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ハ之ヲ取消ス第一五五〇號實用新案改良「カバー」ノ登錄ハ之ヲ無効トス審判及抗告審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ請求人ハ明治四十二年六月十一日願書番號第三四八七〇號都「カバー」ヲ出願シ明治四十三年二月十日遂ニ無効ニ屬シタリト雖モ同日迄出願ニ伴フ權利ハ存續セルモノナリ然ルニ被請求人ハ明治四十二年六月二十二日登錄實用新案第一五五〇號改良「カバー」ヲ出願シ登錄査定ヲ受ケタルハ先願ニ係

ル實用新案法第五條ノ優先權ヲ無視シタル不法ノ査定ナリ又請求人ノ出願ニ係ル實用新案登録願ト被
請求人所有ノ登録實用新案トニ就キ其圖面及說明書ヲ對照スレハ請求人ノ考案ト被請求人ノ考案カ甲
第四、五號證ノ如ク極メテ相類似スルモノナルヲ知ルニ充分ナリ然ルニ原審決理由ニ於テ其圖面及說
明書ニ於テハ二者類似品ナルコトヲ認ムルニ足ラストセルハ是圖面及說明書ノ巧拙問題ト混同シタル
自ラ別個ノ問題ニシテ本件類否ノ鑑別問題ト何等關スルモノニアラス然ルニ請求人カ二者類似品ナリ
トノ主張ヲ是認スルニ足ラストセルハ不當ナリ云々ト云フニ在リ

抗告審判被請求人答辯ノ要領ハ抗告審判請求人申立相立タス審判及抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ
負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ請求人ノ實用新案登録願第三四八七〇號ト本件登録實用新案トハ其
類似關係ヲ認ムルコト能ハサルカ故ニ從テ實用新案法第五條ノ適用ヲ生スヘキ性質ニアラス又請求人
ノ登録願ト本件實用新案トカ類似構造ナリト主張スルモ請求人ハ「カフス、カパー」ノ兩端ヲ九ク袋狀
ニナシタル構造ノ意味ヲ誤解セリ單ニ「カフス」ニ挾挿スヘクナスコトヲ示スノミニテハ決シテ袋狀ト
云フヘカラス兩端接着ノ構造ヲ特示セサル以上ハ決シテ袋狀ヲ主張スルノ資格ナシ即チ原審ハ此ノ見
解ヲ明白ニシ毫モ不當ニアラス云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 明治四十二年六月十一日請求人ノ出願ニ係ル實用新案登録願第三四八七〇號ハ請求人カ其
出願ノ權利ヲ放棄シ明治四十三年二月十一日出願無効トナリタルモノニシテ法律上其登録願ハ初メヨ
リ存在セサルモノト看做スヘキヲ以テ後願ニ係ル被請求人ノ第一五五一〇號登録實用新案カ登録セラ
レタリトスルモ之ニ對シテ出願無効トナリタル請求人ノ登録願カ何等ノ影響ヲ及ホスヘキモノニアラ
ス故ニ本件登録實用新案第一五五一〇號改良「カパー」ノ登録ハ之ヲ無効トスヘキモノニアラス其他當
事者間相爭フ所アルモ本件審決ニ關係ナキヲ以テ之ヲ説明セス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年五月二日於特許局

審判長 特許局技師 湯淺藤市郎
特許局事務官 織田了
特許局技師 増島文次郎

第一百十號

愛知縣碧海郡矢作町大字西牧内十七番戸	請 求 人	生 駒 象 吉
東京市日本橋區堀越町三丁目十一番地特許辯理士	右 代 理 人	三 上 七 十 郎
愛知縣碧海郡矢作町大字東本郷十九番戸	被 請 求 人	淺 井 七 郎 左 衛 門
愛知縣碧海郡矢作町大字宮永二十三番戸	被 請 求 人	都 築 庄 九 郎
愛知縣碧海郡矢作町大字東本郷字西屋敷三十五番地	被 請 求 人	稻 垣 文 吉
愛知縣碧海郡矢作町大字池端二十二番戸	右 從 參 加 人	平 岩 金 右 衛 門
東京市京橋區館屋町十番地特許辯理士	右 被 請 求 人 代 人 兼 從 參 加 人 代 人	內 村 達 次 郎

右當事者間ノ第九四〇二號實用新案登録無効審判請求事件ニ付明治四十三年四月二十五日當局ニ於テ爲
シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス
抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ取消シ更ニ抗告審判被請求人ノ申立相立多ス審判及抗告審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ原審決ハ證人脇田常三郎及藤井増五郎ノ證言ヲ唯一ノ證據トシテ本件實用新案ノ登錄出願前公知公用ニ屬セルコトヲ認定シタリト雖右證人等ノ證言ハ虛偽曖昧ニシテ毫モ信ヲ措クニ足ラサルモノナレハ此證言ニ基ク原審決ハ不當ナリ其他本件實用新案カ登錄出願前公知公用ニ屬シタル事實證據ヲ見ルヘキモノナシ云々ト云フニ在リテ原審ニ於ケル一切ノ書類及證據ヲ援用シ又新乙第四號證乃至第十七號證ヲ提出シ且證人訊問ノ申請ヲナセリ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ本件抗告審判ノ請求ハ之ヲ棄却ス抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ證人脇田常三郎及藤井増五郎ノ證言ハ其訊問調書ニ依レハ其内ノ或部分ハ誤謬ノ點存在セルカ如キモ之レ調書記載ノ際發音ノ相違等ヨリ來リタルモノニシテ此少瑕疵アルノ故ヲ以テ證言ヲ否定スヘキニアラサルノミナラス右證人等ハ其地方ニ於テ地位名望アル者ノミナレハ其證言ハ最モ眞ヲ措クニ足リ原審決ニ於テ之ヲ援用シタルハ不當ニアラス其他被請求人カ提出セル證據ノ實物ヲ親シク調査セハ本件實用新案カ其登錄出願前公知公用ニ屬セルノ事實判明スヘシ云々ト云フニ在リテ原審ニ於ケル甲各號證ヲ援用シ更ニ證人ノ訊問ヲ申請セリ

審決ノ理由 本件登錄實用新案第九四〇二號製絲用口立帶原料整齊器ノ構造ハ截頭圓錐狀ナル筒身ノ底部ニ上面ヲ圓形ニ隆起セシメタル筒底ヲ嵌挿シタルモノニシテ明治四十一年二月八日出願同年六月二十三日登錄ニ係ルモノナリ然ルニ之ト同一ナル構造ヲ有スル整齊器ハ前記登錄出願前既ニ帝國内ニ於テ公然知ラレ且用ヒラレタルモノナルコト證人三井傳四郎ノ證言ニ據リ認知スルニ足レリ而テ口立帶ノ原料ヲ二回ニ整齊スル代リニ一回ニテ之ヲ爲シ得ヘク器底上面ノ隆起ヲ加減スル如キハ以テ別種ノ

實用新案ト爲スニ足ラサルノミナラス本件登錄實用新案ニ於テハ此點ニ關シ何等制限セル構造ヨリ成ルモノニアラス故ニ本件登錄實用新案ハ實用新案法第三條第一號ニ該當シ同法第一條ニ違背スルヲ以テ其登錄ハ同法第十一條ニ依リ之ヲ無効トスヘキモノトス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年五月三日於特許局

審判長 特許局技師 湯淺藤市郎
 特許局事務官 織田了
 特許局技師 増島文次郎

第二百七號

神奈川縣足柄下郡小田原町十字町一丁目七十四番地 請求人 齋藤龜太郎
 東京市神田區佐久間町三丁目二十一番地特許辦理士 右代理人 音羽耕逸
 神奈川縣足柄下郡小田原町幸一丁目百七十一番地 被請求人 鍵和田國太郎
 東京市京橋區木挽町九丁目七番地特許辦理士 右代理人 稻木繁太郎

右當事者間ノ第一八四八八號實用新案登錄無効審判請求事件ニ付明治四十四年二月十三日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス
 抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス
 申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀シ原審判請求人ノ請求ヲ棄却ス審判費用ハ全部

被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ被請求人ノ第一六九七一號登錄實用新案ハ適宜ノ形狀ナ
 ル切抜孔ヲ有スル木板ノ孔内ニ適合スヘキ模様又ハ文字ニ在リテ切抜版面ニ於ケル繪畫ハ其範圍外ナ
 リ而シテ其切抜板ニ適合スヘキ模様又ハ文字ヲ表示セル中板ハ不規則不定形ナル數箇乃至數箇ニ切斷
 セラレアリテ嵌入者ヲシテ斯ル不規則不定形ナル數多ノ中板ヲ如何ニ接合スレハ切抜孔ニ適合セシム
 ルヲ得ルヤ等ニ付キ興味ヲ惹起セシメテ遊戯ノ目的ニ供セラル、モノナリ然ルニ請求人ノ第一八四
 八八號登錄實用新案ハ切抜孔ニ適合スヘキ中板ハ專ラ文字自體ニ限ラレ文字以外何等ノ模様ヲモ配合
 スルノ餘地ナキモノニシテ而モ其文字タルヤ字劃ト筆法トニ依リ一定ノ規則ヲ有スル形狀ニ切斷セラ
 ル、カ故ニ之ヲ嵌入スルニ當リテ字劃ト筆法トニ參酌セサルヲ得ス故ニ幼稚ナル嵌入者ヲシテ玩用ノ
 間自ラ文字ノ書體ヲ得セシムルノ目的ニ供セラル又被請求人ノ登錄新案ハ單ニ模様又ハ文字全體ヲ切
 リ抜キタルニ在リテ嵌入スヘキ中板ノ部分ヲ組成スル模様文字以外切抜板ノ部分ニハ何等ノ考案ヲ施
 ス所ナシ然ルニ請求人ノ登錄實用新案ハ中板文字以外ノ部分ニ繪畫ヲ描出シ其繪畫ノ名稱ヲ文字ニ切
 リ抜キ以テ幼兒ヲシテ畫面ニ依リテ其文字ノ讀方ヲ留得セシメ次テ中板ノ接合ニ依リ字劃ト筆法トヲ
 知得セシムルモノナリ又前段記載ノ二項ノ差異ハ實ニ兩者ノ形狀又ハ組合ハセニ係リ延テ其目的の效果
 ヲモ別ニスルモノナレハ實用新案法第一條ニ該當スヘシ云々ト云フニ在リ
 抗告審判被請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タヌ審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理
 由ハ被請求人ノ第一六九七一號實用新案ト請求人所有ノ第一八四八八號實用新案トヲ對比スルニ其構
 造及作用全然同一ニシテ寸毫ノ差異ナキモノトス而シテ被請求人ノ登錄實用新案第一六九七一號ハ明
 治四十三年四月二十日ノ登錄ナリ又請求人ノ第一八四八八號實用新案ハ明治四十三年十月二十四日登
 録ナルヲ以テ前願ノ爲メ後願ヲ無効トスヘキハ當然ノコトニシテ原審決ハ不當ニアラス云々ト云フニ

在リ

審決ノ理由 請求人所有ノ第一八四八八號登錄實用新案木製教育智惠板ハ明治四十三年九月二十八日出
 願シ其構造ハ木製ノ蓋付小箱ニ中板ヲ入レ其中中央ニ繪ヲ附シ繪ノ名稱ヲ板ニ抜キタル孔ニ數箇ノ斷片
 ヲ適合嵌入シテ現ハシ又之ヲ取リ外ツスコトヲ得ル板ナルコトハ其圖面ノ說明ニ依リ明ナリ又被請求
 人所有ノ第一六九七一號登錄實用新案模様拔智惠板ハ明治四十三年三月七日出願シ其構造ハ適宜形狀
 ノ切抜孔ニ數箇若クハ數十箇ノ斷片ヲ適合嵌入シテ模様又ハ文字ヲ現ハシ又之ヲ取外ツスコトヲ得ル
 板ナルコトハ其圖面ノ說明ニ依リ明ナリ此ノ二者ヲ對比スルニ版面ニ孔ヲ抜キ之ニ取外ツシノ自在ナ
 ル數多ノ斷片ヲ適合嵌入シテ文字ヲ現ハスコトハ共ニ同一ニシテ中板ヲ蓋付小箱ノ内ニ装入スルカ如
 キハ他ノ玩具ニ於テ普通ニ用キラル、所ナルヲ以テ權利ノ内容ニ何等ノ影響ヲ及ボスヘキモノニアラ
 ス請求人ハ第一八四八八號登錄實用新案ハ中板ノ文字以外ニ繪畫ヲ描出スルヲ以テ新規ノ組合ハセノ
 如ク主張スルモ繪畫ト文字トノ斯カル連結ハ實用新案法第一條ニ規定サレタル組合セニ該當スルモノ
 ト云フヘカラス要スルニ請求人所有ノ第一八四八八號登錄實用新案ハ被請求人所有ノ第一六九七一號
 登錄實用新案ヨリ後願ナルヲ以テ其登錄ハ實用新案法第五條ニ違反シ同法第十一條ニ依リ之ヲ無効ト
 ナスヘキモノニシテ原審決ハ不當ニアラス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年五月三十日於特許局

審判長 特許局技師 湯淺藤市郎
 特許局事務官 織田了
 特許局技師 増島文次郎

第百八十四號

* 四十六

大阪市南區天王寺大道一丁目三千九百九十一番地
大阪市南區高津町九番町百番邸

請 求 人 岩 崎 駒 吉
被 請 求 人 安 田 菊 次 郎

右當事者間ノ第一七六三〇號實用新案登錄無效審判請求事件ニ付明治四十三年十二月十六日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主 文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀シ請求人所有ノ第一七六三〇號實用新案ノ登録ハ無効ニアラストノ審決ヲ求ム其理由ハ原審決カ本件登録ヲ其出願前公知公用ナリト認メタルハ不當ナリ又請求人ハ前審ノ申立ヲ維持ス又證人森田平造ハ其訊問調書ノ記載ニ依レハ本案登録出願後ニモ係争ノ蠅、タ、キヲ買受ケタリトノ供述ヲナシアリ證人西村卷之助ハ本案生權後ニモ係争ノ蠅、タ、キ數百本ヲ買受ケタル旨明示セリ且證人兩名ハ販賣業者ナルニヨリ之ヲ販賣シタルモノナルヤ明カニシテ實用新案法第二十二條ノ罰則ニ該當シ此ニ本件ノ成否ニ付直接利害關係ヲ有シ證人タル資格ヲ缺如セルモノナルニ係ハラス兩名ハ殊更ニ僞證ヲナシ民事訴訟法第三百十條ニ抵觸セサル旨ヲ供述シテ證言ヲ爲シタルモノニシテ證人等ニ對シテ僞證ノ告訴ヲナシ其訴追ヲ俟ツ可シト雖モ斯ル明白ナル理由ヲモ願ミス其提言ヲ斷認ノ基本ト爲シタル審決ハ不當ナリト云フニ在リ

抗告審判被請求人ハ指定ノ期間内ニ答辯書ヲ提出セス

審決ノ理由 請求人ハ明治四十二年六月二十日第四九四〇二號特許願蠅、タ、キノ特許ヲ出願シ同時

ニ特許出願中ナル文字ヲ附シテ該品ノ試賣ヲ繼續セルコトハ原審ニ於テ請求人ノ陳辯スル所ニヨリ明ナリ然ルニ本件第一七六三〇號登錄實用新案ハ明治四十三年六月三日ノ登録出願ニ係リ又其圖面ノ說明ニ依レハ針金網ニテ適當ノ形狀ヲ作り之ニ緣金ヲ壓着シ又緣金ニハ階段ヲ設ケ金網ノ中部ヲ貫キテ柄ヲ附シタル構造ヨリ成ルモノニシテ前記試賣セル第四九四〇二號特許願ノ蠅、タ、キニ比シ僅ニ緣金ニ階段ヲ設ケタル相違アルノミナリ而シテ此階段ヲ設ケル如キハ事實緣金ノ厚薄如何ニ依リテモ目的ヲ達シ得ヘキ微少ノ相違ニ止マリ互ニ類似ノ範圍ヲ脱セサルモノナリ故ニ本件第一七六三〇號登錄實用新案衛生蠅、タ、キハ其登録出願前帝國内ニ於テ公然知ラレ公然用キラレタルモノニ類似スルモノニシテ實用新案法第三條第一號ニ該當シ同法第一條ニ違反スルヲ以テ同法第十一條ニ依リ其登録ハ之ヲ無効ト爲スヘキモノナリ仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年五月三十一日於特許局

審判長 特許局技師 湯 淺 藤 市 郎
特許局事務官 織 田 了
特許局技師 增 島 文 次 郎

第百三號

* 四十七

大阪市北區北野大融寺町六百七十八番地
大阪市東區高麗橋三丁目二十八番地特許辨理士
大阪市北區本庄東權現町千二百六十七番地

請 求 人 田 積 辰 次 郎
右 代 理 人 岡 八
被 請 求 人 野 口 壯 吉

大阪市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士
大阪市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士

右代理人 淺村 三郎
右代理人 平岩 義一

右當事者ノ第五九三〇號實用新案權利確認審判請求事件ニ付明治四十三年三月三十一日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 原審決ヲ破毀ス本件審判請求ハ之ヲ却下ス

審判費用及抗告審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ前審決ヲ破毀シ被請求人申立相立タス前審及抗告審判費用ハ被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ被請求人カ原審ニ提出シタル甲第一號證ハ實用新案第五九三〇號トハ全ク其外形ヲ異ニシ唯兩者共ニ三層ヨリ成ル點ニ於テ其趣ヲ同フスルカ如シト雖元來實用新案ハ同法第一條ニ云フカ如ク組合ハセ又ハ構造ノ新規ナル點ニ權利ノ存在ヲ意味スルモノナリ其構造組合ニ於テ全ク趣ヲ異ニスル兩者ハ互ニ獨立シテ存在シ得ヘキナリ唯其一小部分ノ類似ヲ以テ他ノ一體ト撞着スト云フカ如キ條理存在セルヤ云々ト云フニ在リ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タス審判及抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ被請求人所有ノ登錄實用新案第五九三〇號輕便切炭ト請求人カ製造販賣セル自働着火即席炭(原審甲第一號證)トヲ對比スルニ二者構造ノ異ナル點ハ單ニ火付ヨリ第一引火料(上層)ノ細溝ニテ設ケタルト之レニ蠟軸ヲ挿入シタルノ點ノミニシテ其他ハ全然同一構造ナリトス殊ニ兩者ニ點火シ之ヲ實驗スルニ於テハ其燃燒方双方全ク同一ナルコトヲ即知シ得ヘク其目的及構造ノ相類似スルコト明瞭ナリ故ニ自働着火即席炭ハ登錄實用新案第五九三〇號ノ權利ニ撞着スルコト明ナリ然ルニ請求人ハ原審甲第一號證ハ實用新案第五九三〇號ト全ク其外形ヲ異ニシ云々ト主張スルモ原審甲第一

號證圖面ニ示シタル構造ハ第一引火料第二引火料及切炭ノ三層ヨリ成リタルモノニシテ實用新案第五九三〇號ト同一構造タル以上ハ縱シヤ第一引火料タル上層ニ細溝ヲ設ケ之ニ蠟軸ヲ挿入シタレハトテ其外形全ク異レリト云フヘカラス况シヤ兩者共ニ其目的及構造ヲ均フセルモシナルオヤ云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 本件登錄實用新案第五九三〇號輕便切炭ハ抗告審判番號第一〇二號ニヨリ明治四十四年二月十三日其登錄ハ無効トナスヘキモノナリト審決アリ又該件ニ關スル大審院ノ上告ハ同年五月三十一日第一三〇號ニ依リ棄却セラレタリ故ニ本件請求ノ目的物タル登錄實用新案第五九三〇號輕便切炭ハ實用新案法第二十條及特許法第五十條ニ依リ其實用新案權ハ始メヨリ存在セサルモノト看做ス從テ本案ニ入り審理スルノ必要ヲ認メス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年七月三日於特許局

審判長 特許局事務官 織田 了

特許局技師 增島 文次郎

特許局事務官 村上 隆吉

第二百二十四號

大阪府中河内郡楠根村大字稻田千八百八十七番地

請求人 日本レザ―合資會社

右代表者

大高 元吉

四十九

大阪府東區橋堀二丁目七十一番屋敷特許辨理士
大阪府南區天王寺阿部野筋一丁目三千八百九十七番屋敷
大阪府東區瓦町一丁目五番地特許辨理士

右代理人 江田 邦太
被請求人 奥野 彌三郎
右代理人 廣井 代藏

右當事者間ノ第六七九二號登録實用新案權利確認審判請求事件ニ付明治四十三年五月三十一日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 原審決ヲ破毀ス抗告審判被請求人ノ製造販賣スル履物表ハ第六七九二號登録實用新案敷島表ノ權利範圍ニ屬ス

審判及抗告審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ第一七三二號審決ハ不當ナルヲ以テ之ヲ破毀シ被請求人カ登録實用新案第一二六七九號ト標記ヲ付シ製造販賣セル〔原審甲第號證〕履物表ハ實用新案登録第六七九二號履物表ト撞着ス審判費用及抗告審判費用ハ被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ第六七九二號實用新案ニ記載セル如キ構造ノ履物表ハ新規ニシテ而モ新案構成ノ要素ハ〔履物表ニ擬シタル擬革表皮〕ト「芯」トノ二條件ヨリ成立スルコトハ何人モ之ヲ知ルニ難カラス然ルニ原審ニ於テ「芯」ヲ區分シテ綿「チル」ト板紙トノ重合ヲ必要條件トシ之ヲ使用セサレハ第六七九二號新案ニ相觸ル、所ナシト審決セラレタルハ抗告人ノ解スルコト能ハサル所ナリ假令第六七九二號新案ノ構造カ「芯」ニ於テ綿「チル」ト「板紙」トノ重合セル限定的構造ナリトスルモ該新案登録以前ニ於テ「南部表ニ擬シタル擬革表皮」ヲ以テ「芯」ヲ包ミタル構造ノ履物表ナキ限リ該新案構成ノ要素ハ南部表ニ擬シタル擬革表皮ヲ以テ「芯」ヲ包ミタル點ニアルコト明ナリ又假リニ原審ノ如ク「芯」ヲ綿「チル」ト板紙トニ限定セルモノト假定スルモ此ノ限定構造ヨリ綿「チル」ヲ取り去リタル構造ハ此ノ構造アリテ後始メテ行ヒ得ヘキコトニ屬

シ第六七九二號ノ新案ヲ利用スルコトナクシテ構成シ得ヘキモノニアラス云々ト云フニ在リ

抗告審判被請求人答辯ノ要領ハ請求人申立相立タヌ審判及抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ請求人ノ主張ハ第六七九二號登録實用新案ハ南部表ニ擬シタル擬革表皮ト「芯」トノ二條件ヨリ成立セルモノナルカ故ニ此ノ二點ヲ具備セル登録實用新案第一二六七九號履物表ハ實用新案第六七九二號履物表ニ撞着スト云フニアルモノ、如シ以下其主張ニ對シ答辯スヘシ第(一)第六七九二號實用新案ハ其權利ヲ集約スレハ南部表ニ擬シタル擬革表皮ト綿「チル」及彈性護膜等ヨリ成ル彈性藤芯ト板紙トノ結合ニ成レル履物表ナルコトハ明ナリ故ニ其主要點タル彈性藤芯ノ結合ヲ有セサル甲第一號證履物表ハ假令他ノ部分ニ於テ類似ノ點アリトスルモ右實用新案ニ觸ル、所ナシ第(二)第六七九二號實用新案出願以前ニ於テ履物表皮ノ「芯」トシテ板紙類ヲ用ケルコト及表皮トシテ擬革或ハ「セルロイド」殊ニ籐製ノ如キ履物表ニ擬シタル型ヲ付シタル「セルロイド」ヲ用ケルコトハ普通ナリ之レ等ヲ第六七九二號實用新案ニ比スルニ單ニ表皮トシテハ「セルロイド」カ擬革ニ代リ又ハ擬革表皮ニ南部表型ヲ付シタルニ止マリ一種ノ材料變換ニ過キササルノミナラス南部表型ヲ付スルカ如キハ籐表型ヲ附スルト均等ナル考案ニシテ敢テ新規トスルニ足ラス「芯」トシテ板紙ノ如キハ兩者全然同一ナリ故ニ實用新案第六七九二號ノ登録セラレタル主因ハ綿「チル」及彈力護膜ヨリ成ル彈性藤芯ニシテ之レニ板及南部表型ヲ有スル擬革表皮ヲ結合シタル全體ヲ以テ其權利ヲ構成シ板紙及表皮ハ新規ニアラサルモ他ノ實用新案ニ於テ公知ノ部分ト新規ノ部分ト結合シテ一權利ヲ組織セルト同一ナリ而シテ斯クノ如キ場合ニ於テ其公知ナル部分ノミヲ有スル物品カ其權利ヲ侵セルモノト云フヘカラス新規考案ニ屬スル部分ヲ具備スルニヨリ始メテ其權利ニ觸レタルモノト云フヲ得ヘシ故ニ本件ニ於テ甲第一號證ノ物品カ第六七九二號實用新案ノ要素タル彈性藤芯ヲ使用セスシテ單ニ表皮板紙ノ點ニ於テ類似スル所アルモ其權

利ニ觸レサルヤ明ナリ云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 抗告審判請求人所有ノ第六七九二號登録實用新案敷島表ハ南部表ニ擬シタル「レザール」ト綿「チル」彈性護膜及板紙トヨリ履物表ナルコトハ其圖面ノ説明ニ依リ明ナリ又被請求人カ製造販賣セル履物表ハ南部表ニ擬シタル「レザール」ヲ以テ板紙ヲ包ミ裏貼ヲ施シタル履物表ナルコトハ甲第一號證ニ依リ明ナリ此ノ二者ヲ對比スルニ後者ハ薄芯トシテ板紙ノミヲ使用シ綿「チル」ト彈性護膜トヲ缺如スルモ斯ル差ハ薄芯ノ構造上單ニ其材料ヲ適宜取捨シタルニ過キサルモノニシテ本件登録實用新案ノ構造ヲ變更シタルモノニアラス故ニ被請求人カ製造販賣セル履物表ハ請求人所有ノ第六七九二號登録實用新案敷島表ノ權利範圍ニ屬スルモノトス然ルニ被請求人ハ本件實用新案ノ主要部ハ彈性ノ薄芯ニテリト云フモ本件實用新案ハ其全體ノ構造ニ對シテ登録セラレタルモノニシテ之ヲ部分的ニ解釋シ其權利ヲ限定スルハ不當ナリ仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年七月二十六日於特許局

審判長 特許局技師 湯淺藤市郎
特許局技師 増島文次郎
特許局事務官 村上隆吉

第二百三十八號

静岡縣周智郡久勢西村堀越十番地
東京市京橋區木挽町十丁目五番地特許辦理士

請求人 古山平太郎
右代理人 中川津平

静岡縣濱名郡濱松町板屋三十六番地
東京市京橋區山城町十四番地特許辦理士

被請求人 加藤千之助
右代理人 太田資時

右當事者間ノ第七一九四號實用新案登録無効審判請求事件ニ付明治四十四年四月二十九日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀シ實用新案第七一九四號吹寄格子亂縞ノ登録ハ有效トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ第一原審ニ於テ甲第三號證ノ四乃至六ノ織物ト本件實用新案ノ織物ト同一構造ナリト認定セラレタルハ不合理ナリ元來無地染絲ヲ經トシ之ニ緋絲ヲ緯絲トシテ織込ミ横線緋ヲ現ハスコトハ古クヨリ行ハル、所ニシテ本件請求人モ亦之ヲ知レリ而シテ無地染ノ經ニ緋絲ヲ不規則ニ織込ミタル織物ト本件實用新案ニ記載スル各色ノ絲ヲ隨意ニ配列シタル經ニ二三折疊シテ各色ニ染分ケタル緯絲ヲ不規則ニ織込ミタル織物トヲ比較スルニ其柄合ハ全然相違セルハ勿論其考案モ當然相違アルヘキモノナリ然レバ二三折疊シテ各色ニ染分ケタル絲ヲ普通ノ緋絲ト同一視セラレ之等ヲ緯ニ用キテ組織シタル織物ヲ凡テ同一ノ構造ト認メラレタルハ本件實用新案ノ考案ヲ誤認セラレタルモノナリ第三甲第三號證ノ四乃至六ノ織物カ證人近藤太三郎外三名ノ證言ニ依リ本件實用新案ノ登録出願前即明治四十年九月三日以前ニ於テ帝國內ニ公然知ラレタルモノト認メラレタルハ不當ナリ何トナレハ各證人ノ證言ハ決シテ確實ナルモノニアラスト信ス就中各證人ノ口述ハ本件請求人ノ主張ト相一致セサル點ハ證言ノ不確實ナル事實ヲ現ハセリ又本件實用新案ノ構造ヲ各證人ノ證言ニ對照シテ考フルニ本件實用新案ノ考案ト證人ノ口述ニ依ル製品ト同一物ナラサ

ルコトハ最明白ニシテ殊ニ證人内山大吉ノ染色シタル緋絲カ本件實用新案ニ用キル緯絲ト全然相異ナルモノニシテ其當時ノ製品ハ普通緋緋ト稱スル緋織物ニ類スルモノニ外ナラス故ニ此等ノ理由ニ依リ本件實用新案カ其登録出願前公然知ラレタル事實ナシ云々ト云フニ在リ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タス審判及抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ第一本件實用新案ノ織方ハ緯絲トシテ總絲ヲ折半若クハ二三ニ折疊シテ各種ノ染分ヲ爲シタルモノヲ用キ經絲トシテハ各種色絲ヲ不規則ニ間隔ヲ亂シテ配列シタルモノニシテ其製品ハ豎ニ亂雜ナル縞模様ヲ表ハシ横ニ一定セサル緋ヲ表ハス織物ナリ(甲第一號證)然ルニ之レト同一ノ織方ニ依ル織物ハ請求人ノ登録出願前公知ニ屬スルモノニシテ明治三十九年九月頃ヨリ大塚藤吉ハ本件實用新案ト同一ノ織物ヲ製出シ其織物ハ甲第三號ノ一乃至六是ナリ而シテ大塚藤吉ハ右織物ヲ明治三十九年九月ヨリ同四十年五月ニ至ル間(本件實用新案登録出願前)ニ於テ抗告審判被請求人ハ百五十反靜岡縣濱名郡天神町村天神町三星商店(松本良太郎)ヘ一千六百六十五反同町細井政太郎ヘ一千反同郡濱松町字田近藤大三郎ヘ二百反ヲ何レモ賣却シタル事實アリ第二次廣源太郎ハ甲第四號證ノ如ク經ニ緋絲ト無地絲ヲ用キ緯ニ緋絲ヲ打込ミタル織物製造法ニ對シ特許ヲ出願シタルニ明治四十一年一月二十八日甲第五號證ノ如ク拒絕査定ヲ受クルニ至レリ之ニ依リテ見ルニ本件實用新案ハ前記査定書ノ理由ニ說明セラル、所ノ山形市及其附近ニ於ケル野毛緋ヨリ當業者ノ容易ニ推考シ得ルモノナリ第三訴外石岡傳吉外二名ハ本件實用新案ノ登録出願前即明治三十九年十月二十二日甲第六號證ノ如ク寶玉緋製造法ノ特許ヲ出願シテ特許セラレタル事實ナリ此ノ特許ト本件實用新案トヲ對照スルニ固ヨリ全體ノ二種ハ悉ク同一ナリト云フニアラサルモ其主タル考案ハ殆ント同一ナリト云フヲ得ヘシ云々ト云フニ在リ

審決ノ理由

本件第七一九四號登録實用新案吹寄格子亂縞ハ總絲ヲ折半或ハ二三ニ折シ各色ニ染上ケタルモノヲ緯絲トシ經絲ニハ各色ノ染絲ヲ用キ以テ格子ヲ亂シタル縞柄ノ織物ナルコトハ其ノ圖面ノ說明ニ依リ明ナリ又抗告審判被請求人カ原審ニ提出シタル甲第三號證ノ四乃至六ノ織物ハ無地染絲ヲ經トシ緯ニ緋絲ヲ打込ミタルモノニシテ之ヲ本件登録實用新案ノ織物ト對照スルニ同一構造ヨリ成ルモノト云ハサルヘカラス而シテ甲第三號證ノ四乃至六ハ本件實用新案登録出願前即明治四十年九月三日前ヨリ帝國内ニ於テ公然知ラレタル事實ハ證人近藤大三郎内山大吉及松本良太郎ノ證言ニ依リ之ヲ認ムルニ足ル故ニ本件第七一九四號登録實用新案吹寄格子亂縞ハ實用新案法第三條第一號ニ該當シ同法第一條ニ違反シ同法第十一條ニ依リ其登録ハ之ヲ無効トナスヘキモノナリ然ルニ請求人ハ本件實用新案ノ織物ト無地染絲ヲ經トシ緯ニ緋絲ヲ織込ミタル織物トハ緯絲ノ染色異ナルヲ以テ其縞柄同シカラスト主張スルモ縞柄ノ相違ハ單ニ染絲ノ撰擇如何ニ因ルモノニシテ斯ル資料ノ撰擇ハ新規ノ考案ト云フヘカラス仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年九月一日於特許局

審判長

特許局技師工學博士

大竹多氣

特許局技師

増島文次郎

特許局事務官

村上隆吉

第二百三十二號

東京市日本橋區久松町三十番地

請求人

宮田

邦

東京市淺草區墨田町六十七番地 請求人 樋口寅之助
 東京市麹町區道三町四番地特許辦理士 右代理人 田中良介
 東京市淺草區金龍山下五町二十一番地 被請求人 井上爲三郎
 東京市京橋區木挽町九丁目七番地特許辦理士 右代理人 稻木繁太郎

右當事者間ノ第一六五八六號實用新案登録無効審判請求事件ニ付明治四十四年四月十七日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルニト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人ハ抗告審判被請求人ノ申立相立タス審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔ト
 ナトノ審決ヲ求ムト申立テ其理由トシテ請求人ハ明治四十二年申紙白粉ノ考案ヲ爲シ同年七月九日實
 用新案ノ登録ヲ出願シ同四十二年三月十六日其登録ヲ受ケタリ然ルニ明治四十三年八月申抗告審判被
 請求人カ該登録新案ト同一ナル物品ヲ製造セルコトヲ聞知シ其眞偽ヲ糾シタルニ抗告審判被請求人ノ
 陳述スル所ニ依レハ其製造ハ事實ナルモ最近ノコトニシテ酒井豐吉ト契約シテ製造ニ着手シタルモノ
 ニシテ明治四十三年七月以後ノ事ニ屬ス本件新案カ登録出願以前ニ公然知ラレタルコトハ斷シテ之無
 シ原審ニ於テ抗告審判請求人ノ主張カ確カヘキ唯一ノ證人申請ヲ却下シ抗告審判被請求人ニ直接間接
 ニ利害關係ヲ有スル證人ノ證言ヲ採用シテ抗告審判被請求人ノ主張シタル事實ヲ認定シタルハ不當カ
 リト陳述シ證人佐伯鏡次郎、茂木龜三郎ノ訊問ヲ申請シタリ
 抗告審判被請求人ハ抗告審判請求人ノ申立相立タス抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トストノ審
 決ヲ求ムト申立テ其理由トシテ抗告審判請求人ノ第一六五八六號登録實用新案ハ其登録出願ノ日タル

明治四十二年七月九日ヨリ以前ニ製造販賣セラレ公然知ラレタルモノナリト陳述シ甲第一乃至第十一
 號證及原審證人板橋春三郎、酒井豐吉、吉田秀之助ノ訊問調書ヲ援用シタリ

審決ノ理由 本件第一六五八六號登録實用新案ハ其登録願書ニ添付セル圖面及説明書ニ記載セル如ク厚
 紙(イ)ノ外面ニ適宜ノ模様ヲ現ハシ挿入部(ロ)、挿入孔(ハ)ヲ設ケ紙白粉及脂取紙ホヲ其一端(ニ)ニ於テ緊着
 シ鏡(ヘ)ヲ装着シタル構造ノ考案ニシテ甲第四號及第五號證ノ物品カ之ト同一ノ考案ニ成レルモノナル
 コトハ抗告審判請求人ノ爭ハサル所ナルノミナラス本件登録新案ノ圖面及説明書ト甲第四號及第五號
 證トノ對照ニ依リテ之ヲ認ムルコトヲ得而シテ原審ニ於ケル證人板橋春三郎、酒井豐吉ノ訊問調書ニ
 依レハ甲第四號證ト同一ノ物品ハ明治四十二年五月、六月頃ヨリ抗告審判被請求人ト證人板橋春三郎ト
 ノ間ニ取引セラレ甲第五號證ト同一ノ物品ハ明治四十二年五月ヨリ抗告審判被請求人ト證人酒井豐吉
 トノ間ニ取引セラレタルコト明ナリ然ルニ本件第一六五八六號登録新案ノ出願ハ明治四十二年七月九
 日ナルヲ以テ該新案ハ登録出願前ニ於テ公然知ラレ公然用ヒラレタルモノニ外ナラス從テ其登録ハ實
 用新案法第一條第三條第一號及第十一條ニ依リテ之ヲ無効ト爲スヘキモノニシテ原審決ハ正當ナリ抗告
 審判請求人ハ抗告審判被請求人ト直接間接ニ利害關係ヲ有スル證人ノ證言ヲ採用シテ抗告審判被請求
 人ノ主張スル事實ヲ肯定スルハ不當ナリト論セリト雖モ證人板橋春三郎及酒井豐吉ハ抗告審判被請求
 人ト取引上ノ關係ヲ有スルニ止リ本件審判ノ成績ニ直接ノ利害關係ヲ有スル者ニアラサルヲ以テ其證
 言ヲ採用スルモ不當ニアラス又抗告審判請求人ハ其主張ヲ確カヘキ唯一ノ證人タル佐伯鏡次郎、茂木
 龜三郎ノ訊問申請ヲ原審ニ於テ採用セザリシハ不當ナリト主張シ同一證人ノ訊問ヲ更ニ當審ニ於テ申
 請シタリト雖モ之ニ依リテ證明セントスル所ハ本件當事者間ニ於ケル實用新案權侵害ニ關スル交渉ノ
 顛末、抗告審判請求人カ本件新案品ノ製造販賣ヲ始メタル年月日及該新案品ト同一若ハ類似ノモノカ

本件登録出願前ニ市中ニ販賣セラレタルコトヲ證人カ見聞シタルコトナキ事實ニ在ルコト證人訊問申
請書ニ依リ明ナルヲ以テ假令其訊問カ結果ヲ得タリトスルモ之ニ依リテ甲第四及第五號證ト同一ノ物
品カ抗告審判被請求人ト板橋春三郎及酒井豊吉トノ間ニ於テ本件登録出願前ニ取引セラレタル事實ヲ
否定スルニ由ナシ故ニ證人佐伯健次郎及茂木龜三郎ノ訊問申請ヲ排斥スルモ不當ニアラス
以上ノ理由ニ基キ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年九月八日於特許局

審判長 特許局技師 湯淺藤市郎
特許局技師 増島文次郎
特許局事務官 田中鐵二郎

第七十六號

東京市日本橋區馬喰町四丁目十二番地 請求人 篠塚 守一
右親補者
東京市日本橋區村松町四十八番地特許辨理士 右代理人 篠塚 隆治
東京市日本橋區村松町四十八番地特許辨理士 右代理人 水野 隆治
東京市淺草區花川町十二番地 被請求人 玉木幸四郎
東京市日本橋區本銀町二丁目八番地 被請求人 角永政次郎

東京市神田區多町二丁目一番地 被請求人 川村 太平
東京市淺草區材木町六番地 被請求人 加藤 初次郎
東京市淺草區橋場町百五十七番地 右參加人 小田 智定

右當事者間ノ第七七〇八號實用新案登録無効審判請求事件ニ付明治四十三年十一月七日當局ニ於テ爲シ
タル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 原審決ヲ破毀ス抗告審判被請求人ノ申立相立タス

審判費用及抗告審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人ハ原審決ヲ破毀ス抗告審判被請求人ノ爲シタル第七七〇八號實用新案登録
無効ノ申立相立タス審判費用ハ全部抗告審判被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ムト申立テ其理由トシ
テ原審決ニ於テハ甲第一號證ト第七七〇八號登録實用新案トカ構造上類似セリト認メ且甲第一號證カ
第七七〇八號登録實用新案ノ出願ノ日即チ明治四十年十月二十九日ヨリ以前ニ公然用キラレタルコト
ヲ證人服部鬼三藏及山口源平ノ供述ニ依リテ認定シタリ然レトモ甲第一號證ト本件登録實用新案トハ
構造ヲ異ニスルノミナラス證人服部鬼三藏、山口源平ノ供述ハ大谷英一ノ製造シタル甲第一號證ト同
一ノ物ヲ買入レタリト云フニ在ルモ大谷英一ハ其當時製造シタルコト無シ從テ甲第一號證カ本件新案
登録出願前ニ公知ト爲ルヘキ理由ナシト陳述シ審判第一七五五號事件ノ記録ノ取寄竝ニ證人石井縫之
助、仲佐西之助、恒谷敷平及杉川正平ノ訊問ヲ申請シタリ

抗告審判被請求人ハ抗告審判請求人ノ申立相立タス審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トストノ審決ヲ
求メ其理由トシテ抗告審判被請求人等四名ハ原審ニ於テ甲第一號證ノ如キ物件カ第七七〇八號實用新
案登録出願前ニ公然知ラレタリト主張シテ登録ヲ無効トスル審決ヲ求メタルモ其後事實ヲ探查シタル

ニ公然知ラレ公然用ヒラレタル事實明カナラズト陳述セリ

審決ノ理由 原審ニ於ケル證人服部鬼三藏、山口源平及大谷英二ノ訊問調書ヲ査定スルニ鬼三藏ハ本件
甲第一號證(審判第一七五號事件ノ甲第一號證ト同一物件)ノ如キ草履ヲ大谷ナル者ヨリ買受ケタル
コトアル旨及大谷カ其頃淺草門跡ノ裏門ノ近傍ニ居住シ其後花川戸ニ轉居シタル旨ヲ供述シ源平ハ本
件甲第一號證ノ如キ草履ヲ大谷英二ヨリ買受ケタルコトアル旨及其頃英一カ淺草田原町ニ居住セシ旨
ヲ供述シ英二モ亦本件甲第一號證ノ如キ草履ヲ初メテ製作販賣シタルハ淺草區田原町ニ居住セシ時ニ
在リシ旨及花川戸ニ轉居スル迄田原町ニ居リタル旨ヲ供述セリ此等ノ供述互ニ符合シ以テ甲第一號證
ノ如キ草履ヲ大谷英一カ初メテ製造販賣シタルハ英一カ淺草區田原町ニ在リシ時ニ在リシコトヲ認
ムルニ足ル而シテ當審ニ於ケル證人杉田正三ノ供述ニ依レハ大谷英一カ淺草區田原町ニ住居シタルハ
明治三十九年十一月ヨリ同四十二年一月迄ナルコト明ナリ從テ原審ニ於ケル鬼三藏ノ證言中同人カ英
一ヨリ甲第一號證ノ如キ草履ヲ買受ケタルハ明治三十九年七月頃ナリトノ供述及原審ニ於ケル英一
ノ證言中甲第一號證ノ如キ草履ヲ明治三十九年二月頃ニ製作シ終リテ同年八月ヨリ九月ノ中頃マテニ
販賣シ盡シタルトノ供述ハ製造販賣ノ年月ニ關シテハ孰レモ事實ニ反スルモノト認ム原審ニ於ケル源
平ノ證言ハ甲第一號證ノ如キ草履ヲ英二ヨリ買受ケタル時期ニ關シテハ博覽會ノ頃ナリト思フモ確カ
ナル記憶ナシト云フニ在ルヲ以テ買受ノ時期ニ關シテハ何等ノ證據ト爲スニ足ラス其他原審及當審ニ
於ケル證據ヲ按スルニ本件實用新案登錄出願前大谷英一カ甲第一號證ノ如キ草履ヲ製作又ハ販賣シタ
ルコトヲ證スルニ足ルモノ一モ之無シ故ニ原審ニ於テ甲第一號證ノ如キ草履ヲ本件實用新案登錄出願
前ニ大谷英一カ製作販賣シタル事實アリト認メ之ヲ前提トシテ本件登錄ヲ無効トスト審決シタルハ失
當ニシテ抗告審判請求人ノ主張ハ理由アリ既ニ甲第一號證ノ如キ物品カ本件登錄出願前ニ販賣セラレ

タル事實ヲ認メサル以上ハ甲第一號證ノ物品カ本件登錄新案ト構造ヲ異ニスルヤ否ヤハ之ヲ判定スル
ノ必要ナシ

以上ノ理由ニ依リ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年九月九日於特許局

審判長 特許局技師 湯淺藤市郎
特許局技師 増島文次郎
特許局事務官 田中鐵二郎

第一百七十九號

東京市本所區龜澤町一丁目五十二番地 請求人 石田英三郎
東京市神田區五軒町五番地特許辨理士 右代理人 日山豊次郎
大阪市東區瓦町三丁目二十二番地 被請求人 竹川茂三郎
大阪市東區北濱三丁目六十三番邸特許辨理士 右代理人 松岡 歸之

右當事者間ノ第四三九六號實用新案登錄無効審判請求事件ニ付明治四十三年十一月三十日當局ニ於テ爲
シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ハ之ヲ破毀ス請求人カ明治四十年二月三日登錄ヲ受ケ

タル第四三九六號實用新案ハ無効トスヘキモノニアラス審判費用ハ原審及抗告審共被請求人ノ負擔ト
 スト審決相成度其理由ハ原審ニ於テ證據力アリト認定セラレタル證人中大塚金太郎ノ證言ノ如キハ毫
 モ證據力アルモノニアラス何トナレハ彼レハ丸善株式會社大阪支店ノ一店員ニ過キシテ證人トシテ
 信用スヘキ資格ヲ有セサルハ勿論其言ヲ所根據ナケレハナリ又證人「アールラチェン」ト證人中村米吉
 トハ共ニ神戸市「デラカンブ」商會ノ商館員ナルニ中村米吉ハ三十六年第五回内國勸業博覽會ニ出品ノ
 際取扱タリト云ヒ「アールラチェン」ハ千九百五年八月頃始メテ見本ヲ本國ノ「ジョンフアパン」會社ヨリ
 取寄セタリト申立テ其言ヲ所異ニスルハ畢竟根據ナキ僞リノ申立ニ過キス殊ニ「アールラチェン」ノ
 證言中千九百五年八月十五日獨逸ヨリ發送シタル見本カ僅カ一ヶ月ニシテ其年ノ九月ニ「デラカンブ」
 商會ヘ到着シタリトノ事實ハ全ク虛構ノ申立ニシテ眞正ノ事實ナリト認ムル克ハス又原審ニ於ケル證
 據決ノ際原田虎次郎ヲ斥ケテ之ト關係アル「アールラチェン」ヲ證人トシタルハ不當ナルノミナラス甲
 第一號證ハ「デラカンブ」商會カ明治三十九年五月八日ニ原田虎次郎ニ賣渡シタル物品ナリト云フト雖
 モ毫モ之ヲ證スルノ物件ニ提出セサルカ故ニ之ヲ事實ト認ムルヲ得ヌ要スルニ抗告審判被請求人ハ元
 福井商店ノ店員ニシテ其福井商店ハ本件實用新案權ヲ侵害シタル關係者ノ一人ニシテ謝罪シタル問屋
 八軒ハ大阪市内父房具商ノ錚々タルモノニテ本件「ベン」軸カ登錄前ニ公知公用ニナリ居ラサリシヲ以
 テ一同謝罪ナシタルニ拘ハラヌ其店員タル抗告審判被請求人カ無効審判ヲ請求スルハ頗ル疑惑ノ生ス
 ル所ニシテ益々本件審判請求ノ根據ナキヲ證スルニ餘リアルモノトス尙ホ原審ニ於テ抗告審判被請求
 人ハ文具商ナルカ故ニ本件ニ對シテ利害關係ヲ有スルモノトセラレタルモ實用新案法第十八條ニ規定
 セル利害關係ノ意味ニ依レハ既往ニ於テ本件實用新案品ト同一若クハ類似ノ物品ヲ製作シ或ハ之ヲ販
 賣シタルコトアリテ直接ニ其利害關係アルモノノミ審判ヲ請求シ得ヘキモノニシテ單ニ文具商タルノ

謂ヲ以テ抗告審判被請求人ニ利害關係アリト推測セラレタルハ不當ナリト云フニ在リ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ本件抗告ハ之ヲ棄却ス審判費用ハ總テ抗告審判請求人ノ負擔トスト審
 決相成度其理由ハ抗告審判請求人ハ證人大塚金太郎ハ一商店員ニ過キスシテ證人トシテ信用スヘキモ
 ノニアラス又證人「アールラチェン」中村米吉ノ證言ハ其云フ所根據ナキ僞リノ申立ニ過キス然ルニ此
 三名ノ證言ヲ審判ノ資料ニ共シタルハ不當ナリト云フモ之ヲ要スルニ皆謂レナキ陳辯ニシテ毫モ抗告
 ノ理由ト爲スニ足ラス又證據決定ノ際原田虎次郎ヲ排斥シナカラ夫レニ關係アル「アールラチェン」ノ
 證言ヲ採用シタルハ失當ナリト云フモ證據法上毫モ失當ノ點ナシ尙ホ抗告審判被請求人ハ本件ニ利害
 關係ヲ有スルモノニアラストシ彼是陳辯スル處アルモ被請求人ハ請求人カ實用新案登錄ヲ出願シタル
 明治三十九年十二月十九日以前ヨリ本件「ベン」軸ト同一ナルモノヲ各取引先ヨリ注文ヲ受ケ製作販賣
 シ居リタルモノナルニ請求人カ不當ニモ登錄ヲ受ケシヲ以テ同業者間ニ紛議相生シ製作販賣ヲ中止ス
 ルノ止ムナキニ至リ製品ハ空シク貯藏シ損害尠カラサルカ故ニ審判請求スルニ至リシモノナリト云ヒ
 新ニ證人訊問ノ申請ヲ爲シタリ

審決ノ理由

抗告審判請求人ハ實用新案法第十八條ニ規定セル利害關係ノ意味ハ既往ニ於テ本件實用新
 案品ト同一若クハ類似ノ物品ヲ製作シ或ハ販賣シタルコトアリテ直接ニ其利害關係アルモノノミ審判
 ヲ請求シ得ヘシ然ルニ原審決ハ單ニ文具商タルノ謂ヲ以テ抗告審判被請求人ニ利害關係アリト推測セ
 ラレタルハ不當ナリト主張スレトモ大阪市東區長ノ證明書ニ依レハ抗告審判被請求人ハ從來文具商ナ
 ルノミナラス當審ニ於テ證人トシテ取調ヘタル文具商大槻辨次郎ノ證人訊問調書ニ依レハ抗告審判被
 請求人ハ本件實用新案品ト同一考案ニ係ル木竹「ベン」軸ヲ製造シ居タルヲ以テ明治三十九年五月十九
 日六「ダース」ヲ又明治四十三年一月五日本竹繼「ベン」軸三種二十「ゴロース」ヲ注文シタルコトアル旨

記載シアリテ之ヲ信用シ得ヘシ左レハ抗告審判被請求人カ本件審判請求ヲ提起スルニ付テ直接利害關係ヲ有スルモノト認メ得ヘク從テ實用新案法第十八條ニ規定セル利害關係人ニ該當スルコト明瞭ニシテ結局此點ニ對スル抗告審判請求人ノ主張ハ不當ナリトス依テ本案ニ付キ案スルニ抗告審判請求人カ所有スル本件第四三九六號實用新案ハ明治三十九年十二月十九日出願同四十年二月二日登録セラレタルモノニシテ其登録請求範圍ニ依レハ木ト竹トヲ適宜ニ接合シテ成ル「ベン」軸ナリトス然ルニ之レト同一考案及構造ヨリ成ル「ベン」軸カ前記出願前ナル明治三十八頃ヨリ明治三十九年十二月十八日迄ノ間ニ於テ既ニ帝國國內ニ於テ公然知ラレタル物品ニ係ルコトハ原審證人「アール」ラチン「同中村米吉同大塚金太郎及當審ニ於ケル證人大槻辨次郎ノ各證書ニ徴シテ明カニシテ此ノ證言ハ孰レモ信用スルニ足ルモノト認定ス從テ本件實用新案ハ實用新案法第三條第一號ニ該リ同法第一條ノ規定ニ反スルヲ以テ同法第十二條ニ依リ其登録ハ無効ナリトス從テ同一趣旨ニ出テタル原審決ハ正當ニシテ抗告審判請求人カ證人ノ證言ハ信用スルニ足ラヌトノ事由ハ不當ナリト認ムルニ依リ採用スルニ由ナシ仍テ主文ノ如ク審決ス

明治四十四年十月九日於特許局

審判長 特許局技師 湯淺藤市郎
 特許局事務官 織田了
 特許局技師 増島文次郎

第二百四十六號

奈良縣南葛城郡御所町大字御所四百七十八番地
 大阪市東區南本町二丁目百五十二番地
 大阪市東區備後町二丁目三十六番地特許辦理士
 大阪市東區瓦町四丁目六十一番地
 大阪市東區瓦町一丁目五番地特許辦理士

請求人 奥野治平
 請求人 山田政次郎
 被請求人 堤他彦
 武田竹三郎
 右代理人 廣井代藏

右當事者間ノ第一三二四八號登録實用新案權利確認審判請求事件ニ付明治四十四年五月二十六日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人ノ申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀ス甲第一號證帶芯ハ第二三二四八號登録實用新案ノ權利範圍ニ屬セス審判費用ハ被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ本件登録實用新案ハ施糊ノ織布イ毛部(口糊層)ヨリ成ルモノニシテ其ノ糊層ハナルモノヲ除クトキハ普通ノ綿「チール」ニ過キス本件新案ノ登録セラレタル理由ハ該糊層ハヲ構成シタルニ因ルモノニシテ目的トスル毛根部ヲ包ミ同時ニ織布面ニ密着セシメ脱毛ヲ防止スルコト地質ニ堅韌性ヲ帶ハシムルコト等ハ皆此ノ糊層ノ作用ニ外ナラス而シテ糊層ハハ織布ヲ組織セル經緯絲ニ施ス煮糊ノ原料ヲ混シタルニ因ルモノニシテ起毛後水氣ヲ與ヘ且熱ヲ以テ乾燥スルコトニ依リ糊原料カ糊ニ變化シ冷却凝固シテ糊層トナルモノナリ之ニ反シテ甲第一號證帶芯ノ經緯絲ニ施セル糊ハ糊原料ヲ混セサルカ故ニ起毛後水氣ヲ與ヘ熱ヲ以テ乾燥スルモ糊層ナルモノヲ生セス其水氣ト熱トヲ與フルハ起毛作用ニ依リ聊カ柔軟トナル地質ノ韌性ヲ回復セシムルニ過キサレハ糊層ヲ生スヘキ理由ナシ要スルニ甲第一號證帶芯ハ夫ノ綿「チール」